国道４３８号川津橋橋梁改修工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告

川津川西遺跡

２０００．１

香　川　県　教　育　委　員　会
財団法人香川県埋蔵文化財調査センター

正誤表

『国道 438 号川津橋橋梁改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 川津川西遺跡』に、以下の誤りがありましたので、正誤表をお付けいたします。

	誤	正
29 頁５行目	梁間１間（１ｍ）	梁間１間（２ｍ）
68 頁８行目	（柱穴間 18.2 ｍ）	（柱穴間 1.82 ｍ）

国道４３８号川津橋橋梁改修工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告

川津川西遺跡

２０００．１

香　川　県　教　育　委　員　会
財団法人香川県埋蔵文化財調査センター

1．遺跡遠景（北東から）

2．Ⅳ－Ⅰ区第Ⅰ遺構面SX01検出状況（西から）

3．Ⅳ－Ⅰ区第Ⅰ遺構面SX01出土遺物

序　　文

香川県教育委員会では，四国横断自動車道や高松東道路の建設，高松空港跡地の整備など，大規模開発に伴う埋蔵文化財の発掘調査と出土文化財の整理研究・報告書刊行の業務を，財団法人香川県埋蔵文化財調査センターに委託して実施しております。

このたび，「国道438号川津橋橋梁改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　川津川西遺跡」として刊行いたしますのは，中讃地域の主要な幹線道路であります国道438号の川津橋橋梁改修工事に伴い，平成８年度に調査を行いました坂出市川津町所在の川津川西遺跡についてであります。この遺跡の調査では，縄文時代から中世にかけて多くの遺構・遺物が出土いたしました。なかでも古代の灌漑用水路や中世の掘立柱建物跡などの集落跡の検出は，当時の生活・文化を究明するうえで貴重なものと考えられます。

本報告書が香川県の歴史を考える資料として広く活用されますとともに，埋蔵文化財に対する理解と関心を一層深める一助となれば幸いです。

最後になりましたが，発掘調査から出土文化財の整理・報告にいたるまでの間，香川県土木部及び関係諸機関並びに地元関係各位に多大な御協力と御指導をいただきました。ここに深く感謝の意を表しますとともに，今後ともよろしくご支援賜りますようお願い申し上げます。

平成12年１月

香川県教育委員会
教育長　折　原　　守

例　　言

1．本報告書は，国道438号川津橋橋梁改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査事業報告書で，香川県坂出市川津町72-2番地外に所在する川津川西遺跡（かわつかわにしいせき）の発掘調査の報告を収録した。

2．発掘調査は，香川県教育委員会が香川県土木部道路建設課からの依頼を受け，香川県教育委員会が調査主体となり，財団法人香川県埋蔵文化財調査センターが調査担当者として実施した。

3．本調査は，1,500㎡を調査対象として，平成８年10月１日から同年12月31日まで実施した。
発掘調査の体制は以下のとおりである。
（財）香川県埋蔵文化財調査センター　　谷畑雅稔　信里芳紀　貞廣智代美

4．調査にあたっては，次の機関や方々の協力を得た。記して感謝の意を表したい。
高橋芳樹(仏生山小学校)

5．報告書の作成は，財団法人香川県埋蔵文化財調査センターが実施した。
本報告書の執筆・編集は信里が担当した。

6．本報告書の遺構・遺物挿図の凡例・指示は以下のとおりである。
(1)　付図の縮尺率は１/200である。挿図の縮尺率は１/20，１/40，１/60，１/100，１/200を基本とし，場合によっては任意とした。
遺物の縮尺率は土器・土製品が１/３，１/６で，石器・金属器が１/２である。
(2)　水平基準線の数値は，東京湾平均海水位（Ｔ．Ｐ.）を用いている。
(3)　土色・土器の色調の表現は小山正忠･竹原秀雄編 1988『新版標準土色帳』第12版　農林水産省農林技術会議事務局監修・財団法人日本色研事業株式会社　色票監修に準拠した。
(4)　挿図中の座標値は，国土座標系の第Ⅳ系の数値である。
(5)　本報告書に用いている遺構略号は次のとおりである。
SH　竪穴住居　　SB　掘立柱建物　　SE　井戸　　SD　溝
SK　土坑　　SP　柱穴　　SX　性格不明遺構

7．挿図の一部は，坂出市都市計画図50の一部を使用した。

目　　次

第Ⅰ章　調査に至る経緯と経過……1
第Ⅱ章　調査の方法……3
第Ⅲ章　地理的環境……5
第Ⅳ章　発掘調査の成果
　第１節　基本層序と遺構面……11
　第２節　検出された遺構と遺物……14
　　１．Ⅳ-１区の概要……14
　　Ⅳ-１区第１遺構面（中世）……14
　　Ⅳ-１区第２ａ遺構面……34
　　Ⅳ-１区第２ｂ遺構面……39
　　Ⅳ-２区……44
　　２．Ⅴ区の調査……49
　　Ⅴ-１区第１遺構面……49
　　Ⅴ-１・２区第２ａ・ｂ遺構面……53
　　３．Ⅵ区の調査……71
　　Ⅵ-１区第１遺構面……75
　　Ⅵ-１区第１遺構面下層……81
　　Ⅵ-２区第１遺構面……83
　　Ⅵ-２区第２遺構面……84
第Ⅴ章　まとめ
　　１．縄文時代後期～晩期……89
　　２．弥生時代後期……89
　　３．古墳時代後期～古代……92
　　４．古代……94
　　５．中世Ⅰ……94
　　６．中世Ⅱ……94

挿　図　目　次

図１　川津川西遺跡の位置……3
図２　調査区割図……4
図３　川津川西遺跡周辺の地形分類（文献２から加筆引用）……6
図４　川津川西遺跡周辺10cm等高線……7・8
図５　川津川西遺跡周辺の既往の調査区位置図と条里型地割……9
図６　基本層序と１次調査区との対応関係……12
図７　各地区土層柱状図と遺構面との対応……13
図８　Ⅳ区全体図……14
図９　川津川西遺跡Ⅳ～Ⅵ区第１遺構面平面……15・16
図10　Ⅳ-１・２区西壁・東壁土層断面……17・18
図11　Ⅳ-１区第２層出土遺物１……19
図12　Ⅳ-１区第２層出土遺物２……20
図13　Ⅳ-１区南半部 第１遺構面平面……20
図14　Ⅳ-１区第１遺構面 SB 01・02平・断面……21
図15　Ⅳ-１区第１遺構面 SB 03・04平・断面……22
図16　Ⅳ-１区第１遺構面 SD 01・02・03・04・05断面・出土遺物……23

図17　Ⅳ-１区第１遺構面 SX 01平・立面その１ ……24
図18　Ⅳ-１区第１遺構面 SX 01平・立面その２ ……25
図19　Ⅳ-１区第１遺構面 SX 01出土遺物 ……26
図20　Ⅳ-１区第１遺構面柱穴・土坑出土遺物１ ……28
図21　Ⅳ-１区第１遺構面柱穴・土坑出土遺物２ ……29
図22　Ⅳ-１区北半部第１遺構面平面 ……29
図23　Ⅳ-１区第１遺構面 SB 05・SA 01平・断面 ……30
図24　Ⅳ-１区第１遺構面 SD 06断面・SD 06・07他柱穴出土遺物……31
図25　Ⅳ-１区第３・６層出土遺物 ……32
図26　Ⅳ-１区第２ａ・ｂ遺構面平面 ……33
図27　Ⅳ-１区南半部第２ａ遺構面平面・SD 08断面 ……34
図28　川津川西遺跡Ⅳ～Ⅵ区第２ａ・ｂ遺構面平面 ……35・36
図29　Ⅳ-１区第２ａ遺構面 SB 06平・断面 ……37
図30　Ⅳ-１区第２ｂ遺構面 SD 09・10平・断面・出土遺物 ……40
図31　Ⅳ-１区低地帯第７層出土遺物１ ……41
図32　Ⅳ-１区低地帯第７層出土遺物２ ……42
図33　Ⅳ-１区低地帯第７層出土遺物３ ……43
図34　Ⅳ-１区低地帯第７層出土遺物４ ……44
図35　Ⅳ-１区東壁土層断面 ……45・46
図36　Ⅴ-１区東・南壁土層断面 ……47・48
図37　Ⅴ区第１遺構面全体図……49
図38　Ⅴ-１区第１遺構面 SK 01平・断面・出土遺物 ……50
図39　Ⅴ-１区第１遺構面 SP 40平・立面 ……51
図40　Ⅴ-１区第１遺構面 SP 40出土遺物 ……52
図41　Ⅴ区第２遺構面全体図……53
図42　Ⅴ-１区低地帯第５層出土遺物 ……54
図43　Ⅴ-１区第２遺構面 SX 02平・断面 ……55
図44　Ⅴ-１区第２遺構面 SX 02出土遺物１ ……56
図45　Ⅴ-１区第２遺構面 SX 02出土遺物２ ……57
図46　Ⅴ-１区第２遺構面 SR 01・SD 12接続部分平面・SD 12断面 ……58
図47　Ⅴ-１・２区第２遺構面 SR 01断面 ……59・60
図48　Ⅴ-１区第２遺構面 SD 12出土遺物 ……61
図49　Ⅴ区第２遺構面 SR 01上層出土遺物１ ……62
図50　Ⅴ区第２遺構面 SR 01上層出土遺物２ ……63
図51　Ⅴ区第２遺構面 SR 01下層出土遺物１ ……64
図52　Ⅴ区第２遺構面 SR 01下層出土遺物２ ……65
図53　Ⅴ区第２遺構面 SR 01下層出土遺物３ ……66
図54　Ⅴ区第４層出土遺物……67
図55　Ⅴ-２区第１遺構面平面 ……68
図56　Ⅴ-２区第１遺構面 SH 01平・断面 ……69
図57　Ⅴ-２区第１遺構面 SH 01出土遺物 ……70
図58　Ⅵ区第１・２遺構面全体図……71
図59　Ⅵ-１区攪乱土出土遺物 ……72
図60　Ⅵ-１区東壁・北壁土層断面 ……73・74
図61　Ⅵ-１区第２層出土遺物 ……75
図62　Ⅵ-１区第１遺構面平面・SK 21平・断面 ……76
図63　Ⅵ-１区第１遺構面 SK 21出土遺物１ ……77

図64　VI-1区第1遺構面SK 21出土遺物2・SK 03他断面 ……78
図65　VI-1区第1遺構面SK 01他出土遺物 ……79
図66　VI区第4層サヌカイト出土位置……81
図67　VI-1区第4層出土遺物 ……82
図68　VI-2区第1遺構面平面・耕作溝出土遺物……83
図69　VI-2区第2遺構面平面・北壁土層断面……85
図70　VI-2区第2遺構面SR 01出土遺物1 ……86
図71　VI-2区第2遺構面SR 01出土遺物2 ……87
図72　VI-2区第2遺構面SR 01出土遺物3 ……88
図73　川津川西遺跡遺構変遷図(1)弥生後期……90
図74　川津川西遺跡遺構変遷図(2)古墳時代後期～古代Ⅰ……91
図75　川津川西遺跡遺構変遷図(3)古代……93
図76　川津川西遺跡遺構変遷図(4)中世Ⅰ……95
図77　川津川西遺跡遺構変遷図(5)中世Ⅱ……96

表　目　次

表1　周辺遺跡の調査一覧……10
表2　基本層序の年代とパターン……12
表3　土器観察表……101～116
表4　石器観察表 ……117
表5　金属器観察表 ……117

巻頭図版目次

図版1　遺跡遠景（北東から）
図版2　IV-1区第1遺構面SX 01検出状況（西から）
　　IV-1区第1遺構面SX 01出土遺物

図　版　目　次

図版1　IV-1区第1面　1.IV-1区南半部第1面遺構検出状況（北から）
　　2.IV-1区西壁土層断面（東から）
図版2　IV-1区第1面　3.IV-1区南半部第1面完掘状況（北から）
　　4.IV-1区南半部第1面SX 01検出状況（西から）
図版3　IV-1区第1面　5.IV-1区南半部第1面SX 01完掘状況（西から）
　　6.IV-1区北半部第1面完掘状況1（南から）
図版4　IV-1区第1面　7.IV-1区北半部第1面完掘状況2（北から）
　　第2a面　8.IV-1区南半部第2a面完掘状況（北から）
図版5　IV-1区第2a・b面　9.IV-1区東壁土層断面（西から）
　　10.IV-1区北半部第2a・b面完掘状況（南から）
図版6　IV-1区第2b面　11.IV-1区北半部第2b面SD 09・10完掘状況（東から）
　　12.IV-1区北半部第2b面SD 09断面（西から）
図版7　IV-1区第2b面　13.IV-1区北半部第2b面SD 10断面（西から）
　　IV-2区第1面　14.IV-2区第1面完掘状況（東から）
図版8　V-1区第1面　15.V-1区第1面完掘状況（北から）
　　16.V-1区南半部第1面完掘状況（南から）

図版９　Ｖ－１区第１面　17. Ｖ－１区南半部第１面 SK 01検出状況（南から）
18. Ｖ－１区南半部第１面 SP 40遺物出土状況（南から）
図版10　Ｖ－１区第２面　19. Ｖ－１区第２面全景（上が北）
図版11　Ｖ－１区第２面　20. Ｖ－１区南半部第２面 SX 02検出状況（西から）
21. Ｖ－１区南半部第２面 SX 02断面（南から）
図版12　Ｖ－１区第２面　22. Ｖ－１区南半部第２面 SX 02完掘状況（西から）
23. Ｖ－１区南半部第２面 SD 12断面（北から）
図版13　Ｖ－１区第２面　24. Ｖ－１区北半部第２面 SR 01完掘状況（北から）
25. Ｖ－１区北半部第２面 SR 01東西断面（北から）
図版14　Ｖ－１区第２面　26. Ｖ－１区北半部第２面 SR 01南北断面（東から）
27. Ｖ－１区第２面完掘状況（南から）
図版15　Ｖ－２区第１面　28. Ｖ－２区第１面完掘状況（北から）
29. Ｖ－２区第１面 SH 01検出状況（西から）
図版16　Ｖ－２区第１面　30. Ｖ－２区第１面 SH 01検出状況（南から）
31. Ｖ－２区第１面 SH 01竈検出状況（南から）
図版17　Ｖ－２区第１面　32. Ｖ－２区第１面 SH 01竈断ち割り（南から）
33. Ｖ－２区第１面 SH 01竈完掘状況（南から）
図版18　VI－１区第１面　34. VI－１区第１面完掘状況（北から）
35. VI－１区第１面 SK 21検出状況（西から）
図版19　VI－１区第１面　36. VI－１区第１面東壁土層断面（西から）
VI－２区第１面　37. VI－２区第１面完掘状況（南から）
図版20　VI－２区第２面　38. VI－２区第２面完掘状況（南から）
39. VI－２区北壁土層断面（南西から）
図版21　VI－２区第２面　40. VI－２区第２面 SR 01上位水田層によるカット部分（南西から）
41. VI－２区第２面 SR 01断面（南西から）
図版22　IV－１区南半部第１面 SX 01遺物１
図版23　IV－１区南半部第１面 SX 01遺物２
図版24　IV－１区南半部第１面 SX 01遺物３
図版25　IV－１区第３層・第７層・第２ｂ面 SD 09・10遺物
図版26　Ｖ－１区南半部第１面 SK 01・SP 40遺物１
図版27　Ｖ－１区南半部第１面 SP 40遺物２・第２面 SX 02遺物
図版28　Ｖ－１・２区第２面 SR 01下層遺物
図版29　Ｖ－１区第４層・Ｖ－２区第１面 SH 01遺物
図版30　VI－１区攪乱土・第１面 SK 21・SP 03遺物
図版31　VI－１区第４層遺物
図版32　VI－２区第２面 SR 01遺物１
図版33　VI－２区第２面 SR 01遺物２

付　図　目　次

付図１　川津川西遺跡第１遺構面平面図
付図２　川津川西遺跡第２ａ・ｂ遺構面平面図

第Ⅰ章　調査に至る経緯と経過

今回報告する川津川西遺跡は坂出市川津町72-2番地外に所在する遺跡である。地内を南北に走る国道438号と四国横断自動道が交差する付近一帯を川津川西遺跡と呼称しているが，本遺跡の発掘調査はまず平成２年度に四国横断自動車道（高松～善通寺間）建設工事に伴って発掘調査が行われている（以下，１次調査と記す）。今回の発掘調査は１次調査の北側で国道438号の両サイド部分を調査したことになる。

国道438号は坂出市と徳島市を結ぶ中讃地域の主要幹線道路であるが，近年の交通量の増加に伴い香川県土木部は渋滞緩和を目的として，同路線の改修工事を進めることとなった。これをうけて香川県教育委員会では，同路線周辺に数多くの埋蔵文化財包含地が所在しているため，平成５年度より協議を進め適宜保護措置を実施してきた。今回の調査区は上記１次調査地に隣接することなどから，埋蔵文化財が包蔵することが予想された。そこで香川県教育委員会は平成６・７年度に試掘調査を実施したところ，遺物・遺構が確認されたため，事前の発掘調査が必要と判断した。香川県教育委員会では上記の試掘結果から調査面積を1,500㎡に確定し，香川県土木部から委託を受けて平成８年度10月１日から12月31日に香川県教育委員会が調査主体となり，(財)香川県埋蔵文化財調査センターが調査担当者として実施した。調査の方法は直営方式で実施した。

発掘調査の体制は以下のとおりである。

平成８年度

文化行政課

調査

総括	課　長	藤原　章夫
	課長補佐	高木　一義
	副主幹	渡部　明夫
総務	係　長	山崎　隆
	主　査	星加　宏明
	主　事	高倉　秀子
埋蔵文化財	文化財専門員	木下　晴一
	技　師	塩崎　誠司

（財）香川県埋蔵文化財調査センター

総括	所　長	大森　忠彦
	次　長	小野　善範
総務	参　事	別枝　義昭
	係　長	前田　和也
	主　査	西川　大（６．１～）
	主　査	西村　厚二（～５．31）
	主　事	佐々木隆司（６．１～）
調査	参　事	近藤　和史
	主任文化財専門員	廣瀬　常雄
	主任文化財専門員	大山　真充
	文化財専門員	谷畑　雅稔
	技　師	信里　芳紀
	調査技術員	貞廣智代美

整理作業は平成11年４月１日から開始し，平成11年６月30日に終了した。

整理作業の体制は下記のとおりである。

文化行政課

平成11年度

総括	課　　長	小原　克己
	課長補佐	北原　和利
	副 主 幹	廣瀬　常雄
総務	係　　長	中村　禎伸
	主　　査	三宅　陽子
埋蔵文化財	係　　長	西村　尋文
	文化財専門員	森　　格也
	主任技師	塩崎　誠司

（財）香川県埋蔵文化財調査センター

所　　長	菅原　良弘
次　　長	川原　裕章
副 主 幹	田中　秀文
係　　長	新　　一郎
主　　査	山本　和代
主任文化財専門員	大山　真充
文化財専門員	木下　晴一
技　　師	信里　芳紀
整 理 員	山下登志子
整理補助員	矢野ゆかり
	長谷川郁子
	山地真理子
	青屋　真理
整理作業員	久保真由美
	西本恵里香
	松崎　千春

本遺跡に関する既往の調査成果に関する文献一覧

試掘調査に関するもの

1994．３「埋蔵文化財試掘調査報告Ⅶ」香川県教育委員会

1996．３「埋蔵文化財試掘調査報告Ⅷ」香川県教育委員会

1997．３「埋蔵文化財試掘調査報告Ⅸ」香川県教育委員会

本調査の概要報告に関するもの

1991．３『川津川西遺跡』「四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報　平成２年度」香川県教育委員会　（財）香川県埋蔵文化財調査センター

1997．３『川津川西遺跡』「県道関係埋蔵文化財発掘調査概報　平成８年度」香川県教育委員会　（財）香川県埋蔵文化財調査センター

第II章　調 査 の 方 法

調査区は現道の両サイドの現道拡幅部分が対象となるため，幅10mほどの細長いものとなる。また，掘削土の仮置きヤードの関係から３つの小地区に分けることとした。調査区名は平成２年度調査区名（Ⅰ～Ⅲ区）に続けてⅣ区から始めることとした（Ⅳ～Ⅵ区）。そして，各調査区を２分しⅣ－１・２区などの名称を与えた。各調査区には国土座標系の第Ⅳ座標系に基づいた基準杭を打設し，過去の調査区と各調査区との対応をはかるとともに，遺構の測量・遺物の取り上げの基準とした。原則的に遺構図を職員による１／20の縮尺の平面実測にて行い，必要に応じて出土状況図，断面図を作成した。調査途中において，上空からの周辺の地形や遺構の分布状態を上空からラジコンヘリによって撮影した。

図１　川津川西遺跡の位置

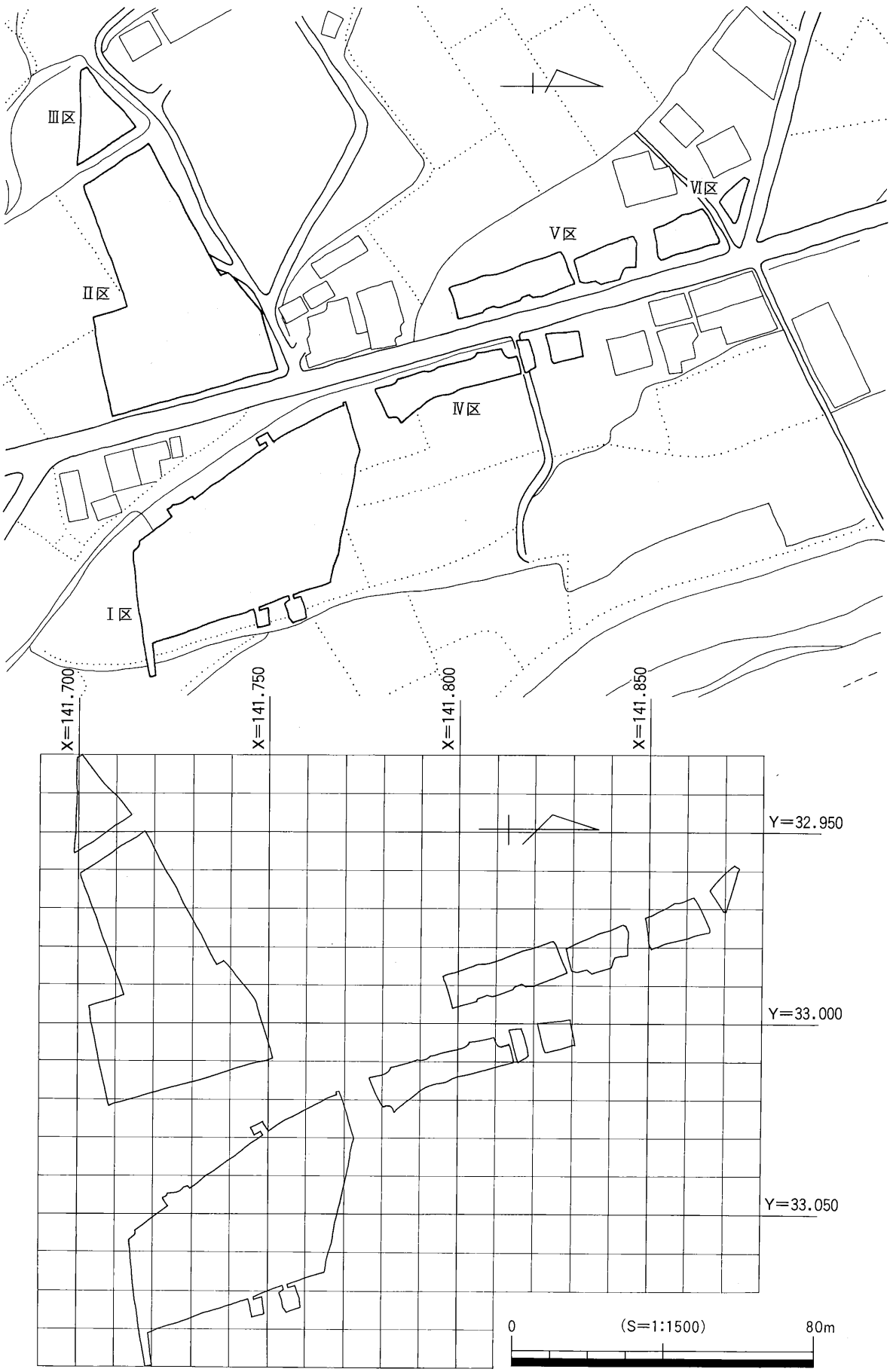

Ⅲ区
Ⅱ区
Ⅵ区
Ⅴ区
Ⅳ区
Ⅰ区
X=141.700
X=141.750
X=141.800
X=141.850
Y=32.950
Y=33.000
Y=33.050
0
(S=1:1500)
80m

図２　調査区割図

第Ⅲ章　地理的環境

川津川西遺跡は現在の行政区分で言えば,瀬戸大橋が香川県に取り付く坂出市の川津町井手の上に位置する(図１参照)。讃岐地方の基本的な地形は，東西に連なる讃岐山脈の山地部分とそこから瀬戸内海へ向かって流れ出す幾つかの中･小規模河川が形成した中･小規模平野から構成されている。本遺跡は香川県でも西部の金倉川や土器川，大束川などが形成した丸亀平野の北東部にあり，水系的には大束川流域に区分される。この大束川は現在の飯山町付近で４本の小規模河川が合流し，飯野山の東側を通過し，坂出市川津町を経て瀬戸内海へ注ぐ。

本遺跡が位置する坂出市川津町は瀬戸中央自動車道や四国横断自動車道建設に伴って近年発掘調査が実施され，様々な調査データーを提供してきた。図５は本遺跡周辺の既往の調査区をまとめたものである。また，数々の調査報告書も刊行される中で木下晴一氏は川津二代取遺跡の報告書で地形分類など地理学的考察を行った。本章では木下氏の成果・手法を参考にして遺跡周辺の微地形の検討を行う。

現地表面等高線図からみた遺跡周辺の微地形抽出

本遺跡周辺の地形分類として大きく次のような分類が可能である。それは大きく山地・段丘II面・段丘Ⅰ面・氾濫原面の４つに区分され，本遺跡はその中で標高11m前後の段丘Ⅰ面上に立地している（図３参照)。また，この段丘Ⅰ面上の調査区の位置と周辺の詳細な微地形を抽出するために10cmの等高線図を作製した。この図は大束川の河川改修や四国横断道建設にともなって作られた縮尺１／1000の図面を基に作製している。これを見ると本遺跡東側や，現在の大束川の両岸でコンターラインが密になっている部分が段丘Ⅰ面と氾濫原面を画する段丘崖と思われる。また，大束川は本遺跡東側で西へ派生する尾根筋によって大きく西へ流下方向を変えるとともに広大な氾濫原を造り出している。遺跡東側や北側ではポイント・バー堆積物によって段丘崖が不明瞭になっている。この段丘崖は高橋学氏や木下氏によって完新世段丘とされているものに相当し，形成時期が古代末頃と推定されている。

発掘調査範囲内については等高線図からは明瞭な旧地形は抽出されない。

１次調査を含めた本遺跡の発掘調査区はほぼ上記段丘Ⅰ面上に収まる。発掘調査のデーターから，この段丘Ⅰ面は主に縄文後晩期の遺物を包含する黄灰色系のシルト層から構成されていて，弥生時代以降の基盤層となっている。本層の形成時期は出土遺物や放射性炭素年代測定によって，2230±50ｙＢ．Ｐ．･2430±70ｙＢ．Ｐ．の理化学的年代が得られている。また，１次調査の成果では，14ｃの段階には現状の段丘崖が形成されていて，当時の集落の東境界になっていたことが判明している。本調査VI区では上記段丘崖に隣接して古代末に埋没したと思われる旧河道(VI-２区SR01)を確認し，この上層に複数の水田面(中世前半以降)を検出したことから，上記段丘崖の形成時期を古代末と推定するとともに，上記段丘崖形成後の段丘Ⅰ面上の旧河道上面が中世以降の水田等として機能していたことが推定できる。

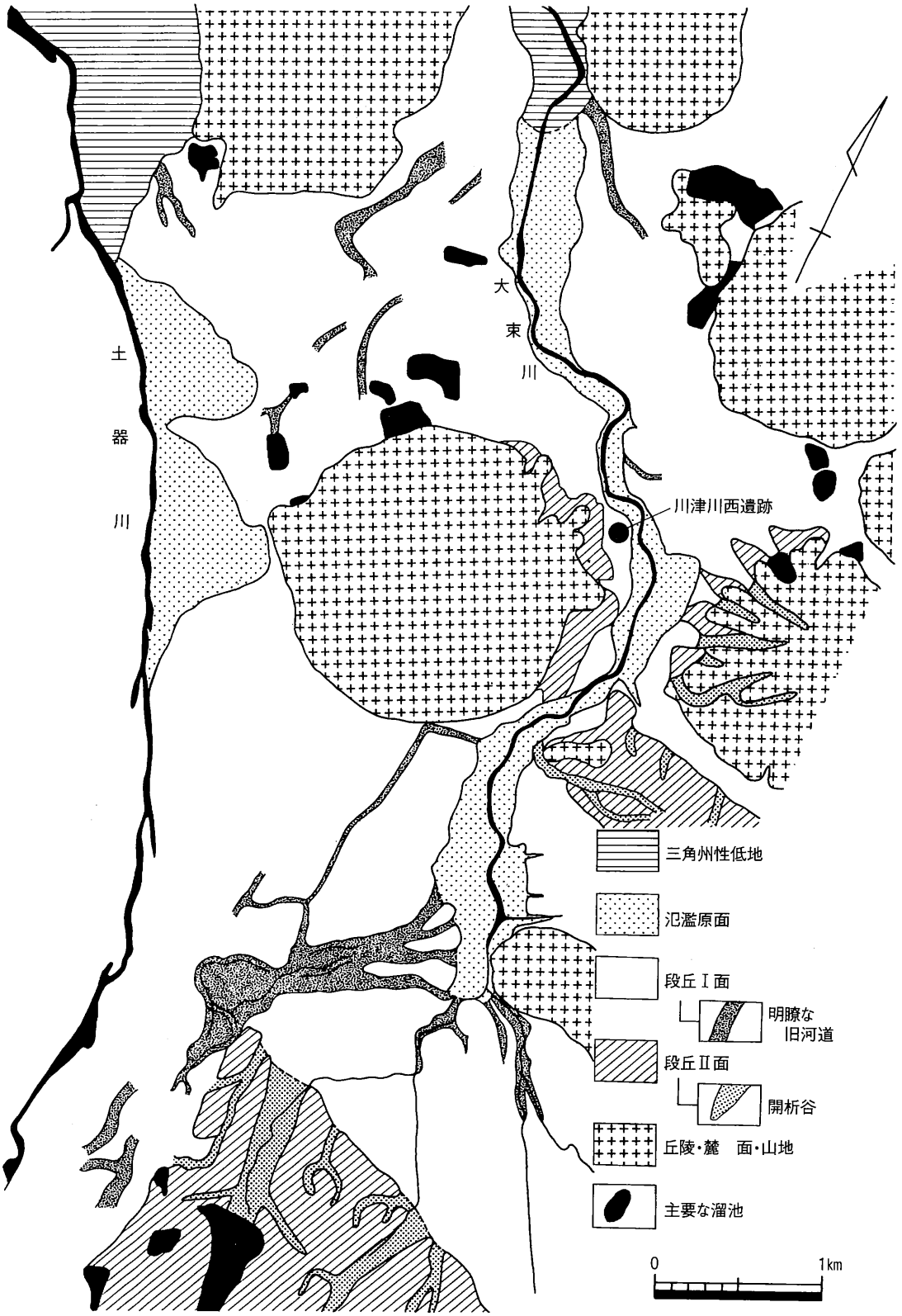


図３　川津川西遺跡周辺の地形分類（文献２から加筆引用）

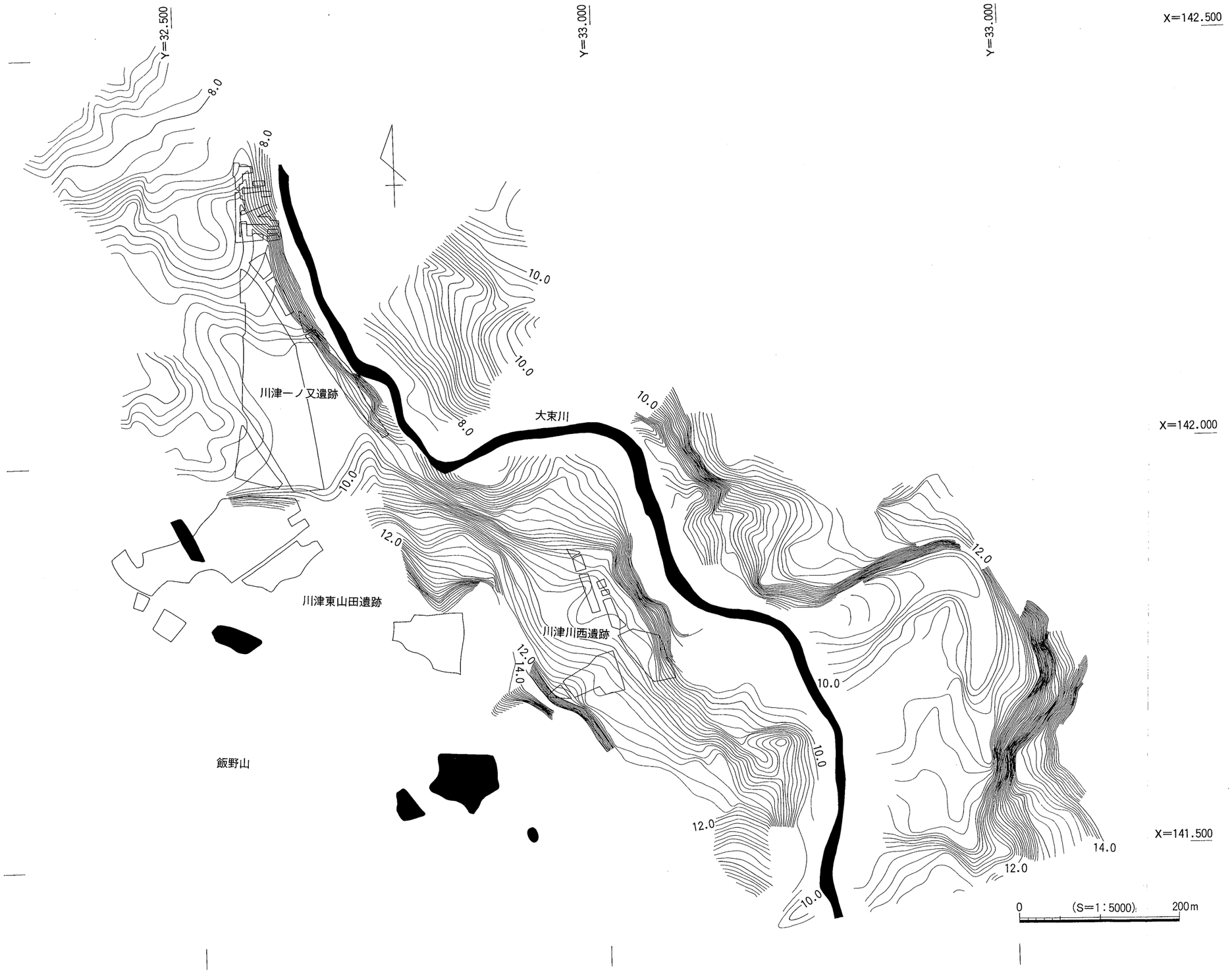


図４　川津川西遺跡周辺10cm等高線

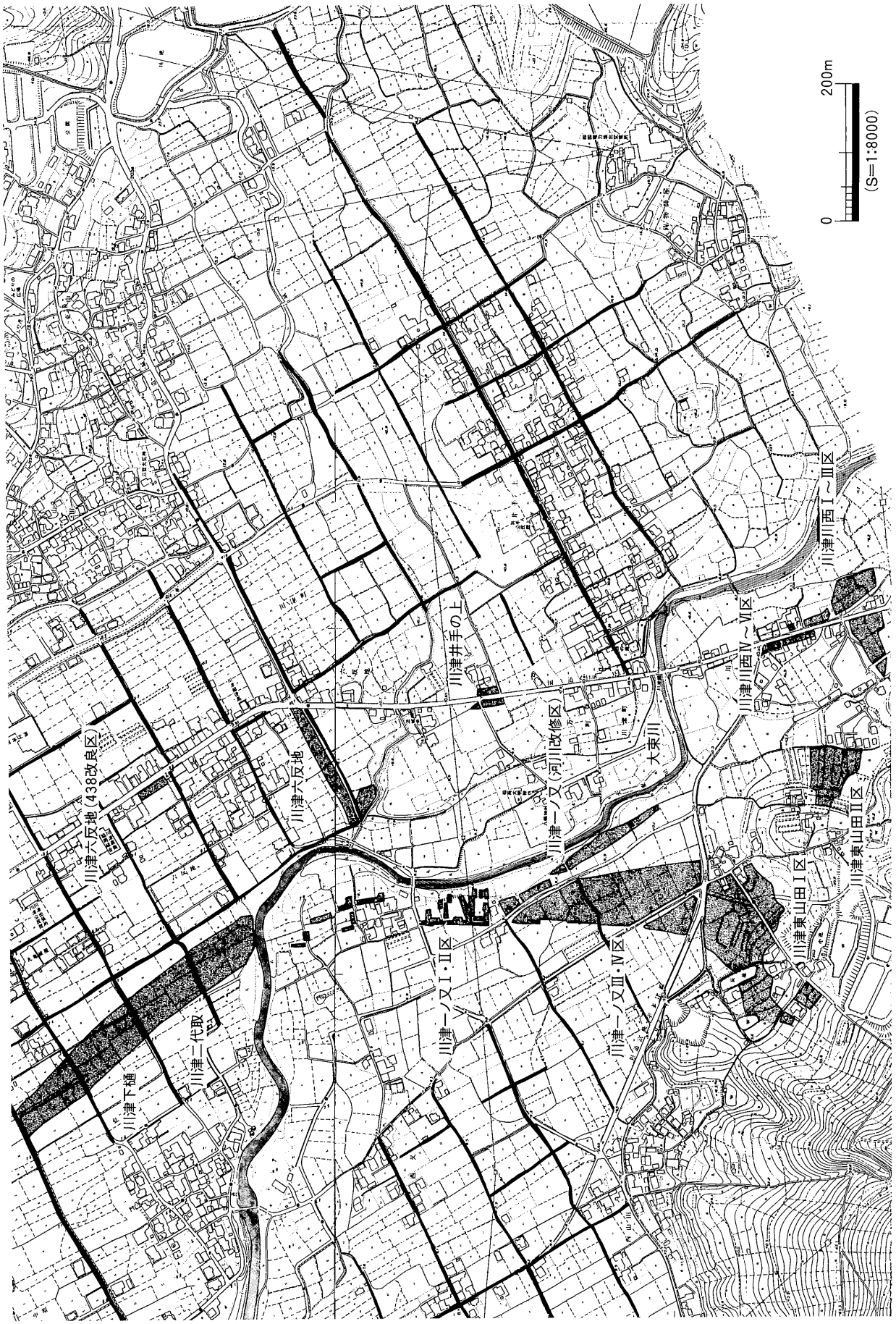


図５　川津川西遺跡周辺の既往の調査区位置図と条里型地割

遺跡名	所在地	調査原因	面積	調査期間	主な時代	文献
川津下樋	坂出市川津町 4847-2他	四国横断 自動車道建設	9,650 200	2.5.10～3.1.31 3.7.1～3.7.16	弥生前期	1
川津二代取	坂出市川津町	四国横断 自動車道建設	10,400	2.5.10～3.3.8	弥生前期 中世	2
川津一ノ又	坂出市川津町 一ノ又5231-4他	四国横断 自動車道建設	35,160 1,350	2.4.12～3.3.28 3.7.18～3.9.27	弥生中後期 ・古代・中世	3．4
川津一ノ又	坂出市川津町字 一ノ又5254-1他	大東川河川改修事業	310 2,454	3.8.19～9.4 4.4.1～9.16	弥生中後期 ・古代	5
川津東山田	坂出市川津町 5570他	四国横断 自動車道建設	28,100 500	2.8.2～3.3.20 3.9.2～3.9.4	弥生後期	6
川津川西 Ⅰ～Ⅲ	坂出市川津町	四国横断 自動車道建設	5,400	2.5.10～3.1.17	縄文晩期 ・古代・中世	7
川津川西 Ⅳ～Ⅵ	坂出市川津町 72-2他	国道438号 川津橋梁改修工事	1,500	8.10.1～8.12.31	弥生後期 ・古代・中世	本書収録分
川津六反地	坂出市川津町	県道富熊宇多津線改良 城山川河川改修工事	2,866	8.	弥生後期 ・古代・中世	8
川津六反地	坂出市川津町	国道438号改良工事	1,034	10.2.1～10.3.31	弥生後期 ・古代	9
川津井手の上	坂出市川津町	国道438号改良工事	150 110	7.11.27～7.12.8 8.12.2～8.12.6	弥生後期 ・古代	10．11

表Ⅰ　周辺遺跡の調査一覧

文献一覧

1．片桐孝浩ほか　1996「四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第二十一冊　川津下樋遺跡」香川県教育委員会　（財）香川県埋蔵文化財調査センター

2．木下晴一ほか　1995「四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第十六冊　川津二代取遺跡」香川県教育委員会　（財）香川県埋蔵文化財調査センター

3．山下平重ほか　1997「四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第二十六冊　川津一ノ又遺跡Ⅰ」香川県教育委員会　（財）香川県埋蔵文化財調査センター

4．古野徳久ほか　1998「四国横断自動車道建設建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第三十冊　川津一ノ又遺跡Ⅱ」香川県教育委員会　（財）香川県埋蔵文化財調査センター

5．片桐孝浩ほか　1997「中小河川大東川改修事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　川津一ノ又遺跡」香川県教育委員会　（財）香川県埋蔵文化財調査センター

6．森下友子　山元素子ほか　1990『川津東山田遺跡』「四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報　平成2年度」香川県教育委員会　（財）香川県埋蔵文化財調査センター

7．蔵本晋司ほか　1999「四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第三十二冊　川津川西遺跡」香川県教育委員会　（財）香川県埋蔵文化財調査センター

8．中西昇ほか　1998『川津六反地遺跡』「県道・河川関係発掘調査概報平成9年度」香川県教育委員会（財）香川県埋蔵文化財調査センター

9．乗松真也ほか　1999『川津六反地遺跡』「（財）香川県埋蔵文化財調査センター年報平成10年度」（財）香川県埋蔵文化財調査センター

10．森下英治ほか　1997「県道改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　川津井手の上遺跡」香川県教育委員会

11．木下晴一ほか　1998『川津井手の上遺跡』「国道・県道改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」香川県教育委員会

第Ⅳ章　発掘調査の成果

第１節　基本層序と遺構面

今回の２次調査では遺構面としては弥生後期から中世14ｃに至るまでの合計３つの遺構面が検出された。しかし，南北に細長く延びる調査区すべてに３面の遺構面が確認された訳ではなく，Ⅳ-１・Ⅴ-１区低地帯部分やⅥ－２区の旧河道上面部分などに限られる。なお１次調査でも同様の時期の遺構面が３面確認されており，これとの対応関係を模索しながら調査を行った。これらの関係をまとめたのが図６・７である。

１次調査のⅠ区第２遺構面と今回の調査のⅣ－１区第２a遺構面とのレベルを比較すると，北に位置する今回の調査区へ向かって遺構面が高くなっている。両調査区ともに第１遺構面ではほぼ平坦化している状況が看取される。これはⅣ-１区低地帯，Ⅴ-１・２区SR01，Ⅵ－１区SR01が古代末～中世12ｃ頃に埋没していることから分かる。また，これらの埋没状況・年代は大束川の段丘崖の形成と関係しているものと思われる。

第０層　現代耕作土と宅地造成に伴う攪乱土層を一括した。調査前には宅地か水田として利用されていた。

第１層　旧の田面の耕作土と思われる。灰黄褐色の粘質土からなり，鉄分の沈着が見られる。概ね３層程に分層されるが，同一層として取り扱う。遺物の出土はほとんど無い。

第２層　層厚約0.2m程を測り，マンガン粒の沈着が著しい青灰色シルト層から構成される遺物包含層である。調査区によって層厚に差違が見られるが，基本的には１次調査区や今回のすべての調査区で確認できる遺物包含層である。第１遺構面上面を覆うように堆積し，ピットなどの遺構の埋土となっている。14～15ｃ前半の遺物を包含する。

第３層　層厚約0.25m程の黄褐色の粘土層からなり，Ⅳ-１区・Ⅴ-１区では本層上面が第１遺構面となる。古代後半の遺物を少量包含する。Ⅳ-１区低地帯部分では２層に細分される。本層の堆積によってⅣ-１・Ⅴ-１区低地帯，Ⅴ区SR01はほぼ埋没し，調査区全域が平坦な地形となる。

第４層　淡灰白色シルト～粘質土から構成される河川堆積層の集積層である。層厚は調査区によって異なり，Ⅳ-２区・Ⅴ-１区では約0.3m，Ⅵ区では0.6m以上を測る。また，Ⅳ-１区・Ⅴ-１区低地帯や各調査区の第２遺構面(弥生～古代)の遺構面はこの本層より形成されている。１次調査では縄文後晩期の遺物を包含することが確認されている。今回の調査では縄文晩期突帯文土器の出土は確認できなかったが，Ⅴ-１区からは縄文後期前葉に比定される浅鉢を１点確認し，Ⅵ-１区の本層の下位部分でサヌカイト剝片３点の集積を確認し，１次調査の縄文後期～晩期という本層の形成年代を追認した結果となった。ただ，本層は数層に細分することが可能なので，上記の時間幅の中で何回かに分かれて本層が堆積したと考えるのが妥当と思われる。Ⅴ-１・Ⅵ-１区では攪乱土，第２層を除去する本層が現れ，古墳時代終末～古代の第１遺構面となる。

第５層　上記低地帯に見られる第３層下位に堆積する灰色粘土層である。古代期後半の遺物を若干包含している。Ⅳ-１・Ⅴ-１区谷地形部分では，本層上面が第２b面となっている。

第６層　本層は黒褐色粘土からなり，Ⅳ-１・Ⅴ-１区の低地帯の肩部分の埋没土である。古代期の遺物を

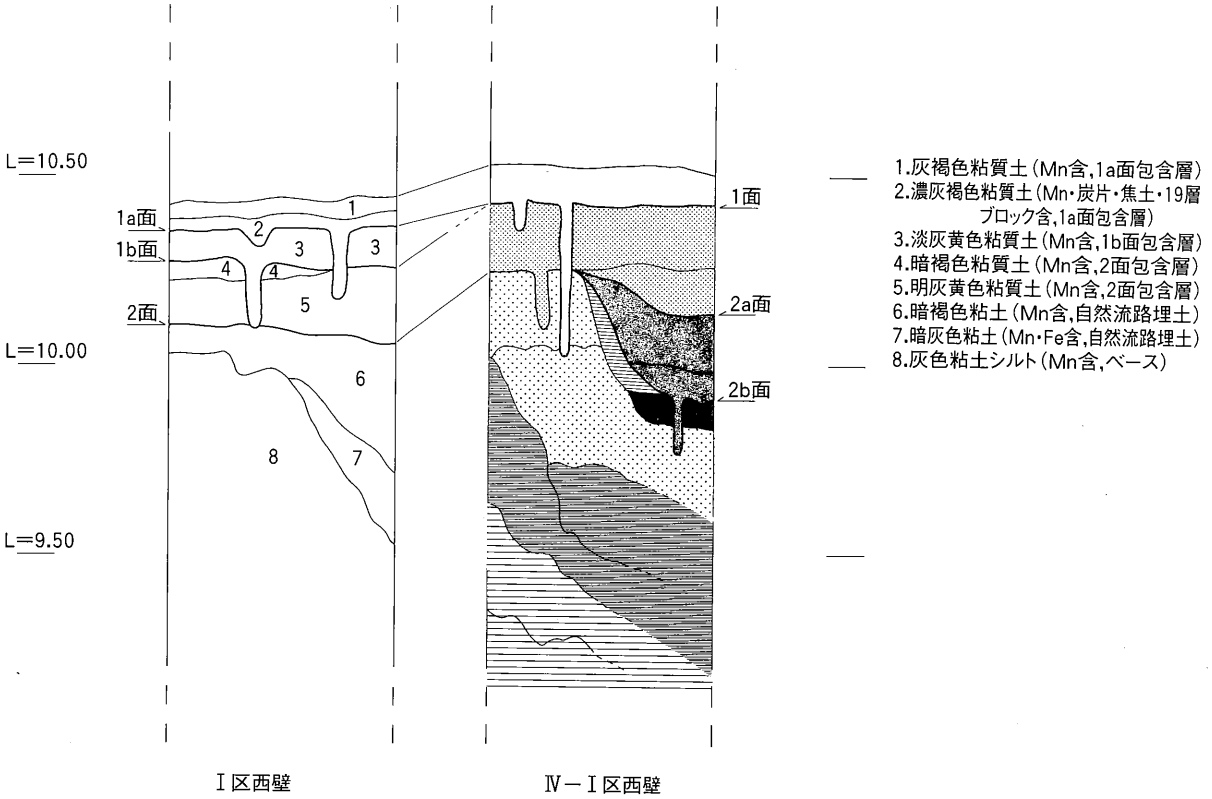


図6　基本層序とⅠ次調査区との対応関係

パターン	層名	土色	時期	遺構面	備考
	0 層	現代耕作土及び撹乱土	現代		
	1 層	床土	近世～現代		
	2 層	灰白色シルト	中世		中世包含層
	3 層	黄色粘土	古代	1 面	古代包含層
	4 層	黄色シルト	縄文後晩期	1・2 a 面	縄文晩期包含層
	5 層	暗灰色粘土	古代	2 a 面	低地帯埋没土　上層
	6 層	灰色粘土	古代	2 a 面	低地帯埋没土　上層
	7 層	黒褐色粘土	弥生後期	2 b 面	低地帯埋没土　下層
	8 層	灰白色粘土	縄文後晩期以前		無遺物層
	9 層	灰白色粗砂	縄文後晩期以前		無遺物層
	10 層	明緑灰色粘土	縄文後晩期以前		無遺物層

表2　基本層序の年代とパターン

包含する。

第7層　層厚約0.2m程の黒色粘土層でⅣ-1区の低地帯の下位に堆積していた。本層上面に7世紀代の第2b遺構面が確認される。なお，本層中には多量の弥生後期前葉の土器片とサヌカイト石器等を包含している。

第8層　本層はグライ化した青灰色系の粘土層である。遺物は確認されない。

第9層　灰白色粗砂層。本層はラミナ状堆積が観察され，比較的激しい流水堆積によって形成されたと考えられる粗砂層である。遺物の出土は無く，部分的に流木と考えられる自然木を確認するに留まった。巨視的に見れば本層も幾層かに細分され，微砂層が第8層との境にラミナ状に堆積している。

第10層　青灰色粗砂層である。下位のレベルは未確認であり，調査した範囲では無遺物であった。

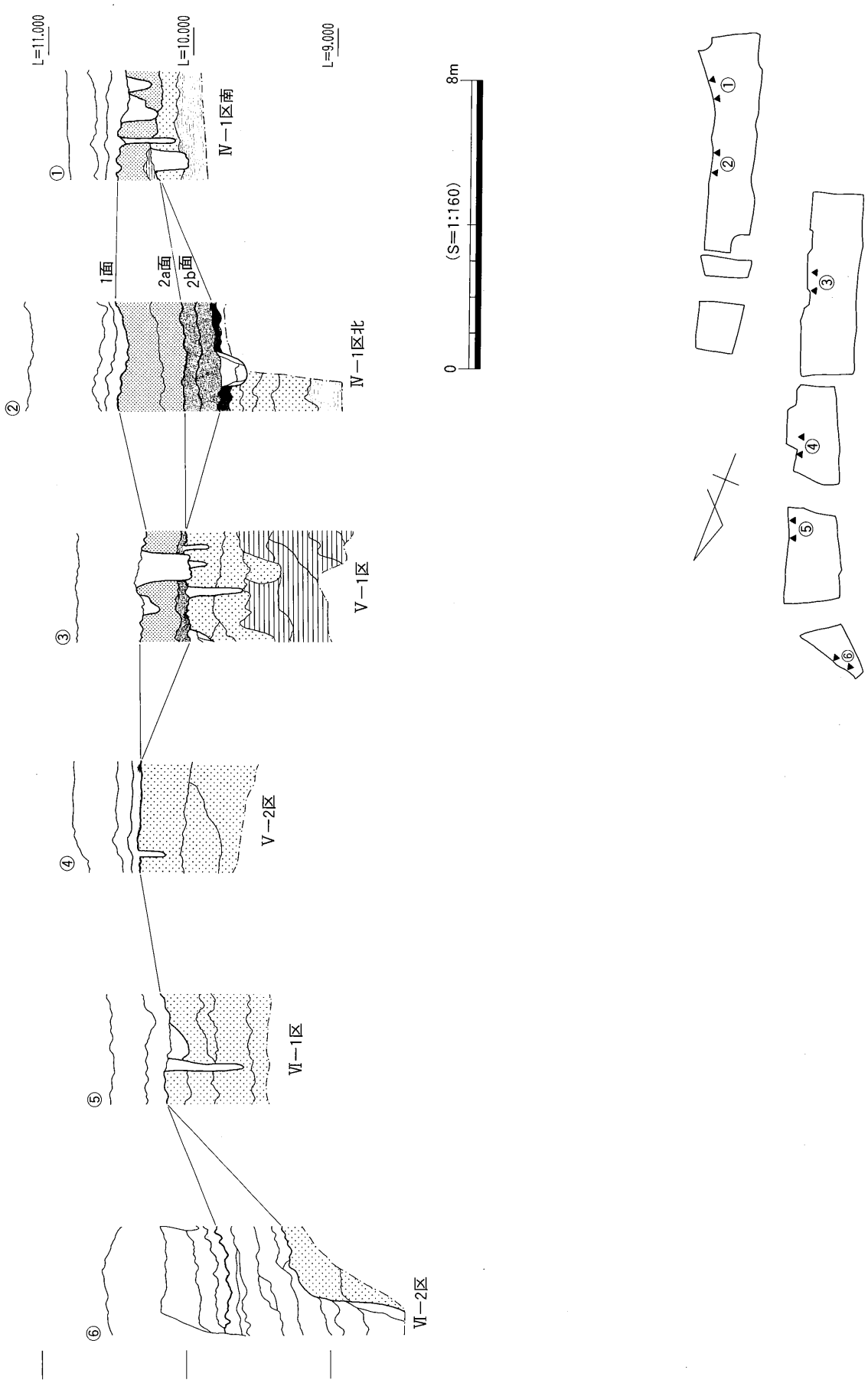


図７　各地区土層柱状図と遺構面との対応

第２節　検出された遺構と遺物

１．Ⅳ－１区の概要

本調査区は１次調査Ｉａ区に隣接するもので，前章でも述べた様にⅣ区では低地帯の部分を含めて３面の遺構面が確認された。第１遺構面が中世(14～15ｃ前半)第２ａ遺構面が古代(８～10ｃ)第２ｂ面が古墳(７ｃ～８ｃ前）に比定される遺構・遺物を確認している。

また，低地帯最下層では，弥生後期前葉の包含層を確認している。１次調査で確認された鍵層である第４層(１次調査層名 包含層Ⅳ第58～61層)の堆積は確認したものの，本調査区では縄文後晩期突帯文土器等の遺物の出土は確認できなかった。なお，１次調査との遺構面と層序の対応関係は本章第１節を参照されたい。

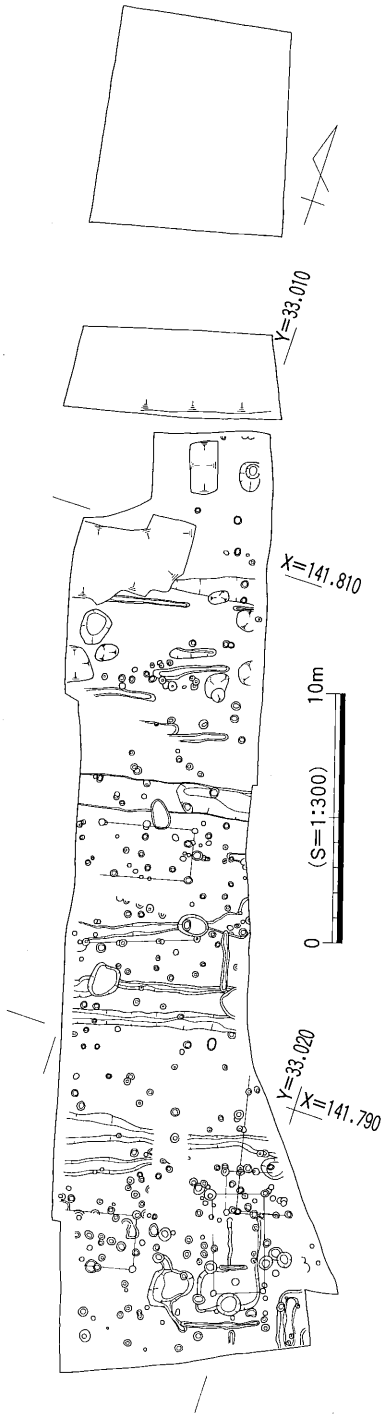


図８　Ⅳ区全体図

Ⅳ－１区第１遺構面（中世）

耕作土・床土除去すると調査区全域にわたって14・15ｃの遺物を包含する層厚約0.2m程の第２層を検出している。この包含層はＴ．Ｐ．約10.5m程をほぼ水平堆積し，後述する第１遺構面の埋土となっている。この第２層を除去し第１遺構面を検出している。壁面観察で柱穴が深さ0.5m程確認されるなど遺構面の依存状況は良好である。本遺構面で検出した主な遺構は掘立柱建物５棟，溝７条，土坑数十基，他柱穴多数等を検出している。各遺構の埋土は上記のとおり第２層によって統一されており，一部の遺構で多量の焼土塊を含むものがある。なお，本遺構面検出の掘立柱建物・溝はすべて，遺跡周辺の現存する条里型地割にほぼ合致している。

１～37は第２層出土遺物である。**１～４**は土師質土器の小皿である。いずれのものも，底径が５cm前後であるが，口縁の立ち上がりが明瞭な**１**とコースター状の**２～４**がある。底部はすべて回転ヘラ切りである。**５～16**は土師質土器の杯である。底径は６cm前後のものと９cm前後のものに分かれる。更に，底径６cm前後のものは器高が1.5～３cm程で口径が９～10cm程のもの**５～12**がある。底径が９cm程のものは器高が３cm前後で口径が13cm程のもの**13～16**という大きく２つに分かれる。だが，前者の中には器高が1.5cm程と低く，一見小皿と見間違うもの**７・９**や，その中間的なもの**６・５**も存在する。なお，底部は観察できるものすべて回転ヘラ切りされている。**17・18**は龍泉窯系の青磁である。**19**は土師質で国分寺町所在の楠井窯産の甕(以下楠井産と言う)である。**20～26，28～30**は土師質土器の足釜である。鍔の形態は比較的稜線が明瞭なもの**20・24・26**と，先端

図 9　川津川西遺跡Ⅳ～Ⅵ区第Ⅰ遺構面平面

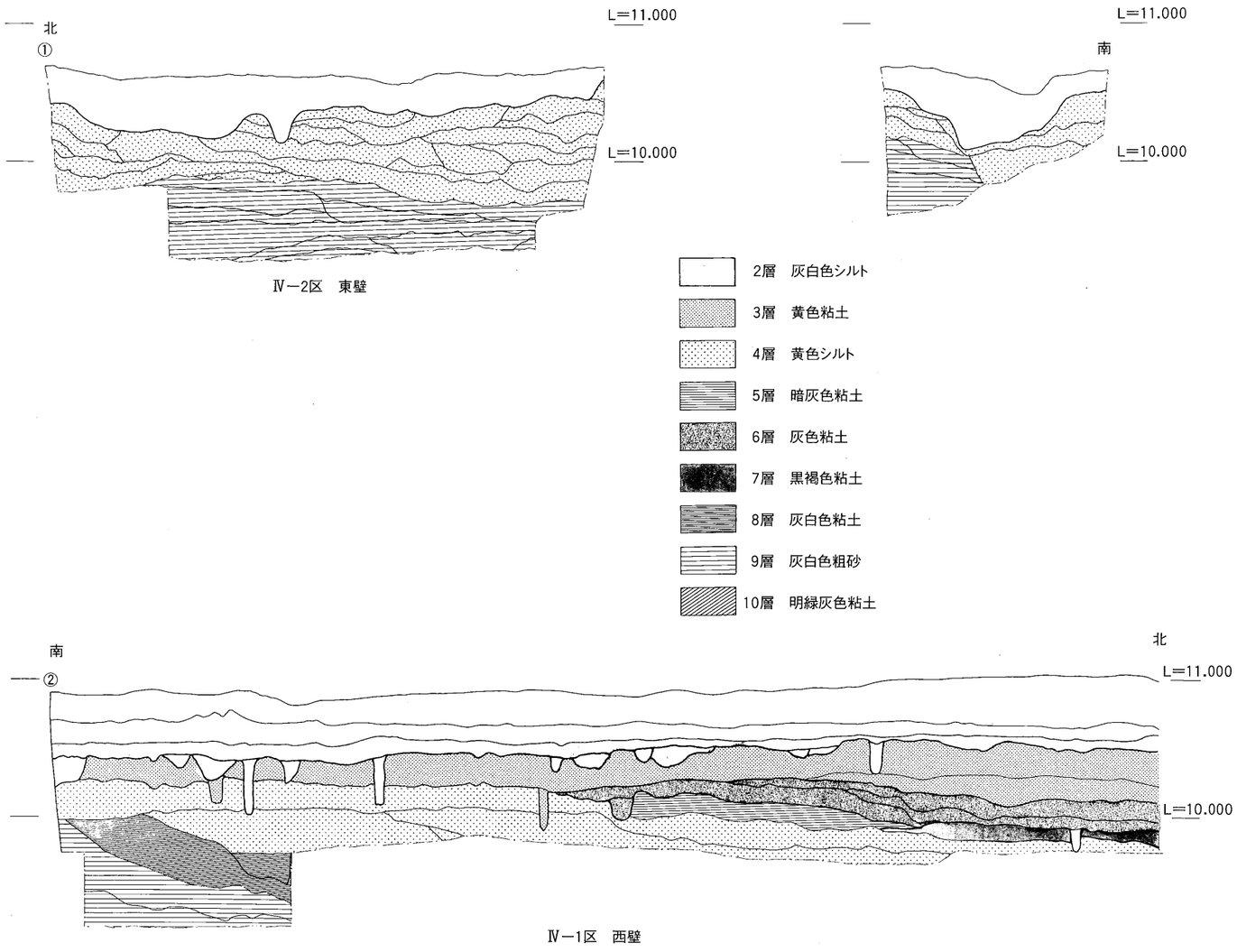


図10　Ⅳ−1・2区西壁・東壁土層断面

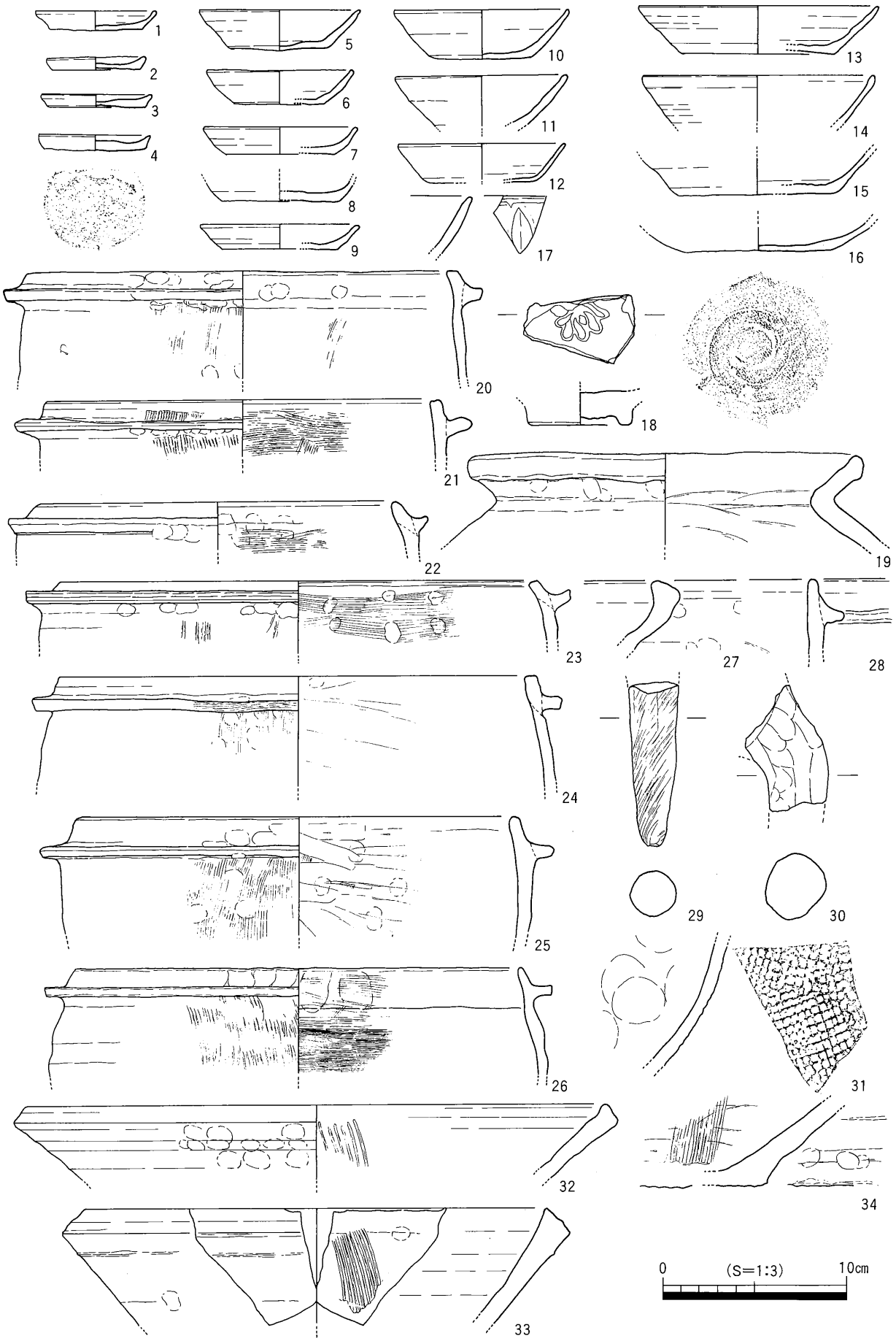


図11　Ⅳ-Ⅰ区第2層出土遺物Ⅰ

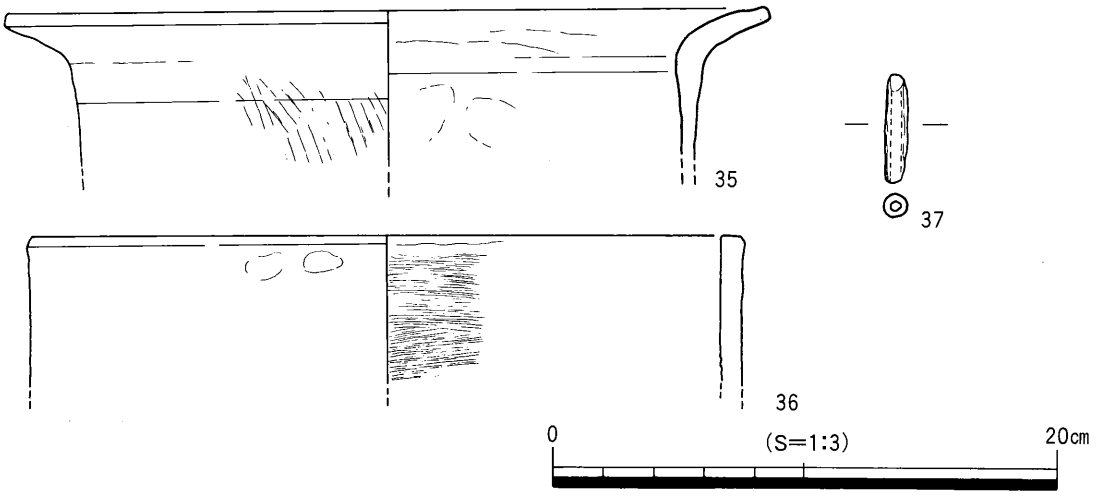


図12　Ⅳ-Ⅰ区 第2層出土遺物2

が尖り気味で位置が口縁端部へ移動している**22**など様々である。**22**は楠井産である。**27**は土師質土器の鍋で，口縁部形態から楠井産の可能性が高い。**32**〜**34**は擂鉢である。**32**は土師質で**33**・**34**は備前焼の擂鉢で間壁編年Ⅳ期に比定される。**35**は土師器甕であるが，基盤層である第3層の遺物を誤って取り上げた可能性がある。古代期の所産であろう。

図13　Ⅳ-Ⅰ区南半部 第Ⅰ遺構面　平面

Ⅳ-1区南半部，X＝141.780からX＝141.790付近にかけて，掘立柱建物4棟，溝3条，土坑数基，柱穴多数を検出した。

SB01

Ⅰa区とⅣ区に跨ってX＝141.783・Y＝33.015付近で検出した掘立柱建物である。大半が調査区外へ延びるが検出した範囲では梁間1間(2.2m)×桁行1間以上(1.8m)を測る。主軸方位はN73°Wの東西棟で，ほぼ東西方向の条里型地割に合致している。出土遺物は無いが，検出遺構面から判断して14～15c前半代のものと思われる。

SB02

SB01同じくⅠa区とⅣ区に跨ってX＝141.784・Y＝33.018付近で検出した梁間1間(2.2m)×桁行2間(3.9m)を測る掘立柱建物である。床面積は8.6㎡で主軸方向N18°Wとほぼ条里型地割に合致し，南に雨落ち溝が取り付く。出土遺物は無いがSB01と同じく検出遺構面より14～15c前半代の所産とする。

SB03

X＝141.786・Y＝33.020付近で検出した梁間1間(1.3m)×桁間2間(2.5m)以上を測る掘立柱建物である。主軸方向はN－Wで，ほぼSD02に沿うように東西に設定されている。出土遺物としてPit5より足釜の口縁部片が出土していることから，14c後半に比定される。

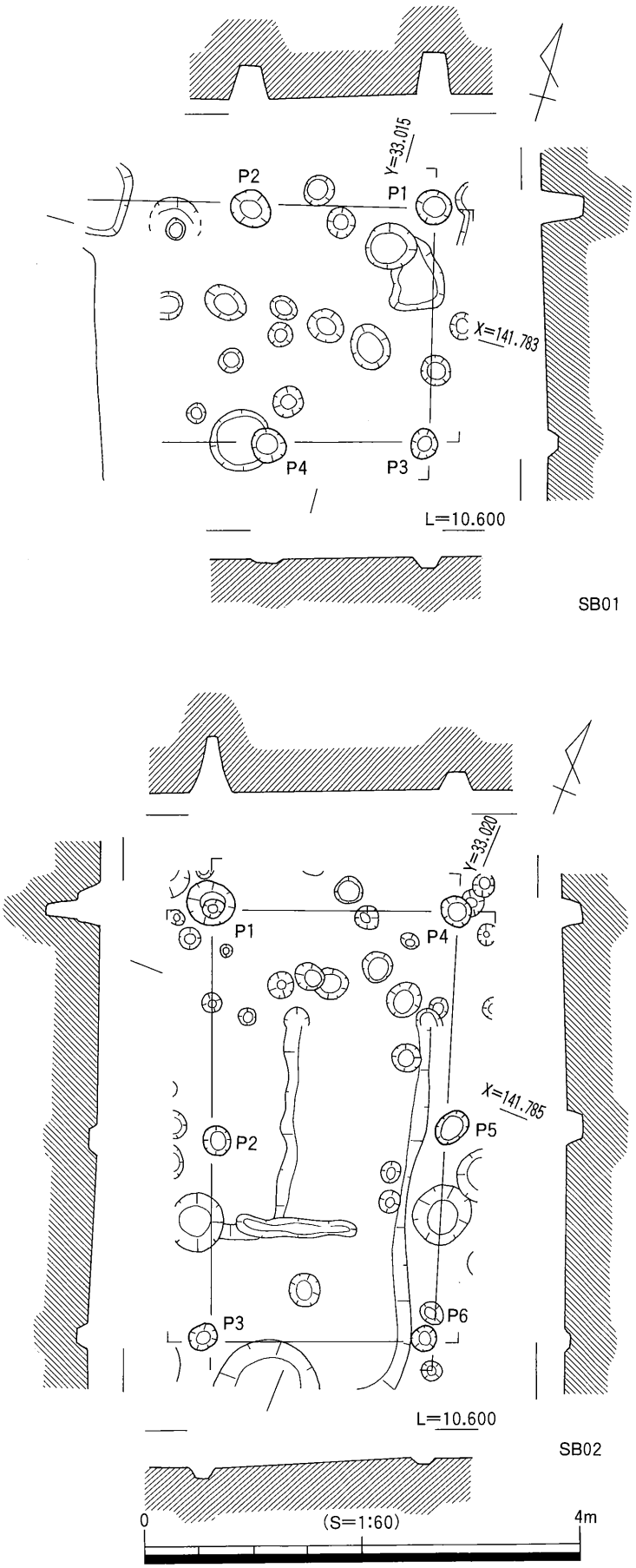


図14　Ⅳ-1区第1遺構面 SB01・02平・断面

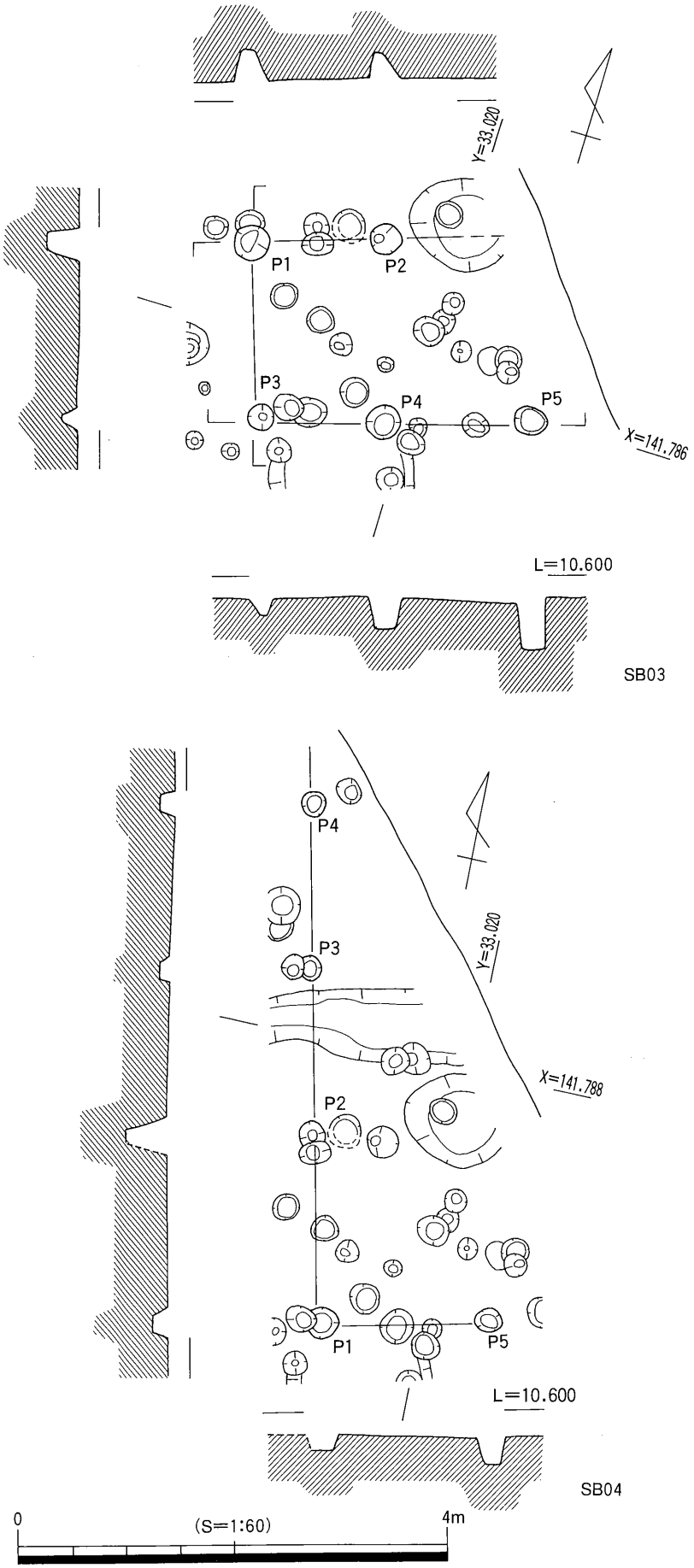


図15　Ⅳ－Ⅰ区第Ⅰ遺構面 SB03・04平・断面

SB04

SB04はX＝141.788・Y＝33.020付近で検出した掘立柱建物である。約半分が調査区外へ延びる為，全貌は明らかではないが，検出規模，梁間1間(1.5m)×桁行3間(4.8m)を測る。主軸は条里型地割の南北へ設定されていてN13°Wを測る。位置的にSB03とSD02と平面的に重複するが両遺構と切り合う部分が無く遺物は出土していないことから，これら遺構との前後関係は不明である。ここでは遺構面・埋没土から14～15c前半の年代観を提示するにとどめる。

SD01・02

X＝141.786・Y＝33.020～33.011付近で検出した溝である。規模はSD01が上面幅0.6m，深さ0.15m，SD02が上面幅0.4～1.1m，深さ0.15mを測り，主軸方位はほぼ東西方向の条里型地割の方位に合致する。両溝ともに埋没土は焦土塊を多量に含むことから人為的に埋め戻された形跡がある。近接あるいは重複してSB01～04などの掘立柱建物が存在することや本遺構の規模から見て，これらの建物群に伴う雨落ち溝と推定される。出土遺物は上記の焦土塊に加えて**43**の土師質竈の細片等が見られるが，時期決定に耐えうるものではない。ここでは遺構面・埋没土や掘立柱建物との位置関係から14～15cの年代観を提示するが，より詳細な掘立柱建物との共存関係は不明である。

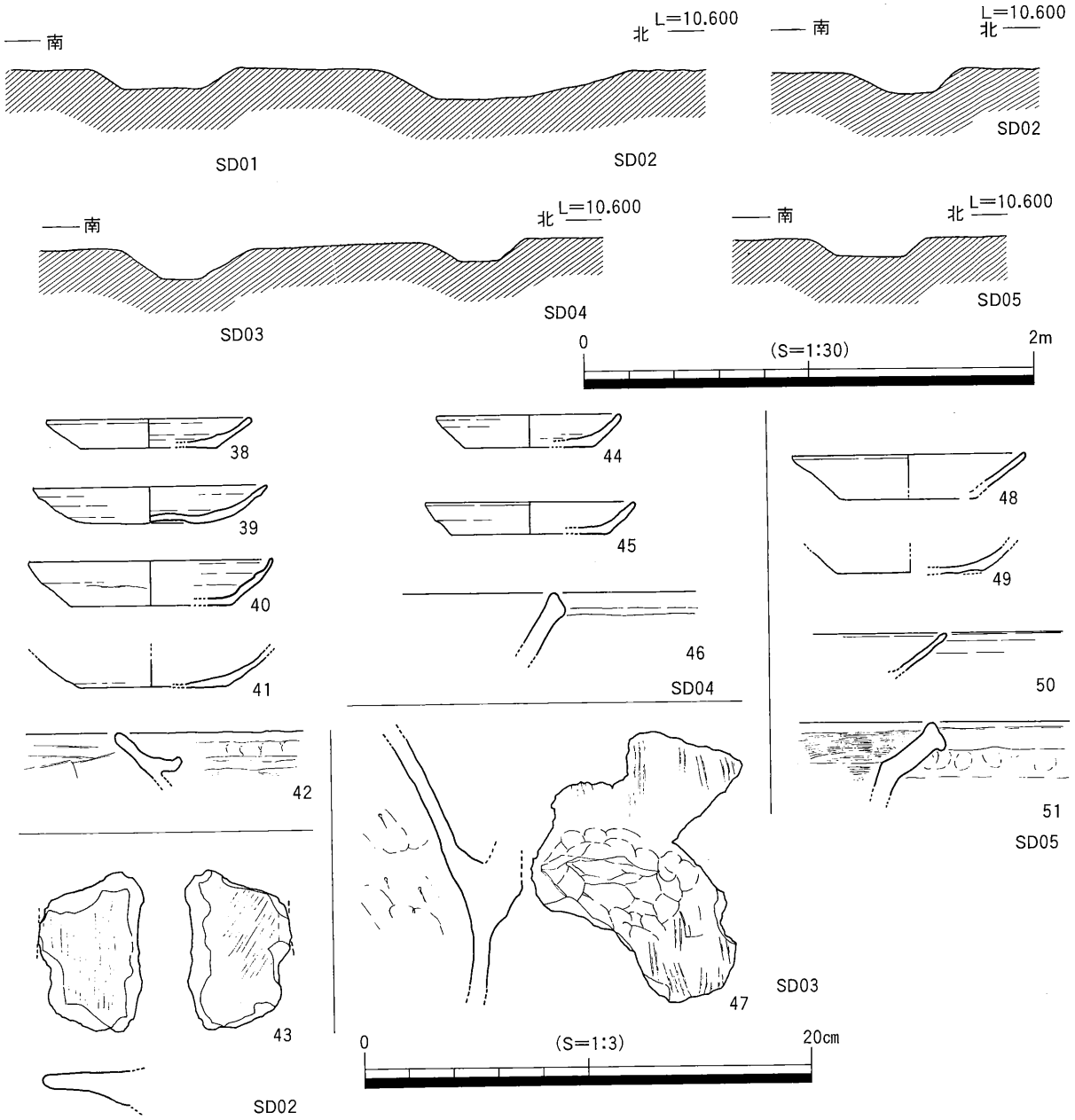


図16　Ⅳ-1区第1遺構面 SD01・02・03・04・05断面・出土遺物

SX01

本遺構はⅣ-1区南半部X＝141.790・Y＝33.016付近で検出した地鎮遺構である。平面が楕円形を呈する長さ0.48m，幅0.3m，深さ0.1m程のピットの中に完形の土師質土器杯5点，同小皿5点，銭貨(洪武通宝・祥符通宝・元豊通宝・永楽通宝) 4枚，鉄製品(刀子) 1点が埋納されていた。地鎮などの儀礼に関係する遺構と思われる。

掘立柱建物等との位置関係は，同建物などが比較的密集するⅣ-1区南半部と北半部との間の部分，SD02とSD03によって画された空間に位置し，本遺構周辺の遺構密度は比較的薄い。しかし，厳密にどの建物に関係して地鎮を行ったかは推測できない。

埋納状況・順序を復元するとまず，土師質土器小皿をほぼ南北方向に向かって，表裏交互に4点配列

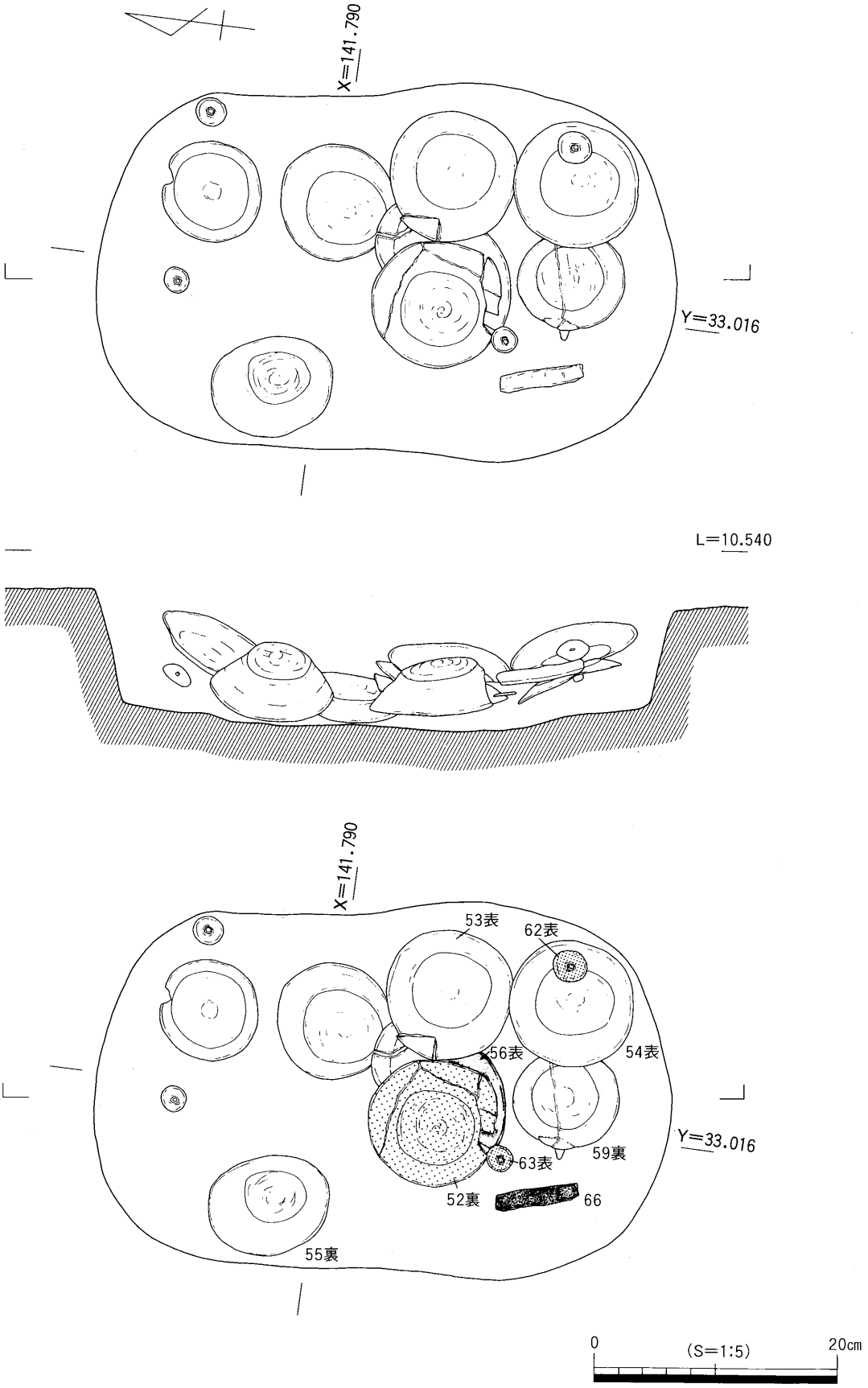


図17　Ⅳ-Ⅰ区第Ⅰ遺構面 SX01平・立面そのⅠ

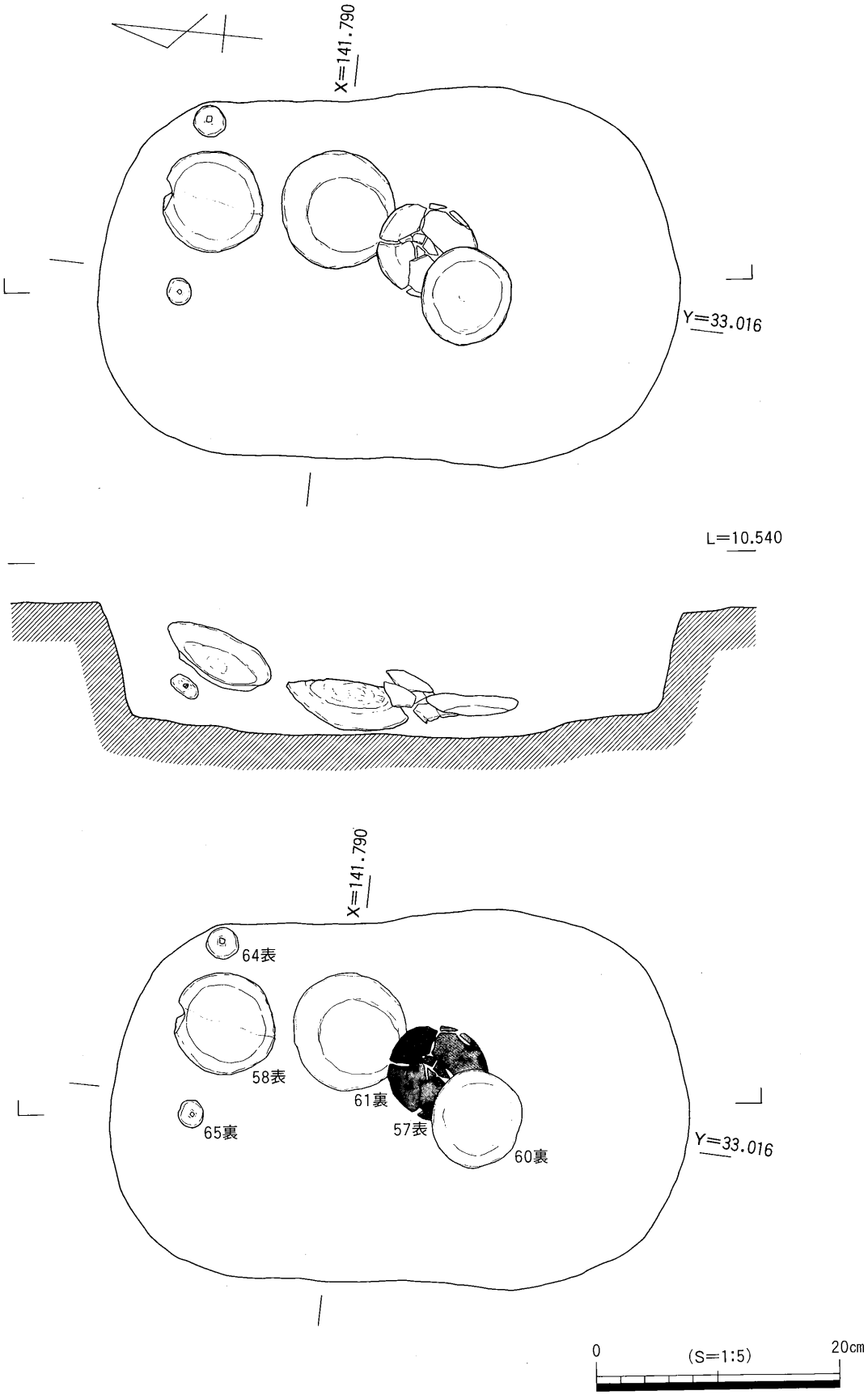


図18　Ⅳ-Ⅰ区第Ⅰ遺構面 SX01平・立面その2

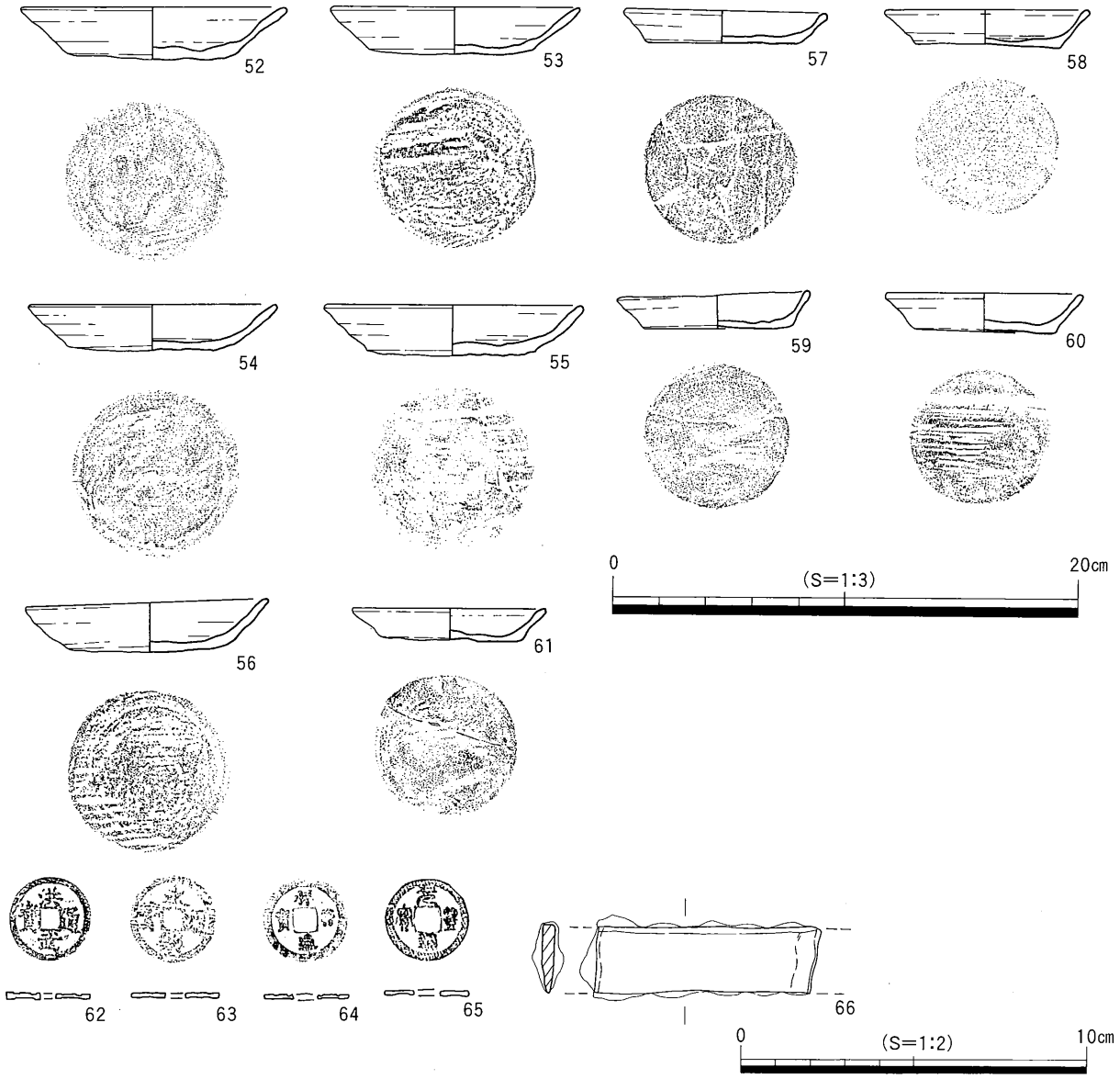


図19　Ⅳ-Ⅰ区第Ⅰ遺構面 SX01出土遺物

する。そして，中央の表向きの小皿の上に，さらに別の小皿をもう1点裏返しに蓋をするようにして被せる。次に土師器杯2点をこの2点重ねた小皿の上に同じく裏返しにして重ねる。残り3点の杯を1点は裏返しにして北西隅に置き，さらにもう2点は表向きで南西隅に並べた。銭貨4点と鉄製刀子は最終段階に置かれたようで，当初の土師質土器小皿の南北主軸列を中心としてその四隅に配されている。北半分の2枚(祥符通寶・元豊通寶)は銘を鋳出している面を下に向けて，南半分の2枚はその面を上に向けて埋置している。また，**62**の洪武通寶だけが，土師質土器杯の見込み部分に置かれている。

出土遺物は**52**～**56**土師質土器杯・**57**～**61**同小皿・**62**～**65**銭貨・**66**鉄製刀子片がある。

52～**56**は土師質土器杯である。いずれも個体も，口径11cm・器高2cm・底径7cm程といったような画一的な法量をもつ。また，すべて底部は回転ヘラ切りで板状圧痕が認められる。15c前半に位置づけられる。

57～**61**は土師質土器小皿とした。杯と同じく法量において口径8cm，器高1.5cm，底径6cm前後といったような画一性が認められる。底部はすべて回転ヘラ切りで板状圧痕が認められる。同じく15c前半に

位置づけられる。

62は洪武通寶である。鋳上がりもよく，初鋳年は1368年である。**63**は永楽通寶である。他のものに比べて全体的に鋳上がりが悪い。初鋳年は1408年である。**64**は祥符通寶である。初鋳年は1009年。**65**は元豊通寶である。初鋳年は1078年である。

66は鉄製刀子片である。先端部と基部を欠損している。錆膨れがひどい。

１次調査次Ｉ区においてもこのような地鎮と思われる儀礼に関係する遺構を検出している（Ｉ区SX10～11)。いずれも，楕円形の落ち込み状を呈する遺構に，土師質土器杯が置かれるものや合わせて銭貨，刀子等の鉄製品や鍛冶滓を埋納するものもある。帰属時期は出土土器から14ｃ後半～15ｃ前半のほぼ同時期に比定されている。杯など土器の数や鉄器などの組み合わせは各遺構で異なるが，これらは本遺跡の当該期の集落内の普遍的に行われていた地鎮儀礼と思われる。

柱穴・土坑出土遺物

69はSK01出土の土師質土器杯である。小片である為，口径・傾きに検討の余地を残す。**70・71**はSK02出土の土師質土器杯である。ともに底部は回転ヘラ切りで仕上げ，**71**は板状圧痕が見られる。**72・73**はSP01出土遺物である。**72**は土師質土器足釜の胴下半部である。底部にはタタキ痕が濃密に見られる。**73**は土師質土器小皿である。底部は回転ヘラ切りされている。**74・75**はSP02出土遺物である。**74**は土師質土器鍋の底部である。底部外面にタタキ痕が見られないので鍋とした。**75**は土師質土器足釜の鍔部片である。

76はSP03出土の土師質土器杯である。**77～79**はSP04出土の土師質土器杯である。**79**は完形である。底部はすべて回転ヘラ切りされており，**78・79**の底部には板状圧痕が観察される。**80**はSP05出土の白磁椀である。**81**はSP06出土の土師質土器鍋である。口縁部は内傾し，胴部外面には粘土接合の痕跡と思われる明瞭な窪みが観察される。口縁形態・胎土の肉眼観察から楠井産と思われる。

82はSP07出土のサヌカイト剥片である。原礫を複数に分割する際に生じた剥片で，この剥離に後出する剥離痕は観察されない。第１遺構面の中世期の遺物と比較すると下層を遺物誤って取り上げてしまった可能性がある。

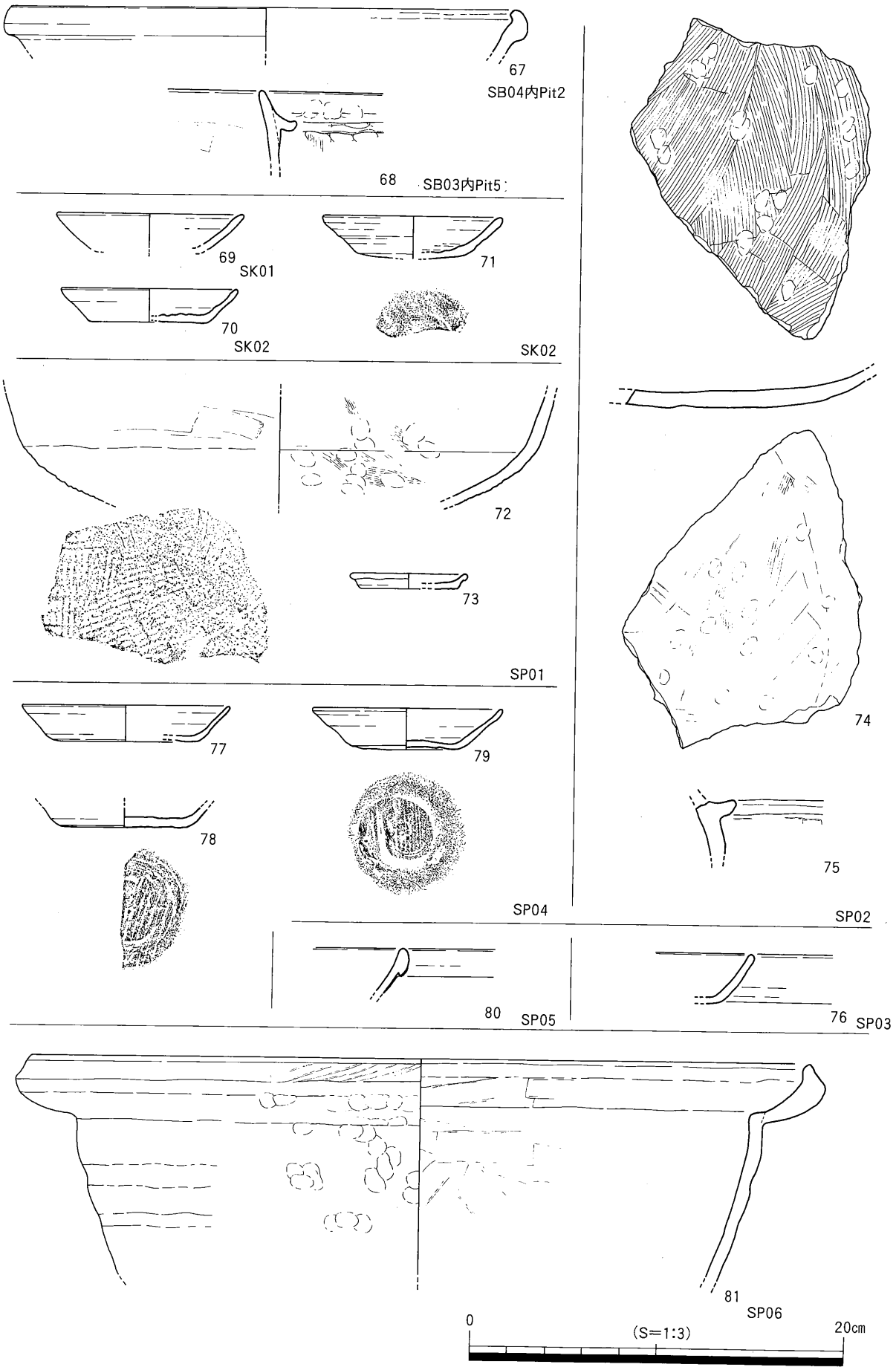


図20　Ⅳ-Ⅰ区第Ⅰ遺構面 柱穴・土坑出土遺物Ⅰ

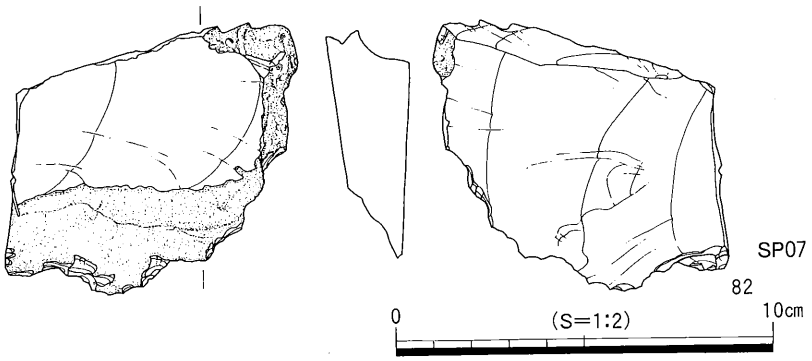


図21　Ⅳ-Ⅰ区第Ⅰ遺構面 柱穴・土坑出土遺物 2

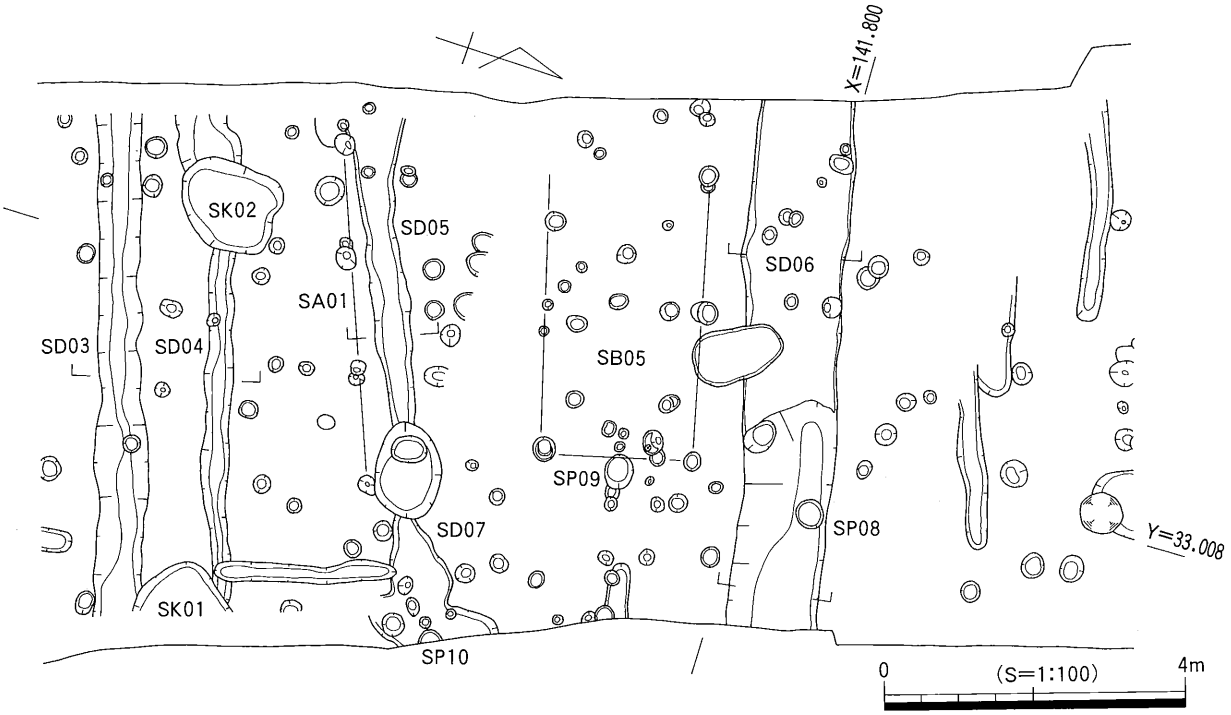


図22　Ⅳ-Ⅰ区北半部第Ⅰ遺構面 平面

X＝141.790から141.800付近にかけて掘立柱建物１棟・柵列１・溝５条・柱穴多数からなる比較的遺構が密集する部分を検出した。

SB05

調査区中央部分X＝141.798・Y＝33.010付近で検出した掘立柱建物である。南北にSD05・06によって区画される。調査区外西へ延びる可能性があるが，検出した規模は梁間１間（１m）×桁行２間（3.9m）を測る。出土遺物は土師器の小片が出土しているが，図化するまでに至っていない。遺構面から判断して14ｃ～15ｃ前半の帰属時期を想定する。

SD03・04・05

Ⅳ-１区北半部X＝141.794・Y＝33.008付近において，東西方向の溝３条SD03～05を検出した。規模はそれぞれSD03が上面幅0.6m・深さ0.16m，SD04が上面幅0.4m・深さ0.12m，SD05が上面幅0.5m・深さ0.1mを測る。主軸方位は東西で本調査区の他の東西方向の溝状遺構と同じく条里型地割東西方向に合致する。埋没土はいずれも第２層の灰白色シルトの単層である。また，SD05南側のSD04との間には東西

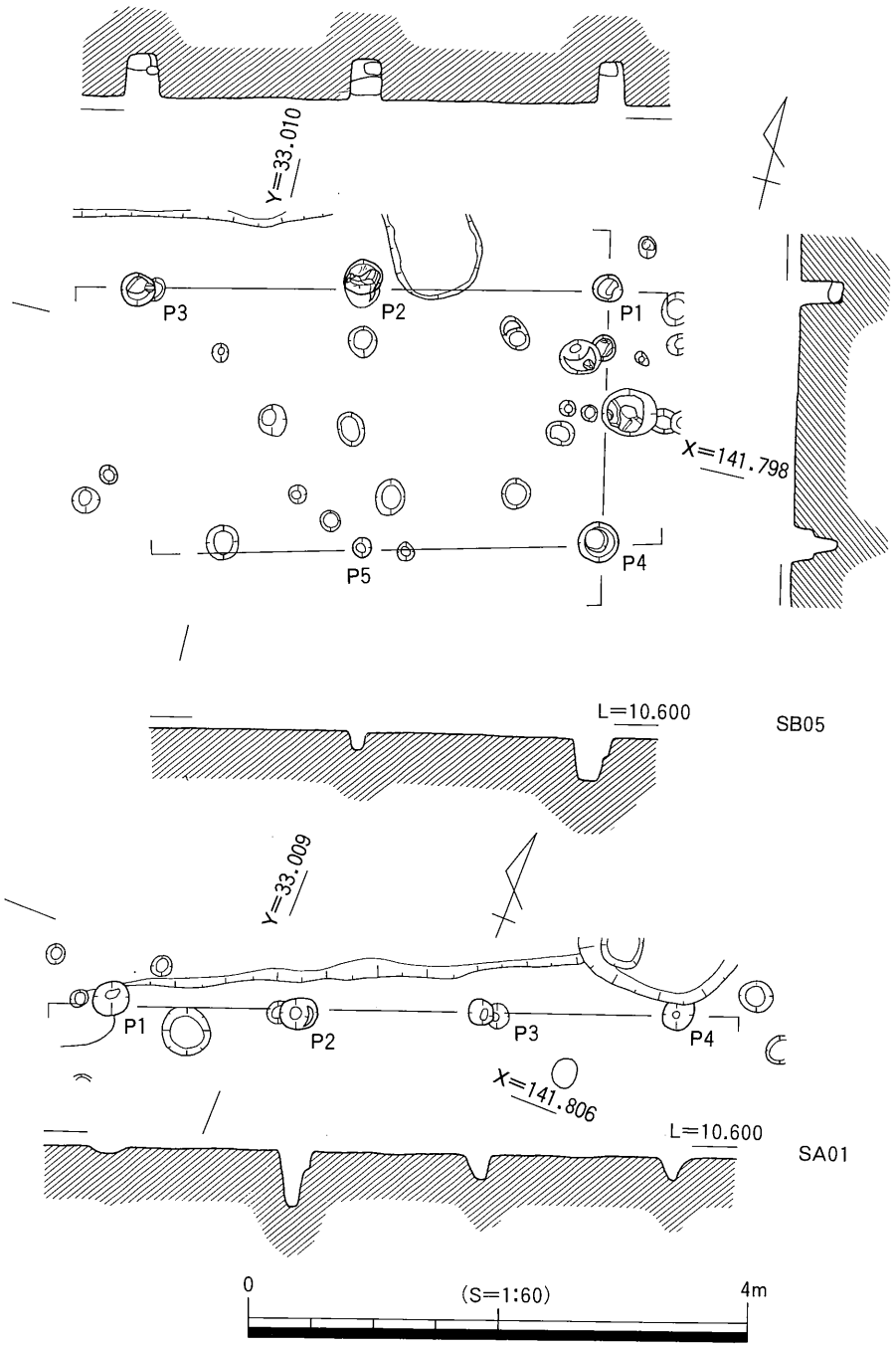


図23　Ⅳ-Ⅰ区第Ⅰ遺構面　SB05・SA01平・断面

に併走する形でSA01が見られる。このSA01が位置する部分はSD03と04の間に比べて幅広で意図的に余剰帯として確保されている。出土遺物は土師質土器杯・小皿・鍋が見られる。**47**はSD03出土の土師器甕胴部片である。古代期の所産で遺構面や埋没土から判断して，本遺構面の基盤層である第３層からの混入と判断できる。

38～42・44～46はSD04出土遺物である。**38・44・45**は土師質土器小皿。底部はすべて回転ヘラ切りされている。**39～41**は土師質土器杯である。底部はすべて回転ヘラ切り。**42**は土師質土器足釜である。鍔部は細身でヨコナデの仕上げがやや雑な感を受ける。**46**は土師質土器鉢である。**48～51**はSD05出土遺物である。**48・49**は土師質土器杯である。**50**は土師質土器椀であるが，細片の為，傾きに検討の余地がある。**51**は土師質土器鍋である。口縁内面に密なヨコハケが観察される。これら遺物は概ね14ｃ後半～15ｃ前半に比定される。従ってこれら遺構の帰属時期を14ｃ～15ｃ前半とする。

SA01

Ｘ＝141.806・Ｙ＝33.009付近で検出した柵列状遺構である。ほぼ1.5m間隔で柱穴が東西に並ぶ。柱穴底面のレベルは一定しない。本遺構北側にはSD05が併走するように流れ，両者とも条里型地割に合致している。出土遺物は土師質土器の小片が見られるが，時期決定に耐えれるものではないため埋没土・遺構面から判断して14ｃ～15ｃ前半の所産とする。

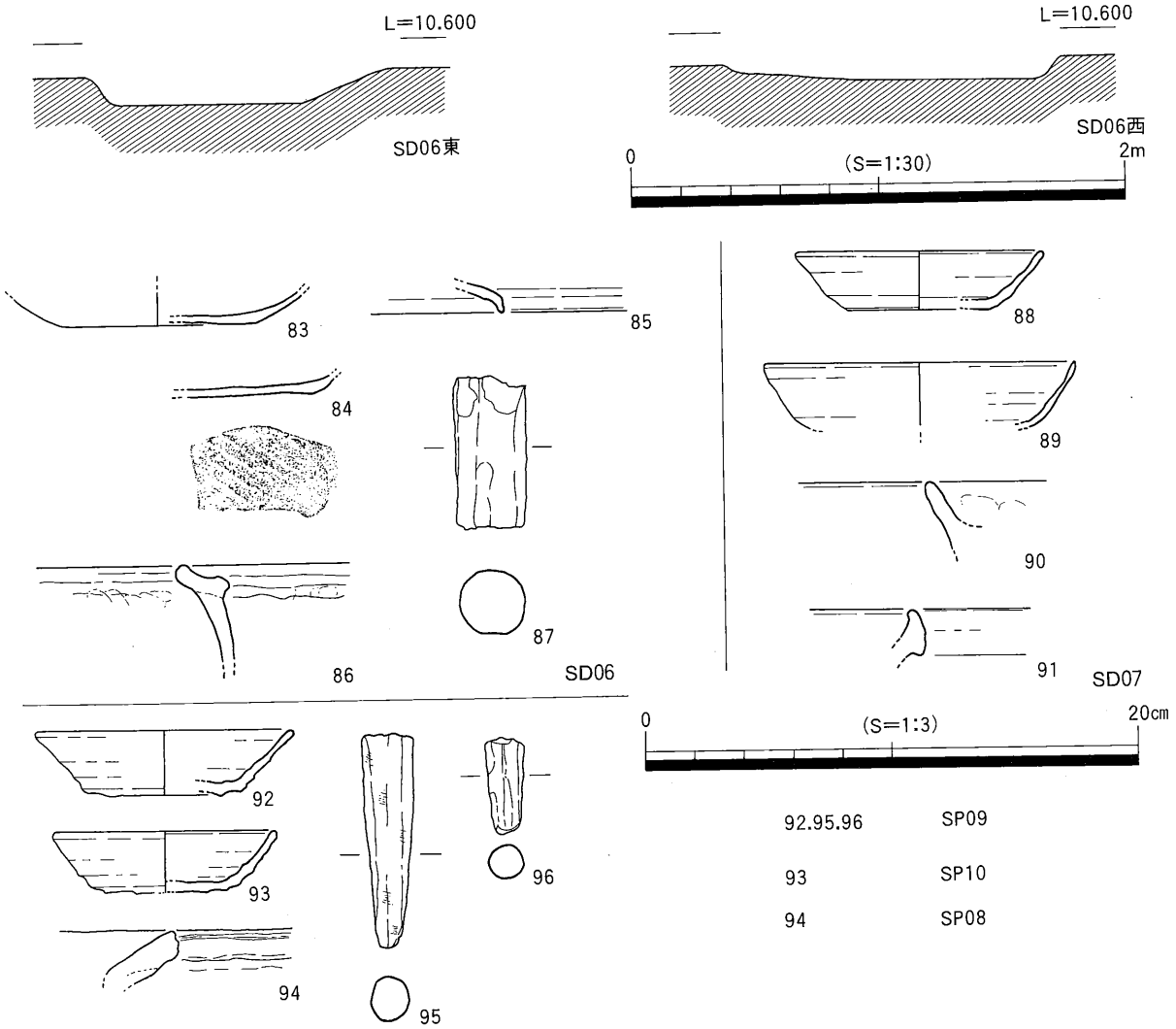


図24　Ⅳ-Ⅰ区第Ⅰ遺構面 SD06断面・SD06・07他柱穴出土遺物

これらSD03からSD06が位置する付近を境にしてこれより北側には遺構密度が希薄となり，より小規模な東西方向の溝が展開する。この小溝群は規模や平面配置からみて耕作溝群と思われ，Ⅰ区から続く屋敷地に付随する矮小な耕作域と推測される。従ってこのⅣ-１区北半部の溝群(SD03～06)SA01の部分がⅠ区から続く中世屋敷地の北限になるものと思われる。

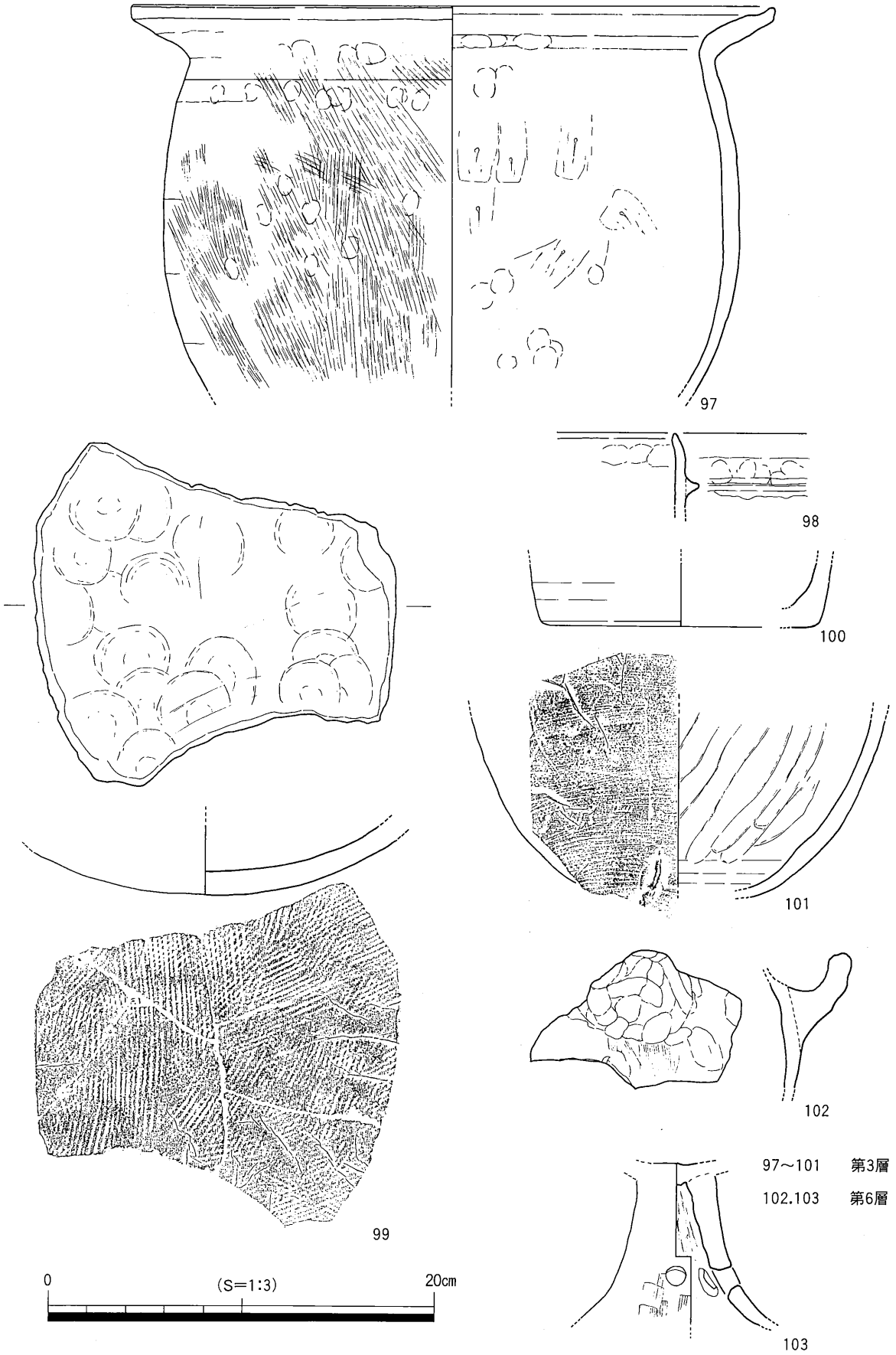


図25　Ⅳ-Ⅰ区 第3・6層出土遺物

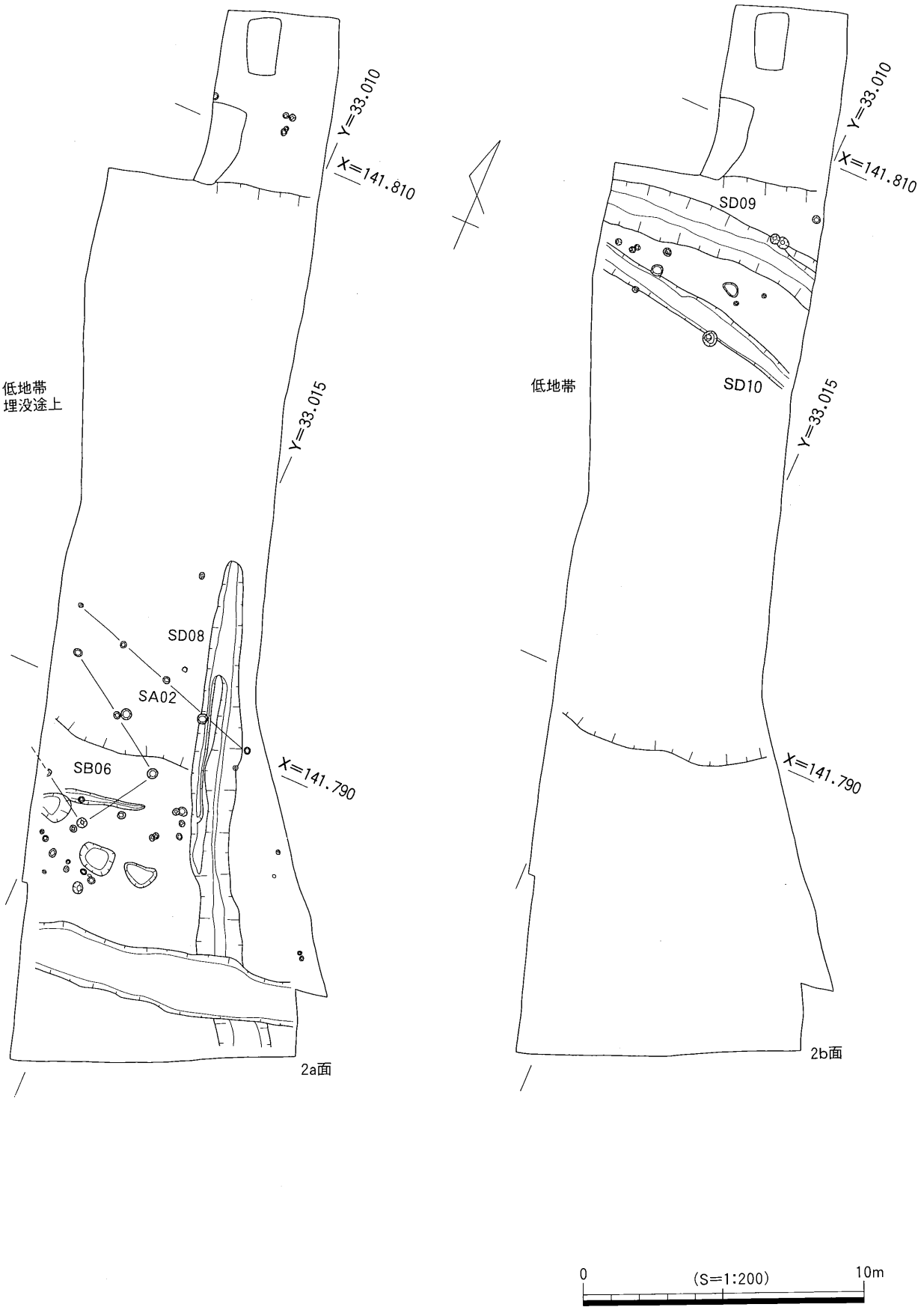


図26　Ⅳ-Ⅰ区第２ａ・ｂ遺構面 平面

Ⅳ－1区第2ａ遺構面

第3層を除去すると第4層上面，第6層上面において複数の柱穴や溝，低地帯を検出し第2ａ遺構面とした。

97～101は第3層出土土器である。また，調査時の取り上げミスで一部で第6層(低地帯上層)の遺物を含んでいる。**97**は土師器甕である。外面は縦方向の粗いハケ調整を施し，内面は縦方向ケズリを施した後ナデ消している。**98**は土師質土器足釜である。他の本層出土遺物に比べて新しい様相を示すことから，第1面の遺構出土遺物が混入している可能性が高い。また，小片の為傾き等に検討の余地がある。**99**は須恵器甕の底部片である。外面にはタタキ痕が明瞭に観察され，内面にはタタキ当て具痕をナデ消した跡と見られる円形の窪みが観察される。**100・101**は須恵器壺の底部から胴部にかけての破片である。いず

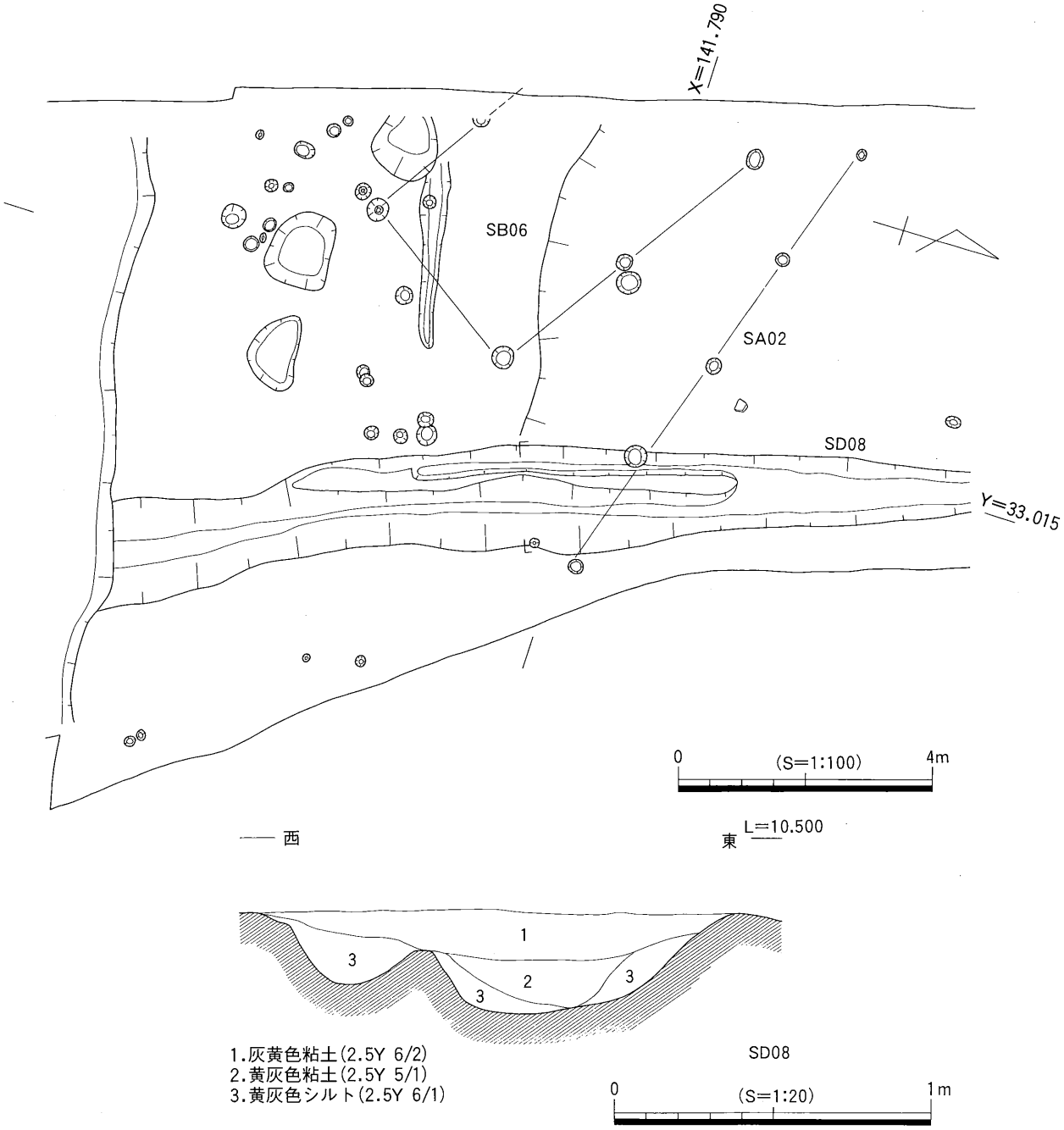


図27　Ⅳ-Ⅰ区南半部第2a遺構面 平面・SD08断面

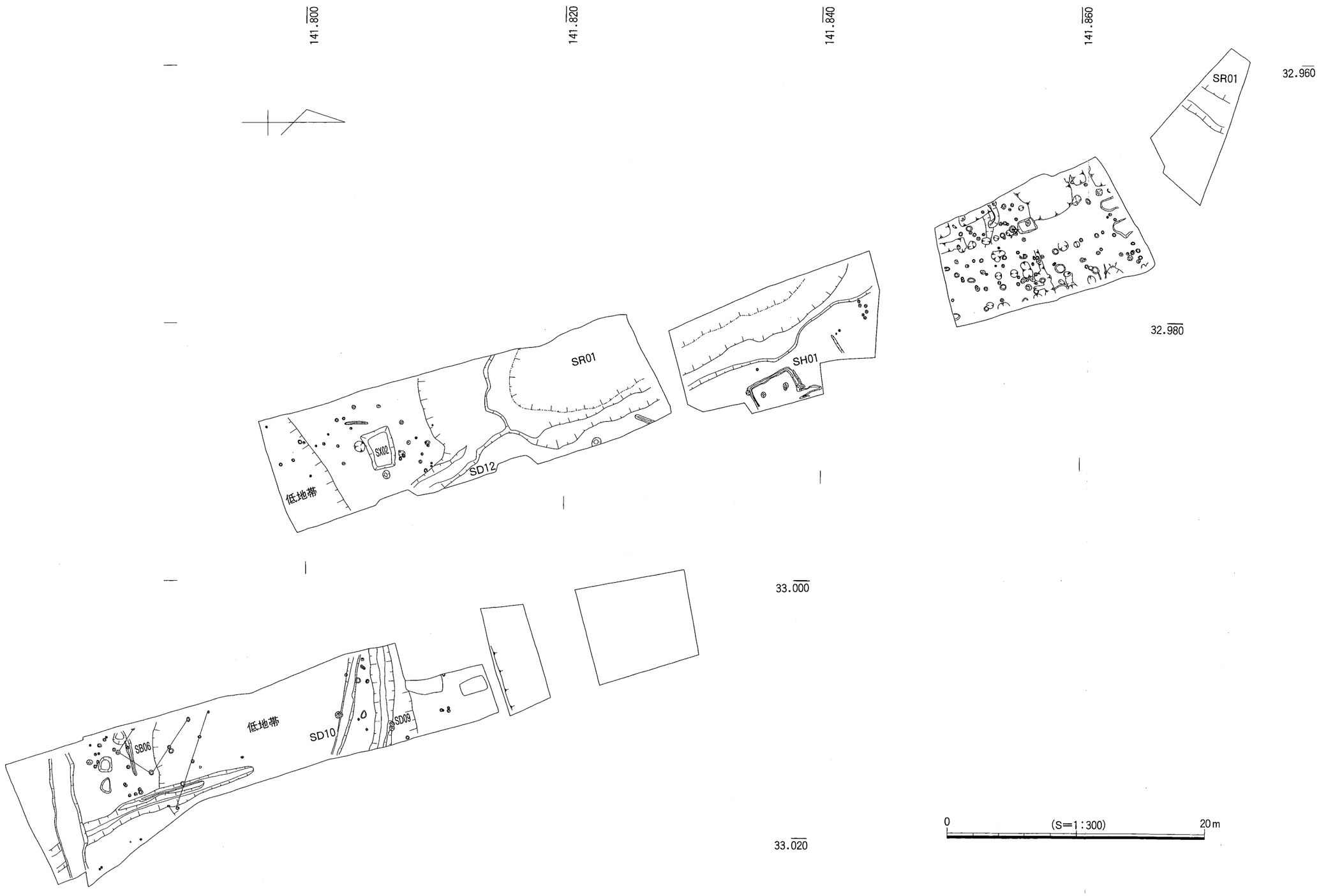


図28　川津川西遺跡Ⅳ～Ⅵ区第２ａ・ｂ遺構面平面

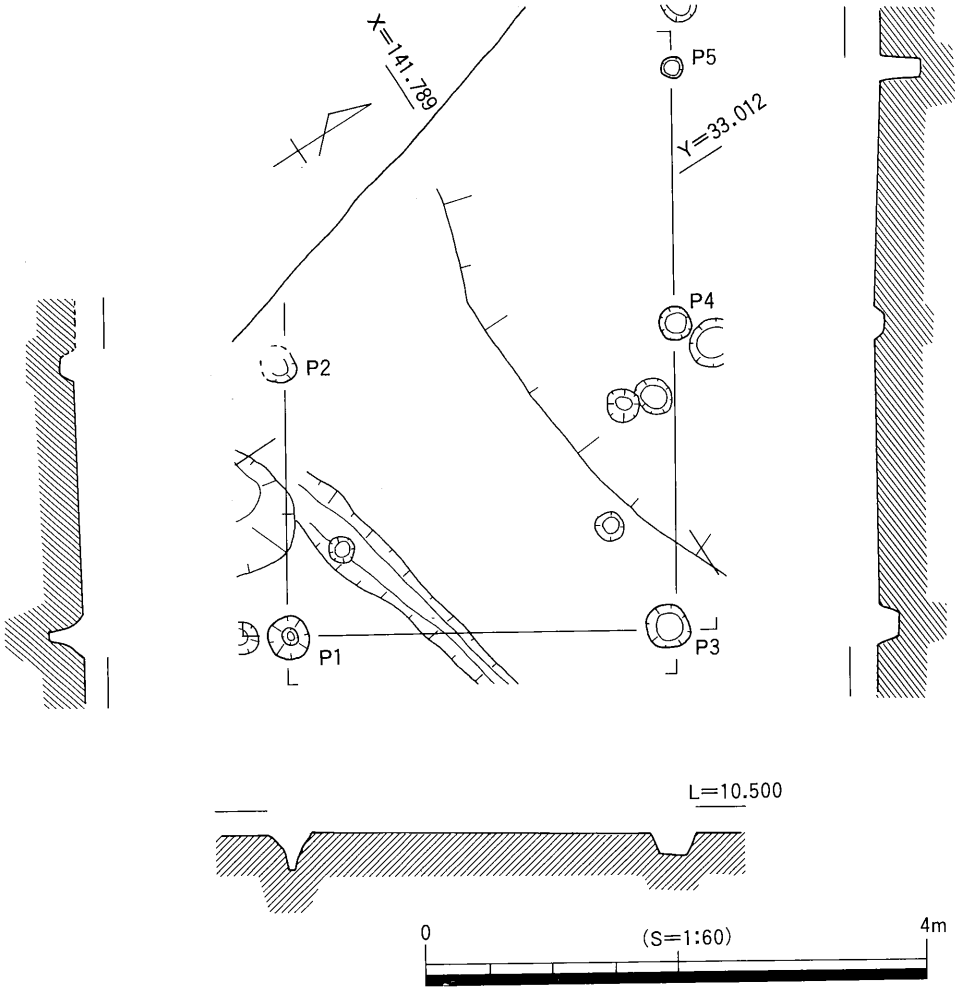


図29　Ⅳ-Ⅰ区第２a遺構面 SB06平・断面

れも胴部下半から底部にかけての部位の破片である。**101**の外面には横方向のカキ目が観察される。**103**は弥生後期高杯脚部片であるが，第７層(低地帯下層)の遺物を誤って取り上げている可能性がある。

SB06

Ⅳ-１区南半部X＝141.789・Y＝33.012付近で検出した掘立柱建物である。調査区外へ延びるため全体の規模は不明であるが，梁間１間(３m)×桁行２間(4.5m)を測り，主軸方向はN60°Wである。

出土遺物はいずれも土師器小片である為，時期決定には困難であるが，検出遺構面と低地帯がほぼ埋没した段階で構築されていることから，概ね９ｃ末から10ｃに帰属する建物としておきたい。

また，このSB06の北側に柵列状遺構SA02が存在するが，微妙に主軸方位が異なっている。このSA02に伴う出土遺物は無いが主軸方位・埋没土からここではSB06と同時期として取り扱う。

SD08

SD08はⅠ区南端から本調査区へ続く一連の溝(１次調査遺構名Ⅰ区SD131)である。上面幅1.5m・深さ0.3mを測り，今回の調査ではX＝141.785・Y＝33.018付近からX＝141.796・Y＝33.015付近までの11m程の部分を検出し低地帯へと注ぐ。部分的に２条に分かれたり，上面のプランが乱れる部分があるが，

断面観察においては主だった改修痕は認められなかった。出土遺物に時期決定に耐えうるものは無いため，本溝の帰属時期をここでは１次調査の年代観である７ｃ代としておきたい。

低地帯

Ｘ＝141.790付近からＸ＝141.810付近にかけて本調査区の第４層上面が緩やかに落ち込む部分，すなわち低地帯を検出した。これは，埋没土として基本層序の第５・６・７層とした粘土層が概ね水平堆積し比較的激しい流水性を示す堆積土が見られないことから旧流路ではなく低地帯とした。Ｖ－１区からⅣ－１区にかけての東西方向で検出され，Ⅳ－１区部分では南北幅約21m，深さ約0.9mを測るものである。形成時期については，上記のとおり開削されたものでなく，あくまでも第４層の堆積時の凹凸によるものと考えられることから，同層位の形成時期である縄文後晩期に求められ，出土遺物から弥生時代から古代末頃にかけて徐々に埋没したものと思われる。

本遺構と同様の低地帯は１次調査Ⅱ区においても検出されている(SX19･20)。これらとの平面的な繋がりは不明だが，出土遺物から判断してこれら複数の低地帯が本遺跡内に併存していた可能性が高い。

Ⅱ区SX19で想定されたように，耕地として利用された痕跡は本遺構に関しては認められなかった。

Ⅳ－1区第2ｂ遺構面

低地帯部分において第5・6層を除去した段階，第7層上面で東西方向の溝2条SD09・10，柱穴数基を検出し第2ｂ遺構面とした。

SD09・10

このSD09・10はX＝141.805・Y＝33.010付近で上記のとおりほぼ東西方向に2条併走するように検出された溝である。規模はSD09が，上面幅1.5m・深さ0.6mを測り，断面V字形を呈する。一方SD10は，上面幅0.9m・深さ15cmを測り，断面逆台形を呈する。両者とも，埋土は黒色系の粘質土で埋没しているが，下層には粗砂・中粒砂がラミナ状に堆積し流水状態にあったことを示している。V－1区第2遺構面において検出しているSD12の延長部分と思われ，同区SR01から取水する灌漑用水路と思われる。詳しくはV区SR01の部分で紹介する。

帰属時期についてはSD09上層より須恵器無蓋高杯**104**，SD10上層より須恵器杯蓋**105**が出土していることから両溝ともに概ね7ｃ代に機能していたと思われる。

低地帯下層(基本層序第7層)出土遺物

SD09・10が掘り込まれる第7層中には，多くの弥生後期前葉を中心とした土器とサヌカイトを包含していた。この第7層は層厚0.2mを測り，谷地形の下位一面に概ね水平堆積していた。土器の分布状況は散発的で固まって出土する状態にはない。上記のSD09・10は本層を切り込む形で開削されて，同遺構中にも須恵器に混じって，本来第7層中に含まれていた弥生土器が出土しているが両遺構・層位で接合する個体が多い為，ここに一括して報告することとする。

106～134はこの第7層より出土した土器である。**106～113**は甕の口縁部，**114～120**は同底部である。これら甕の口縁部の形態を見てみると，中期末のそれと比べてはっきりとした内面の屈曲部の稜線を持っているものが多い。口縁部の拡張部に施される凹線文も消失してしまっているか，僅かに痕跡として凹線文をとどめるもの**107**が見られる。また，**110～113**のように同部位を拡張しないものも含まれる。内面調整は胴部上半まで横方向ないし，縦方向にケズリ調整を施すものが多い。また比較的しっかりとした平底をとどめるもの**114～117**がある。矮小な底部をもつ**118～120**は他のものに比べて時期的に下る可能性がある。

121～132は高杯である。完形に復元される個体は無いが，**125**は角閃石を多量に含む胎土をもつ高松平野北東部産の土器であることから，各部位の破片を繋ぎ合わせて復元した。本層出土資料中，同地域産の土器はこの**125**の1点だけである。これらの資料の中で最も時期的な変化が現れる部位として，口縁端部の拡張とヨコナデ調整，凹線文の退化度・杯部の屈曲部の発達度・脚端部の拡張と凹線文の退化度が挙げられる。**125・132**は上記の特徴から見ると，後期前葉の各部位の特徴を備えている。**121・131**は口縁端部・脚端部の拡張が消失するとともに，やや開き気味になっていることから，**125・132**よりも後出する様相を備えていると言える。**133・134**の鉢も屈曲部の内外面に凹線文をとどめるなど後期初頭の特徴をよく残している。

これらの所属性を検討すると，大半の土器群は後期前葉に位置付けられ，極僅かに後期後半の土器を含んでいる。また，後期初頭以前に属する土器は一切出土していない。

第7層中にはこれらの土器群に伴って，サヌカイトも出土している。**135・137・138**は，おそらく素材と考えられるサヌカイト製の剝片類である。いずれのものも主だった調整痕をとどめていない。**135**は一部に自然面を残しているが，表裏ともに周囲からの加撃によってさらに小さい剝片類を剝ぎ取っている。

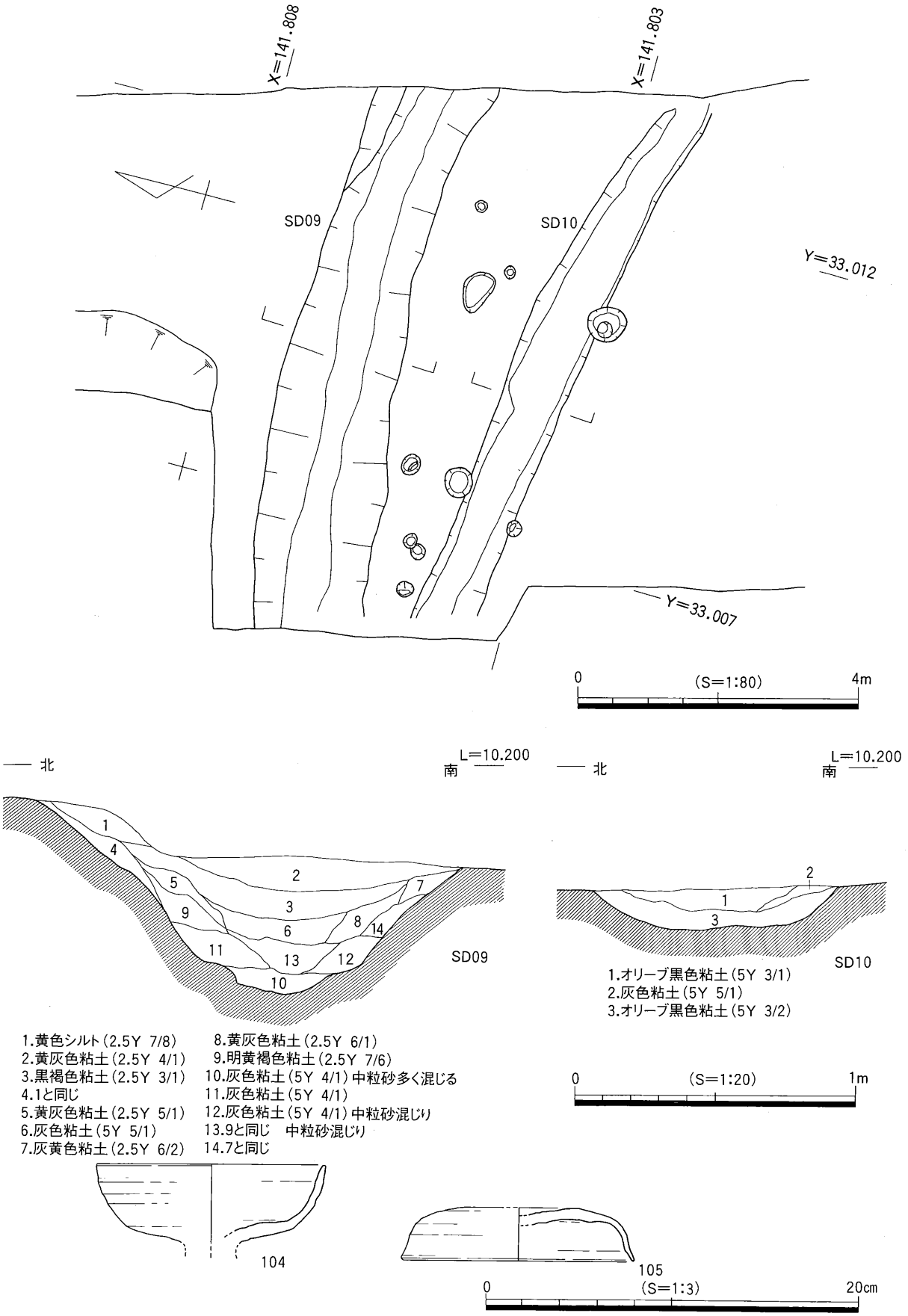


図30　Ⅳ-Ⅰ区第２ｂ遺構面 SD09・10平・断面・出土遺物

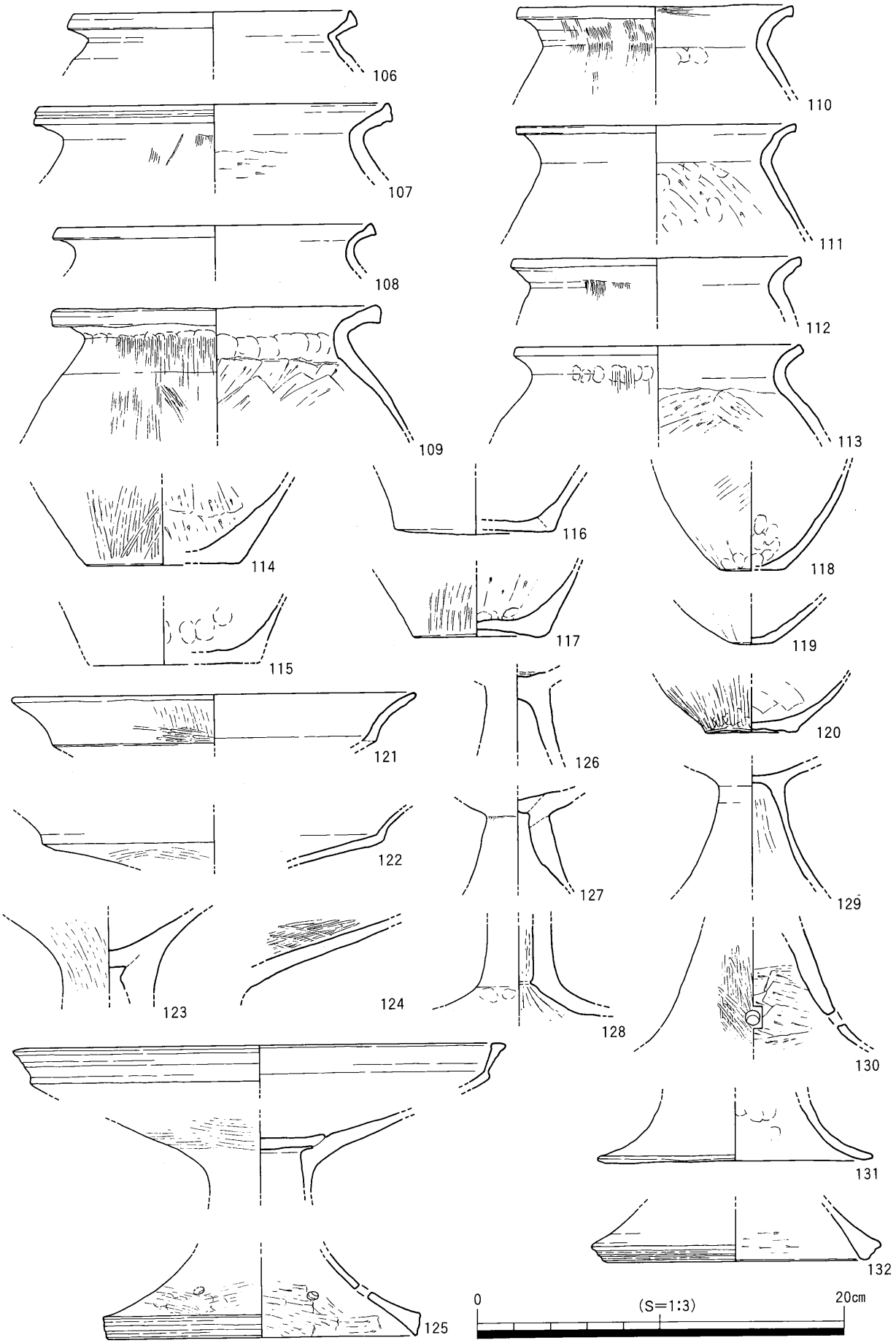


図31　Ⅳ-Ⅰ区低地帯第７層出土遺物Ⅰ

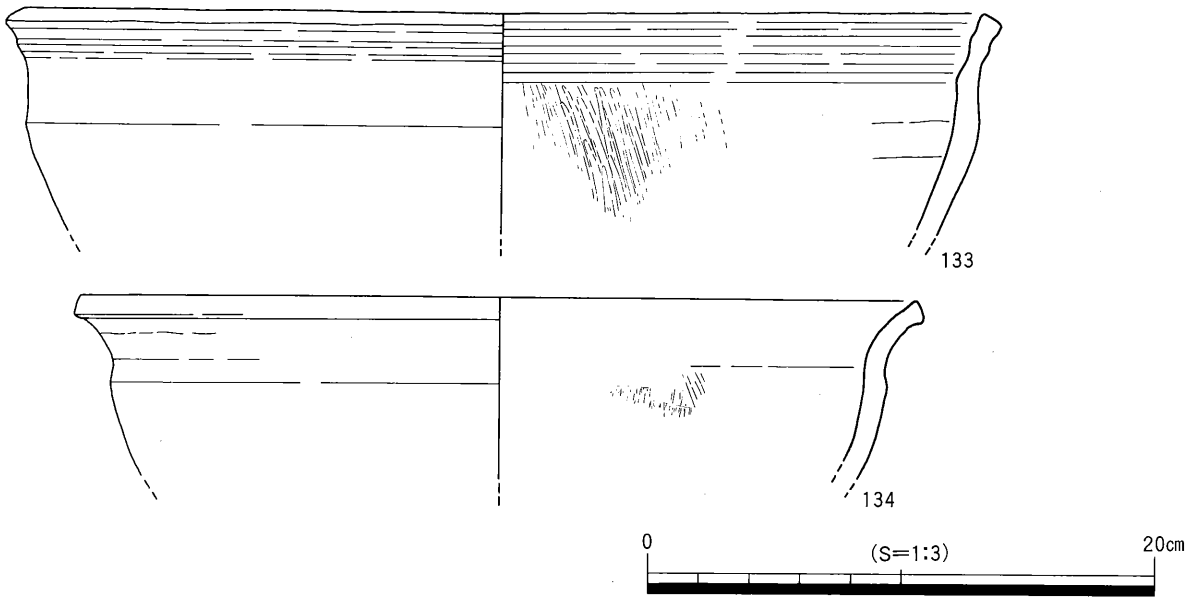


図32　Ⅳ-Ⅰ区低地帯第7層出土遺物2

136は楔形石器である。

137は大形の盤状剝片である。自然面以外は表裏・裁断面すべてに剝離痕が観察されることから元来のサイズはかなり大形の剝片として持ち込まれている可能性がある。**138**は自然面を顕著にとどめ素材剝片である。側縁に若干の微細な剝離痕が観察されるが，これ以外に主だった剝離痕は観察されない。**139**は風化の進んだサヌカイトの原礫である。現状で観察される剝離痕は目的をもったものではなく，偶発的な剝離であり，剝離面にまで風化が及ぶ。**140**は側縁に微細な剝離痕が観察される。

141はサヌカイト製の凹基式石鏃である。**142**はサヌカイト製のスクレイパーである。背面に潰れ痕が観察され，刃部は一部欠損しているが，弱い摩滅痕が観察される。

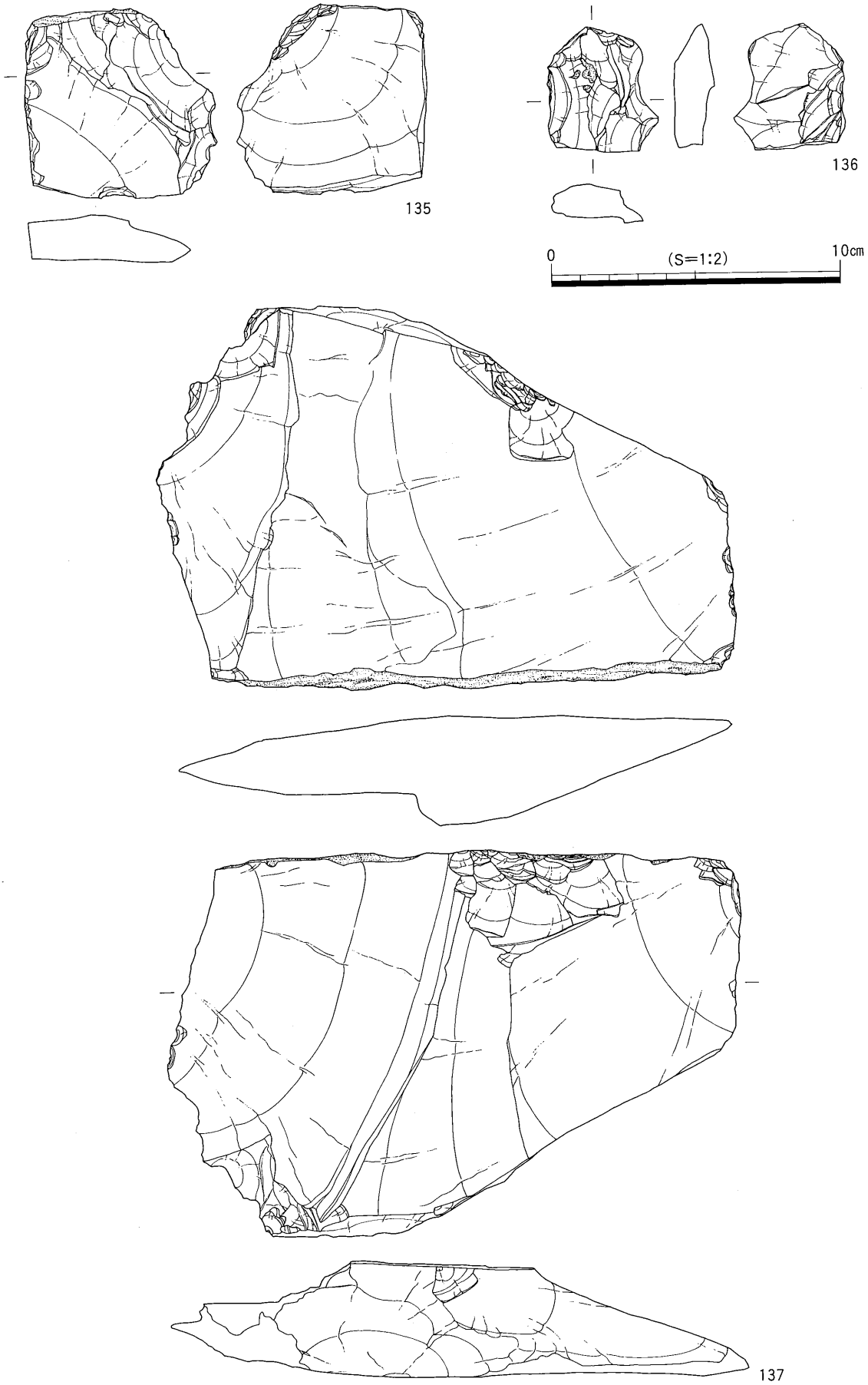


図33　Ⅳ-Ⅰ区低地帯第７層出土遺物３

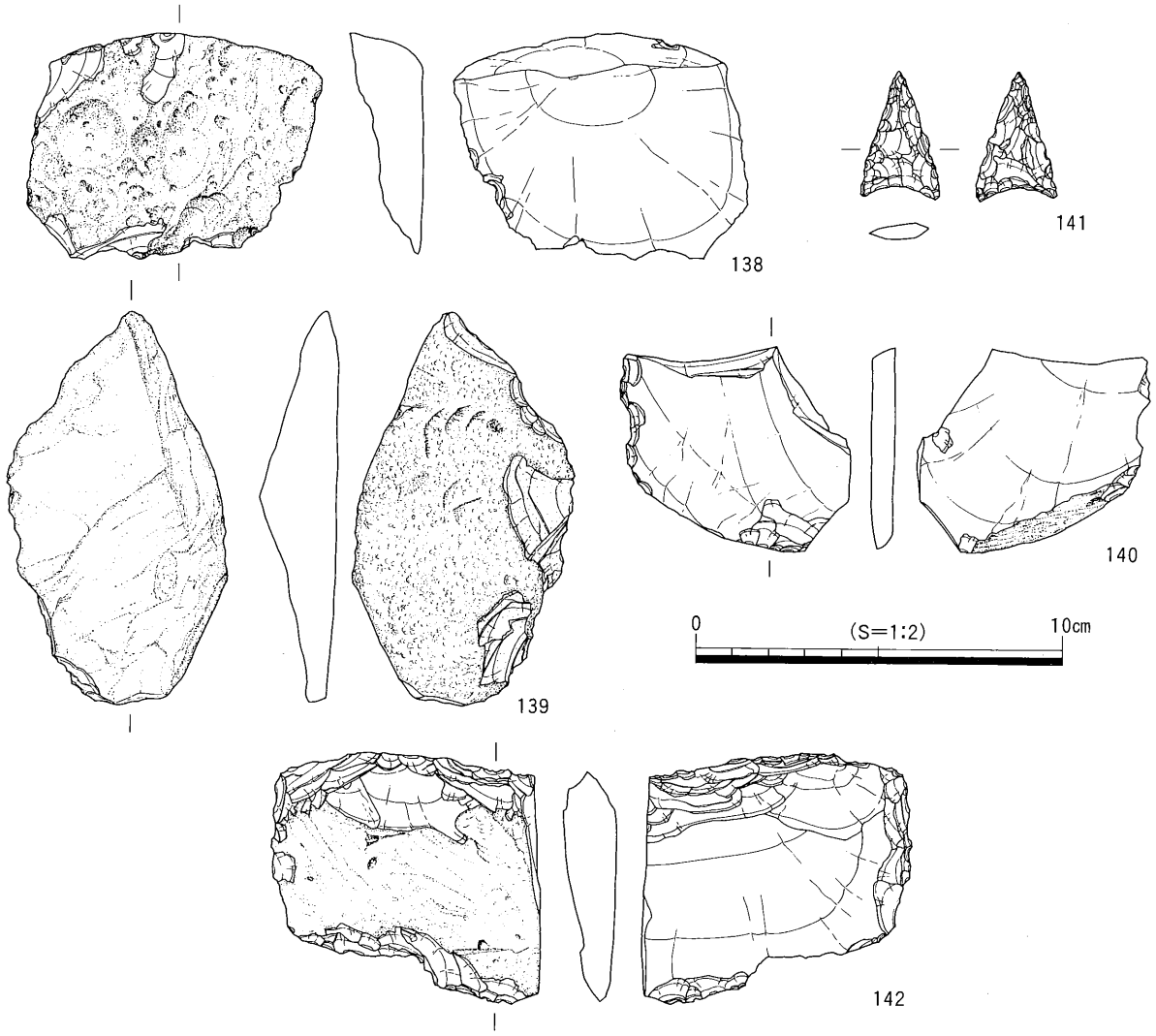


図34　Ⅳ-Ⅰ区低地帯第７層出土遺物４

Ⅳ－２区

本調査区は，調査前に宅地として利用されていたために，遺構面が攪乱されていた。また，Ⅳ区団体の南北方向の土層堆積状況から，Ⅳ-２区部分は微高地に相当することから，上記の原因による削平を受けやすいと考えられる。調査方法としては攪乱土を除去し精査を行い，遺構・遺物が認められないことを確認したのち，下層の堆積状況の確認を行った。ここでは，土層断面図の提示と堆積状況の解説を行う。

Ⅳ－２区の堆積状況（図35参照）

攪乱土を除去すると黄色系のシルト層が現れる。この層はⅣ-１の北半部やⅥ区において弥生時代以降のベース土としているもので，比較的穏やかな沖積作用によって形成されたと考えられ，上記のとおり上面の遺構面の部分は攪乱されている。この攪乱土は最大層厚0.5m程を測る。これより下位は粗砂・中粒砂を基調とする流水堆積層である褐色系の砂層が連続して堆積している。1.2m程掘り下げたが遺物の出土は見なかった。土層断面図のみ提示する。

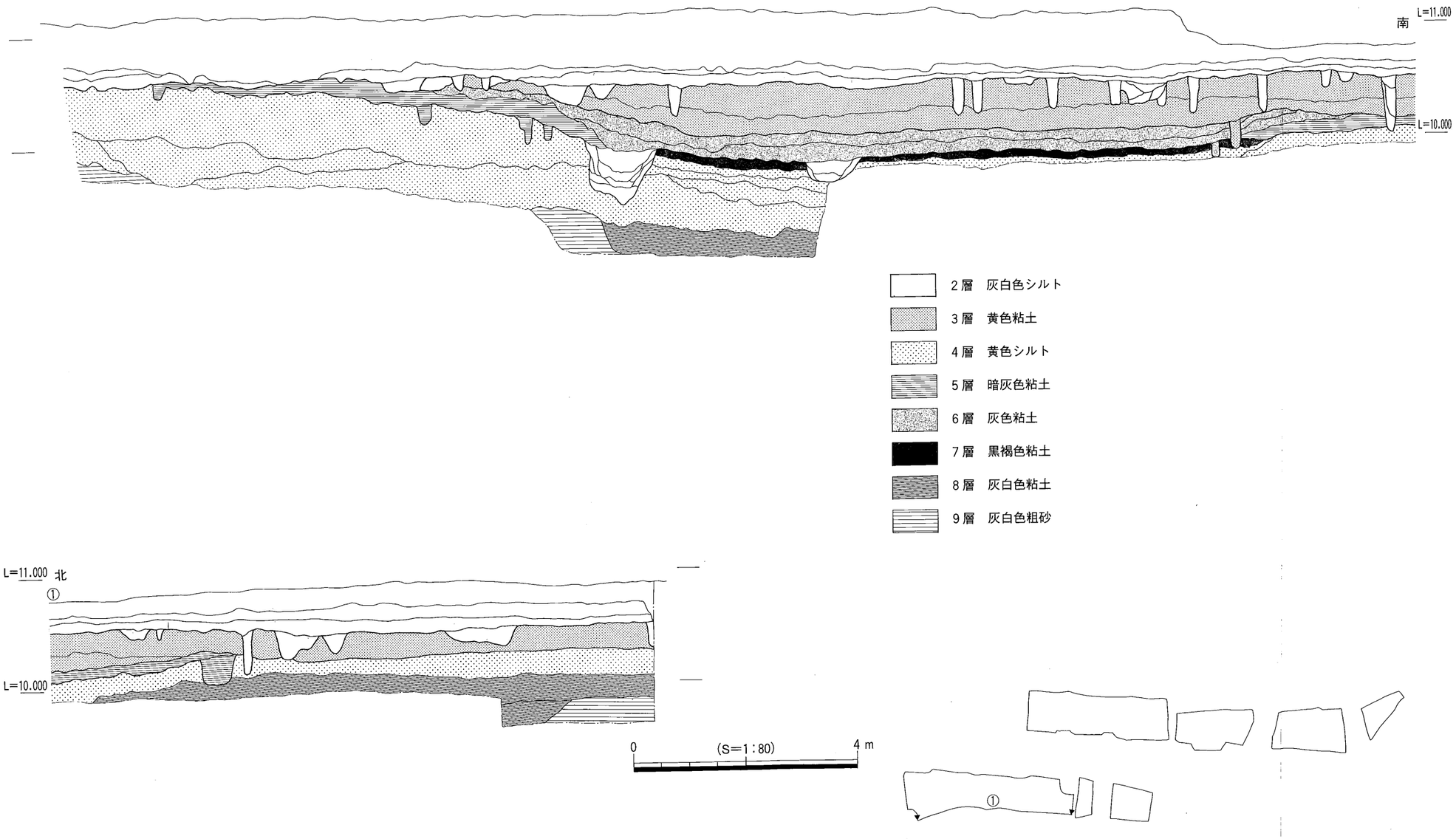
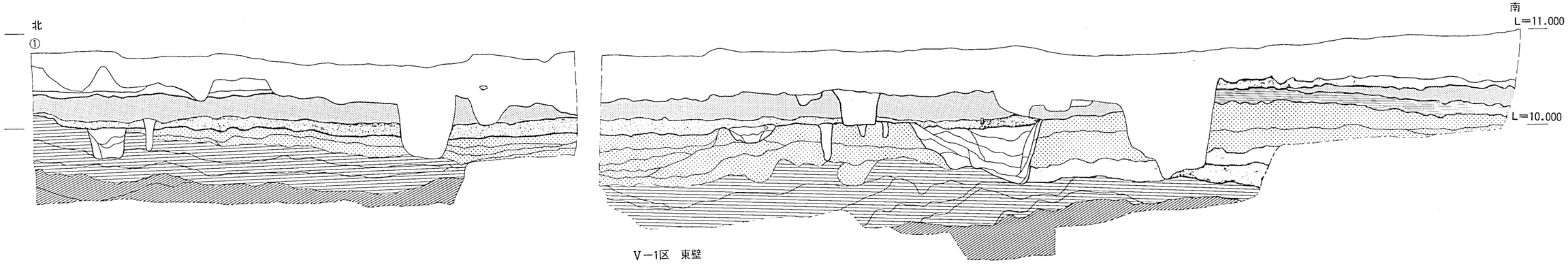
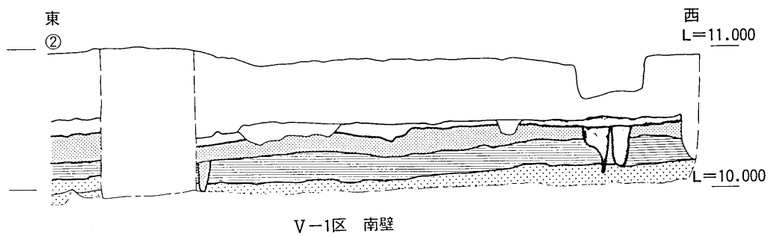
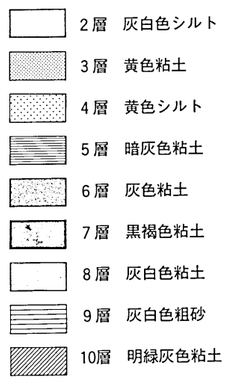


図35　Ⅳ－Ⅰ区東壁土層断面







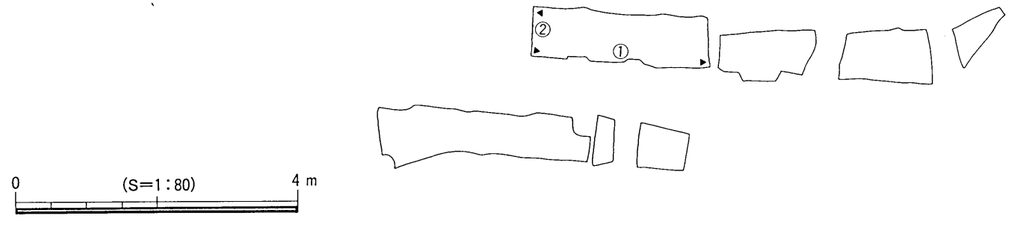


図36　V－I区東・南壁土層断面

2．Ⅴ区の調査

Ⅴ-1区では3枚の遺構面を確認することができた。第1遺構面はⅣ区と同様に第3層黄灰色粘土層上面において検出した14～15c前半を中心とするものである。Ⅳ区で確認された14～15c前半代の遺物を包含する第2層は攪乱等により，部分的にしか確認できなかった。第2遺構面は第3層を除去した段階でⅣ-1区で検出された低地帯の西側延長部分の上面を検出し2a面，この低地帯の埋土である第4層黒褐色粘土層を除去し第2b面とした。この2b面は調査区南側の低地帯上層の一部分にのみ，確認されるため一括して第2面として報告する。

また，第2遺構面ではⅤ-1区中半部からⅤ-2区にかけて，蛇行する自然河川SR01を検出している。このSR01は弥生時代後期に形成され，7c末から9cには埋没している。そして，このSR01から取水するSD12を検出している。このSD12は，Ⅳ-1区第2b面SD09かSD10のいずれかに接続するものと考えられ，SR01とともにほぼ同時に埋没している。

Ⅴ-2区では遺構面は1面しか確認できず，上記SR01北側延長部分と7c代の竈をもつ竪穴住居SH01を検出している。第1遺構面に対応する遺構は存在しないので，第2遺構面の所で報告する。

Ⅴ－1区第1遺構面

Ⅳ区同様，第3層黄灰色粘土層上面において検出された遺構面である。Ⅴ-2区では本層の堆積は認られなかったが，Ⅴ-1区では第2遺構面のSR01の上層を覆うように水平堆積している。Ⅴ-1区南部低地帯北肩部では，第6層黒褐色粘土層上面が遺構面となる。また，後述するSK01の北側部分は宅地造成に伴って，遺構面が攪乱されている状態が確認され，遺構分布も希薄になってしまっている。Ⅴ-1区南半部X＝141.805付近からX＝141.810にかけて土坑・柱穴等を多く検出した。

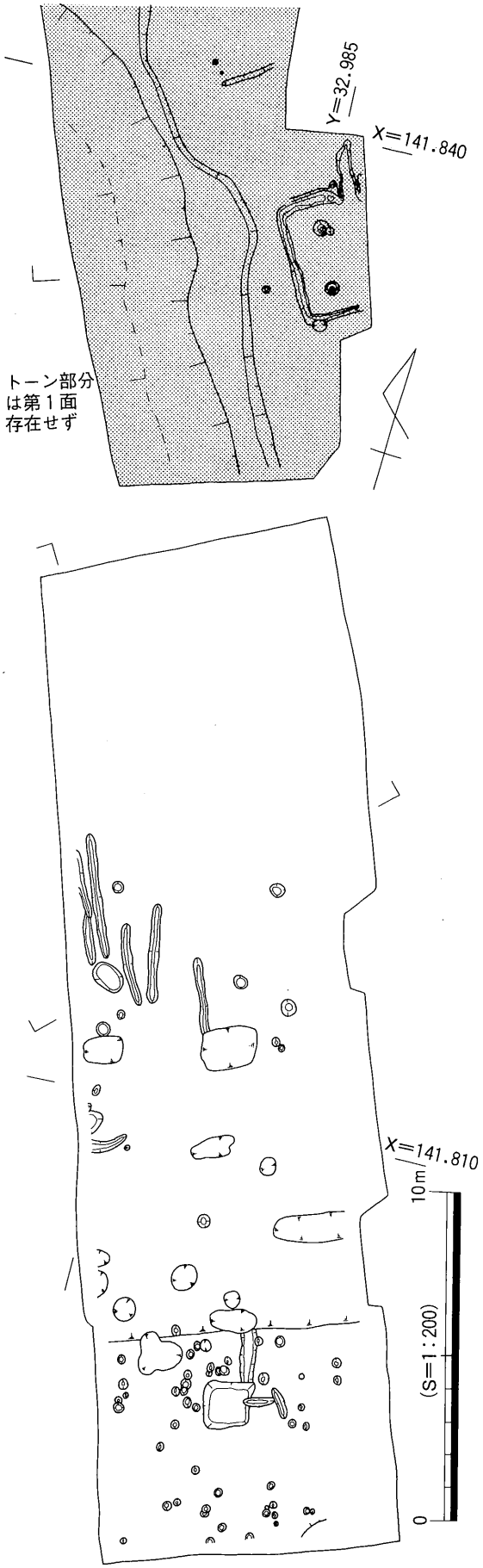


図37　Ⅴ区第Ⅰ遺構面　全体図

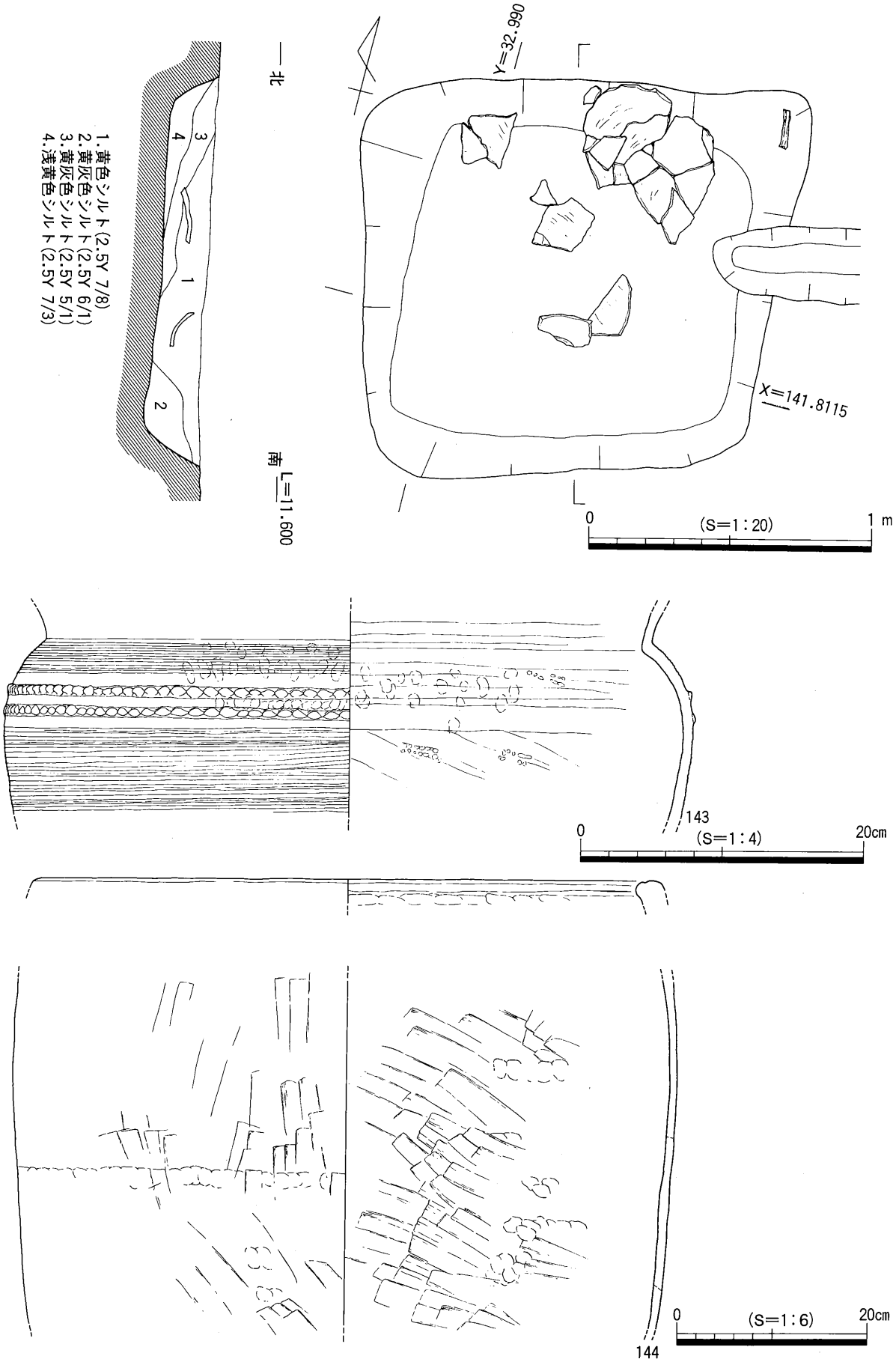


図38　V－Ⅰ区第Ⅰ遺構面 SK01平・断面・出土遺物

SK01

X＝141.812・Y＝32.990付近で検出した1.5m程の方形で深さ0.2m程の廃棄土坑である。遺構内北半分に集中して遺物の出土が見られた。

143は産地不明の大甕の頸胴部片である。胴部最大径付近に押捺突帯を２条施し，上下にミガキ条の沈線を数条施す。**144**は土師質の大甕である。出土遺物の大半はこの甕の破片であったが完形には復元できなかった。出土遺物より18ｃ代の所産である。

SP40

上記SK01の東側，X＝141.804・Y＝32.9920付近で，土師質土器小皿を埋納したSP40を検出した。このSP40は直径0.3m，深さ５cm程の円形で柱穴状を呈する。土師質土器小皿を東西に５枚ずつ２列に立て並べた状態で，傍らに５cm程の粘土塊を添えていた。土師皿はほぼ完形で重ねられていた。出土遺物から14ｃに比定される。本遺構もⅣ-１区第１面SX01と同じく地鎮に関係する遺構の可能性が高い。ただ，本遺構で見られた２列に重ねる埋置状態，上記法量の土師質土器小皿と粘土塊という組み合わせは遺跡内では類例を見ない。また，建物等との位置関係であるが，本遺構周辺で数基のピットを検出しているが，掘立柱建物を復元するに至っていないので不明である。

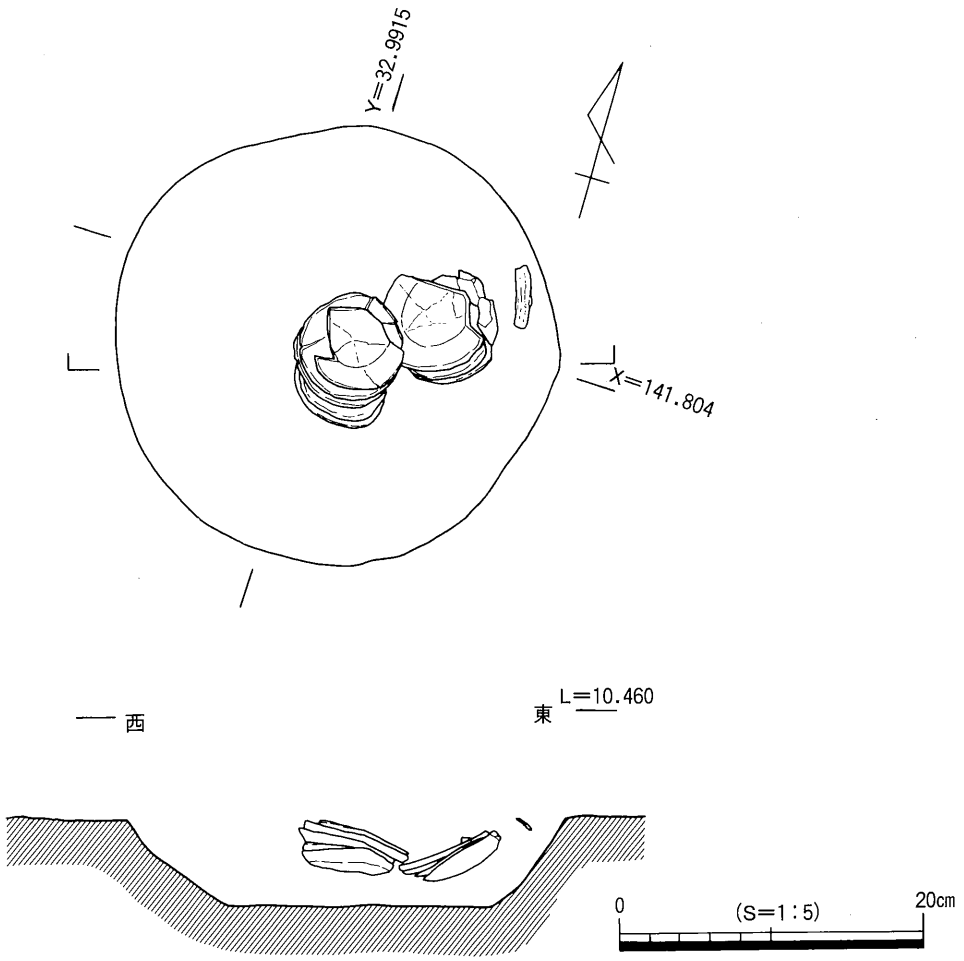


図39　Ⅴ-Ⅰ区第Ⅰ遺構面　SP40平・立面

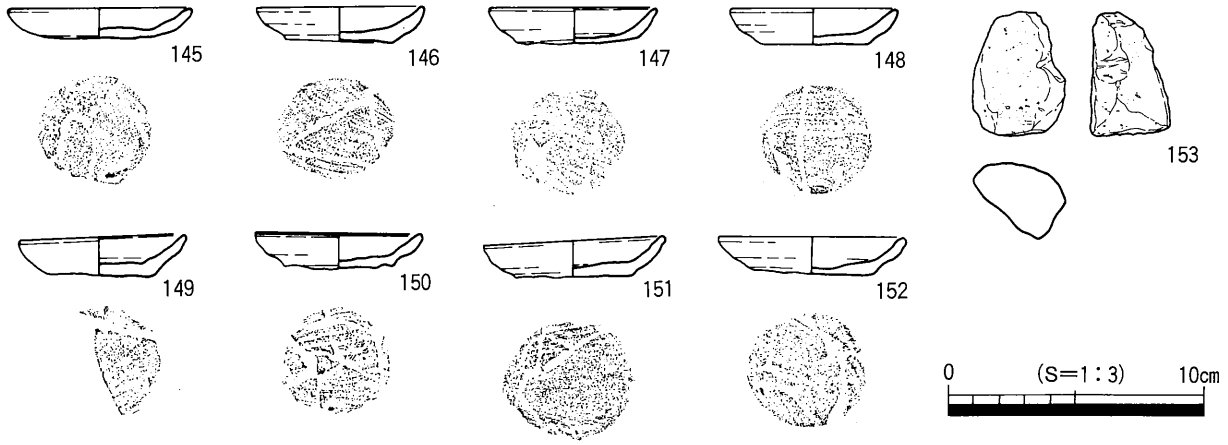


図40　V－I 区第 I 遺構面 SP40出土遺物

145～153はこのSP40出土遺物である。**145～152**は土師質土器小皿である。口径6.5cm前後，器高1.5cm前後，底径 4 cm程といったような画一的な法量をもっている。**145**のみ器高が他に比べてやや低く，口縁部の内傾度がきつい。底部はすべて静止糸切りで仕上げられている。**153**は粘土塊である。

上記出土遺物から本遺構は14 c 後半～15 c 前半の帰属時期を推定できよう。

また，V－1 区北半部で柱穴・溝等を検出しているが，出土遺物は細片で時期を決するに至っていないが。14 c 代の遺構と同様の埋土をもつため同時期としておく。

V－1・2区第2a・b遺構面

V-1区南半部はⅣ区から続く低地帯の北肩部を検出している。基本層序で第4層とした低地帯の埋没土黒褐色粘土層上面が第2a面となるが，調査区南壁でピット1基を確認する以外，遺構は検出できなかった。続いてこの第5層を除去し第2b面の検出を行った。他の部分では第1遺構面の基盤層である第3層を除去し，第4層上面で遺構を検出し2b面とした。

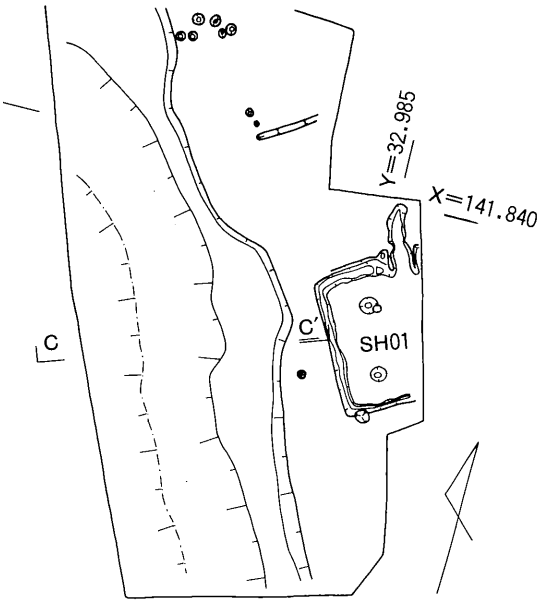
低地帯第5層出土遺物

低地帯の埋没土である第5層には比較的多くの遺物を包含していた。図化できるものはすべて掲載した。**154～177**はこの第5層出土遺物である。**178**のみ，谷地形の最上層（基本層序の第2層）出土遺物である。これら出土遺物の帰属時期は，概ね7c後半～9世紀に属する遺物である。

154～156は須恵器杯蓋である。内面に返りをもつものは見られないが，口径に差違が認められる為，7c末～8cに比定されるものである。**157～161・167**は高台をもつ須恵器杯身。**167**は底部にヘラ記号を施す。**165・166**は高台をもたない須恵器杯身で8c代の所産。**168**は須恵器杯身で7世紀前半に遡る可能性がある。**162～164**は須恵器皿である。**169**は須恵器甕の頸部片で外面に波状文を2帯施す。**170**は須恵器無蓋高杯で口縁部を欠損している。TK217型式に比定される。**171・172**は所謂畿内産土師器と呼称される土師器杯である。**171**は内面にループ状の暗文を施し，底部は手持ちヘラケズリを行った後丁寧なミガキ調整を行っている。各帰属時期は**171**が概ね7c末～8c，**172**は8c代に比定される。**173**は鍔付きの土師器甕である。9c代に下る可能性がある。**174・175**は土師器甕の体部片である。**176**は土師質の竈片である。

SX02

V-1南半部X＝141.800・Y＝32.990付近において，南北2m・東西3m・深さ0.3m程の不定形落ち込みSX02を検出した。底面も凹凸が激しく，立ち上がり部分も場所によって様々である。埋没土は灰色シルト層が概ね3層に区分されるが，層境は不明瞭である。



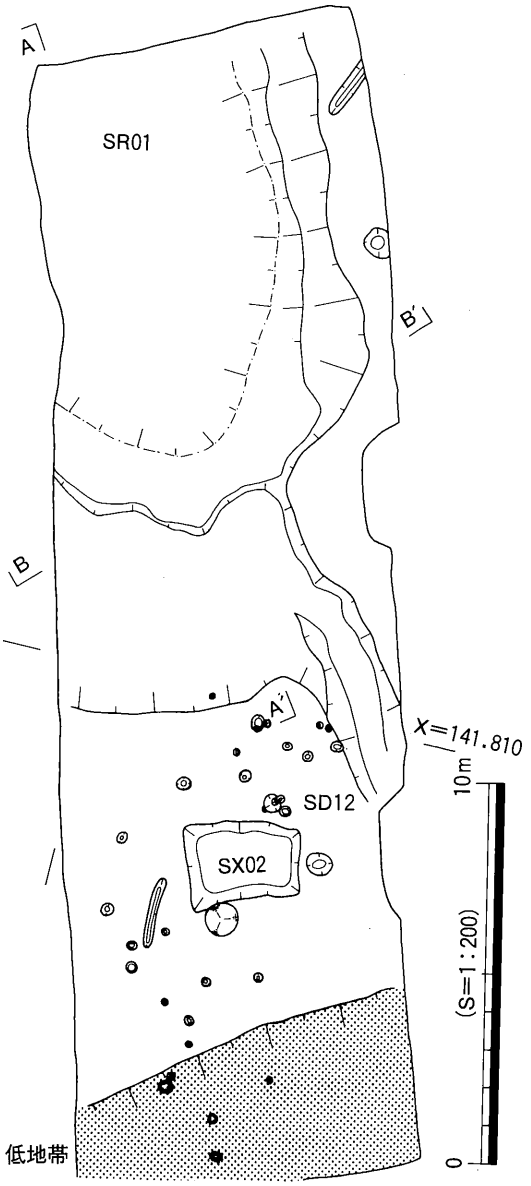


図41　V区第2遺構面　全体図

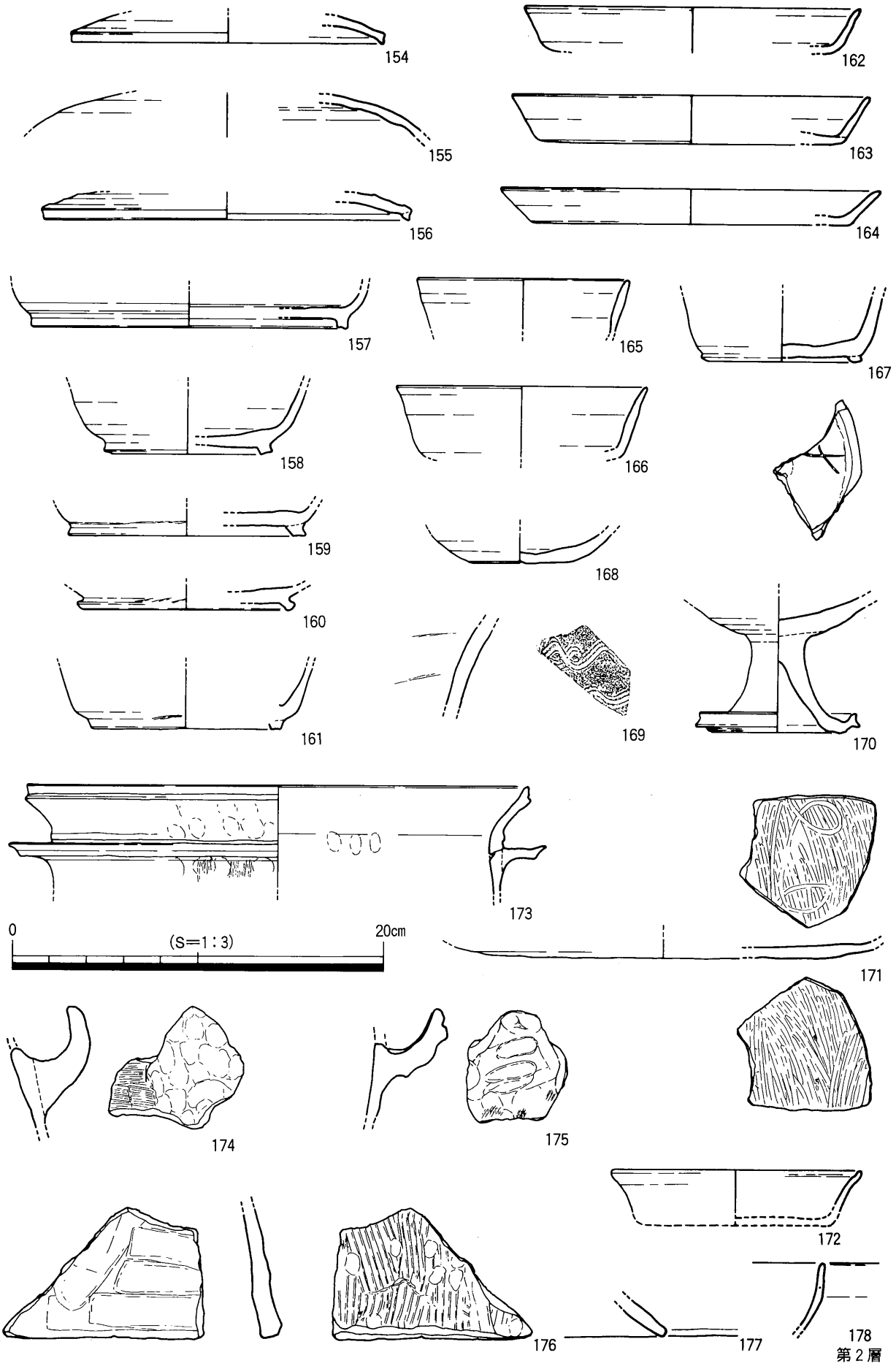


図42　V－Ⅰ区低地帯第5層出土遺物

1.灰色シルト(5Y 6/1)炭化物,焼土混じる
2.灰オリーブ色シルト(5Y 6/2)炭化物,焼土混じる
3.灰白色シルト(2.5Y 7/1)
4.淡黄色シルト(2.5Y 8/3)
5.黄灰色シルト(2.5Y 5/1)
6.黄灰色シルト(2.5Y 6/1)焼土混じり
7.灰白色シルト(2.5Y 7/1)

0 (S=1:20) 1 m

図43　V－I区第2遺構面　SX02平・断面

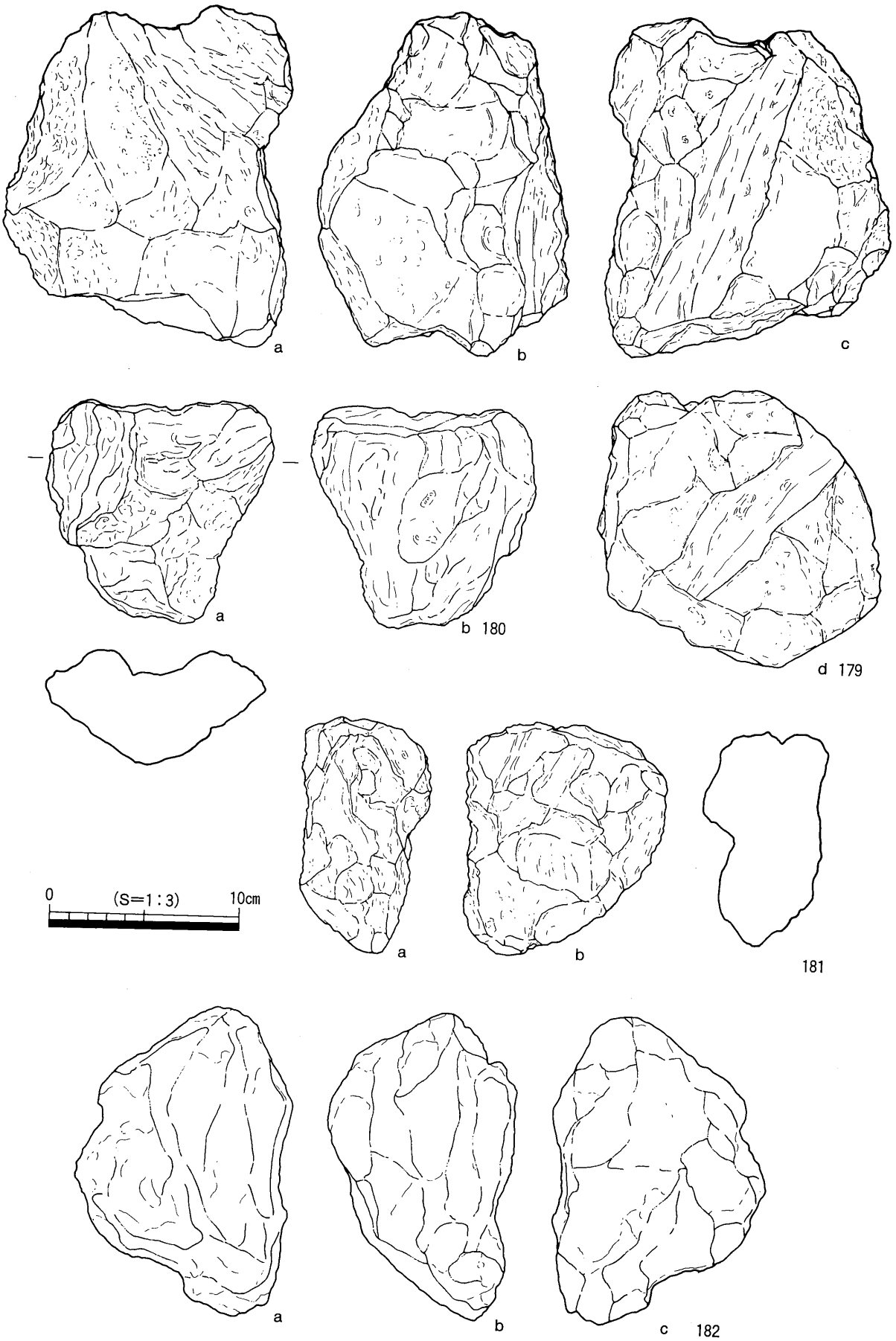


図44　V－Ⅰ区第２遺構面　SX02出土遺物Ⅰ

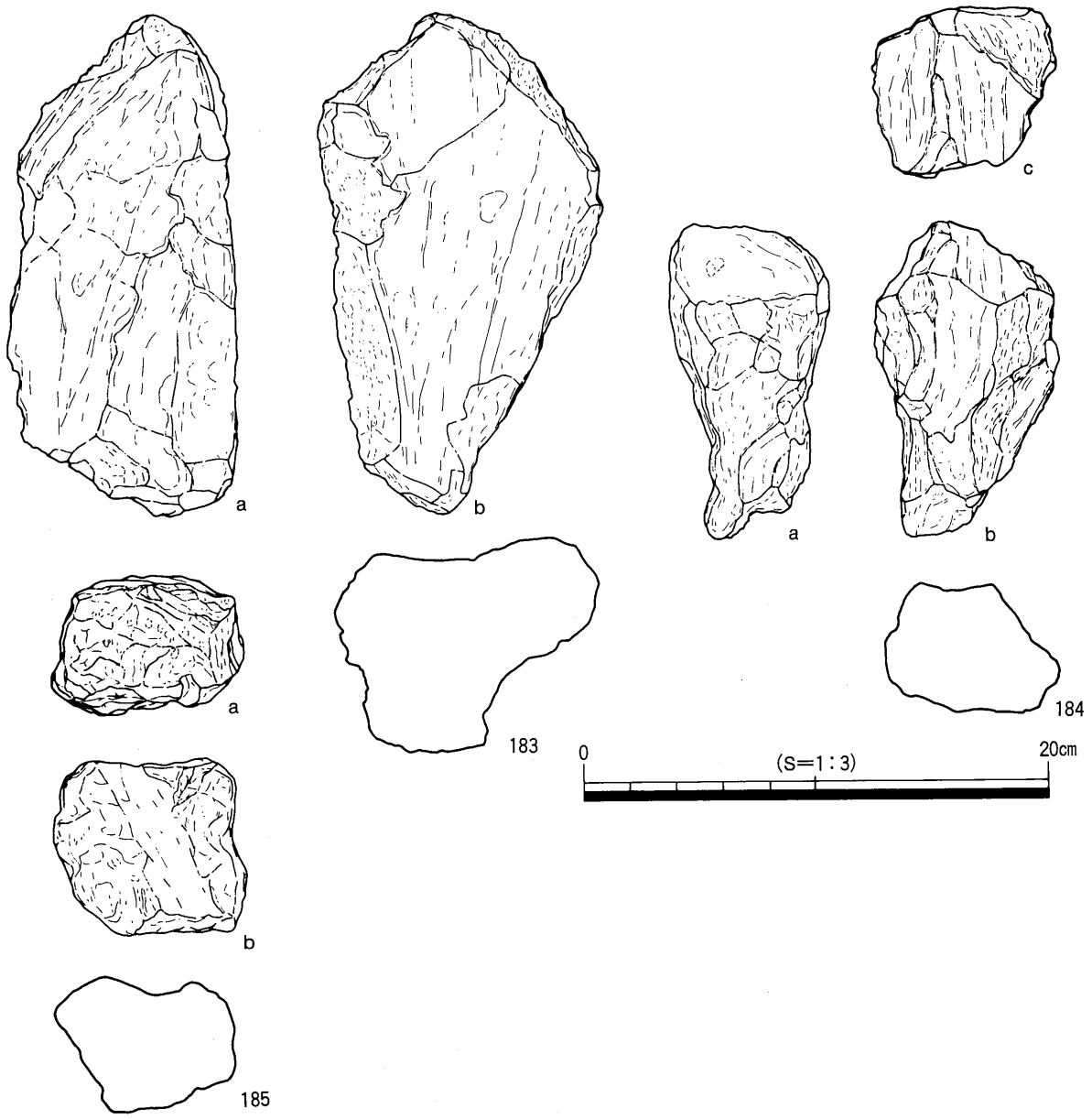


図45　V－I区第2遺構面　SX02出土遺物2

出土遺物は多量の粘土塊と若干の焦土塊が落ち込み中央部にやや集中して見られた。出土層位は一定せずに上位から下位にかけて粘土塊が多量に含まれている。この粘土塊も粉々になった状態で出土し，原位置を保っている状態ではない。また，落ち込み底面に被熱痕は無く，埋土中の炭化物，焦土は僅かしか認められない。検出当初，焼成施設の可能性を考えていたが，2次的に上記粘土塊が多量に廃棄されたと判断した。

本遺構からは28リットル入りのコンテナ15箱分の粘土塊が出土した。その殆どが当初の形状を保っておらず，一部に凹面をとどめるもの7点**179～185**を図化した。胎土は密で若干の植物質の繊維痕を残すものもある。図化した以外に凹面をもたない50cm以上の大形の粘土塊があるが，作り付け竈の破片の可能性もあろう。

出土遺物はこの粘土塊のみで土器等の年代決定に耐えうる遺物は出土していない。他に時期決定の判断材料となる検出遺構面であるが，本遺構を第2遺構面で検出しているものの，この部分は第1遺構面

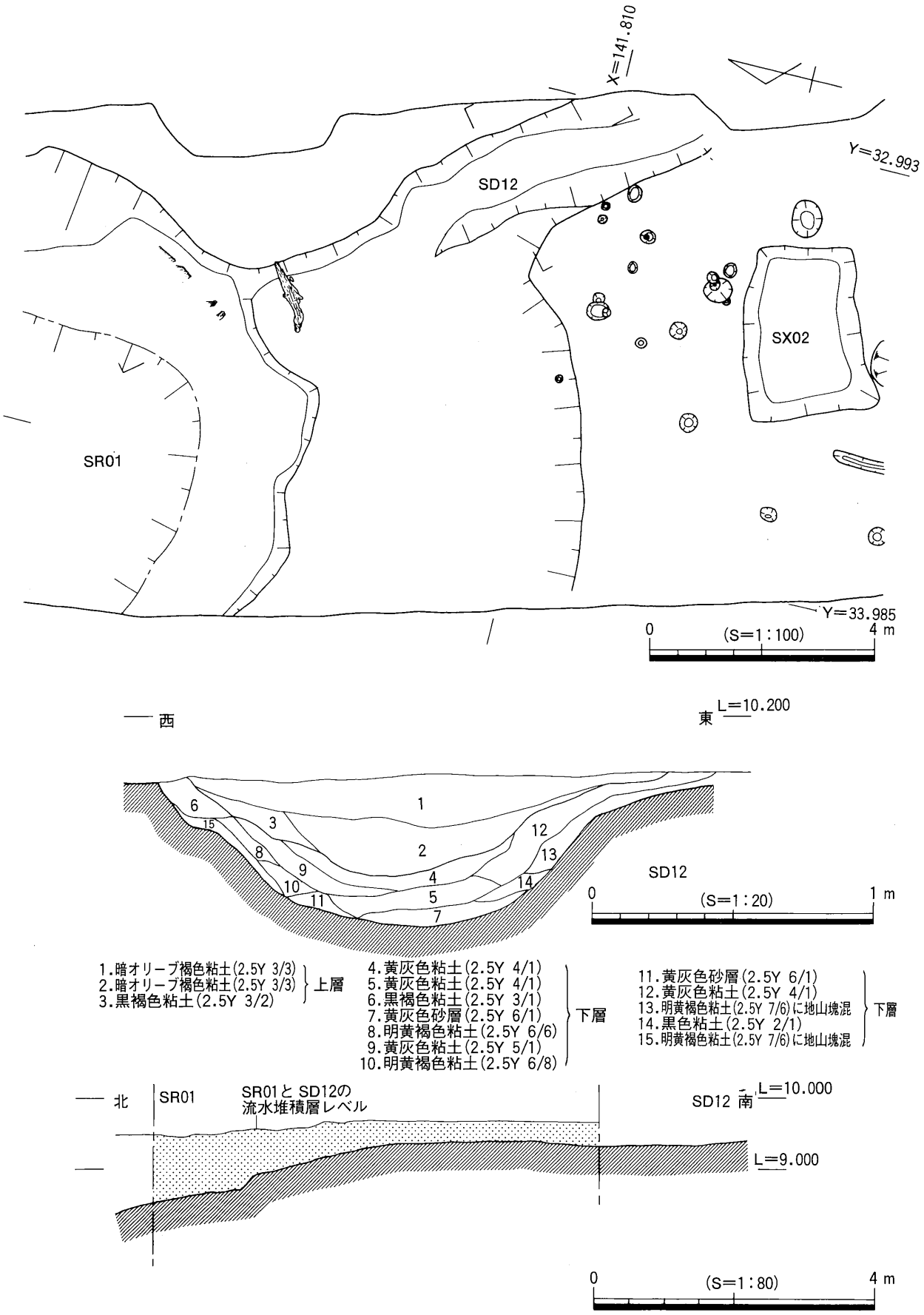
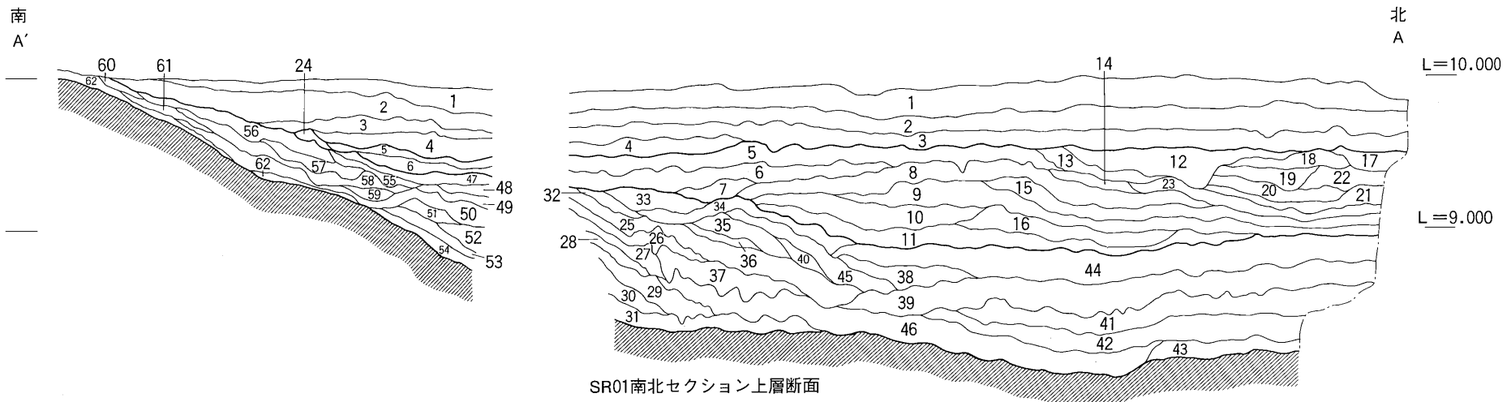


図46　V－I区第2遺構面　SR01・SD12接続部分平面・SD12断面



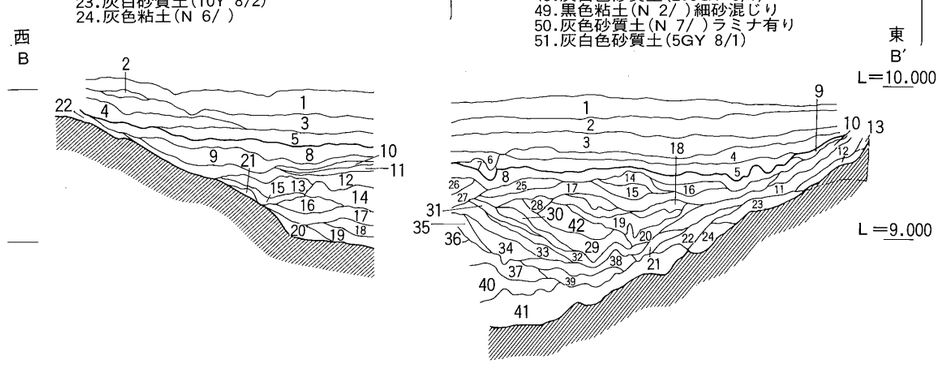
SR01南北セクション上層断面

1.黄灰色粘土(2.5Y 4/1)
2.黄灰色粘土(2.5Y 5/1)
3.黄灰色粘土(2.5Y 5/1)粗砂混じり,マンガン多く含む
4.灰色粘土(5Y 5/1)マンガン多く含む
} 上層

5.灰色粘土(N 5/)細砂混じり
6.灰色粘土(N 5/)
7.オリーブ灰色砂質土(5GY 6/1)ラミナ有り
8.灰色粘土(N 6/)粗砂混じり
9.灰白色砂質土(10Y 8/2)ラミナ有り
10.灰白色砂質土(5 GY 1/1)ラミナ有り
11.灰色砂質土(N 6/)ラミナ有り
12.灰色粘土(N 5/1)
13.灰色砂質土(N 6/1)
14.オリーブ灰色砂質土(2.5GY 6/1)
15.灰白色砂質土(5GY 8/1)
16.明オリーブ灰色砂質土(2.5GY 7/1)
17.灰色粘土(10Y 5/1)
18.灰白色砂質土(10Y 7/1)
19.灰白色砂質土(7.5Y 8/2)
20.浅黄色砂質土(7.5Y 7/3)鉄分沈着
21.灰色粘土(10Y 5/1)
22.灰白砂質土(10Y 8/2)
23.灰白砂質土(10Y 8/2)
24.灰色粘土(N 6/)
} 下層

25.オリーブ灰白粘土(2.5GY 6/1)
26.灰色砂質土(N 5/)ラミナ有り
27.灰色砂質土(N 7/)
28.オリーブ灰白砂質土(2.5GY 6/1)ラミナ有り
29.明緑灰色砂質土(7.5GY 7/1)ラミナ有り
30.灰色砂質土(N 6/)ラミナ有り
31.暗灰色粘土(N 3/)動物・植物遺体多く含む
32.灰白色砂質土(N 7/)
33.オリーブ灰色砂質土(2.5GY 6/1)ラミナ有り
34.灰色粘土(N 5/1)
35.明オリーブ灰色砂質土(2.5GY 7/1)ラミナ有り
36.灰色粘土(N 4/)動物・植物遺体多く含む
37.明青灰色砂質土(5BG 7/1)
38.暗灰色粘土(N 3/)動物・植物遺体多く含む
39.38と同じ
40.明オリーブ灰色砂質土(2.5GY 7/1)ラミナ有り
41.38と同じ
42.38と同じ
43.明緑灰色砂 (7.5GY 8/1)
44.38と同じ
45.灰色砂質土(N 7/)ラミナ有り
46.38と同じ
47.灰色粘土(N 5/)
48.灰白色砂質土(2.5GY 8/1)
49.黒色粘土(N 2/)細砂混じり
50.灰色砂質土(N 7/)ラミナ有り
51.灰白色砂質土(5GY 8/1)
} 下層

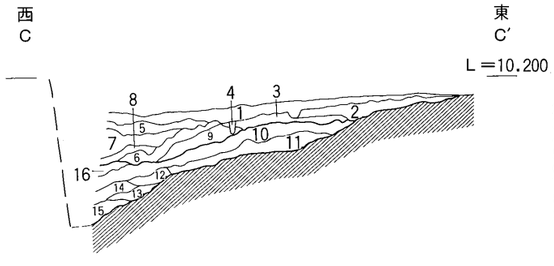
52.灰白色砂質土(N 7/)
53.灰白色砂質土(N 7/)ラミナ有り
54.暗灰色砂質土(N 3/)動物・植物遺体多く含む
55.灰色粘土(N 5/)
56.灰色粘土(N 7/)
57.灰色粘土(N 5/)
58.オリーブ灰色砂質土(2.5GY 6/1)
59.明オリーブ灰色砂質土(2.5GY 7/1)
60.灰色粘土(10Y 5/1)
61.灰色粘土(N 5/1)
62.54と同じ
} 下層



1.灰色粘土(5Y 5/1)
2.灰色粘土(5Y 5/1)
3.灰色粘土(5Y 6/1)
4.灰色粘土(10Y 6/1)
5.灰色粘土(5Y 5/1)
6.灰色粘土(5Y 5/1)マンガン多く含む
7.灰色粘土(N 6/)粗砂混じり
} 上層

8.灰色粘土(5Y 4/1)マンガン多く含む
9.灰色粘土(7.5Y 5/1)鉄分含む
10.灰色粘土(N 5/)
11.灰色砂質土(N 6/)
12.灰色粘土(N 4/)
13.灰白色砂質土(N 7/)ラミナ有り
14.灰白色砂質土(10Y 7/1)ラミナ有り
15.灰色粘土(N 5/)
16.灰白色砂質土(N 7/)ラミナ有り
17.灰白色砂質土(5GY 8/)ラミナ有り
18.オリーブ灰色砂質土(5GY 7/1)ラミナ有り
19.灰白粘土(N 5/)
20.明オリーブ灰色砂質土(5GY 7/1)
} 下層

21.20と同じ
22.灰色粘土(N 4/)
23.浅黄色砂質土(7.5GY 7/3)
24.灰白色砂質土(10Y 7/1)
25.明オリーブ灰色砂質土(5GY 7/1)
26.灰色粘土(N 5/)
27.オリーブ灰白粘土(2.5GY 6/1)
28.灰白砂質土(7.5Y 6/1)
29.灰白砂質土(10Y 6/1
30.灰白砂質土(10Y 6/1)ラミナ有り
31.灰白砂質土(10Y 6/1)
32.暗灰色粘土(N 3/)動・植物遺体多く含む
33.灰色砂質土(N 5/)ラミナ有り
34.灰色砂質土(N 7/)ラミナ有り
35.灰色砂質土(N 7/)
36.オリーブ灰白砂質土(2.5GY 6/1)ラミナ有り
37.明緑灰色砂質土(7.5GY 7/1)ラミナ有り
38.暗灰色粘土(N 3/)動・植物遺体多く含む
39.明オリーブ灰色砂質土(2.5GY 7/1)動・植物遺体多く含む
40.灰色砂質土(N 6/)ラミナ有り
41.暗灰白粘土(N 3/)動・植物遺体多く含む
} 下層



1.黒褐色粘土(2.5Y 3/1)
2.黄色粘土(2.5Y 1/6)
3.灰色シルト(5Y 6/1)
4.灰色粘土(5Y 5/1)
5.暗灰色粘土(N 3/)
6.灰白色砂質土(2.5GY 8/1)
7.灰色粘土(N 4/)
8.7と同じ
9.灰色砂質土(5Y 6/1)
} 上層

10.灰白色砂質土(7.5Y 7/1)
11.灰白色砂質土(5Y 8/1)
12.灰白色砂質土(5GY 8/1)
13.灰白色砂質土(2.5GY 8/1)
14.灰色砂質土(N 6/)
15.14と同じ
16.灰色砂質土(N 6/)
} 下層

0 (S=1:80) 4m

図47　V－Ⅰ・2区第2遺構面SR01断面

を宅地造成に伴って攪乱を受けており，上位の第１遺構面からの掘り込みも排除しきれない。本遺跡内では同様に多量の粘土塊を出土する遺構が１次調査で確認されている（Ⅰ区第１面SK34）。埋没土の特徴も同じで粘土塊の一部に凹面をとどめるなど共通点は多い。以上の点から，ここでは14ｃ～15ｃ前半代に下る可能性を提示しておきたい。

SD12

Ｘ＝141.810・Ｙ＝32.993付近で後述するSR01に取り付く形の溝SD12を検出した。上面幅2.1m深さ0.5m程を測り断面形は逆台形を呈し，南東方向へ延びる。詳細に図示できていないが肩部上面にはテラス面をもち，一部拡張乃至改修された痕跡をもつ箇所も存在する。

埋没土は上層とした１層から３層までの黒褐色系の粘質土とそれより下層の４～14までの黄灰色系粘質土・砂質土との２つに大別される。下層にはラミナ状堆積を示す砂質土や地山層の流入土が認められ，上層のほぼ単一な粘土層の堆積との層界は明瞭である。また，上層はSR01上層の埋没土と同質のもので，断面観察でも両者の切り合い関係は認められなかったことから，同時に埋没している状況が伺える。

これらの堆積状況から，一定期間の流水状態にあったことと，SR01と時期的に併存していたこと，最低１・２回程度の掘り返し等の改修が行われていたことなどが想定される。

また，位置関係・埋没土・検出遺構面などから判断して，Ⅳ-１区第２ｂ面で検出したSD09・10のいずれかに接続するものと思われる。これらを総合した本溝の機能はSR01の記述部分で触れる。

186～188はSD12出土遺物である。いずれも小片で本溝下層からの出土である。**186**は須恵器杯蓋である。**187**は須恵器杯身である。**188**は混入品と思われる弥生土器壺口縁である。口縁部外面に僅かながら凹線が２条観察できる。弥生後期前葉の所産である。

186・187は７ｃ中葉～８世紀前葉の中で捉えられることから，本溝の機能時期・最終埋没時期を示すものとして捉える。

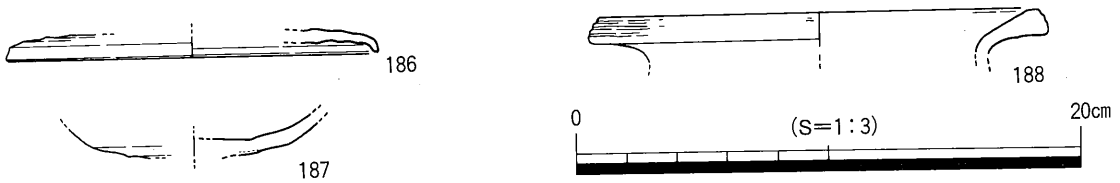


図48　Ⅴ-Ⅰ区第２遺構面 SD12出土遺物

SR01

Ⅴ-１区からⅤ-２区，Ｘ＝141.810～141.840にかけて自然河川SR01の一部を検出した。規模は検出した部分だけで，南北上面最大長30m・上面東西幅８ｍ（西側肩未確認）・深さは最深部で1.6m程を測る。周辺地形から見て，南西方向の飯野山裾方向から現在の大束川へ向かって，蛇行しながら北へ流下する自然河川と考えられる。調査区内で検出した部分はその蛇行した部分東側の肩部と思われる。

堆積土は大別して上層・下層の２つに区分される。下層は動・植物遺体を多量に包含する粘土層とラミナ状堆積が認められる微砂・粗砂との交互層である。下層からは弥生時代後期の土器・サヌカイト・自然木を伴出し，上記粘土層中にはガムシ・クロゲンゴロウ・コガネ虫・巻き貝などの動物遺体や多量のドングリなどの植物遺体が含まれる。上層には古墳時代終末～古代の遺物を包含する灰褐色系粘土層が５層ほどに分かれ水平堆積する。

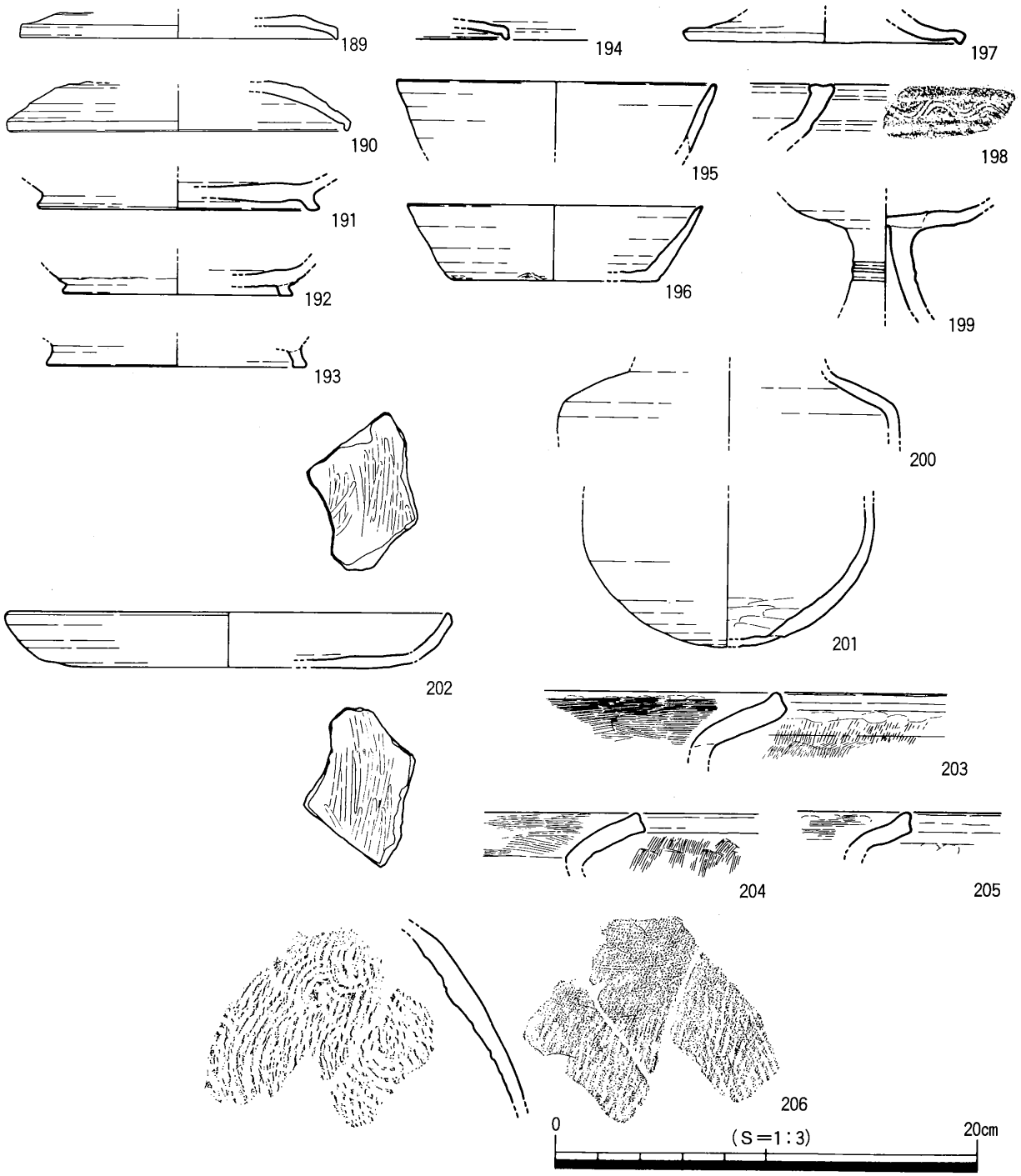


図49　V区第2遺構面　SR01上層出土遺物Ⅰ

また，下層と上層の層境は明瞭であり，下層の砂質土のラミナの方向を観察すると，概ね北方向へ流下している状況である。

各層位の伴出遺物よりこのSR01は弥生後期に形成・機能しはじめ，古墳時代終末～古代に埋没したことが言えよう。

前述したSD12がX＝141.815・Y＝32.990付近でこのSR01に取り付くが，両者に切り合い関係はなく，SR01の上層と同時にSD12も埋没している。そして，SR01下層の流水堆積層のレベルとSD12の底面のレベルとSD12下層流水堆積層のレベルを比較すると，ほぼSR01下層の流水堆積層のレベルとSD12下層の

図50　V区第2遺構面　SR01上層出土遺物2

流水堆積層のレベルが合致しSD12の底面のレベルを上回ることなどから，SR01からSD12への水の流れが想定できる(図46参照)。しかし，SR01には井堰などの灌漑施設は検出していない。そこで，取水口の位置に着目したい。上記の様にこのSR01は直線的に流下しているのではなく蛇行しており，この中で取水口は最も東側に入り組んだ部分に設定されている。この入り組んだ部分ではSR01の直線的に流れる部分より水流が緩やかになることが予想され，取水が容易になると同時に水量も確保できる位置であると推測できる。そして，このような諸条件を考慮した上でSD12を開削していると考えられる。

以上の点から，井堰などの施設を有しなくても，取水口の設定位置などの条件を考慮すれば，SD12は小規模な灌漑水路と位置づけられるのではなかろうか。

189～207はSR01上層出土遺物である。**189・190・194**は須恵器蓋である。**191～193**は高台付きの須恵器杯である。中でも**191**は扁平で矮小な高台をもつことから，９ｃ代に下る可能性をもつ。**195・196**は須恵器杯である。**197・199**は無蓋高杯で**199**の脚部中位には２条沈線を認める。**198**は須恵器甕の口縁部で外面に波状文を１帯施す。**200・201**は須恵器壺である。

202は精緻な胎土をもち，内外面を丁寧なミガキを施す土師器杯である。**203～205**は土師器甕口縁部である。いずれも外面をタテハケ，口縁部内面にヨコハケ調整をとどめる。

206は須恵器甕肩部片である。内面に当て具痕をよく残している。**207**は須恵器大甕である。各部位の破片が個別に出土したが，胎土・調整痕から判断して，図上で復元した。肩部の張った胴部にやや内傾する口縁部をもつ。

以上が上層出土遺物であるが，これらの土器群は概ね７ｃ後半から９ｃの範疇で捉えることができ，このSR01の最終埋没時期をここでは９ｃとしておく。

208～225は下層出土遺物である。この下層からは弥生後期前葉～中葉にかけての遺物を含んでいる。

208～210は甕の口縁部片である。いずれもくの字状口縁を呈するが，口縁部が直線的に外反し端部を面取りする**208・209**と外反度が緩やかで面取りしない**210**とがある。**210**は胴部外面に右上がりのタタキ痕をとどめる。**212～214**は甕底部である。中でも比較的明瞭な平底を呈する**214**は弥生後期でも前葉に位

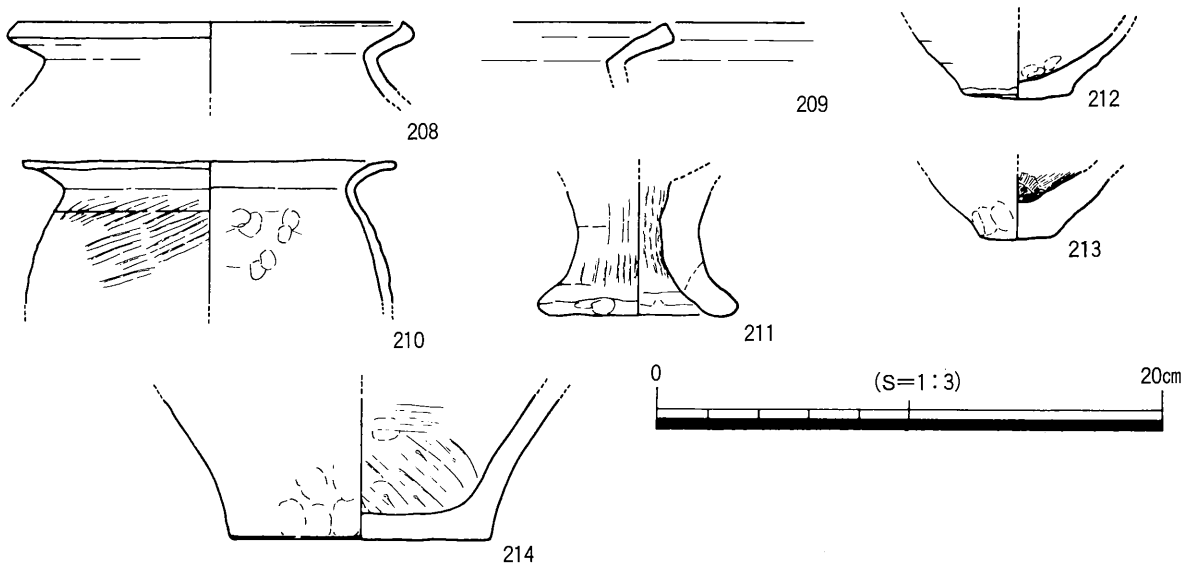


図51　Ｖ区第２遺構面　SR01下層出土遺物Ⅰ

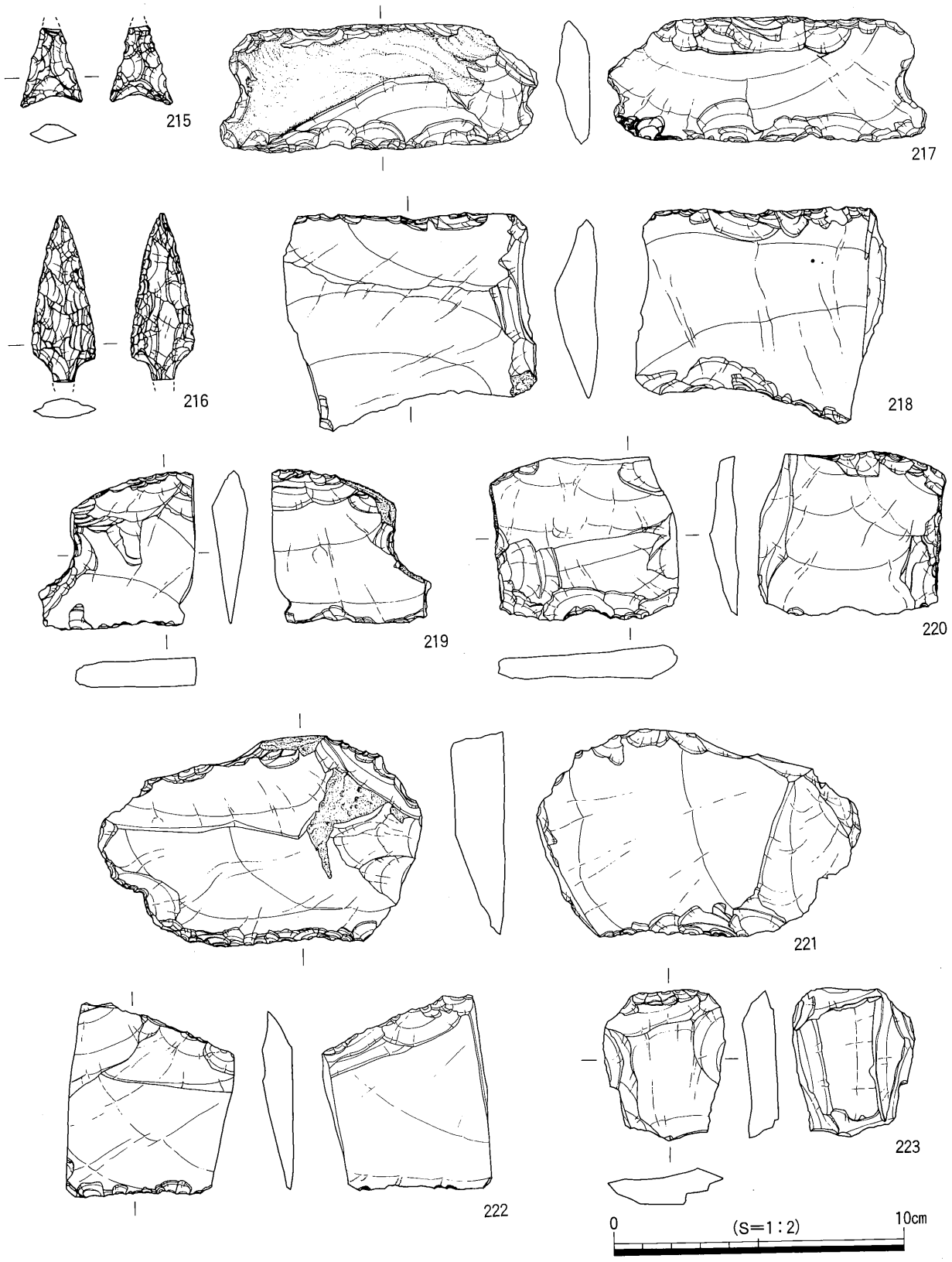


図52　V区第2遺構面 SR01下層出土遺物2

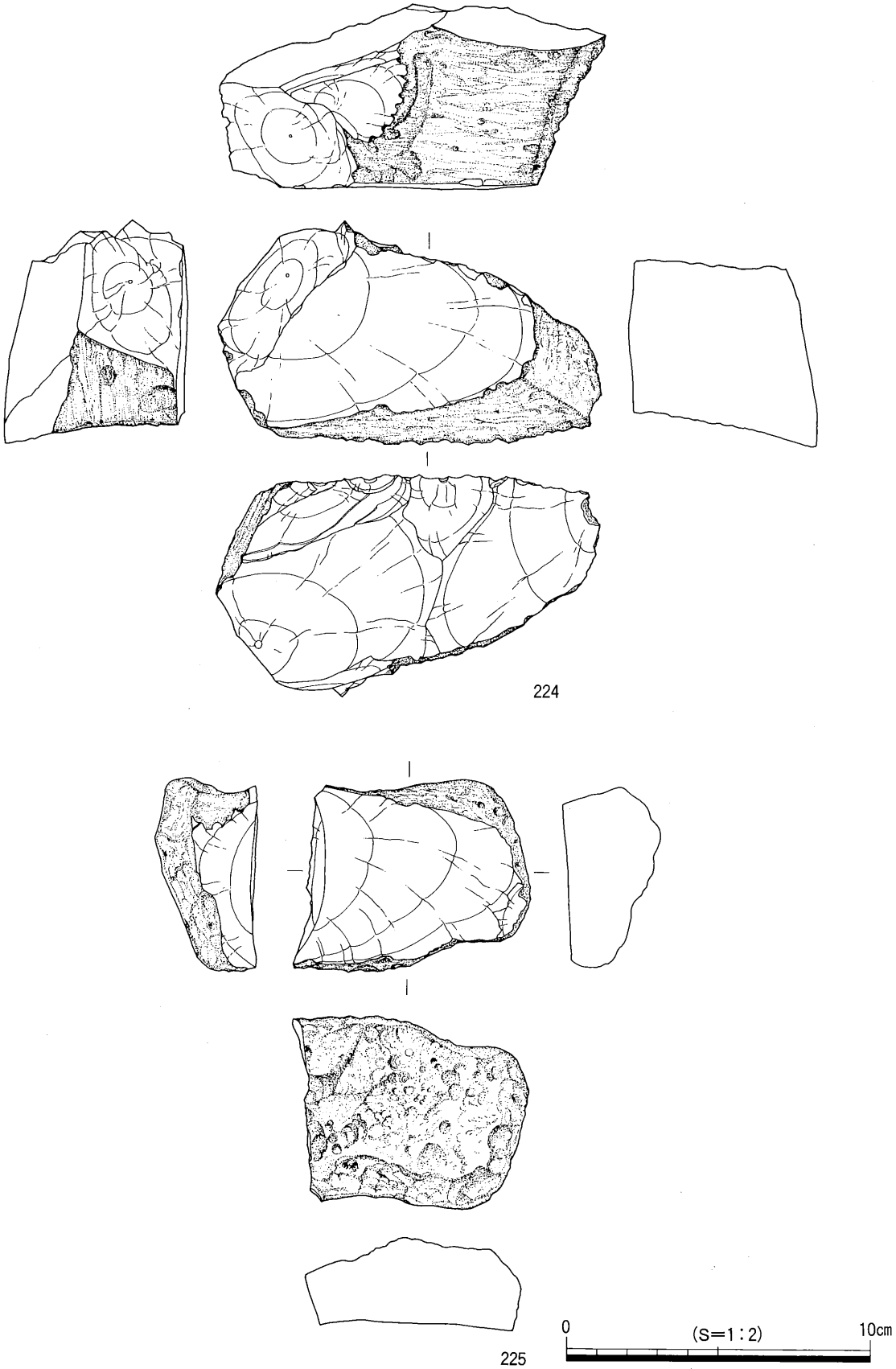


図53　V区第2遺構面 SR01下層出土遺物3

置づけられる。それに比べ**212**・**213**の底部はかなり矮小な平底と言え弥生後期でも後葉に下るものと言える。

211は支脚である。内面に明瞭なしぼり痕を残す。上半部は粘土帯接合部分で欠損している。

215はサヌカイト製の凹基式石鏃である。先端部を欠損している。**216**はサヌカイト製の凸基式有茎石鏃である。全長6cmと比較的大形の部類に属する。**217**はサヌカイト製の打製石包丁である。両側辺に抉りをもち，背面に潰れ痕が見られる。刃部に若干の弱い摩滅痕をとどめる。**218**はサヌカイト製のスクレイパーである。刃部に部分的ではあるが，弱い摩滅痕を認める。

219はサヌカイト製の抉入打製石包丁である。2／3程度を欠損する。**220**はサヌカイト製のスクレイパーである。刃部に弱い摩滅痕が観察される。**221**はサヌカイト製のスクレイパーとした。比較的厚みをもち，直線的な刃部をもつものである。**222**はサヌカイト製のスクレイパーである。主要剝離面側の刃部に帯状の摩滅痕を認める。**223**はサヌカイト製の楔形石器である。**224**はサヌカイト素材剝片とした。自然面などの観察から**225**の剝片と同一母岩と思われる。両者とも１つの自然礫を輪切りするように分割する際に生じるもので，**224**は更に分割面をたたいて剝片を剝ぎ取っている。

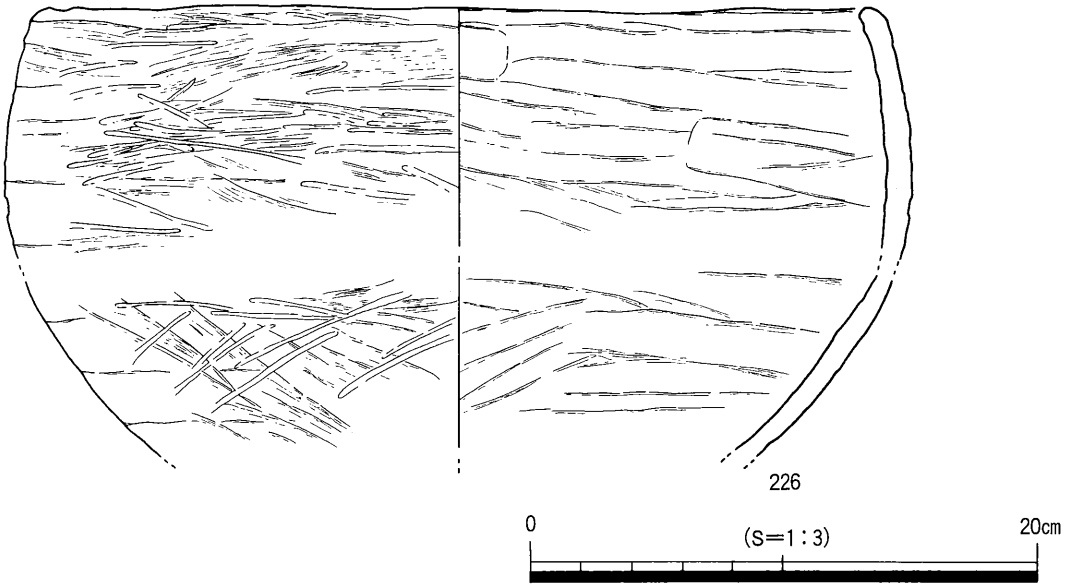


図54　Ⅴ区第４層出土遺物

第４層出土遺物

226はSR01を掘り下げる途中に基本層序第４層より出土した縄文土器である。５～10mm程度の砂粒を多く含み，口径32cmとやや大形の粗製ボール状浅鉢である。口縁部形態は内側を若干肥厚し，胴部最大径に比べて内傾するものである。外面調整は植物繊維を束ねた原体による細密条痕を施した後，横方向の散発的なヨコミガキを行っている。内面には幅広の横方向のナデ調整が看守される。

無文の粗製品であることから時期決定は難しい。そこで，県内の出土例を見てみると善通寺市所在の永井遺跡(Ｅ・Ｆ－15・16区第Ｘ層土器群)や観音寺市所在のなつめの木貝塚(Ⅳ層)において類似する浅鉢を認めることができ，所謂後期前葉の縁帯文土器と共伴している。そして，これらの土器群は渡部明夫氏によって後期前葉の「なつめの木式」として位置づけられている。西日本の広域編年でいえば津雲Ａ式から彦崎ＫⅠ式に併行するものと考えられる。

以上のことから，この粗製浅鉢を縄文後期前葉に位置づけることができる。

SH01

V－2区X＝141.864・Y＝32.946付近の第4層上面において竪穴住居SH01を検出した。西側半分は現道部分に延びる為，調査区内で南北3.9m(5.1m竈部分含む)・東西2.4m(東壁未確認)・残存深0.2mを測る。竈を中心として展開した場合，東西4.6m・南北3.9m程の正方形の平面形をもつ竪穴住居になろう。また，竈部分を除いて幅0.3m・深さ0.1m程の壁溝が全周するものと思われる。埋土は大別して黒褐色シルトと灰色シルトの2層が見られ，その中にブロック土が確認でき人為的に埋め戻されたものと思われる。また，張床は確認していない。

主柱穴は2基(柱穴間18.2m)検出しているが，南側のPit 2が住居西側ラインに比べてやや西側の壁溝に寄った配置を採る。2基ともに径0.12m程の柱痕が観察されるが，柱穴の底面のレベルは揃わない。

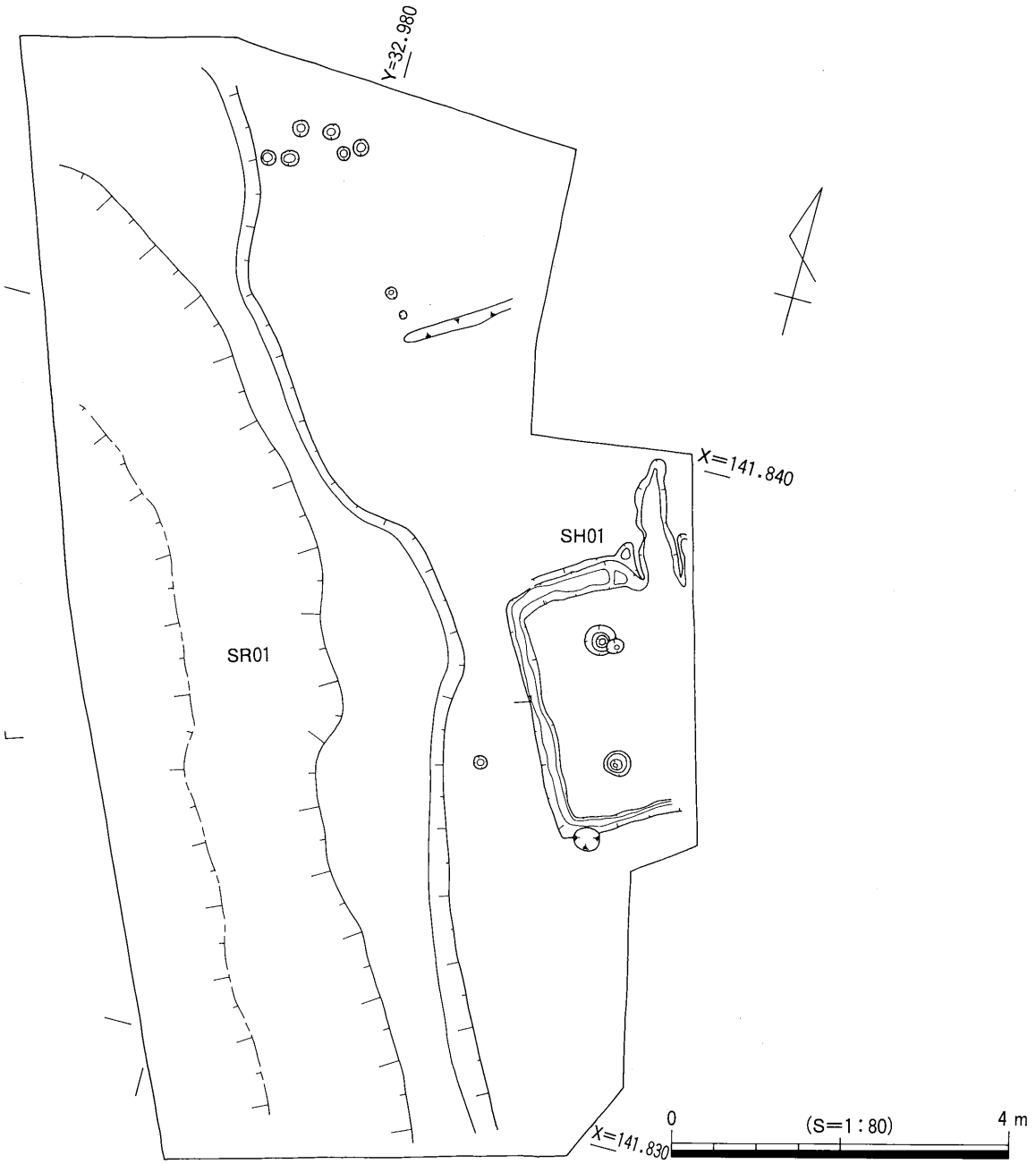


図55　V－2区第Ⅰ遺構面　平面

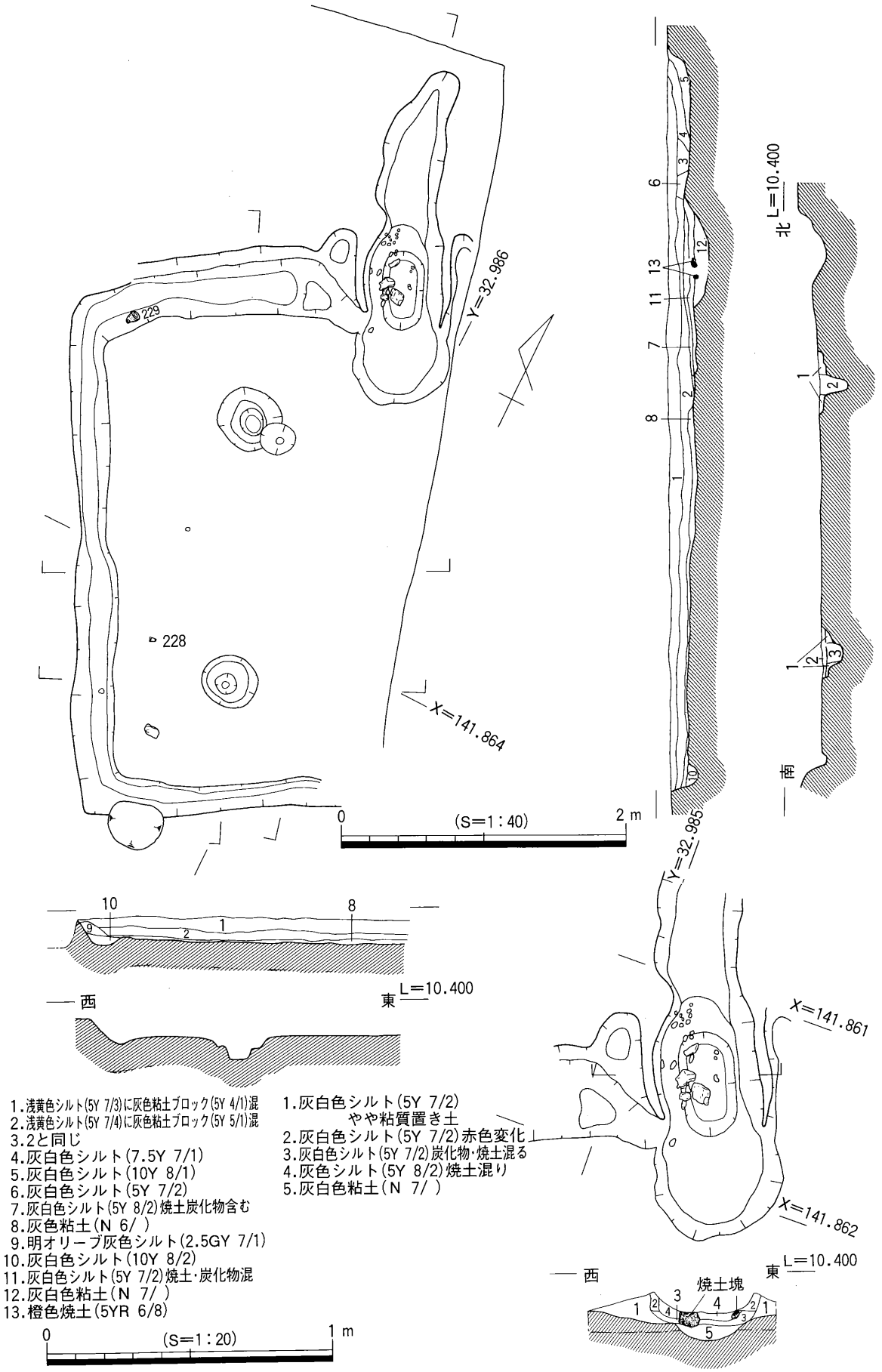


図56　V－2区第Ⅰ遺構面　SH01平・断面

床面は固くしまっているが，一見して生活面と認識できるような汚れた生活堆積層は観察されない。竈は住居北側を0.1m程浅く掘り窪めたあと，灰色シルトを充填したあと盛土で袖部を作り出す。燃焼部と煙道部との間には0.13m程の段差があり，煙道はやや右側に振れながら北へ1.2m延びる。竈の規模は内法で奥行き1.82m・幅0.45m，袖部は幅0.52m程を測る。断面観察で袖部内側には厚さ0.1m程の被熱層が燃焼部から煙道部にかけて観察されるが，燃焼部床面の比熱は顕著には観察されない。床面直上に堆積する埋没土中は炭化物に混じって，天井部と思われる被熱痕の著しい粘土塊が多量に出土している。他に燃焼部内において支脚や甕など煮沸具のような竈機能時の遺物は確認できなかった。燃焼部前面の竈構築時の浅い窪みの部分には，掻きだしと思われる若干の炭化物層の広がりを確認している。

227～**230**は出土遺物である。**227**・**230**は覆土中，**228**・**229**は平面図に図示する様に**228**は床面直上，**229**は住居壁溝北西コーナー部分の底面に張り付いた状態で出土している。他図示はしていないが，住居床面南西隅，床面直上において長さ10cm×６cm・厚さ４cm程の砂岩礫を検出している。使用痕は認められない。時期決定を行う床面直上出土資料が飯蛸壺なので正確な位置づけはできないが，ここでは本住居の帰属時期を７ｃ末と捉えておきたい。

227は須恵器壺肩部片である。**228**・**229**は飯蛸壺である。**228**は下半部を欠損している。吊り手部に紐穴と思われる円孔を穿っている。**229**は完形の飯蛸壺である。口縁部はやや内傾気味で丸くおさめ，体部にヘラ記号を施している。

230はスクレイパーとした。両側を折損し，背面に潰れ痕，刃部に使用時の微細な剝離痕を認める。また，刃部に弱い摩滅痕を観察することができる。

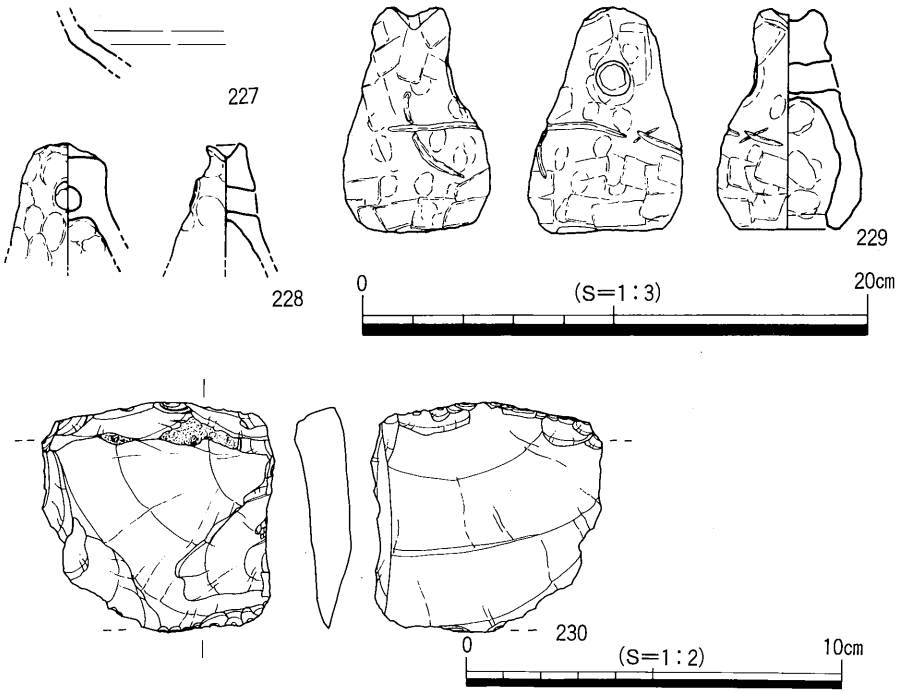


図57　Ｖ－２区第Ｉ遺構面 SH01出土遺物

3．Ⅵ区の調査

調査区を都合上２つに分割しそれぞれⅥ-１・２区の名称を与えている。検出された遺構面はⅥ-１区が１面，Ⅵ-２区は２面検出している。これはⅥ-１部分が微高地上に位置するためで，同一面上に古代と若干の近世の遺構が検出している。

Ⅵ-１区の古代に属する遺構として，廃棄土坑と思われるSK21や柱穴群が挙げられるが，掘立柱建物等を復元するに至っていない。大半遺構が埋没土・出土遺物より古代期の所産と思われ，他近世の遺構として若干の柱穴を検出している。これらの遺構は基本層序で第４層とした黄灰色系シルト層の上面で検出しているが，第１面調査終了後にこのシルト層を掘り下げたところ，同層準よりサヌカイト剝片の集積遺構SX01を検出した。これらのサヌカイト剝片は技法的な点や風化度，１次調査における同層準よりの縄文後期～晩期土器片やサヌカイトの出土を考慮すると，縄文時代後・晩期の可能性が考えられる。

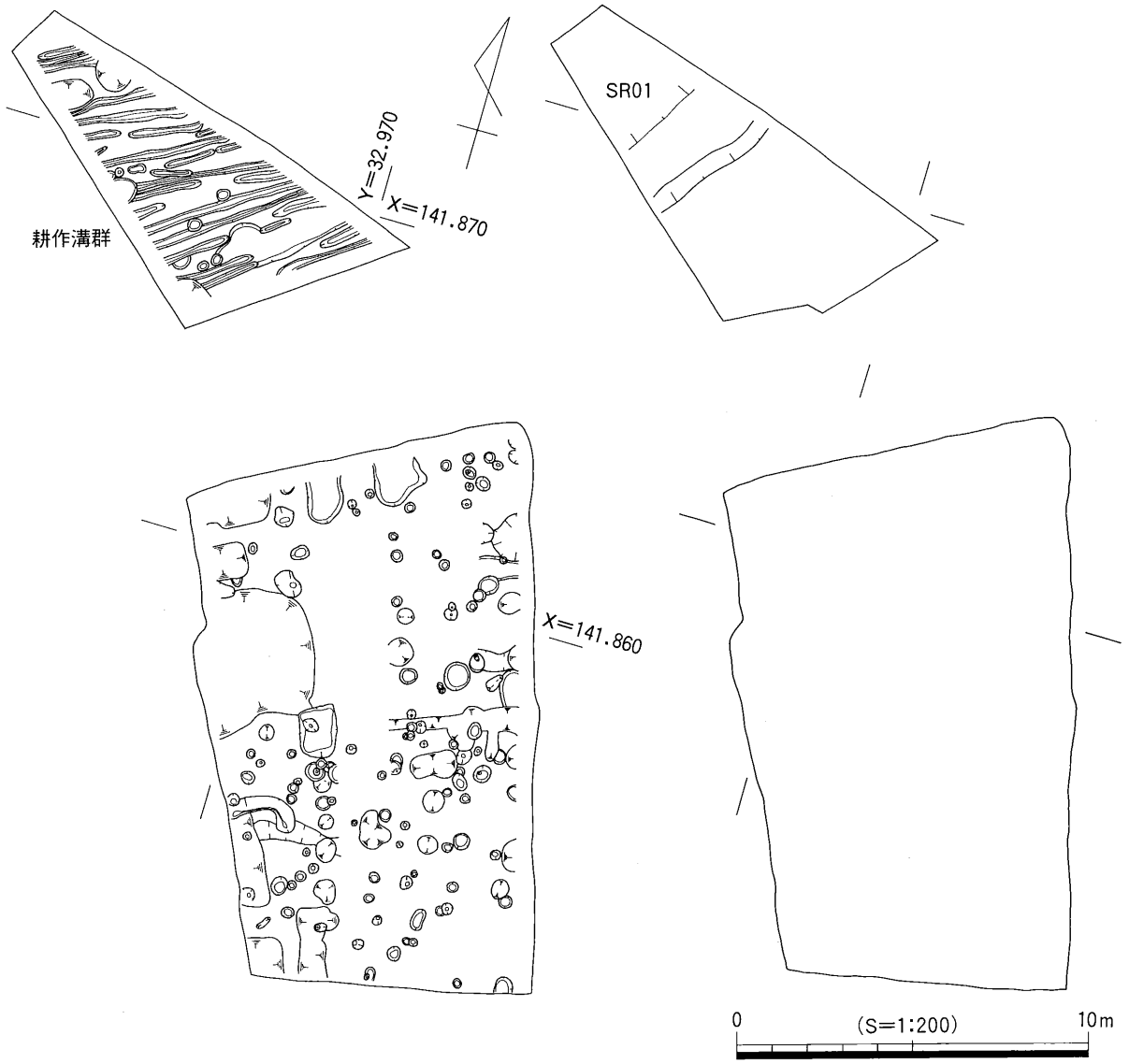
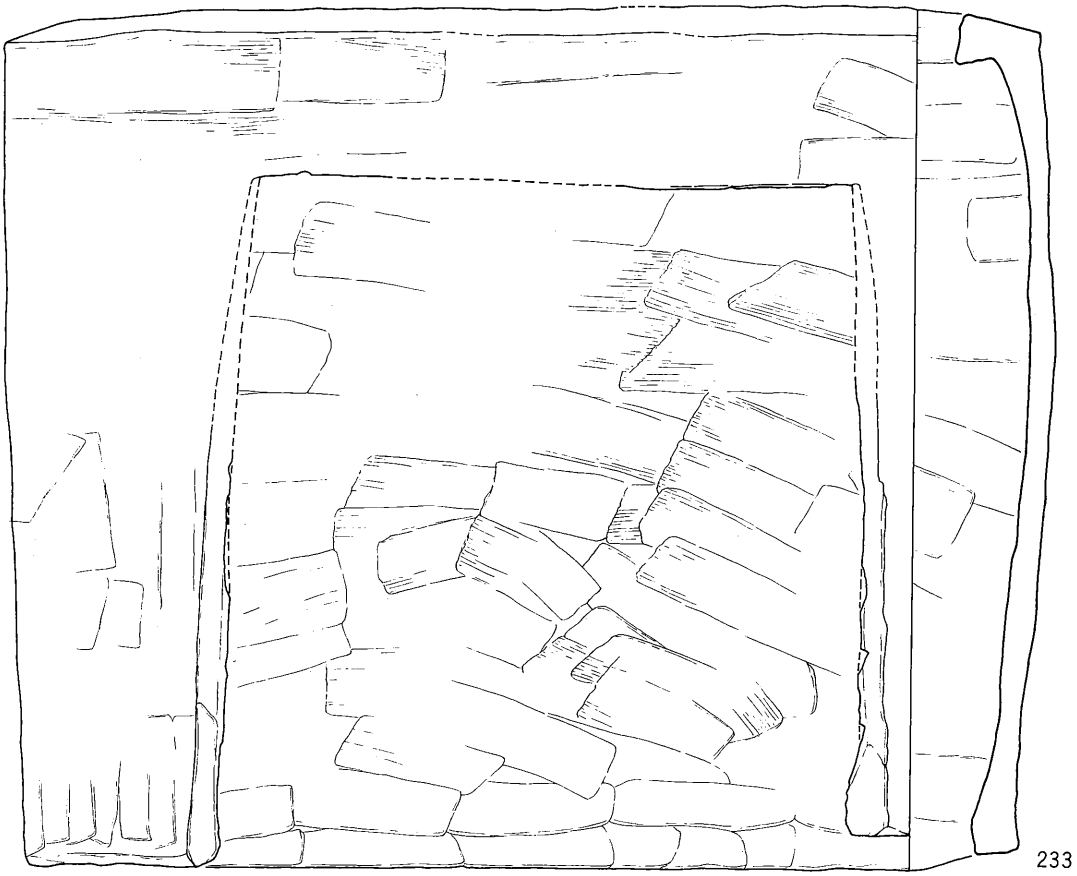


図58　Ⅵ区第Ⅰ・２遺構面　全体図



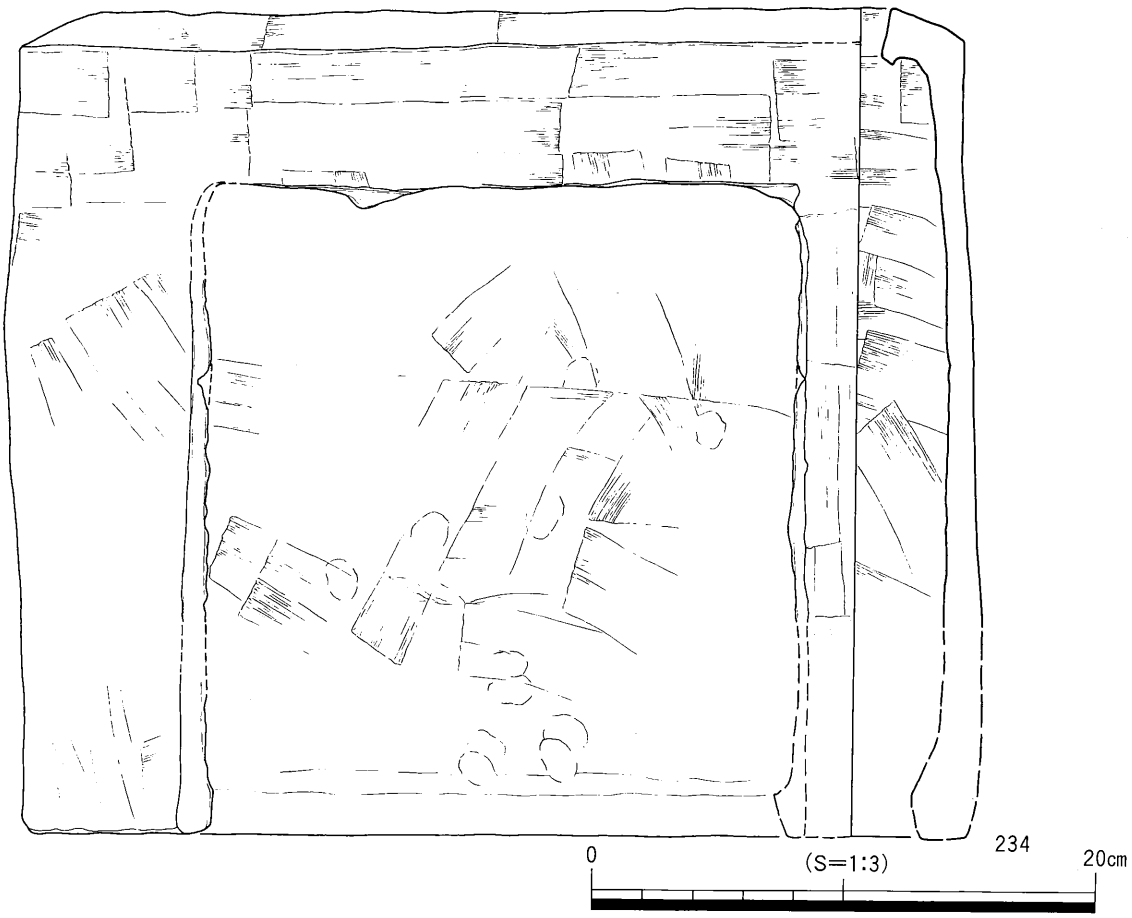


図59　Ⅵ-Ⅰ区攪乱土出土遺物

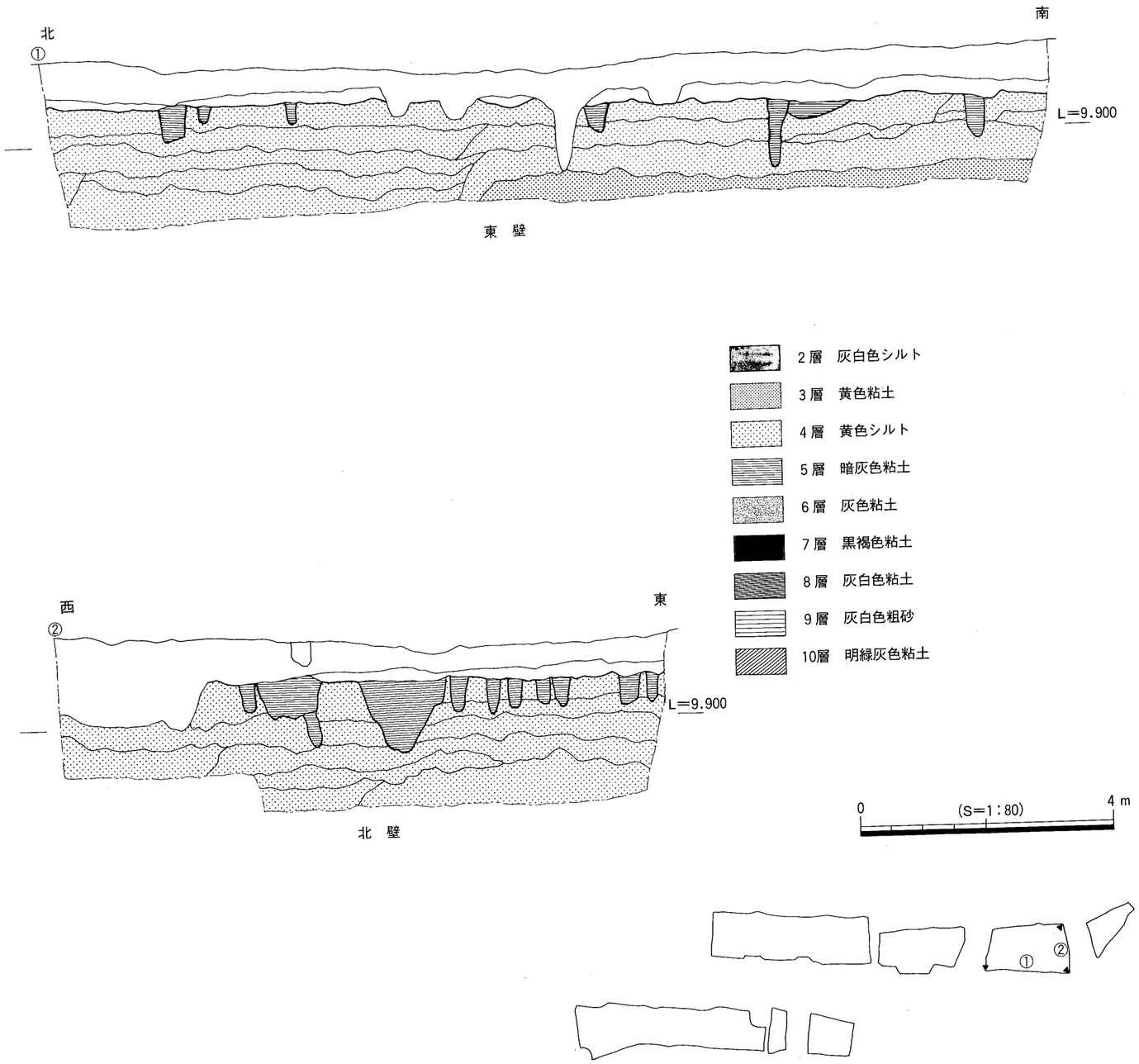


図60　Ⅵ－Ⅰ区東壁・北壁　土層断面

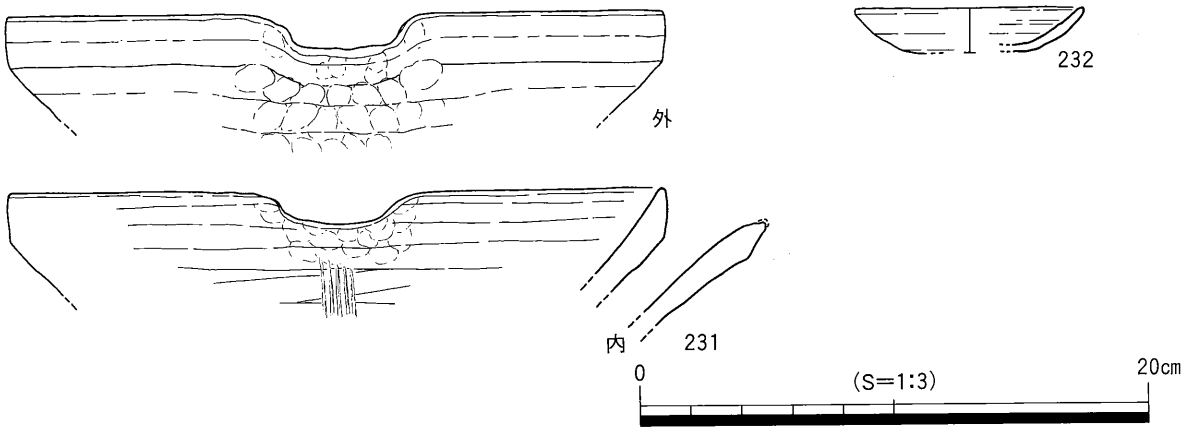


図61　VI－1区第2層出土遺物

VI-2区は同調査区の埋没旧河道SR01へ向かって遺構面が傾斜しており，2枚の遺構面を検出している。第1遺構面では14c代の耕作溝群，第2遺構面では平面では確認することができなかったが古代以前の旧河道とその上層に水田層を確認している。

VI－1区第1遺構面

VI-1・2区ともに調査前は宅地であった為に，遺構面の攪拌が激しい。VI-1区では，基本層序で第0層とした攪乱土を除去し，第4層黄灰色シルト上面において遺構を検出している。部分的に遺構面直上に包含層である第2層が見られ**231**須恵器擂鉢・**232**土師質土器小皿が出土し，攪乱土より**233**・**234**土師質の竈が出土した。

VI-1区では上記第4層上面で多数の柱穴・土坑を検出し第1遺構面とした。各遺構の埋没土は大別して黒褐色粘土とオリーブ灰色粘土の2つが認められ，出土遺物から前者が古代(9c末～10c)で後者が近世17c代に比定される。

上記の通り，遺構の大半が古代期の所産であり，柱穴・土坑などの遺構密度から判断して集落域内であることは分かるが，明確な建物は復元することはできなかった。以下，遺物を伴出した遺構を中心に説明していくこととする。

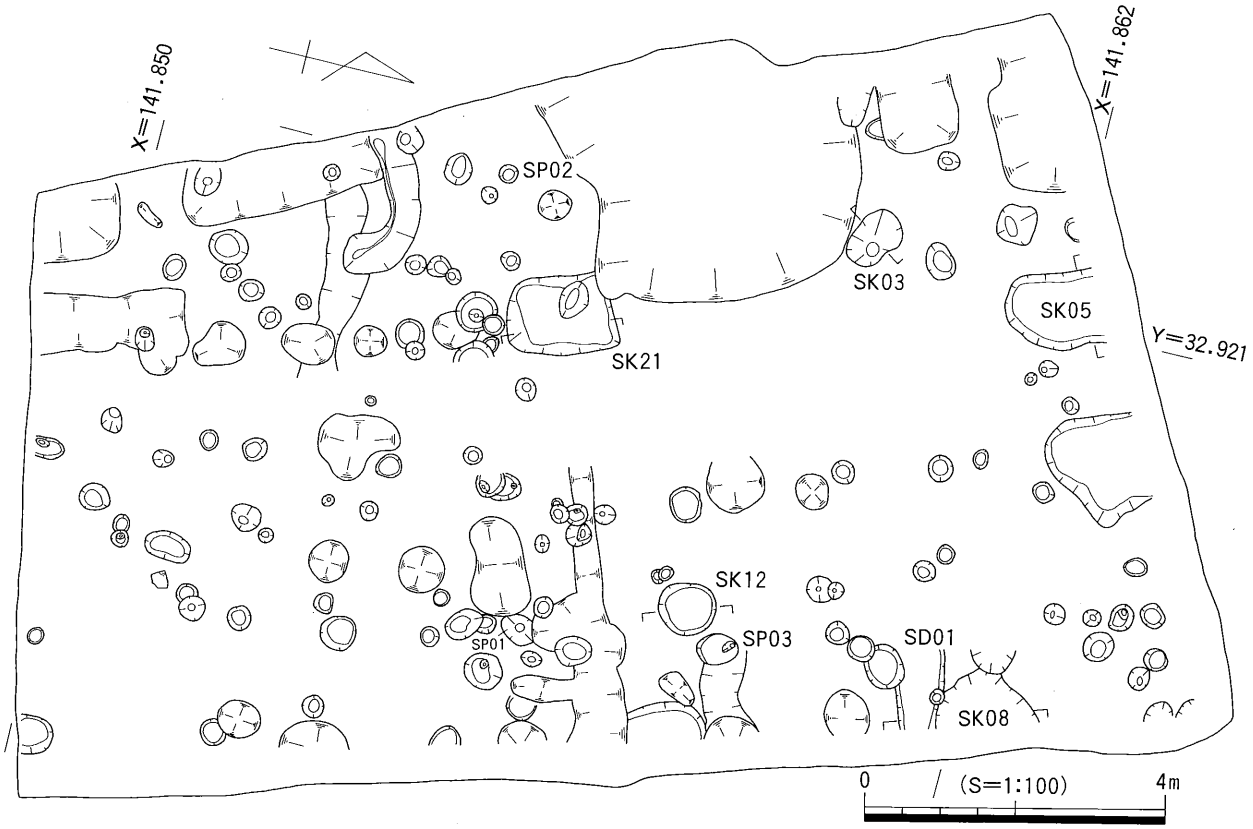
SK21

本遺構は調査区中央部，X＝141.856・Y＝32.972付近で検出した土坑である。主軸方向は南北方向で，長辺1.4m・短辺1m・深さ0.4mの規模を測り，平面形やや不定形な長方形を呈する。

埋没土は黒褐色の粘質土の単層であるが，上層は攪拌されていたので元々の深さは分からない。出土遺物として須恵器杯・同皿・土師器杯・甕などが見られる。

これら出土遺物は，すべて下位の底面付近のレベルより出土した一括廃棄されたものであるが，遺物によって出土状態・出土位置が異なる。出土遺物の内，ほぼ完形に近い状態で検出されたのは**249**・**250**の土師器甕2点のみで，北側の底面に固まって出土した。詳細な出土状態は土師器甕**249**は逆さまになった状態にあって，土師器甕**250**は二つに分割され**249**の両側に置かれていた。土師器杯**246**～**248**や須恵器壺・杯・皿**235**～**245**，土師質の竈**260**・**261**は破片の状態で土坑西側の底面付近で検出されている。

235・**236**・**240**～**243**は須恵器杯である。上記のとおり完形に復元される個体は無いが，底部の厚み・立ち上がり具合などから，比較的深い器高をもつ**241**などや浅い**235**・**236**・**240**・**242**・**243**の2者が認められる。須恵器杯**241**は内面に火だすき痕が観察される。 底部はすべて回転ヘラ切りで仕上げられてい



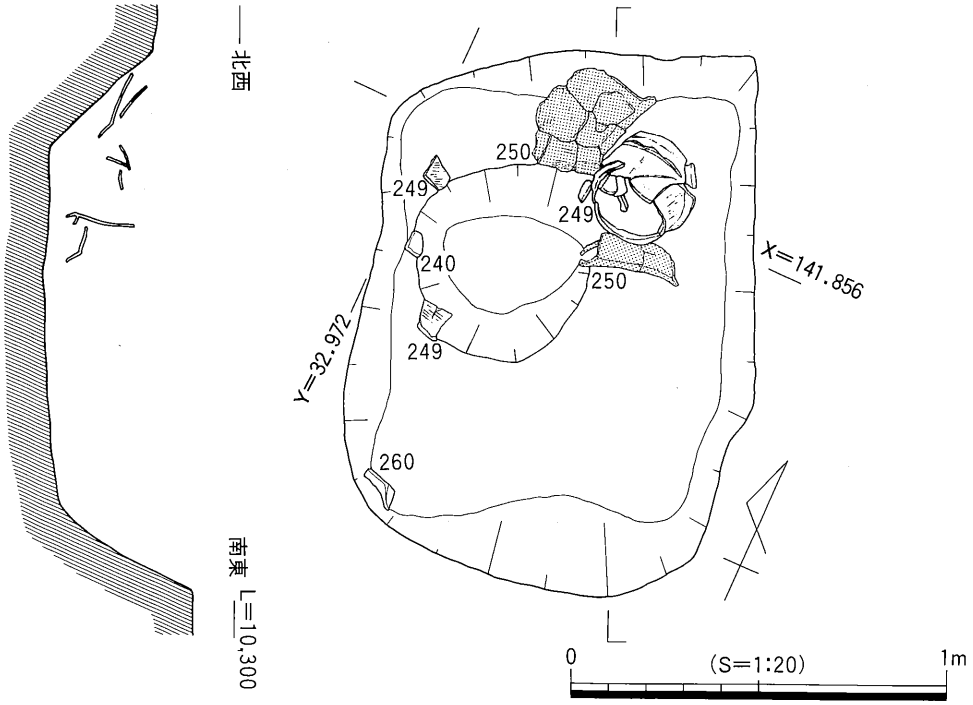


図62　Ⅵ-Ⅰ区第Ⅰ遺構面　平面・SK21平・断面

る。**242**にのみ口径が小さいが小破片であるため，検討の余地がある。

237・238は須恵器皿である。須恵器皿**238**内面には火だすき痕が観察される。

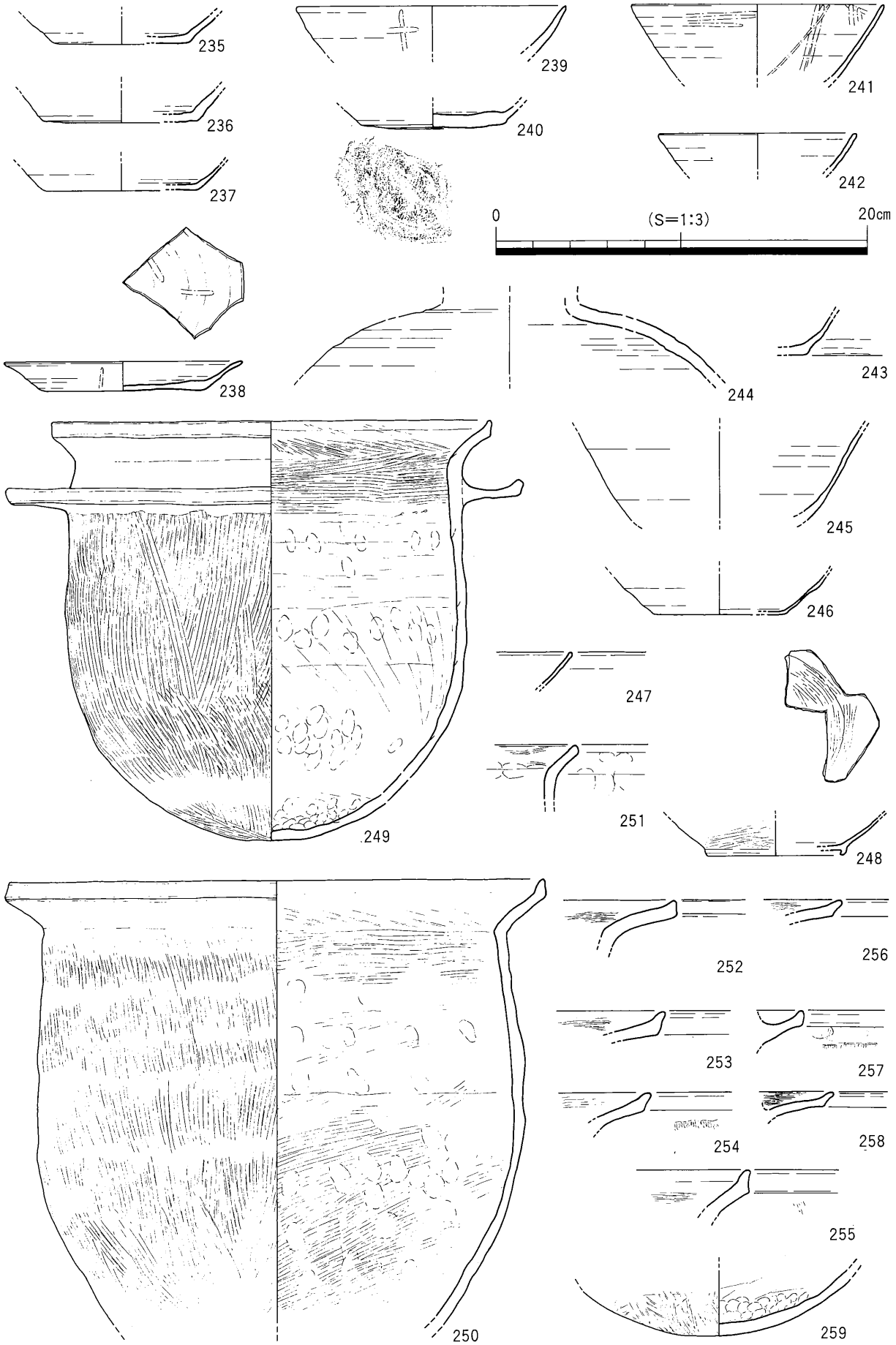


図63　Ⅵ-Ⅰ区第Ⅰ遺構面 SK21出土遺物Ⅰ

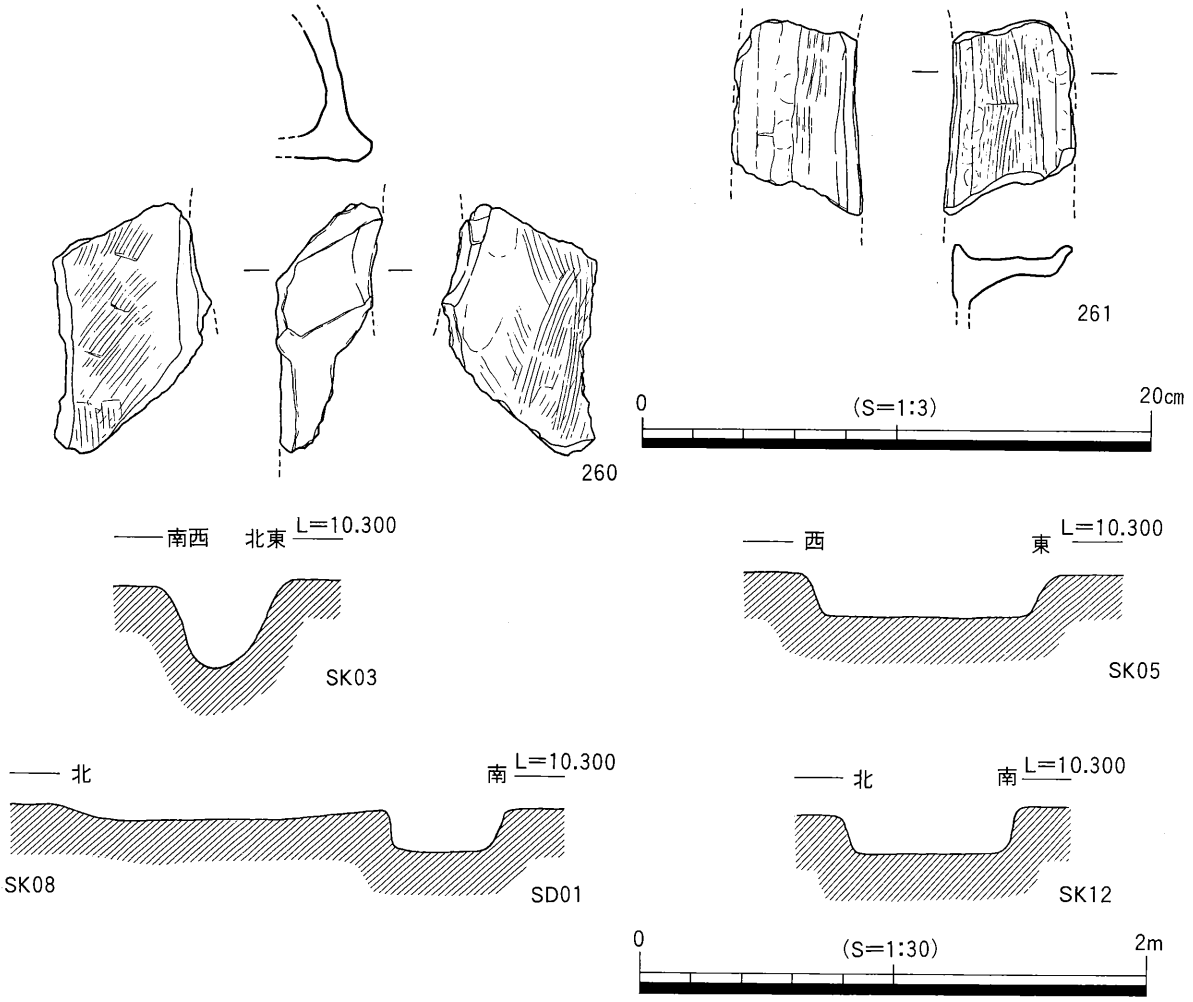


図64　VI-I区第I遺構面　SK21出土遺物2・SK03他断面

239・245は須恵器椀である。**239**は口縁部外面に火だすき痕を認めるが小破片の為，径・傾きに検討の余地を残す。

246～248は土師器杯である。高台をもつ**248**，もたない**246**とが見られるが，ともに赤褐色の精緻な胎土をもち内外面に丁寧なミガキ調整を施す。**244**は須恵器壺の肩部片である。

249～259は土師器甕である。**249・250**は上記の北側底面に固まって出土した土師器甕の一群である。他の口縁部や鍔部の破片は**249・250**の周囲や内側より出土している。**249**は鍔をもつ土師器甕でほぼ完形に復元される。胴部外面は鍔部を接合した後ヨコナデを施し，鍔部より下位はタテハケで仕上げる。内面は口縁部内面から頸部にかけて粗いヨコハケを残す。これより内面下部はタテハケを丁寧にナデ消している。

250は底部を欠損するがほぼ完形に復元することができる。**249**と同じく外面をタテハケ，内面はヨコハケによって調整され，口縁から頸部にかけて粗いヨコハケ痕をとどめる。**251～255**は土師器甕口縁部，**256～258**は土師器甕鍔部である。それぞれ，形態に差違があり，別個体として取り扱った。以上，これらSK21出土遺物は10世紀前半に帰属するものと思われる。

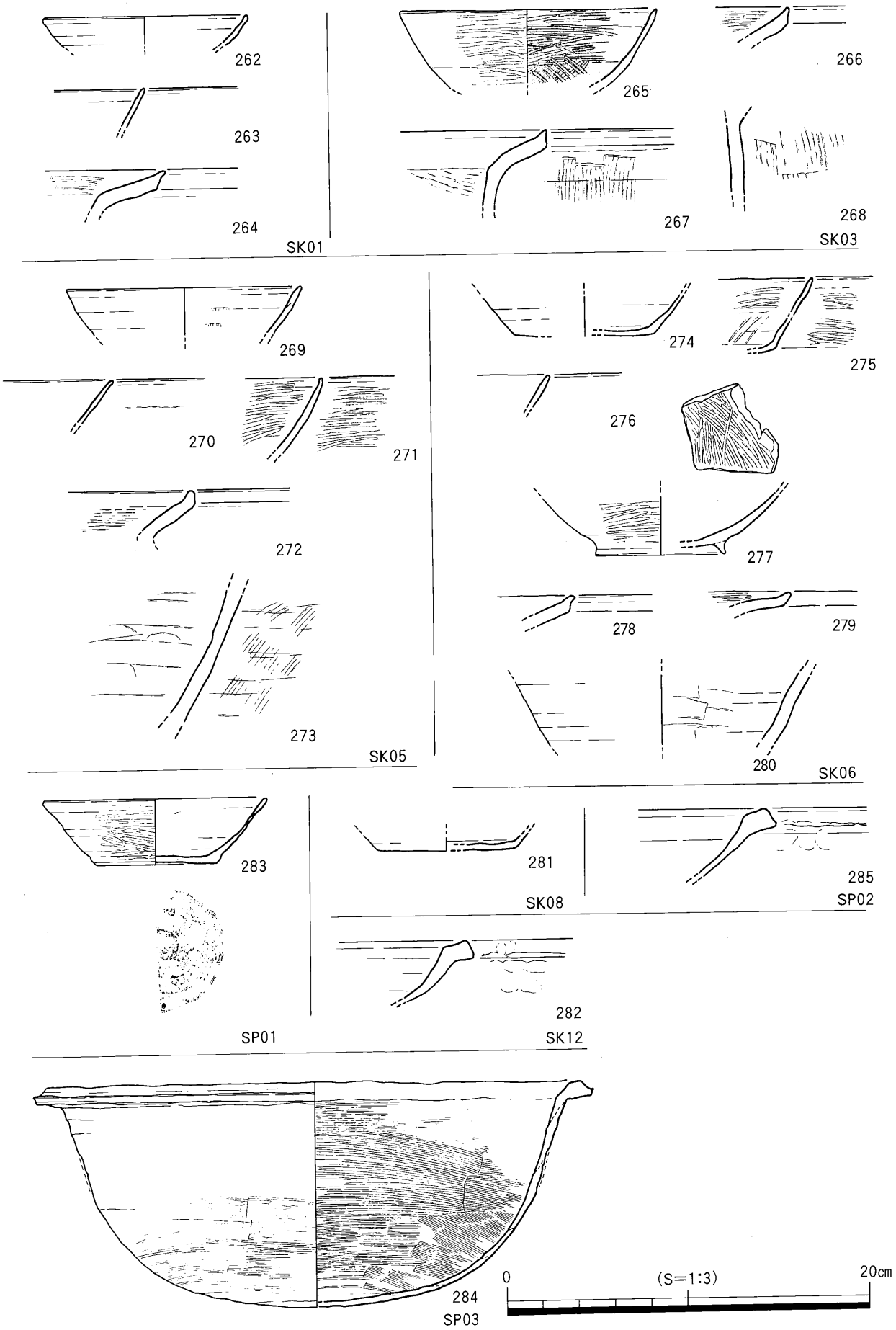


図65　Ⅵ-Ⅰ区第Ⅰ遺構面　SK01他出土遺物

他の遺構内出土遺物

他の遺構・出土遺物についてはここで一括して説明を加えていくこととする。

262～264まではSK01出土遺物である。**262・263**は土師器の椀である。これに**264**の土師器甕が加わる。

265～268はSK03出土遺物である。**265**は黒色土器A類の椀である。内外面ともに密なヨコミガキを施すが，内面下半から見込み部分にかけて分割ミガキを行っている。**266～268**は土師器甕の小片である。10ｃの所産と思われる。

269～273はSK05出土遺物である。**269～271**は土師器椀である。**271**は内外面を丁寧なミガキ調整を行う。口径は復元できなかったが杯の可能性もある。**272**は土師器甕の口縁部。**273**は須恵器甕の胴部片である。外面に右上がりのタタキ痕，内面の当て具痕はナデ消されている。

274～280はSK06出土遺物である。**275**は土師器杯で内外面を丁寧なヘラミガキで仕上げる。**277**は土師器の椀である。**278・279**は土師器甕の鍔部の小片である。**280**は須恵器壺の胴部片である。内面に板ナデ痕が観察される。これらの資料は概ね９ｃ末～10ｃ前半に位置づけられる。

281はSK08出土の土師器杯底部片である。底部は回転ヘラ切りされている。**283**はSP01出土の土師器杯である。比較的精良な胎土をもち，内外面に密なヘラミガキを施し，底部は回転ヘラ切りされている。

282・285はSK12・SP02出土の瓦質の焙烙である。口縁部の形態に若干の差違があり，それぞれ別個体と判断した。**284**はSP03出土の瓦質の鍋である。外内面にヨコハケが明瞭に観察され，また外面には煤が多量に付着している。これら遺物は概ね18ｃ後半から19ｃ前半の所産と思われる。

Ⅵ－１区第１遺構面下層

SX01

第１面調査終了後，第４層を掘り下げて遺構面・遺物の有無を確認した。本調査区ではこの第４層は基本層序のところで述べた様に層厚0.6m以上を測り，粘質度や堆積順序によって10層程に細分される。堆積方向は概ね南から北へ向かって順次堆積しており，基本的には河川堆積層の重なりと理解される。

第１面から１ｍほど掘り下げ図35に示す層位，図66に示す平面的な位置において，サヌカイト集積遺構SX01を検出した。調査時のミスで詳細な記録を作成する前に取り上げてしまったが，約30cm程の円形の範囲内に**286・287・289**のサヌカイト製の剝片が重なり合わずに分布していた。これらに伴う堀方は無く，この第４層中には遺構面と認識できるような材料が無いため同層形成時に２次的な移動を受けたものと思われる。また，これらの剝片以外に本調査区内の第４層中からは遺物は出土していない。

286・287はサヌカイト製の素材剝片で互いに接合関係をもっている。**288**はその接合状態を図示したものである。**286**の上方の分割面から加撃を加えて**287**の剝片を得ているが，２次的な剝離痕は観察できない。**289**はサヌカイト製の剝片とした。背面に比較的大きな剝離痕が観察され，周囲に若干の剝離痕が観察されるが，主要剝離面に先行するもので，２次的な加工は受けていない。

これら遺物が包含される第４層中には１次調査を含めて縄文後・晩期の土器片が見られることから，ここでは同様に縄文時代後・晩期に帰属するものと考えておきたい。

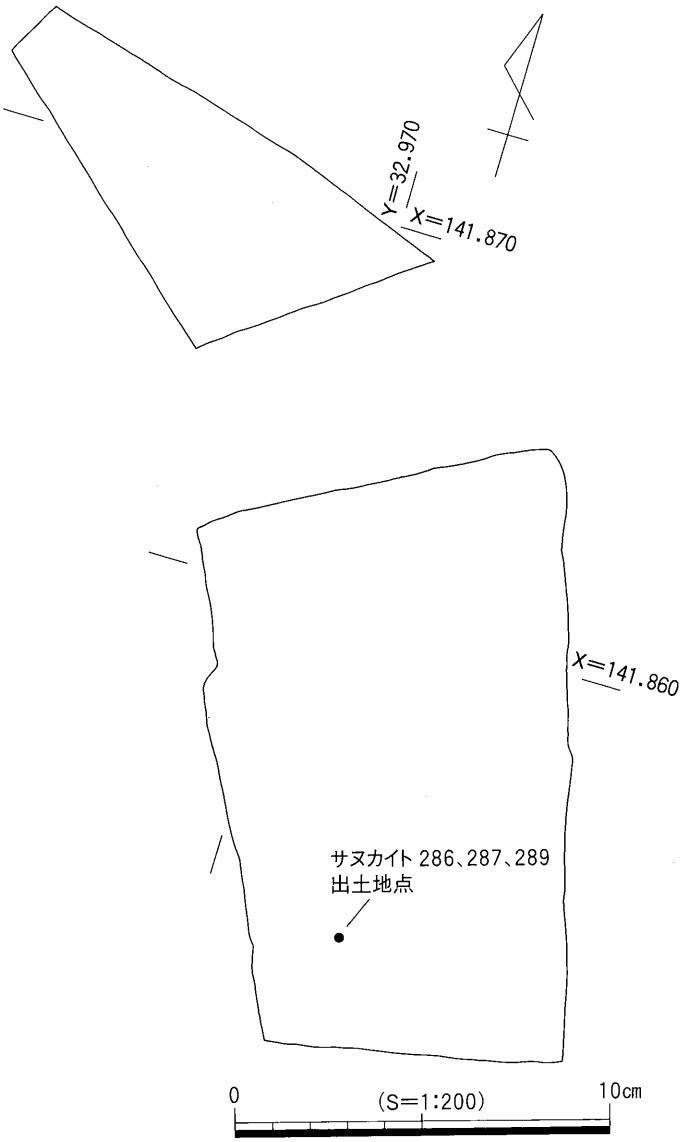


図66　Ⅵ区第４層サヌカイト出土位置

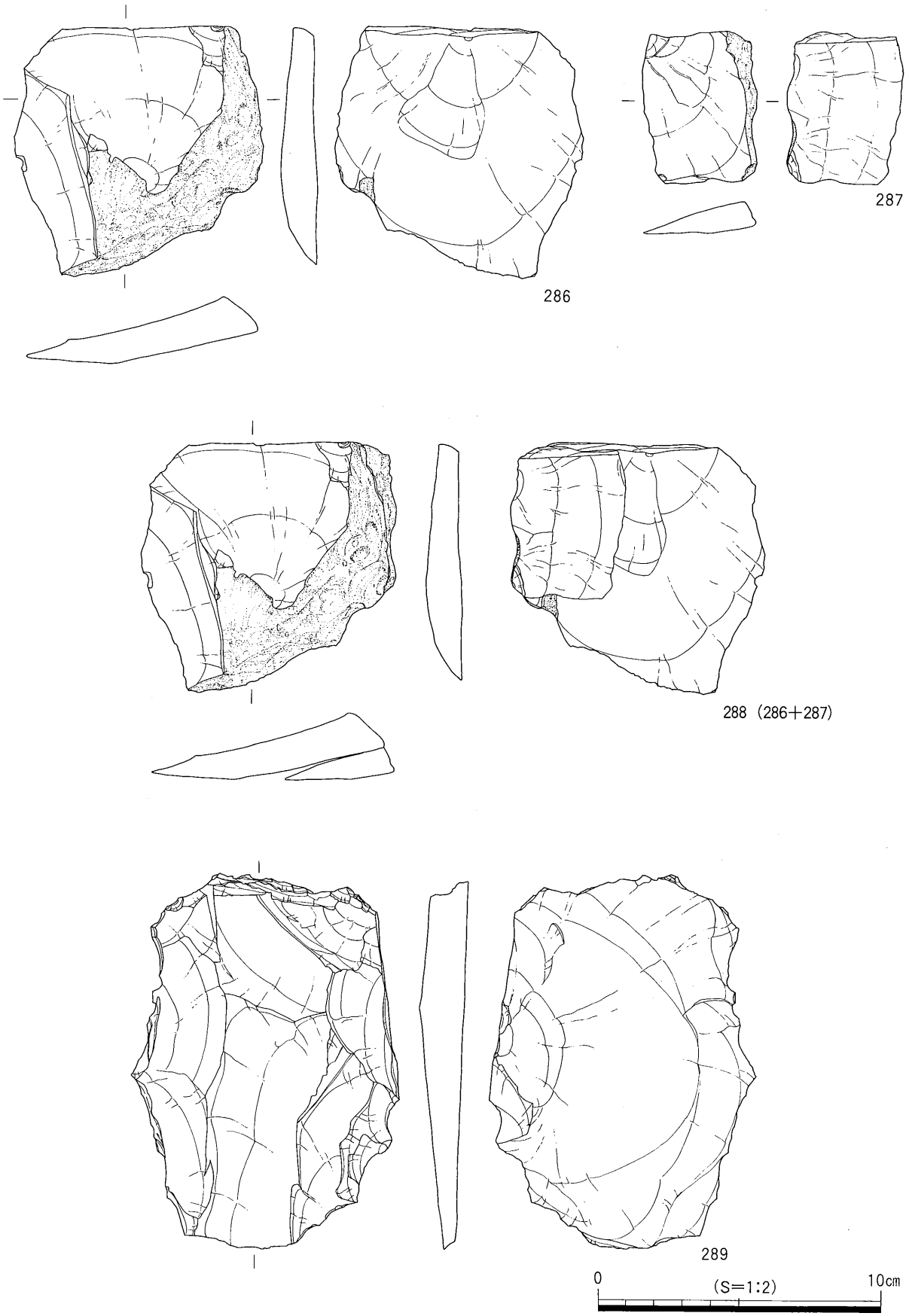


図67　VI-I区第4層出土遺物

Ⅵ－２区第１遺構面

耕作溝群

Ⅵ-２区の第１層を除去した段階で数条の小規模な溝群を検出し第１遺構面とした。これら溝群は上面幅40cm・深さ10cm程の規模をもち，南西方向から北東方向へ延びる。埋土は灰白色シルト層に統一されており，重複する部分があるが切り合い関係を識別することが困難である。規模や統一された方向性，密集状況からみて耕作溝と思われ，層位的にこの耕作溝が連続している状況であると思われる。

また，この下面にはSR01(埋没旧河道)上に水田層が確認されたが，本遺構とそれらとの関係は第２面SR01の部分で詳しく触れる。

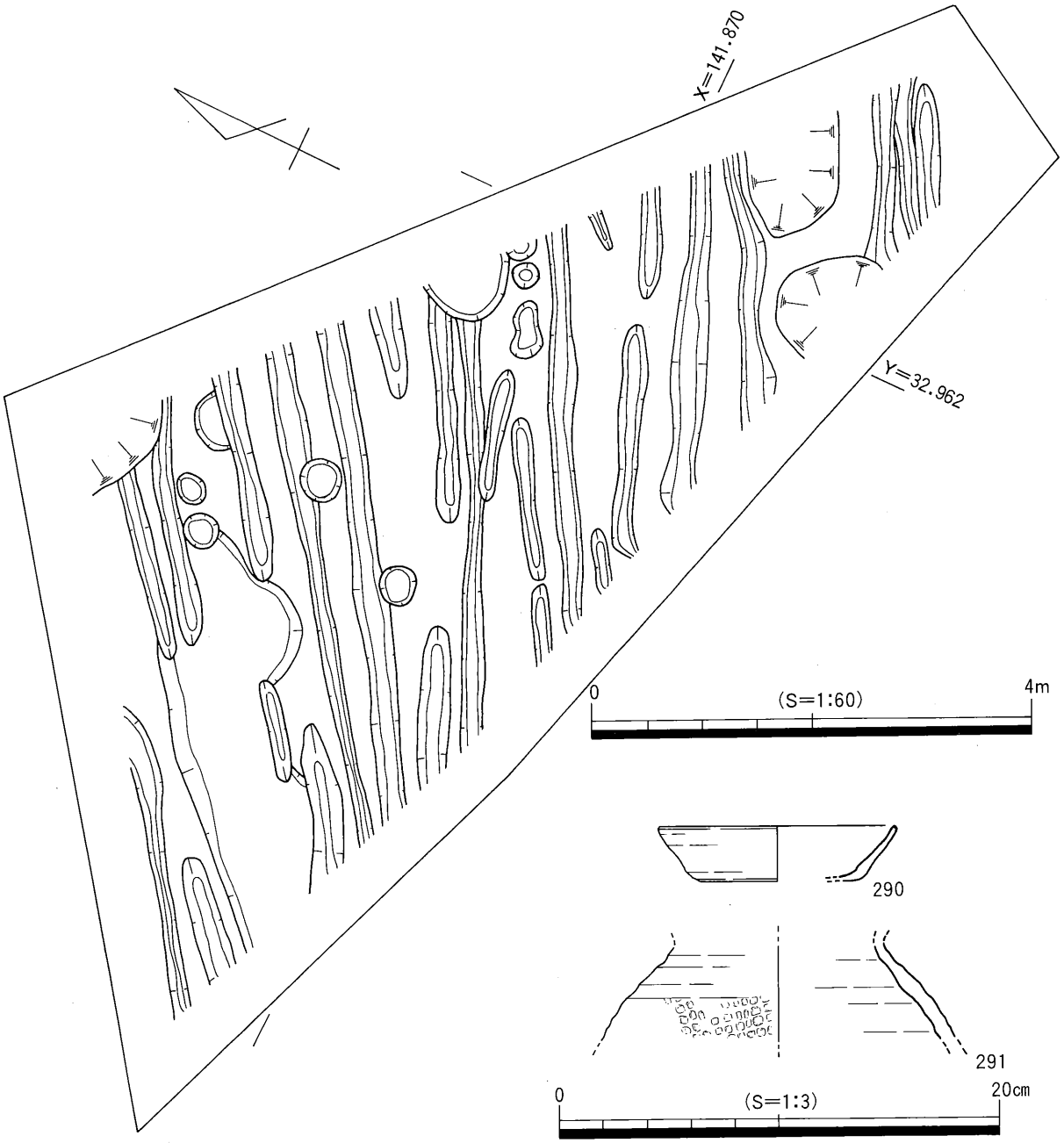


図68　Ⅵ-２区第１遺構面　平面・耕作溝出土遺物

290・291は出土遺物である。**290**は土師質土器杯である。底部は回転ヘラ切りで仕上げる。**291**は十瓶山産須恵器壺肩部片である。外面に格子タタキが見られる。

これら出土遺物は概ね**290**が14ｃに**291**は概ね10ｃに比定される。しかし，遺物量が乏しく，埋土である基本層序第２層中には14ｃの遺物を含み，この第１遺構面の基盤層である図69の２層中には11～12ｃの土器を含むため，これらの出土遺物は直接本遺構の時期を決定できるものではない。したがって，上記の時間幅の中で理解され，ここでは11～14ｃの間の所産とする。

Ⅵ－２区第２遺構面

第３層を除去し第４層上面Ｘ＝141.870・Ｙ＝32.960付近において旧河道SR01の南肩を検出し第２遺構面とした。

SR01(上位水田面)

上面幅は調査区外へ延びる為不明であるが，北へ約20m程離れた県教委試掘トレンチにおいても，ほぼ同一の堆積状況を示す旧河道が確認されていることを考慮すると，上面幅20m以上のかなり大規模な旧河道と考えられる。また，調査区の面積が狭いことや安全勾配の確保などから，検出面より１m程しか調査できなかったので深さは不明である。

調査可能であった掘削深度では流水堆積層は確認できず，湿地状態にあったことを示す粘土層が連綿とほぼ水平堆積していた。このことから，少なくとも古代(10ｃ)には河川としての機能を失っていることが想定される。そして，これら粘土層に対して水田層の存在を想定し調査したが，明確な畦畔等の検出はできなかった。だが，このSR01の南肩部分はテラス状に人為的に改変・開刻された痕跡があることなどから，水田層２とした層準に最低１面の水田層を想定する。また，断面観察によって鉄分の沈着等が認められる層が他に２層あり，この層準も水田層と想定したい。水田層３の下位の水田層は完全にグライ化しており，湿潤な土壌環境下での水田と言え，上層の水田層１とした段階(古代11ｃ)までは同様の土地条件であった可能性が高い。それに比べて，第１面で検出した耕作溝などの段階には旧河道の範囲を越えて，水田域が拡大していると言え，比較的高燥な土壌下での水田域・耕作域ということができる。遺物は殆ど８層と水田層２とした層位から出土を見た。しかし，層位的な取り上げに失敗し区別して報告することができないので，一括して報告する。

292～294は土師器椀である。いずれも比較的精緻な胎土をもち，内外面ともにヘラミガキを施す。底径は８cm前後であるが，高台の形状に若干の差違が見られる。**295**は黒色土器Ａ類の椀である。内外面に密なミガキ調整を施す。**296**は円盤状高台をもつ土師器杯である。**298**は長めの高台をもつ土師器皿である。見込み部分に円形に巡り，一見段のように見える沈線を施している。

297・299・300は須恵器杯である。底部はすべて回転ヘラ切りされており，**299・300**の内外面には明瞭な火だすき痕が観察できる。

301～308は須恵器壺である。**301・302**は直線的に外反する長い口縁部をもつ十瓶山産須恵器壺である。**303**は直線的延びる頸部をもつ十瓶山産の須恵器壺である。**304～308**は十瓶山産須恵器壺の胴部・底部片である。底部から胴部にかけて内傾気味に立ち上がる**304**や，比較的に薄手で直線的に立ち上がる**305・306**，やや外へ開き気味な**307・308**がある。外面調整は大半のものが，板ナデで**305**のみ格子タタキが見られる。**308**の底部にはヘラ記号が見られる。

309～312は土師器甕である。**309**は口縁端部が直口するタイプで鍔部を欠損している。**310～312**は外反

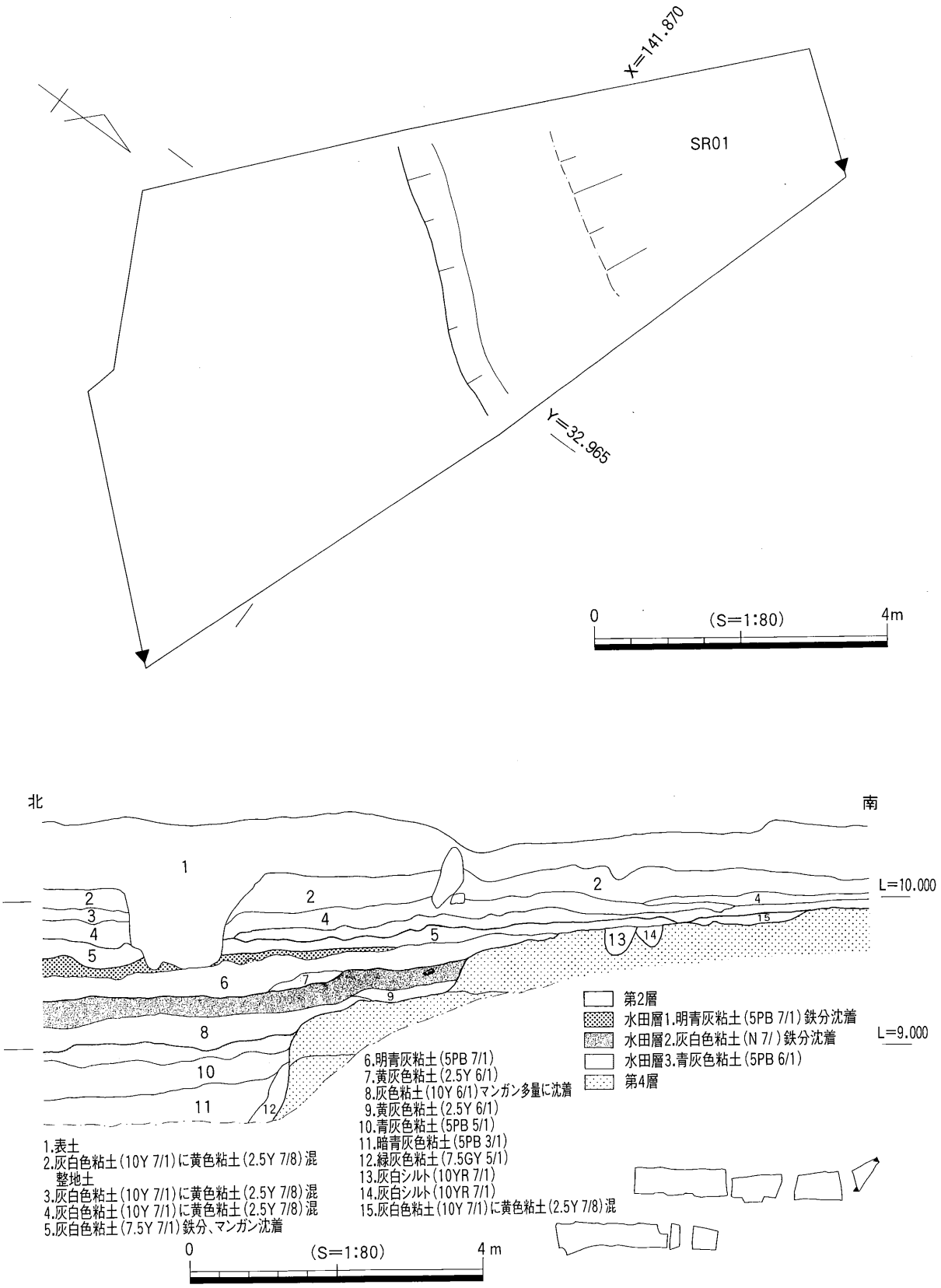


図69　Ⅵ-2区第2遺構面　平面・北壁土層断面

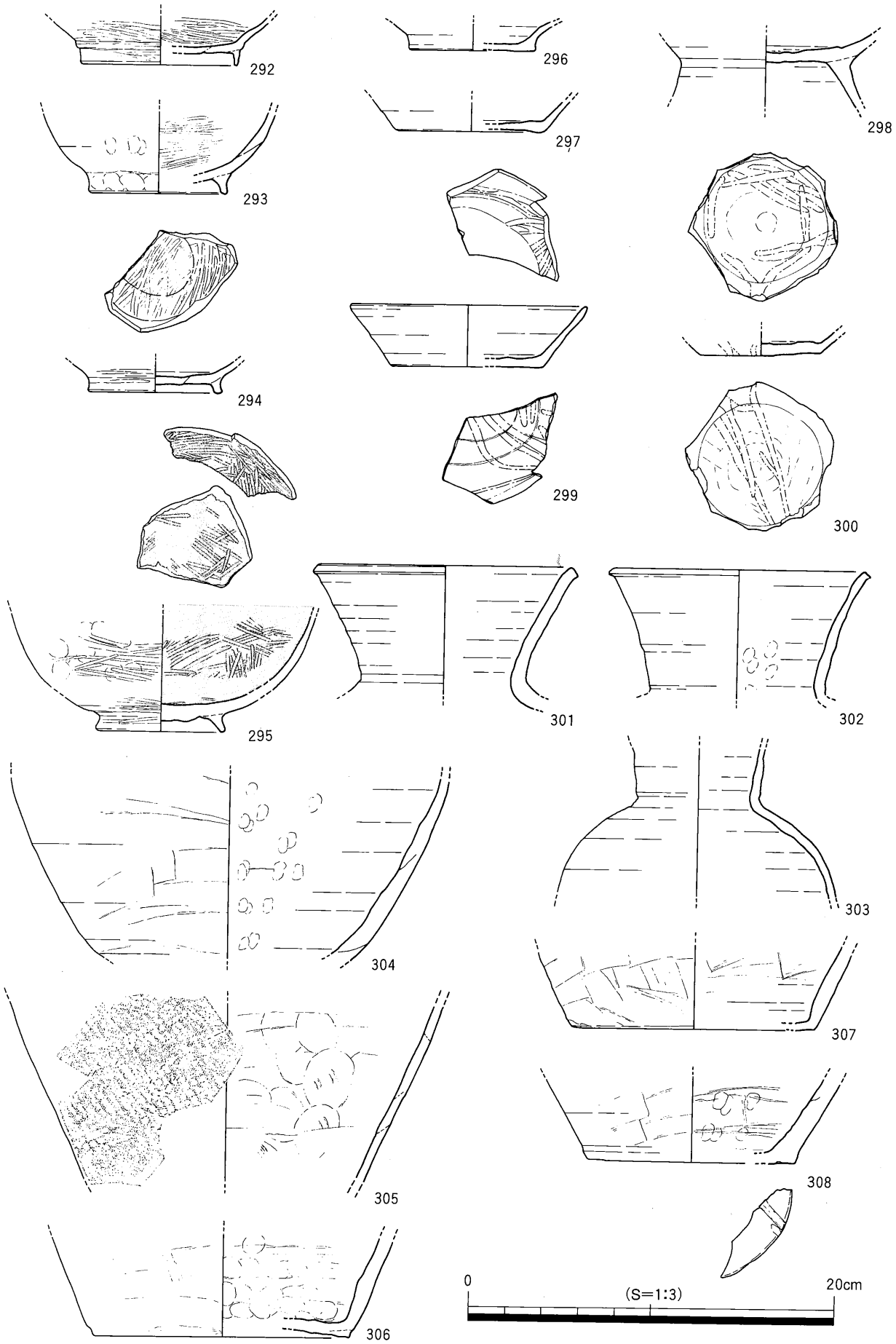


図70　Ⅵ-2区第2遺構面　SR01出土遺物Ⅰ

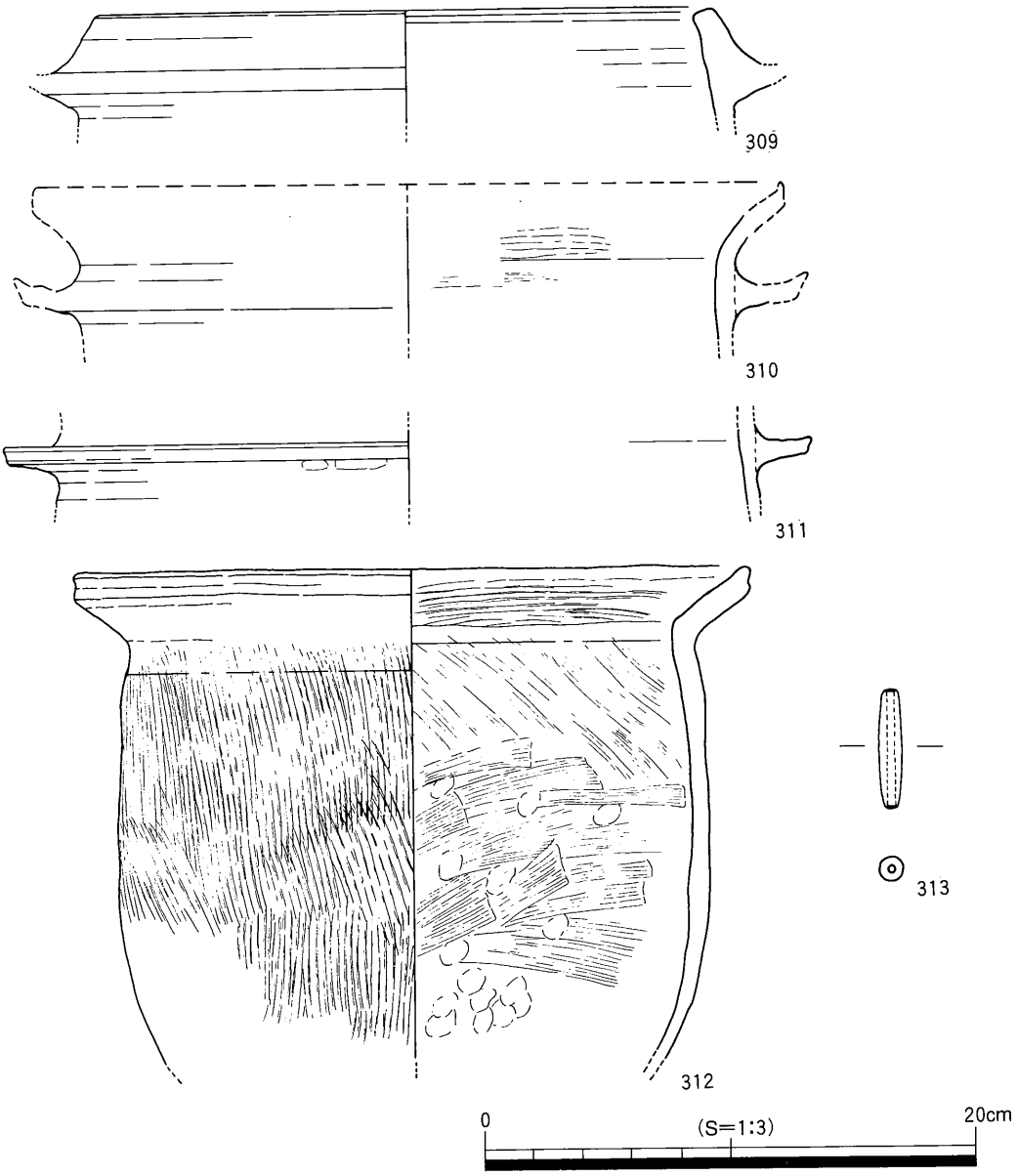


図71　Ⅵ-2区第2遺構面　SR01出土遺物2

する口縁部をもつもので，**310・311**は鍔をもつ。**312**は内外面共に粗いハケ調整痕を残す土師器甕である。

314は土師質の竈片である。天井部と袖部の破片であるが，調整痕・胎土・焼成具合からみて同一個体と判断した。外面は粗いハケ調整，内面はハケ調整後丁寧なナデを施している。また，内面には使用時の煤が付着しているのを明瞭に観察できる。

これらの遺物は概ね10～12世紀に帰属されるものである。

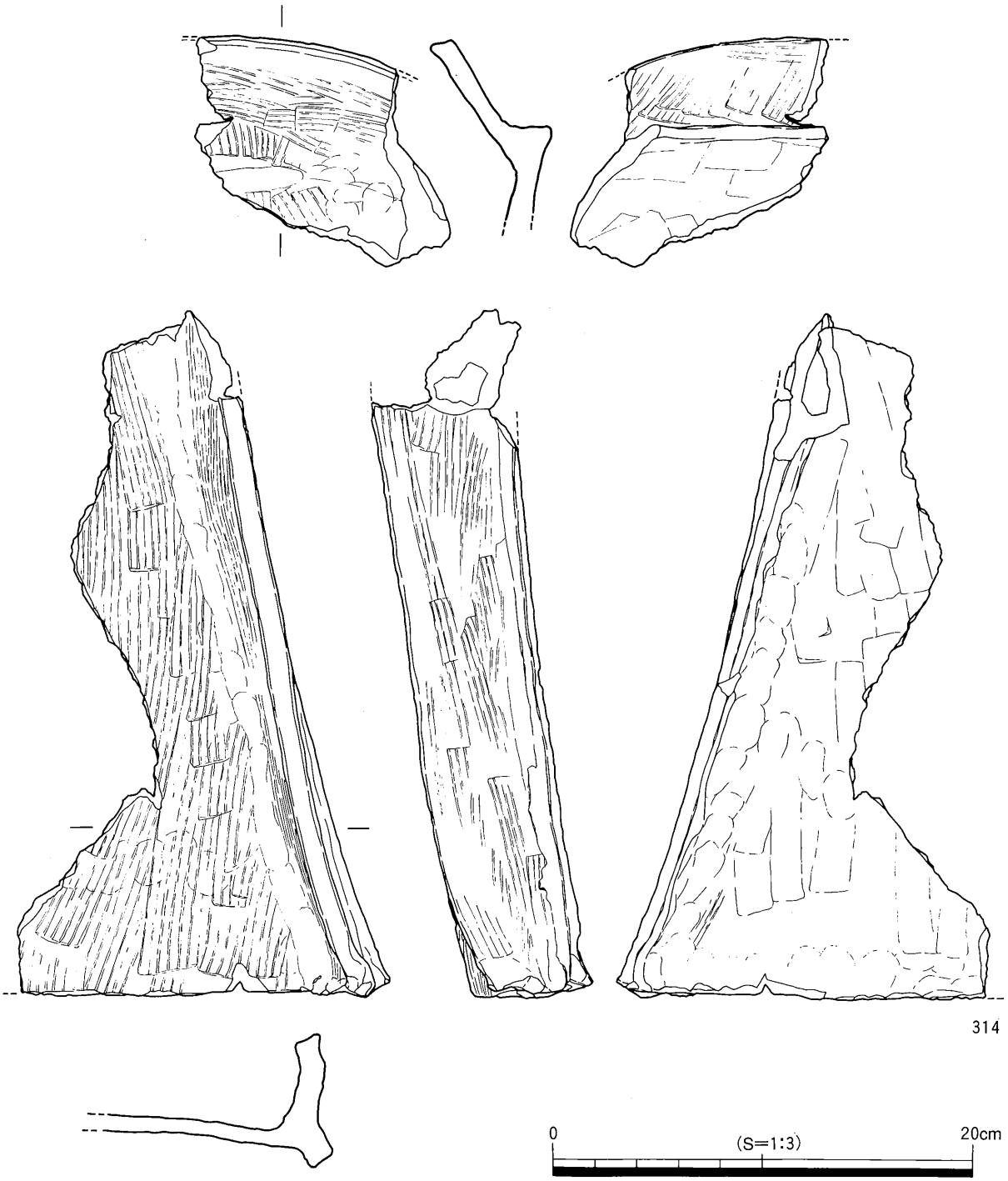


図72　Ⅵ－2区第2遺構面　SR01出土遺物3

第V章　まとめ

1次調査を含め今回の調査においては，縄文時代から近世に至るまで多くの遺構・遺物が確認された。ここでは，遺跡内の変遷・形成過程を通時的に概観するとともに周辺の遺跡を含めた若干の私見を述べることで，まとめとしておきたい。時期区分は1次調査の報告(蔵本 1999)を基本的には踏襲するが，今回の調査成果を考慮し一部改変している。

1．縄文時代後期～晩期

今回の調査においても基本層序第4層とした黄色系シルト層より縄文後・晩期の遺物が出土し，1次調査の所見を追認した形となった。本文中でも述べているように，この第4層は基本的には河川堆積層累積と捉えられ，遺物は2次的移動を受けたものとし，遺構面とする認識はない。相対的な遺物量は南方の1次調査地(Ⅰ～Ⅲ区)の方が多く，また顕著にローリングを受けているものは少ないことから近接した場所に集落の存在を推測できる。遺物は縄文後・晩期の2者が確認できるが，後者の突帯文土器の方が多い。丸亀平野では縄文後・晩期の立地と重複する形で弥生前期の遺跡が確認される傾向(森下 1998)にあるが，本遺跡では弥生前期土器は出土していない。

視点を大束川下流域に広げて見てみると，島嶼部を除いて遺構が確認されているのは晩期中葉の下川津遺跡(藤好他 1992)と晩期突帯文終末期の川津下樋遺跡(片桐 1996)のみである。これら以外では川津一ノ又遺跡で後世の遺構に混入する形と本遺跡と同じく弥生時代以降基盤層から，旧石器に混じって縄文期と思われる石器群が確認されている(山下 1997)。さらに広げて丸亀平野部でも遺構面として認識できた例は少なく，土器川と金倉川に挟まれた一部の三条番ノ原遺跡(片桐 1990)や川西北・七条遺跡(森下 1998)などの微高地上の遺跡を除いて，本遺跡と同様に河川堆積層中に遺物が見られたり，埋没旧河道中に遺物が確認される状況である。時期的には殆どが後・晩期例で物質文化を通時的に追える程のものではない。また，これらは本遺跡例を含めて弥生時代以降の基盤層である黄灰色系シルト下に埋没していることから，十分な調査対象と成り得ていないというバイアスを考慮する必要がある。今後，平野部において，この黄灰色系シルト層に対して遺構面や遺物包含の有無の確認などを行うとともに，地形・環境復元など積極的なアプローチを行っていくことが重要であろう。

2．弥生時代後期

1次調査を含めて検出できた遺構はV-1区第2面自然河川，Ⅳ-1・V-1区第2面低地帯，Ⅱ区第2面土坑2基である。また，当時の地形は前段階の縄文晩期まで続いた広範囲にわたるシルト層の堆積が停止し遺跡周辺では上記低地帯や旧流路によって画された微高地が展開し起伏に富んだ地形だったと思われる。

これらの諸遺構の帰属時期は弥生後期前葉を上限あるいは中心としているが，調査区内では基本生活領域と断定できる遺構は確認できていない。低地帯の土器群・サヌカイト素材から判断すると基本生活領域の周辺であることは推測される。住居等の施設はⅠ区南方の耕作土直下において基盤層である黄灰色シルトが露出する部分が微高地に相当すると思われ，そこに居住域が存在することが推測される。今回の調査では水田跡などの生産関連の遺構は確認できなかったが，おそらく，旧流路や低地帯などが主

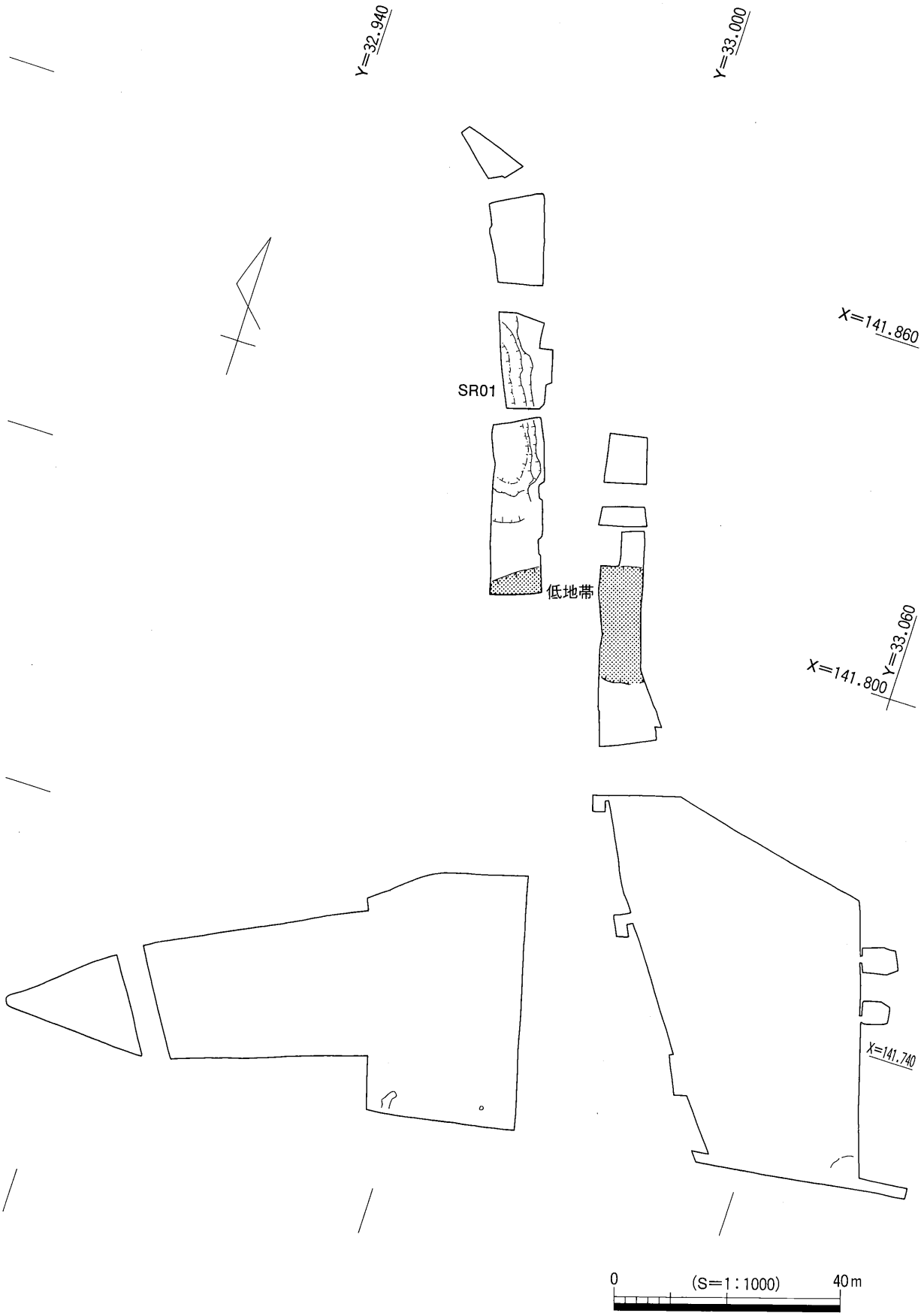


図73　川津川西遺跡遺構変遷図(Ⅰ)弥生後期

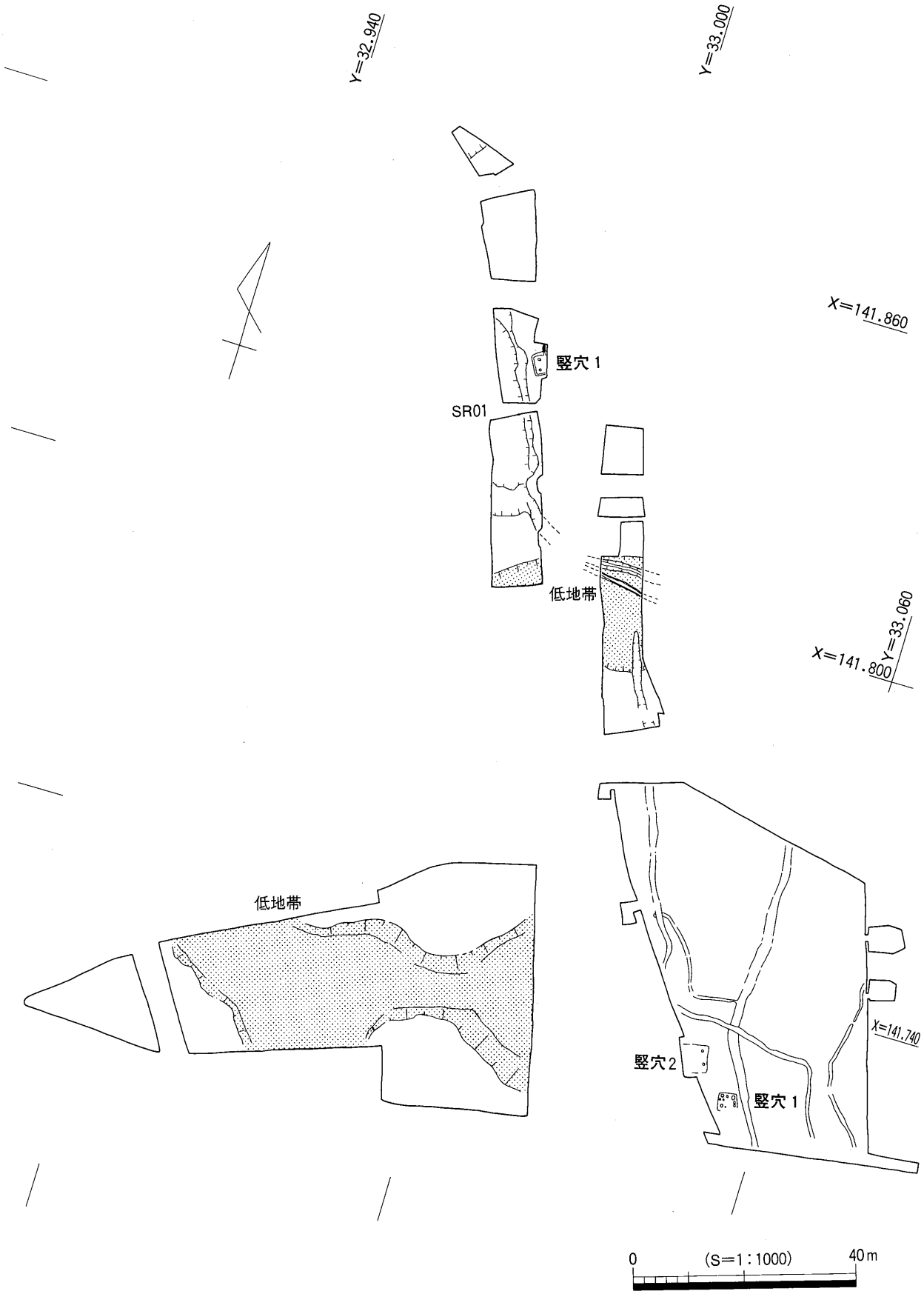


図74　川津川西遺跡遺構変遷図(2)古墳時代後期～古代Ⅰ

たる水田経営の場であったことは想像できる。V区SR01下層からは近隣に水田の存在を示すセマルガムシなどの動物遺体が検出されたこともこれを傍証している。

本集落の生産物としてはⅣ-1区低地帯第7層・V区SR01出土のサヌカイト素材剝片が挙げられる。盤状剝片やサヌカイトの原礫を複数に分割する際に生じると思われる剝離面をとどめた剝片類は，集落内の石器生産を物語るとともにサヌカイトの移動形態を想起させる。接合関係は無いが，剝離面や原礫面の観察より，同一母岩に属すると思われる剝片があることから，サヌカイト原礫を集落内に持ち込み，分割し製品の製作を行っていたことが想定される。また，これらの出土量や使用痕をとどめる成品などの存在から他の集落に対して素材となる剝片を搬出していたわけではなく，あくまでも集落内で消費していたようである。距離的には金山まで約5㎞と日常の活動圏であるキャッチメントエリアに含まれる位置に本遺跡は位置する。これらのサヌカイトの石器・素材に後期前葉の土器が伴っている。図化できるものはすべて掲載した。口縁部外面の凹線文の退化度や同部位の拡張具合，高杯の口縁端部拡張の喪失など後期前葉の特徴をよく表す。点数は少ないが同一層位出土資料として良好な土器資料となろう。中には角閃石を多量に含む高松平野北東部産の高杯125が1点あるが，同地域産の土器の移動が比較的に少ない後期前葉の時期にあっては，貴重な一例と言える。

3．古墳時代後期～古代

実態不明の古墳時代前期～中期を経て，古墳時代後期～古代(8世紀)に至る。前段階の弥生後期に形成された自然河川(V区SR01)は機能し続け，各低地帯も埋没途上にある。

主な遺構としては，竪穴住居を中心とした小規模集落と灌漑用水路がある。1次調査ではⅠ区南半部の微高地部分から7c前葉～中葉の竪穴住居が2棟(内1棟は北側に竈を付設)，やや北へ離れたV-2区のの微高地部分から7c中葉～末の竪穴住居1棟(北側に竈を付設)検出されている。調査範囲の制約はあるものの，2～3棟ほどの竪穴住居を1単位として構成される小規模な集落であったと思われる。調査範囲内では掘立柱建物などの竪穴住居に伴う施設は検出していない。この時期の竪穴住居としては時期的に県下でも比較的新しいもので，本遺跡北方の川津一ノ又でも7世紀代を通して8世紀前葉まで竪穴住居が確認されている。だが，これらは掘立柱建物群の中に少数存在する形を採っており，本遺跡の様に竪穴住居のみで構成されている例は特異である。

他にこの時期の遺構としてV-1区SR01より取水しⅣ-1区の低地帯を抜けて東へ導水するSD09・10がある。おそらく，この低地帯の調査区外東側に水田域が想定され，そこへ導水するものと考えられる。本文中でも述べたように，この溝は井堰を用いずに蛇行する川の特性を利用し取水するもので，溝の規模自体も小規模なものである。また，この段階には微高地上を開発する目的の水路ではなくあくまでも低地部分に導水する為の水路であったことと，恒常的な流水は想定できないことなどの灌漑水準であったことを確認しておきたい。だか，本遺跡の状況がこの時期の遺跡周辺を含めた状況であたったかは検討を要する。

これらの状況を踏まえて同時期の遺跡周辺を見たい。これまで再三取り上げられている下川津遺跡や川津一ノ又遺跡での7世紀代の状況は，大形掘立柱建物群や識字層の存在を示す遺物，畿内産土師器の多量の出土，カラ鍬などの新式農耕具など本遺跡周辺でも拠点的な集落としての位置づけがなされている。これらに対して本遺跡の集落のあり方は下川津遺跡のような在地首長層の存在が窺える拠点的な集落の付随する小規模な周辺集落として位置づけられる。

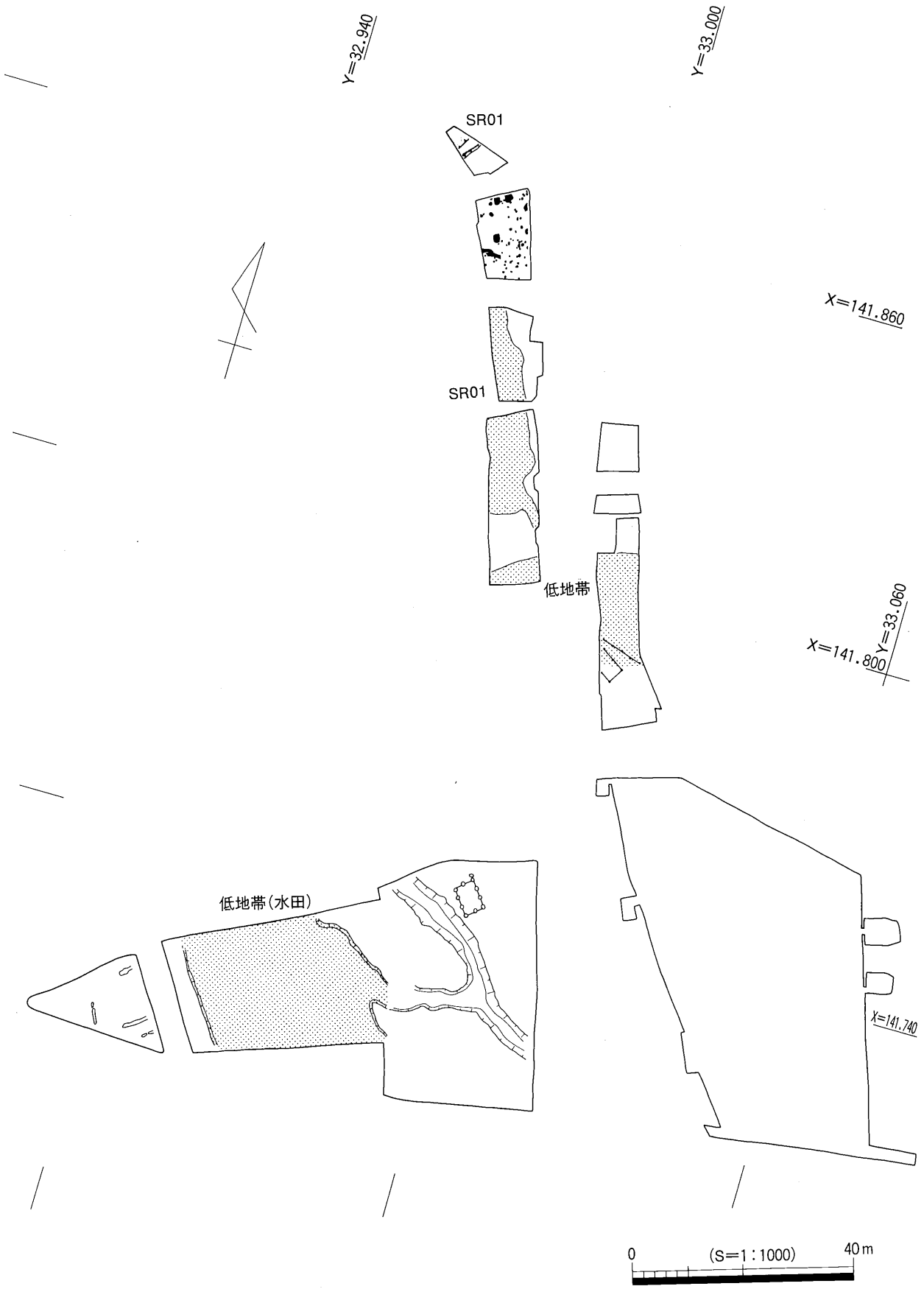


図75　川津川西遺跡遺構変遷図(3)古代

4．古代（9～11c）

低地帯の埋没が進行しほぼ平坦な地形になる。II区低地帯（SX19）やVI-2区SR01上面に水田層が確認されるなど低地帯や埋没旧河道上面を利用した水田域が引き続き経営され続ける。また，これらの維持・経営に関連してII区では前段階の灌漑水路（IV-1区SD09・10）を上回る規模の基幹水路SD135が掘開される。上記SD09・10が上面幅約1.5m・深さ約0.6m程の規模であったのに対してSD135は上面幅3.5～4.3m・深さ1.3～1.4mを測るなど大型の基幹水路と言える。取水方法としてはSD09・10が井堰を用いないで河道の蛇行するプランを活かして取水するのに対してSD135は遺跡南方の旧大束川から取水することが推測されるなど前段階に比べて灌漑技術の発展が看取される。この本遺跡の灌漑技術の発展がある程度の地域内で普遍化されるかどうかは検討を要する。

集落域はVI-1区微高地部分において掘立柱建物等の復元はできないが，数多くのピット・土坑を検出している。南方II区においても上記SD135の東岸やIV-1区に掘立柱建物などが見られるなど，調査範囲内で2箇所において集落域が確認されている。そして，この後者の集落域では上記SD135からの多量の曲げ物や加工屑，同素材から，これら木製品を生産していたことが判明している。また，これらに加えて，漆皿として使用していたと考えられる須恵器皿，漆付着の木製品などがあり，SX20低地帯などの水田経営に加えて木工・漆工も集落内で行っていたものと思われる。これは9世紀代の本集落の性格検討する材料になると思われる。

5．中世I（12～13c）

各低地帯のほぼ完了し，ほぼ平坦な地形となる。古墳時代後期以降，散発的ながら継続してきた集落はこの時期に一端廃絶する。I区では水田や耕作溝が重複して検出され，VI-1区SR01埋没後には耕作溝が検出されるなどほぼ調査区全域が耕地として利用され始めている。前段階の古代期までは主に低地帯や埋没旧河道上が生産域として利用されていたが，本段階にはこれらの部分を超えて耕地化が進行している。この要因として，灌漑技術の進化や開発に用いる道具の変化などが挙げられるが，各生産域に付随する灌漑網や遺構・遺物などは検出されていない。ここでは現象面の変化のみを記述することにとどめる。

水田畦畔，耕作溝の方向性は概ね周辺に条里型地割の方向を示すが，統一されているものではない。また，明確な坪界溝も検出されていない。

6．中世II（14～15c前半）

ほぼ調査区一帯に基本層序第3層とした灰黄色粘土が堆積し，完全に平坦な地形となり，一端廃絶していた集落がこの段階には再び営まれる。古代以前には複数箇所に分散していた集落が，ある程度まとまりをもって造られる。主にI区からIV-1区にかけての南北75m，東西50mの範囲とIII区において平面的な広がりは確認できないが，掘立柱建物が確認される。1次調査の成果を合わせて考えると，I区からIV-1区にかけての集落は14c初頭から15世紀前半にかけて徐々に整備されていったようである。未調査部分があるが，総数で掘立柱建物25棟程を復元することができるが，出土遺物をもたない掘立柱建物も存在するため，細かな変遷については十分検討することができない。しかし，14c後半が集落規模の最も大きくなる時期のようである。掘立柱建物等の平面分布を見ると，I区では集落域中央部分に灌漑水路と区画溝を兼ねているSD01・SX01によって，掘立柱建物等の分布域が2分割されており，この分割

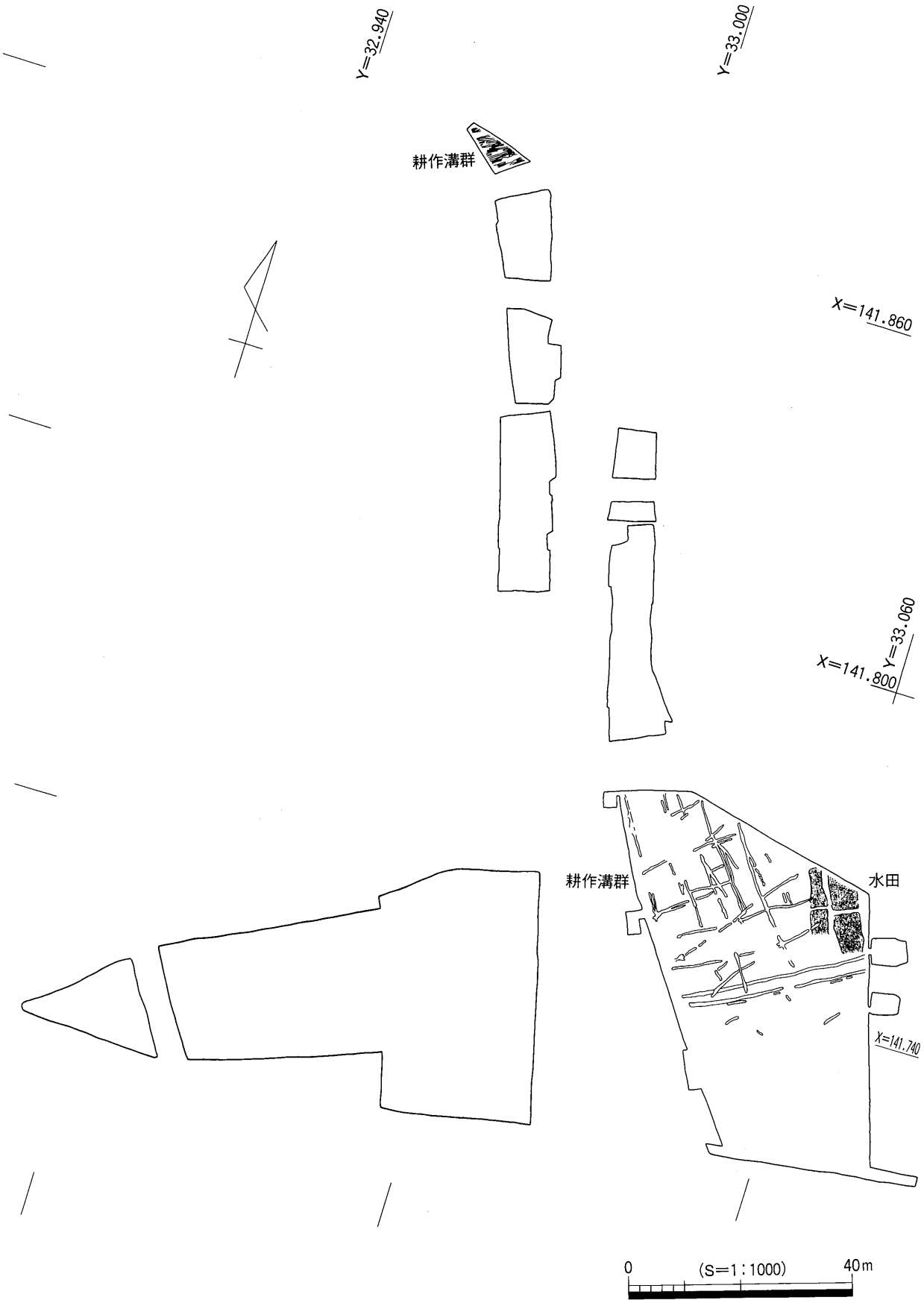


図76　川津川西遺跡遺構変遷図（4）中世Ⅰ

図77　川津川西遺跡遺構変遷図(5)中世Ⅱ

された単位の時間的な変遷を検討することも今後の課題と言える。

参考・引用文献

片桐孝浩　1992　『中小河川大束川改修工事（津ノ郷橋～弘光橋間）に伴う　川津元結木遺跡　埋蔵文化財発掘調査報告』香川県教育委員会　㈶香川県埋蔵文化財調査センター

木下晴一　1995　『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第16冊　川津二代取遺跡』香川県教育委員会　㈶香川県埋蔵文化財調査センター

蔵本晋司　1999　『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第31冊　川津川西遺跡』香川県教育委員会　㈶香川県埋蔵文化財調査センター

高橋　学　1995　「臨海平野における地形環境の変貌と土地開発」『古代の環境と考古学』古今書院

佐藤龍馬　1995　『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第18冊　国分寺楠井遺跡』香川県教育委員会　㈶香川県埋蔵文化財調査センター

古野徳久　1998　『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第30冊　川津一ノ又遺跡II』香川県教育委員会　㈶香川県埋蔵文化財調査センター

森下英治　1997　「丸亀平野条里型地割の考古学的検討」『㈶香川県埋蔵文化財調査センター』香川県教育委員会　㈶香川県埋蔵文化財調査センター

森下英治　1998　『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第16冊　龍川五条遺跡II』香川県教育委員会　㈶香川県埋蔵文化財調査センター

観　察　表

表３　土器観察表

挿図	図版	遺構名	器　種	口径	器高	底径	胎　　土	色　　調	外面調整	内面調整	残存率	備　考
1		Ⅳ-1区 第２層	土師質土器小皿	6.6	1.1	5	精緻.赤色粒子中（0.6mm～1.0mm）微量　石英粒小（0.5mm以下）少量	内外面：浅黄橙10YR8/4	回転ナデ，回転ヘラ切り	回転ナデ	口縁部：2/8	
2		Ⅳ-1区 第２層	土師質土器小皿	5.4	0.7	4.8	精緻.赤色粒子中（0.6mm～1.0mm）少量　石英粒中（0.6mm～1.0mm）少量	内外面：浅黄橙10YR8/3	回転ナデ，回転ヘラ切り	回転ナデ	口縁部：6/8	
3		Ⅳ-1区 第２層	土師質土器小皿	5.9	7	5.2	精緻.赤色粒子小（0.5mm以下）大（1.1mm以上）少量　石英粒小（0.5mm以下）少量	内外面：浅黄橙7.5YR8/3	回転ナデ，回転ヘラ切り	回転ナデ	口縁部：1/8	
4		Ⅳ-1区 第２層	土師質土器小皿	6.1	0.8	5.5	精緻.赤色粒子中（0.6mm～1.0mm）大（1.1mm以上）少量　石英粒中（0.6mm～1.0mm）大（1.1mm以上）少量	内外面：浅黄橙10YR8/4	回転ナデ，回転ヘラ切り	回転ナデ	口縁部：5/8	
5		Ⅳ-1区 第２層	土師質土器杯	8.8	2.2	5.4	精緻.赤色粒子小（0.5mm以下）微量　石英粒中（0.6mm～1.0mm）小（0.5mm以下）多量	外面：橙5YR7/6 内面：浅黄橙7.5YR8/4	回転ナデ，回転ヘラ切り	回転ナデ	口縁部：3/8	
6		Ⅳ-1区 第２層	土師質土器杯	7.7	1.9	4.9	精緻.赤色粒子大（1.1mm以上）少量　石英粒大（1.1mm以上）中（0.6mm～1.0mm）小（0.5mm以下）少量	外面：灰白10YR8/2 内面：浅黄橙7.5YR8/3	回転ナデ，回転ヘラ切り	回転ナデ	口縁部：1/8	
7		Ⅳ-1区 第２層	土師質土器杯	8.2	1.5	5.8	精緻.赤色粒子小（0.5mm以下）微量　石英粒小（0.5mm以下）少量	内外面：灰白2.5Y8/2	回転ナデ，回転ヘラ切り	回転ナデ	口縁部：3/8	
8		Ⅳ-1区 第２層	土師質土器杯			6.4	精緻.赤色粒子中（0.6mm～1.0mm）大（1.1mm以上）多量　石英粒小（0.5mm以下）少量	外面：橙7.5YR7/6 内面：灰白10YR8/2	回転ナデ，回転ヘラ切り	回転ナデ	底部：2/8	
9		Ⅳ-1区 第２層	土師質土器杯	8.6	1.3	6.2	精緻.雲母中（0.6mm～1.0mm）少量　赤色粒子中（0.6mm～1.0mm）少量　石英粒中（0.6mm～1.0mm）多量	外面：浅黄橙7.5YR8/3 内面：にぶい橙7.5YR7/4	回転ナデ，回転ヘラ切り	回転ナデ，ナデ	口縁部：1/8	
10		Ⅳ-1区 第２層	土師質土器杯	9.4	2.7	5.7	精緻.赤色粒子中（0.6mm～1.0mm）少量　石英粒中（0.6mm～1.0mm）少量	内外面：にぶい黄橙10YR7/3	回転ナデ，回転ヘラ切り	回転ナデ	口縁部：2/8	
11		Ⅳ-1区 第２層	土師質土器杯	9.1			精緻.赤色粒子中（0.6mm～1.0mm）微量　石英粒小（0.5mm以下）少量	外面：灰白2.5Y8/1 内面：灰白10YR8/2	回転ナデ	回転ナデ	口縁部：小破片	
12		Ⅳ-1区 第２層	土師質土器杯	9			精緻.赤色粒子小（0.5mm以下）中（0.6mm～1.0mm）少量　石英粒中（0.6mm～1.0mm）大（1.1mm以上）少量	内外面：浅黄橙7.5YR8/4	回転ナデ，回転ヘラ切り	回転ナデ	口縁部：1/8	
13		Ⅳ-1区 第２層	土師質土器杯	13	2.6	8.2	精緻.赤色粒子大（1.1mm以上）微量　石英粒小（0.5mm以下）少量	内外面：にぶい黄橙10YR7/3	回転ナデ，回転ヘラ切り	回転ナデ	底部：2/8	
14		Ⅳ-1区 第２層	土師質土器杯	12			精緻.石英粒中（0.6mm～1.0mm）微量	内外面：灰N6/	回転ナデ	回転ナデ	口縁部：小破片	
15		Ⅳ-1区 第２層	土師質土器杯			8.5	精緻.雲母小（0.5mm以下）少量　赤色粒子中（0.6mm～1.0mm）少量　石英粒小（0.5mm以下）少量	外面：にぶい橙5YR7/4 内面：褐灰5YR4/1	回転ナデ，回転ヘラ切り	回転ナデ	底部：小破片	
16		Ⅳ-1区 第２層	土師質土器杯			8	精緻.雲母小（0.5mm以下）少量　石英粒中（0.6mm～1.0mm）少量	内外面：にぶい赤橙10YR6/3	回転ナデ，回転ヘラ切り	回転ナデ	底部：7/8	
17		Ⅳ-1区 第２層	中国産青磁椀					内外面：オリーブ灰2.5GY6/	回転ナデ	回転ナデ	口縁部：小破片	
18		Ⅳ-1区 第２層	中国産青磁椀			5.7		内外面：灰N6/0，釉：灰オリーブ7.5Y5/2	回転ナデ	回転ナデ	底部：1/8	
19		Ⅳ-1区 第２層	土師質土器甕	21			粗.赤色粒子中（0.6mm～1.0mm）大（1.1mm以上）少量　石英粒小（0.5mm以下）中（0.6mm～1.0mm）多量	内外面：灰白10YR8/2	ヨコナデ	ヨコハケ，ナデ	口縁部：2/8	
20		Ⅳ-1区 第２層	土師質土器足釜	22			粗.雲母小（0.5mm以下）少量　赤色粒子中（0.6mm～1.0mm）少量　石英粒小（0.5mm以下）中（0.6mm～1.0mm）多量	内外面：灰白10YR8/2	タテハケ，ヨコナデ	タテハケ，ヨコナデ	口縁部：小破片	
21		Ⅳ-1区 第２層	土師質土器足釜	21			粗.赤色粒子小（0.5mm以下）微量　石英粒小（0.5mm以下）中（0.6mm～1.0mm）少量　長石粒小（0.5mm以下）微量	外面：灰黄褐10YR5/2 内面：浅黄橙10YR8/3	タテハケ，ナデ，ヨコナデ	ヨコハケ，ヨコナデ	口縁部：1/8	

挿図	図版	遺構名	器　種	口径	器高	底径	胎　　土	色　　調	外面調整	内面調整	残存率	備　考
22		Ⅳ-1区 第2層	土師質土器足釜	19			粗.石英粒中（0.6mm～1.0mm）大（1.1mm以上）少量	外面：灰黄2.5Y7/2 内面：灰白2.5Y8/2	ヨコナデ	ヨコハケ，ヨコナデ	口縁部：小破片	
23		Ⅳ-1区 第2層	土師質土器足釜	26			粗.赤色粒子中（0.6mm～1.0mm）少量　石英粒中（0.6mm～1.0mm）大（1.1mm以上）多量	外面：にぶい黄橙10YR7/3 内面：灰白10YR8/2	タテハケ，ナデ	ヨコハケ	口縁部：1/8	
24		Ⅳ-1区 第2層	土師質土器足釜	26			粗.赤色粒子中（0.6mm～1.0mm）少量　石英粒小（0.5mm以下）中（0.6mm～1.0mm）多量	内外面：灰白10YR（8/2）	タテハケ，ナデ	板ナデ	口縁部：1/8	
25		Ⅳ-1区 第2層	土師質土器足釜	23			粗.赤色粒子中（0.6mm～1.0mm）少量　石英粒小（0.5mm以下）中（0.6mm～1.0mm）多量	外面：にぶい黄橙10YR7/2 内面：にぶい橙7.5YR7/4	指押さえ，ヨコナデ，タテハケ	指押さえ，ヨコナデ，板ナデ	口縁部：小破片	
26		Ⅳ-1区 第2層	土師質土器足釜	24			粗.赤色粒子小（0.5mm以下）少量　石英粒小（0.5mm以下）中（0.6mm～1.0mm）多量	外面：浅黄橙7.5YR8/6 内面：淡黄2.5Y8/4	タテハケ，ヨコナデ	ヨコハケ，ヨコナデ	口縁部：小破片	
27		Ⅳ-1区 第2層	土師質土器鍋				粗.雲母小(0.5mm以下)少量　石英粒中(0.6mm～1.0mm）大（1.1mm以上）少量　長石粒中（0.6～mm～1.0mm）少量	外面：にぶい黄橙10YR7/3	ヨコナデ，指押さえ，ナデ	ナデ	口縁部：小破片	
28		Ⅳ-1区 第2層	土師質土器足釜				粗.雲母小(0.5mm以下)微量　石英粒小(0.5mm以下）中（0.6mm～1.0mm）多量	外面：にぶい黄橙10YR7/3 内面：灰黄2.5Y7/2	ヨコナデ，ナデ	ヨコハケ，ナデ	口縁部：小破片	
29		Ⅳ-1区 第2層	土師質土器足釜				やや粗.雲母小（0.5mm以下）少量　赤色粒子小（0.5mm以下）少量　石英粒小（0.5mm以下）中（0.6mm～1.0mm）多量	内外面：暗褐7.5YR3/3	タタキ，ハケ目		脚部：小破片	
30		Ⅳ-1区 第2層	土師質土器足釜				粗.雲母小（0.5mm以下）微量　赤色粒子中（0.6mm～1.0mm）少量　石英粒中（0.6mm～1.0mm）大（1.1mm以上）多量　長石粒小（0.5mm以下）少量	外面：黄灰2.5Y4/1 内面：灰白2.5Y8/2	指ナデ		脚部：小破片	
31		Ⅳ-1区 第2層	須恵質土器甕				精緻.石英粒小（0.5mm以下）微量	外面：灰N4/，内面：灰N6/	格子目タタキ	あて具痕	体部：小破片	
32		Ⅳ-1区 第2層	土師質土器擂鉢	31			粗.雲母中（0.6mm～1.0mm）少量　石英粒中（0.6mm～1.0mm）少量	内外面：オリーブ黒5Y3/1	ヨコナデ，指押さえ，ナデ	ヨコナデ，擂目，ナデ	口縁部：1/8	
33		Ⅳ-1区 第2層	備前焼擂鉢	25			粗.赤色粒子中（0.6mm～1.0mm）少量　石英粒中（0.6mm～1.0mm）大（1.1mm以上）多量	外面：にぶい赤褐5YR4/3 内面：褐灰5YR4/1	回転ナデ	回転ナデ，擂目	口縁部：小破片	
34		Ⅳ-1区 第2層	備前焼擂鉢				やや粗.石英粒大（1.1mm以上）少量　長石粒中（0.6mm～1.0mm）少量	外面：にぶい橙5YR6/4 内面：黄灰2.5Y5/1	ナデ，指押さえ	擂目，ヘラケズリ，ナデ	底部：小破片	
35		Ⅳ-1区 第2層	土師器甕	30			粗.雲母小(0.5mm以下)少量　石英粒中(0.6mm～1.0mm）大（1.1mm以上）多量　長石粒小（0.5mm以下）少量	外面：にぶい橙7.5YR7/4 内面：にぶい橙7.5YR7/3	タテハケ，ナデ，ヨコナデ	ヨコハケ，ナデ，指押さえ	口縁部：1/8	
36		Ⅳ-1区 第2層	土師質竈			28	精緻.雲母小（0.5mm以下）中（0.6mm～1.0mm）多量　石英粒小（0.5mm以下）少量　角閃石小（0.5mm以下）中（0.6mm～1.0mm）多量	内外面：にぶい黄橙10YR6/3	指押さえ，ナデ	ハケ目，ケズリ	口縁部：小破片	
37		Ⅳ-1区 第2層	土錘		4.5		粗.赤色粒子小(0.5mm以下)中(0.6mm～1.0mm）少量　石英粒小（0.5mm以下）少量	外面：橙5YR6/6	ナデ		完存	
38		Ⅳ-1区 SD04	土師質土器小皿	9.1	1.3	6	精緻.赤色粒子中（0.6mm～1.0mm）少量　石英粒小（0.5mm以下）中（0.6mm～1.0mm）少量	内外面：灰白10YR8/2	回転ナデ，回転ヘラ切り	回転ナデ	底部：1/8	
39		Ⅳ-1区 SD04	土師質土器杯	10	1.7	7.4	精緻.赤色粒子中（0.6mm～1.0mm）少量　石英粒小（0.5mm以下）少量	内外面：浅黄橙7.5YR8/4	回転ナデ，回転ヘラ切り	回転ナデ	底部：2/8	
40		Ⅳ-1区 SD04	土師質土器杯	11	2	7	精緻.赤色粒子小（0.5mm以下）微量　石英粒小（0.5mm以下）少量	内外面：浅黄橙10YR8/4	回転ナデ，回転ヘラ切り，ナデ	回転ナデ，ナデ	口縁部：1/8	
41		Ⅳ-1区 SD04	土師質土器杯			6.6	精緻.赤色粒子小（0.5mm以下）中（0.6mm～1.0mm）少量　石英粒小（0.5mm以下）微量	外面：浅黄橙7.5YR8/4 内面：浅黄橙10YR8/3	回転ナデ，回転ヘラ切り	回転ナデ	底部：1/8	

挿図	図版	遺構名	器　種	口径	器高	底径	胎　　土	色　　調	外面調整	内面調整	残存率	備　考
42		IV-1区 SD04	土師質土器足釜				やや粗.雲母中（0.6mm～1.0mm）少量　赤色粒子小（0.5mm以下）中（0.6mm～1.0mm）少量　石英粒小（0.5mm以下）中（0.6mm～1.0mm）少量	内外面：にぶい橙7.5YR6/4	指押さえ，ヨコナデ	指押さえ，ヨコナデ，板ナデ	口縁部：小破片	
43		IV-1区 SD02	土師質土器竈				粗.赤色粒子中（0.6mm～1.0mm）少量　石英粒中（0.6mm～1.0mm）大（1.1mm以上）多量　長石粒小（0.5mm以下）少量	内外面：にぶい黄橙10YR7/3	ハケ目		体部：小破片	
44		IV-1区 SD04	土師質土器小皿	8.1	1.5	5.7	精緻.赤色粒子小（0.5mm以下）少量　石英粒小（0.5mm以下）微量	内外面：浅黄橙7.5YR8/4	回転ナデ，回転ヘラ切り，ナデ	回転ナデ	口縁部：1/8	
45		IV-1区 SD04	土師質土器小皿	9.3	1.5	7	精緻.赤色粒子小（0.5mm以下）微量　石英粒小（0.5mm以下）少量	内外面：浅黄橙10YR8/3	回転ナデ，回転ヘラ切り	回転ナデ	口縁部：1/8	
46		IV-1区 SD04	土師質土器鉢				やや粗.石英粒小（0.5mm以下）中（0.6mm～1.0mm）少量	内外面：灰白5Y7/1	ヨコナデ	ヨコナデ	口縁部：小破片	
47		IV-1区 SD03	土師器甕				粗.赤色粒子中（0.6mm～1.0mm）大（1.1mm以上）多量　石英粒小（0.5mm以下）中（0.6mm～1.0mm）多量　長石粒中（0.6mm～1.0mm）少量	外面：灰黄褐10YR6/2 内面：にぶい黄橙10YR7/3	タテハケ	タテケズリ	把手部：破片	
48		IV-1区 SD05	土師質土器杯	10			精緻.赤色粒子中（0.6mm～1.0mm）少量　石英粒小（0.5mm以下）微量	内外面：橙5YR7/6	回転ナデ	回転ナデ	口縁部：小破片	
49		IV-1区 SD05	土師質土器杯				精緻.石英粒小（0.5mm以下）微量	外面：灰白10YR8/1 内面：にぶい橙7.5YR7/4	回転ナデ，回転ヘラ切り	回転ナデ	底部：小破片	
50		IV-1区 SD05	土師質土器椀				精緻.赤色粒子小（0.5mm以下）少量　石英粒小（0.5mm以下）少量	内外面：灰白10YR8/2	回転ナデ	回転ナデ	口縁部：小破片	
51		IV-1区 SD05	土師質土器鍋				やや粗.雲母中（0.6mm～1.0mm）少量　赤色粒子中（0.6mm～1.0mm）少量　石英粒小（0.5mm以下）中（0.6mm～1.0mm）多量	内外面：にぶい黄褐10YR5/3	ヨコナデ，指押さえ，ナデ	ヨコハケ	口縁部：小破片	
52	22	IV-1区 SX01	土師質土器杯	11	2.3	7	精緻.石英粒小（0.5mm以下）中（0.6mm～1.0mm）少量	外面：灰白10YR8/2 内面：橙5YR8/2	回転ナデ，回転ヘラ切り，板状圧痕，右廻り	回転ナデ	完存	
53	22	IV-1区 SX01	土師質土器杯	11	5	7	精緻.赤色粒子小（0.5mm以下）中（0.6mm～1.0mm）少量　石英粒小（0.5mm以下）少量　長石粒小（0.5mm以下）少量	外面：橙5YR8/2 内面：灰白7.5YR7/6	回転ナデ，回転ヘラ切り，板状圧痕，右廻り	回転ナデ	完存	
54	22	IV-1区 SX01	土師質土器杯	10	2	7	精緻.雲母中（0.6mm～1.0mm）少量　赤色粒子中（0.6mm～1.0mm）少量　石英粒小（0.5mm以下）中（0.6mm～1.0mm）少量	内外面：橙5YR7/6	回転ナデ，回転ヘラ切り，板状圧痕，右廻り	回転ナデ	完存	
55	22	IV-1区 SX01	土師質土器杯	11	2.2	7	精緻.赤色粒子小（0.5mm以下）中（0.6mm～1.0mm）少量　石英粒小（0.5mm以下）中（0.6mm～1.0mm）少量	外面：橙7.5YR6/6 内面：橙5YR6/6	回転ナデ，回転ヘラ切り，板状圧痕，右廻り	回転ナデ	完存	
56	23	IV-1区 SX01	土師質土器杯	10	2.1	6.9	精緻.赤色粒子中（0.6mm～1.0mm）大（1.1mm以上）少量　石英粒小（0.5mm以下）中（0.6mm～1.0mm）少量	内外面：橙5YR7/6	回転ナデ，回転ヘラ切り，板状圧痕	回転ナデ	完存	
57	23	IV-1区 SX01	土師質土器小皿	8.5	2.5	6.4	精緻.雲母小（0.5mm以下）少量　赤色粒子中（0.6mm～1.0mm）少量	内外面：にぶい橙7.5YR7/4	回転ナデ，回転ヘラ切り，板状圧痕，右廻り	回転ナデ	完存	
58	23	IV-1区 SX01	土師質土器小皿	8.6	1.5	6.2	やや精緻.赤色粒子小（0.5mm以下）少量　石英粒小（0.5mm以下）多量	外面：浅黄橙7.5YR8/4 内面：灰白2.5Y8/2	回転ナデ，回転ヘラ切り，板状圧痕，右廻り	回転ナデ	完存	

挿図	図版	遺構名	器　種	口径	器高	底径	胎　　土	色　　調	外面調整	内面調整	残存率	備　考
59	23	IV-1区 SX01	土師質土器小皿	8.2	1.6	6.2	精緻.雲母小（0.5mm以下）微量　赤色粒子小(0.5mm以下)中(0.6mm～1.0mm)少量　石英粒小（0.5mm以下）少量	内外面：灰白10YR8/2	回転ナデ，回転ヘラ切り，板状圧痕，右廻り	回転ナデ	完存	
60	24	IV-1区 SX01	土師質土器小皿	8.3	1.8	5.8	精緻.雲母小（0.5mm以下）少量　赤色粒子小（0.5mm以下）少量　石英粒小（0.5mm以下）少量	内外面：浅黄橙7.5YR8/4	回転ナデ，回転ヘラ切り，板状圧痕，右廻り	回転ナデ	完存	
61	24	IV-1区 SX01	土師質土器小皿	8.3	1.5	6	精緻.赤色粒子中（0.6mm～1.0mm）少量　石英粒小（0.5mm以下）少量	外面：浅黄橙7.5YR8/4 内面：にぶい黄橙5YR7/4	回転ナデ，回転ヘラ切り，板状圧痕，右廻り	回転ナデ	完存	
67		IV-1区 SB04 内 Pit2	須恵質土器捏鉢	26			やや粗.赤色粒子小（0.5mm以下）微量　石英粒小（0.5mm以下）中（0.6mm～1.0mm）少量	内外面：灰白2.5Y7/1	回転ナデ	回転ナデ	口縁部：小破片	
68		IV-1区 SB03 内 Pit5	土師質土器足釜				粗.赤色粒子中（0.6mm～1.0mm）少量　石英粒小（0.5mm以下）中（0.6mm～1.0mm）多量	内外面：浅黄橙10YR8/3	ヨコナデ，タテハケ，ナデ	ヨコハケ，ナデ	口縁部：小破片	
69		IV-1区 SK01	土師質土器杯	9.9			精緻.赤色粒子小（0.5mm以下）少量　石英粒小（0.5mm以下）少量	内外面：浅黄橙7.5YR8/6	回転ナデ	回転ナデ	口縁部：小破片	
70		IV-1区 SK02	土師質土器杯	9	1.8	6.2	精緻.赤色粒子中（0.6mm～1.0mm）少量　石英粒小（0.5mm以下）中（0.6mm～1.0mm）少量	内外面：灰白10YR8/2	回転ナデ，回転ヘラ切り	回転ナデ	底部：2/8	
71		IV-1区 SK02	土師質土器杯	9.4	2.3	5.8	精緻.赤色粒子中（0.6mm～1.0mm）大（1.1mm以上）少量　石英粒小(0.5mm以下)中(0.6mm～1.0mm）少量	外面：橙7.5YR7/6 内面：灰10YR8/2	回転ナデ，回転ヘラ切り，板状圧痕	ヨコナデ，回転ナデ	口縁部：3/8	
72		IV-1区 SP01	土師質土器足釜			27	粗.雲母中（0.6mm～1.0mm）少量　石英粒小（0.5mm以下）中（0.6mm～1.0mm）多量	内外面：灰褐7.5YR4/2	ヨコハケ，ナデ，格子目タタキ	タテハケ，ナデ	底部：1/8	
73		IV-1区 SP01	土師質土器小皿	6	0.8	5.1	精緻.赤色粒子大（1.1mm以上）微量　石英粒小（0.5mm以下）微量	内外面：にぶい橙7.5YR7/4	回転ナデ，回転ヘラ切り	回転ナデ	口縁部：小破片	
74		IV-1区 SP02	土師質土器鍋				粗.雲母小（0.5mm以下）少量　赤色粒子中（0.6mm～1.0mm）少量　石英粒中（0.6mm～1.0mm）大（1.1mm以上）多量　長石粒小（0.5mm以下）少量	外面：にぶい黄橙10YR7/3，灰黄2.5Y6/2	ハケ目，ナデ	ハケ目	底部：小破片	
75		IV-1区 SP02	土師質土器足釜				やや粗.雲母小（0.5mm以下）少量　赤色粒子中（0.6mm～1.0mm）少量　石英粒小（0.5mm以下）中（0.6mm～1.0mm）多量	外面：灰褐10YR4/1 内面：灰褐10YR5/1	ナデ，板ナデ	ナデ	鍔部：小破片	
76		IV-1区 SP03	土師質土器杯				精緻.雲母中（0.6mm～1.0mm）少量　赤色粒子中（0.6mm～1.0mm）少量　石英粒小（0.5mm以下）中（0.6mm～1.0mm）少量	内外面：にぶい黄褐10YR7/2	回転ナデ	回転ナデ	口縁部：小破片	
77		IV-1区 SP04	土師質土器杯	11	1.9	7.8	精緻.雲母中（0.6mm～1.0mm）多量　石英粒小（0.5mm以下）少量	内外面：にぶい橙7.5YR7/4	回転ナデ，回転ヘラ切り	回転ナデ	口縁部：2/8	
78		IV-1区 SP04	土師質土器杯			6.7	精緻.雲母小（0.5mm以下）少量　赤色粒子小（0.5mm以下）少量　石英粒小（0.5mm以下）中（0.6mm～1.0mm）少量	外面：にぶい黄橙10YR7/2 内面：褐灰10YR5/1	回転ナデ，回転ヘラ切り，板状圧痕，右廻り	回転ナデ	底部：4/8	
79		IV-1区 SP04	土師質土器杯	10	2.2	6	やや粗.赤色粒子小（0.5mm以下）少量　石英粒小（0.5mm以下）少量	外面：浅黄橙7.5YR8/4 内面：浅黄橙7.5YR8/3	回転ナデ，回転ヘラ切り，板状圧痕，右廻り	回転ナデ	完存	
80		IV-1区 SP05	中国産白磁椀IV類					内外面：灰白5Y7/2	回転ナデ，施釉（透明釉）	回転ナデ，施釉（透明釉）	口縁部：小破片	

挿図	図版	遺構名	器　種	口径	器高	底径	胎　　土	色　　調	外面調整	内面調整	残存率	備　考
81		Ⅳ-1区 SP06	土師質土器鍋	41			粗.雲母小（0.5mm以下）中（0.6mm～1.0mm）少量　石英粒小(0.5mm以下)中(0.6mm～1.0mm）多量　長石粒小（0.5mm以下）少量	内外面：暗赤褐5YR3/3	ヨコナデ，板ナデ，指押さえ後板ナデ	板ナデ，ヨコナデ	口縁部：1/8	
83		Ⅳ-1区 SD06	土師質土器杯			8	精緻.雲母小（0.5mm以下）微量　赤色粒子小（0.5mm以下）微量　石英粒小（0.5mm以下）少量	内外面：褐灰10YR6/1	回転ナデ，回転ヘラ切り	回転ナデ（マメツ）	底部：2/8	
84		Ⅳ-1区 SD06	土師質土器杯				やや精緻.雲母中（0.6mm～1.0mm）少量　赤色粒子中（0.6mm～1.0mm）少量　石英粒小（0.5mm以下）中（0.6mm～1.0mm）少量	外面：にぶい赤橙10R6/3 内面：明赤灰2.5YR7/1	回転ヘラ切り板状圧痕	ナデ	底部：小破片	
85		Ⅳ-1区 SD06	須恵器蓋				精緻.石英粒小（0.5mm以下）微量	外面：黄灰2.5Y6/1 内面：灰白2.5Y7/1	回転ナデ	回転ナデ	口縁部：小破片	
86		Ⅳ-1区 SD06	土師質土器足釜				やや粗.赤色粒子中（0.6mm～1.0mm）少量　石英粒小（0.5mm以下）中（0.6mm～1.0mm）多量　長石粒小（0.5mm以下）少量	外面：灰白10YR8/2 内面：浅黄橙7.5YR8/3	タテハケ，ヨコナデ，ナデ	ヨコハケ，ヨコナデ，ナデ	口縁部：小破片	
87		Ⅳ-1区 SD06	土師質土器足釜				粗.赤色粒子中（0.6mm～1.0mm）大（1.1mm以上）少量　石英粒小（0.5mm以下）中（0.6mm～1.0mm）多量	内外面：灰黄褐10YR5/2	ナデ	ナデ	脚部：小破片	
88		Ⅳ-1区 SD07	土師質土器杯	9.5	2.4	5.8	精緻.石英粒小（0.5mm以下）大（1.1mm以上）少量	外面：浅黄橙7.5YR8/3 内面：灰白7.5YR2/8	回転ナデ，ヘラ切り，ナデ，右廻り	回転ナデ	口縁部：2/8	
89		Ⅳ-1区 SD07	須恵器皿	13			精緻.石英粒小（0.5mm以下）微量	内外面：灰N6/	回転ナデ	回転ナデ	口縁部：1/8	
90		Ⅳ-1区 SD07	土師質土器足釜				やや粗.石英粒小（0.5mm以下）中（0.6mm～1.0mm）多量　長石粒中（0.6mm～1.0mm）少量	外面：浅黄橙10YR8/3 内面：にぶい黄橙10YR7/2	ヨコナデ	ヨコナデ	口縁部：小破片	
91		Ⅳ-1区 SD07	須恵器捏鉢				精緻.石英粒小（0.5mm以下）微量	内外面：灰白N7/	回転ナデ	回転ナデ	口縁部：小破片	
92		Ⅳ-1区 SP09	土師質土器杯	10	2.7	6.3	精緻.赤色粒子小（0.5mm以下）　石英粒小（0.5mm以下）大（1.1mm以上）少量	内外面：浅黄橙10YR8/3	回転ナデ，回転ヘラ切り，板ナデ，右廻り	回転ナデ	底部：2/8	
93		Ⅳ-1区 SP10	土師質土器杯	9.1	2.4	4.9	精緻.石英粒小（0.5mm以下）少量　長石粒小（0.5mm以下）微量	内外面：にぶい黄橙10YR7/3	回転ナデ，回転ヘラ切り，右廻り	回転ナデ	口縁部：1/8	
94		Ⅳ-1区 SP08	土師質土器鍋				粗.赤色粒子中（0.6mm～1.0mm）少量　石英粒中（0.6mm～1.0mm）大（1.1mm以上）多量　チャート中（0.6mm～1.0mm）少量	外面：黒褐7.5YR3/2 内面：橙5YR7/8	沈線1条，ナデ	マメツ	口縁部：小破片	
95		Ⅳ-1区 SP09	土師質土器足釜				やや精緻.赤色粒子中（0.6mm～1.0mm）少量　石英粒小（0.5mm以下）中（0.6mm～1.0mm）多量　長石粒小（0.5mm以下）少量	内外面：灰黄褐10YR5/2	ハケ，ナデ		脚部：小破片	
96		Ⅳ-1区 SP09	土師質土器足釜				粗.石英粒小（0.5mm以下）少量　長石粒小（0.5mm以下）少量	外面：にぶい褐7.5YR5/3	ナデ		脚部：小破片	
97	25	Ⅳ-1区 第3層	土師器甕	33			粗.赤色粒子中（0.6mm～1.0mm）大（1.1mm以上）多量　石英粒中（0.6mm～1.0mm）大（1.1mm以上）多量　長石粒中（0.6mm～1.0mm）少量	内外面：にぶい黄橙10YR7/3	指押さえ，ヨコナデ，ハケ目	指押さえ，ヘラケズリ，ヨコナデ	体部：2/8	
98		Ⅳ-1区 第3層	土師質土器足釜				粗.雲母小（0.5mm以下）少量　赤色粒子中（0.6mm～1.0mm）少量　石英粒小（0.5mm以下）中（0.6mm～1.0mm）多量	内外面：橙5YR7/6	指押さえ後ヨコナデ，マメツ，貼付け突帯	指押さえ後ヨコナデ，マメツ	口縁部：小破片	
99		Ⅳ-1区 第3層	須恵器甕				やや粗.石英粒小（0.5mm以下）中（0.6mm～1.0mm）多量	外面：灰N5/ 内面：灰N6/	タタキ	あて具痕，ナデ消し	底部：小破片	

挿図	図版	遺構名	器　種	口径	器高	底径	胎　　土	色　　調	外面調整	内面調整	残存率	備　考
100		Ⅳ-1区 第3層	須恵器壺			14	精緻.石英粒小（0.5mm以下）微量	内外面：灰白5Y7/1	マメツ	マメツ	底部：小破片	
101		Ⅳ-1区 第3層	須恵器壺				精緻.石英粒小（0.5mm以下）少量	内外面：灰白N7/	タタキ後カキ目	指ナデ，ヨコナデ	体部下半：3/8	
102		Ⅳ-1区 第6層	土師器甕				粗.赤色粒子小（0.5mm以下）微量　石英粒中（0.6mm～1.0mm）大（1.1mm以上）多量　長石粒小（0.5mm以下）少量	外面：橙5YR7/6 内面：橙2.5YR6/8	タテハケ，ナデ	タテケズリナデ	体部：小破片	
103		Ⅳ-1区 第6層	弥生土器高杯				やや粗.石英粒大（1.1mm以上）多量　長石粒中（0.6mm～1.0mm）少量	内外面：にぶい橙7.5YR7/4	タテハケ，タテミガキ	しぼり，ナデ	脚部：1/3	
104	25	Ⅳ-1区 SD09	須恵器無蓋高杯	12			精緻.石英粒小（0.5mm以下）中（0.6mm～1.0mm）少量	内外面：灰N6/	回転ヘラケズリ，ナデ	ナデ	杯部：2/3	
105	25	Ⅳ-1区 SD10	須恵器杯蓋	12	2.8		やや精緻.赤色粒子中（0.6mm～1.0mm）少量　石英粒中（0.6mm～1.0mm）少量	外面：灰N6/内面：灰N5/	回転ヘラケズリ，ヨコナデ	ヨコナデ，ナデ	全体：2/8	
106		Ⅳ-1区 低地帯第7層	弥生土器甕	15			やや粗.赤色粒子中（0.6mm～1.0mm）少量　石英粒中（0.6mm～1.0mm）大（1.1mm以上）多量	外面：にぶい橙7.5YR6/4 内面：浅黄橙10YR8/4	ヨコナデ	ヨコナデ，ナデ	口縁部：1/8	
107		Ⅳ-1区 低地帯第7層	弥生土器甕	19			やや粗.雲母小（0.5mm以下）少量　赤色粒子中（0.6mm～1.0mm）大（1.1mm以上）多量　石英粒中（0.6mm～1.0mm）大（1.1mm以上）多量	内外面：にぶい褐7.5YR5/4	タテハケ，ヨコナデ	ヨコケズリ	口縁部：小破片	
108		Ⅳ-1区 低地帯第7層	弥生土器甕	17			やや粗.雲母小（0.5mm以下）少量　赤色粒子中（0.6mm～1.0mm）大（1.1mm以上）多量　石英粒中（0.6mm～1.0mm）大（1.1mm以上）多量　長石粒小（0.5mm以下）少量	内外面：にぶい橙5YR6/4	ヨコナデ	ヨコナデ	口縁部：1/8	
109	25	Ⅳ-1区 低地帯第7層	弥生土器甕	17			やや粗.雲母小（0.5mm以下）少量　石英粒中（0.6mm～1.0mm）大（1.1mm以上）多量	外面：橙5YR7/5 内面：暗灰黄2.5YR5/2	ヨコナデ，タテハケ	ヨコナデ，タテケズリ	口縁部：1/8	
110		Ⅳ-1区 低地帯第7層	弥生土器甕	15			やや粗.雲母小（0.5mm以下）多量　赤色粒子中（0.6mm～1.0mm）少量　石英粒小（0.5mm以下）中（0.6mm～1.0mm）少量	内外面：橙7.5YR6/6	ヨコナデ，タテハケ	ヨコナデ，ナデ	口縁部：1/8	
111		Ⅳ-1区 低地帯第7層	弥生土器甕	15			やや粗.雲母小（0.5mm以下）多量　赤色粒子中（0.6mm～1.0mm）少量　石英粒小（0.5mm以下）中（0.6mm～1.0mm）少量	外面：橙7.5YR6.6 内面：にぶい黄橙10YR6/4	タテハケ？，ヨコナデ	タテケズリナデ，指押さえ	口縁部：1/8	
112		Ⅳ-1区 低地帯第7層	弥生土器甕	16			やや粗.雲母小（0.5mm以下）中（0.6mm～1.0mm）少量　石英粒小（0.5mm以下）中（0.6mm～1.0mm）少量	内外面：明褐7.5YR5/6	タテハケ，ヨコナデ	ヨコナデ，ナデ	口縁部：小破片	
113		Ⅳ-1区 低地帯第7層	弥生土器甕	15			やや粗.雲母小（0.5mm以下）中（0.6mm～1.0mm）多量　赤色粒子中（0.6mm～1.0mm）少量　石英粒中（0.6mm～1.0mm）大（1.1mm以上）多量	外面：にぶい黄橙10YR7/3 内面：明黄褐10YR6/6	タテハケ，ヨコナデ	ヨコケズリヨコナデ	口縁部：1/8	
114		Ⅳ-1区 低地帯第7層	弥生土器甕			8.4	やや粗.赤色粒子中（0.5mm～1.0mm）大（1.1mm以上）少量　石英粒中（0.6mm～1.0mm）大（1.1mm以上）多量　長石粒小（0.5mm以下）少量	外面：にぶい黄橙10YR6/3 内面：にぶい橙7.5YR6/4	タテミガキ	タテケズリ	底部：5/8	
115		Ⅳ-1区 低地帯第7層	弥生土器甕				やや粗.雲母小（0.5mm以下）中（0.6mm～1.0mm）多量　赤色粒子中（0.6mm～1.0mm）少量　石英粒中（0.6mm～1.0mm）大（1.1mm以上）多量	外面：にぶい黄褐10YR5/3 内面：にぶい黄橙10YR6/3	マメツ	指押さえ	底部：小破片	
116		Ⅳ-1区 低地帯第7層	弥生土器甕			8.6	粗.赤色粒子中（0.6mm～1.1mm）少量　石英粒中（0.6mm～1.0mm）大（1.1mm以上）多量	外面：にぶい黄橙10YR7/3 内面：にぶい橙7.5YR7/4	マメツ	マメツ	底部：6/8	
117		Ⅳ-1区 低地帯第7層	弥生土器甕			7.1	やや粗.赤色粒子中（0.6mm～1.0mm）少量　石英粒中（0.6mm～1.0mm）大（1.1mm以上）多量　長石粒小（0.5mm以下）少量	外面：橙7.5YR7/6 内面：黄灰2.5Y4/1	タテミガキ	タテケズリ	底部：7/8	

挿図	図版	遺構名	器　種	口径	器高	底径	胎　　土	色　　調	外面調整	内面調整	残存率	備　考
118		Ⅳ-1区 低地帯第7層	弥生土器甕			3.6	粗.雲母中（0.6mm～1.0mm）少量　石英粒中（0.6mm～1.0mm）大（1.1mm以上）多量	内外面：にぶい橙7.5YR6/4	タタキ，板ナデ	マメツ	底部：4/8	
119		Ⅳ-1区 低地帯第7層	弥生土器甕			2.2	やや粗.赤色粒子中（0.6mm～1.0mm）大（1.1mm以上）少量　石英粒中（0.6mm～1.0mm）大（1.1mm以上）多量　長石粒小（0.5mm以下）微量	外面：橙7.5YR7/6 内面：灰黄褐10YR5/2	ケズリ？	マメツ	底部：完存	
120		Ⅳ-1区 低地帯第7層	弥生土器甕			5	やや粗.雲母小（0.5mm以下）多量　赤色粒子小（0.5mm以下）微量　石英粒中（0.6mm～1.0mm）大（1.1mm以上）多量	外面：黒褐10YR3/1 内面：にぶい褐7.5YR5/4	指押さえ，タテミガキ	板ナデ？	底部：完存	
121		Ⅳ-1区 低地帯第7層	弥生土器高杯	22			精緻.雲母小（0.5mm以下）多量　赤色粒子中（0.6mm～1.0mm）少量　石英粒中（0.6mm～1.0mm）大（1.1mm以上）少量	外面：にぶい黄橙10YR7/4 内面：にぶい黄橙7.5YR6/4	タテ，ヨコミガキ	マメツ	杯部：1/8	
122		Ⅳ-1区 低地帯第7層	弥生土器高杯				やや粗.雲母小（0.5mm以下）多量　赤色粒子中（0.6mm～1.0mm）少量　石英粒中（0.6mm～1.0mm）大（1.1mm以上）多量　長石粒小（0.5mm以下）微量	内外面：橙7.5YR6/6	ヨコミガキ	マメツ	杯部：1/8	
123		Ⅳ-1区 低地帯第7層	弥生土器高杯				やや粗.赤色粒子中（0.6mm～1.0mm）大（1.1mm以上）少量　石英粒中（0.6mm～1.0mm）大(1.1mm以上)多量　長石粒中(0.6mm～1.0mm）少量	外面：灰黄褐10YR6/2 内面：にぶい褐7.5YR6/2	タテミガキ	マメツ	杯部接合部	
124		Ⅳ-1区 低地帯第7層	弥生土器高杯				やや粗.雲母小（0.5mm以下）少量　赤色粒子中（0.6mm～1.0mm）大（1.1mm以上）少量　石英粒中（0.6mm～1.0mm）大（1.1mm以上）少量	内外面：にぶい橙7.5YR6/4	分割ヘラミガキ	分割ヘラミガキ	杯部：小破片	
125		Ⅳ-1区 低地帯第7層	弥生土器高杯	26		17	赤色粒子小（0.5mm以下）微量　石英粒小（0.5mm以下）少量　角閃石小（0.5mm以下）多量	外面：にぶい黄橙10YR7/2 内面：にぶい黄橙7.5YR6/3	マメツ，ヨコナデ，穿孔1ケ所	指押さえ後ナデ，ヨコナデ，ヘラケズリ	杯部，脚部：2/8	
126		Ⅳ-1区 低地帯第7層	弥生土器高杯				やや粗.雲母小（0.5mm以下）多量　赤色粒子中（0.6mm～1.0mm）少量　石英粒中（0.6mm～1.0mm）大（1.1mm以上）少量	外面：明黄褐10YR6/6 内面：橙7.5YR6/6	マメツ	しぼり	脚部：4/8	
127		Ⅳ-1区 低地帯第7層	弥生土器高杯				やや粗.赤色粒子中（0.6mm～1.0mm）大（1.1mm以上）多量　石英粒中（0.6mm～1.0mm）大（1.1mm以上）多量	内外面：橙7.5YR6/6	タテミガキ	しぼり，ケズリ	杯部接合部：4/8	
128		Ⅳ-1区 低地帯第7層	弥生土器高杯				やや粗.雲母小（0.5mm以下）多量　赤色粒子中（0.6mm～1.0mm）大（1.1mm以上）少量　石英粒中（0.6mm～1.0mm）大（1.1mm以上）少量	内外面：明赤褐5Y5/6	タテハケ？，ナデ	しぼり	脚部上半：3/4	
129		Ⅳ-1区 低地帯第7層	弥生土器高杯				精緻.雲母中（0.6mm～1.0mm）少量　赤色粒子中（0.6mm～1.0mm）微量　石英粒小（0.5mm以下）中（0.6mm～1.0mm）少量	内外面：橙5YR6/6	マメツ	しぼり	杯部：小破片	
130		Ⅳ-1区 低地帯第7層	弥生土器高杯				やや粗.雲母小（0.5mm以下）多量　赤色粒子中（0.6mm～1.0mm）大（1.1mm以上）少量　石英粒中（0.6mm～1.0mm）大（1.1mm以上）多量	外面：にぶい橙7.5YR6/4 内面：褐7.5YR4/3	タテミガキ	ヨコケズリ	脚部：小破片	
131		Ⅳ-1区 低地帯第7層	弥生土器高杯			15	精緻.赤色粒子小（0.5mm以下）少量　石英粒小（0.5mm以下）中（0.6mm～1.0mm）少量	外面：にぶい橙5YR6/4 内面：橙5YR6/5	マメツ	マメツ	脚部：2/8	
132		Ⅳ-1区 低地帯第7層	弥生土器高杯			14	やや粗.雲母小（0.5mm以下）少量　石英粒中(0.6mm～1.0mm)大(1.1mm以上)多量　長石粒小（0.5mm以下）少量	内外面：にぶい褐7.5YR6/3	ヨコミガキ	ヨコケズリ	脚部：2/8	
133	25	Ⅳ-1区 低地帯第7層	弥生土器鉢	38			やや粗.雲母中（0.6mm～1.0mm）少量　赤色粒子大（1.1mm以上）少量　石英粒中（0.6mm～1.0mm）大（1.1mm以上）多量	外面：にぶい橙5YR6/4 内面：橙5YR7/4	ナデ，マメツ	ナデ，ハケ目，タテミガキ	口縁部：1/8	

挿図	図版	遺構名	器　種	口径	器高	底径	胎　　土	色　　調	外面調整	内面調整	残存率	備　考
134	25	Ⅳ-1区 低地帯第7層	弥生土器鉢	33			粗.雲母中（0.6mm～1.0mm）少量　赤色粒子中（0.6mm～1.0mm）大（1.1mm以上）少量　石英粒中（0.6mm～1.0mm）大（1.1mm以上）多量	外面：にぶい橙7.5YR7/4 内面：にぶい橙7.5YR7/4	ヨコナデ，ミガキ	タテハケ，ミガキ？ヨコナデ	口縁部：1/8	
143	26	Ⅴ-1区 SK01	大甕					外面：暗灰灰10YR4/1 内面：灰赤10YR4/2		ナデ，あて具痕	体部：小破片	
144		Ⅴ-1区 SK01	土師質土器大甕	65			粗.　石英粒大（1.1mm以上）中（0.6mm～1.0mm）多量　長石粒小（0.5mm以下）少量	内外面：橙7.5YR6/6	板ナデ，ナデ	板ナデ	口縁部，体部：1/10	
145	26	Ⅴ-1区 SP40	土師質土器小皿	7.2	1.2	4.2	精緻.雲母小（0.5mm以下）微量　石英粒小（0.5mm以下）微量	内外面：にぶい橙7.5YR7/4	回転ナデ，静止糸切り	回転ナデ	口縁部：3/8	
146	26	Ⅴ-1区 SP40	土師質土器小皿	6.7	1.3	4.2	精緻.赤色粒子中（0.6mm～1.0mm）少量　石英粒小（0.5mm以下）微量	内外面：にぶい橙7.5YR6/4	回転ナデ，静止糸切り	回転ナデ	全体：7/8	
147	26	Ⅴ-1区 SP40	土師質土器小皿	6.5	1.4	4.7	精緻.赤色粒子小（0.5mm以下）微量　石英粒小（0.5mm以下）微量	内外面：浅黄橙7.5YR8/4	指押さえ，ナデ，回転ナデ，静止糸切り	指押さえ，回転ナデ	口縁部：5/8	
148	26	Ⅴ-1区 SP40	土師質土器小皿	6.4	1.4	4.2	精緻.赤色粒子小（0.5mm以下）微量　石英粒小（0.5mm以下）微量	内外面：灰7.5YR8/2	回転ナデ，静止糸切り	回転ナデ	完存	
149	27	Ⅴ-1区 SP40	土師質土器小皿	6.5	1.5	4.1	精緻.赤色粒子小（0.5mm以下）少量　石英粒小（0.5mm以下）少量	内外面：橙7.5YR7/6	回転ナデ，静止糸切り	回転ナデ	完存	
150	27	Ⅴ-1区 SP40	土師質土器小皿	6.6	1.3	4.3	精緻.赤色粒子小（0.5mm以下）少量　石英粒小（0.5mm以下）少量	内外面：黄橙7.5YR7/8	静止糸切り，回転ナデ	回転ナデ	全体：7/8	
151	27	Ⅴ-1区 SP40	土師質土器小皿	7	1.6	4.5	精緻.赤色粒子中（0.6mm～1.0mm）少量　石英粒小（0.5mm以下）少量	内外面：灰10YR8/2	静止糸切り，回転ナデ	回転ナデ	全体：7/8	
152	27	Ⅴ-1区 SP40	土師質土器小皿	7.3	1.5	4.8	精緻.雲母小（0.5mm以下）少量　赤色粒子中（0.6mm～1.0mm）少量　石英粒小（0.5mm以下）少量	内外面：浅黄橙10YR8/3	静止糸切り，回転ナデ	回転ナデ	完存	
153		Ⅴ-1区 SP40	粘土塊				粗.すさ中（0.6mm～1.0mm）少量　石英大（1.1mm以上）中（0.6mm～1.0mm）多量　長石粒小（0.5mm以下）少量	外面：灰黄褐10YR5/2 内面：にぶい黄橙10YR7/3	マメツ	マメツ		
154		Ⅴ-1区 低地帯第5層	須恵器杯蓋	17			精緻.赤色粒子小（0.5mm以下）微量　石英粒小（0.5mm以下）少量	内外面：灰N6/0	ヨコナデ	ヨコナデ	口縁部：1/8	
155		Ⅴ-1区 低地帯第5層	須恵器杯蓋				精緻.赤色粒子小（0.5mm以下）微量　石英粒小（0.5mm以下）微量	外面：灰N6/ 内面：灰白N7/	ヨコナデ	ヨコナデ	体部：小破片	
156		Ⅴ-1区 低地帯第5層	須恵器杯蓋	20			やや精緻.石英粒中（0.6mm～1.0mm）小（0.5mm以下）少量	内外面：灰N6/	ヨコナデ	ヨコナデ	口縁部：1/12	
157		Ⅴ-1区 低地帯第5層	須恵器杯身			17	精緻.雲母小（0.5mm以下）少量　赤色粒子小（0.5mm以下）少量	外面：灰褐5YR5/2 内面：灰5Y5/1	回転ヘラケズリ，回転ナデ	回転ナデ	底部：1/8	
158		Ⅴ-1区 低地帯第5層	須恵器杯身			9	やや粗.赤色粒子小（0.5mm以下）微量　石英粒小（0.5mm以下）少量	外面：灰7.5Y6/1 内面：灰7.5Y6/1	回転ナデ，底部：ヘラケズリ	回転ナデ，ナデ	底部：3/8	
159		Ⅴ-1区 低地帯第5層	須恵器杯身			13	精緻.赤色粒子小（0.5mm以下）少量　石英粒小（0.5mm以下）少量	外面：黄灰2.5Y6/1 内面：灰白N7/	回転ナデ，貼付高台，底部：ケズリ，ナデ	回転ナデ	底部：2/8	
160		Ⅴ-1区 低地帯第5層	須恵器杯身			11	精緻.赤色粒子小（0.5mm以下）少量　石英粒小（0.5mm以下）少量　長石粒小（0.5mm以下）少量	内外面：灰白5Y7/1	回転ナデ，板ナデ	回転ナデ	底部：1/8	
161		Ⅴ-1区 低地帯第5層	須恵器杯身			10	精緻.石英小（0.5mm以下）少量　長石小（0.5mm以下）微量	外面：浅黄2.5Y7/3 内面：灰黄2.5Y7/2	回転ナデ，ヘラミガキ	回転ナデ	底部：1/8	

挿図	図版	遺構名	器　種	口径	器高	底径	胎　　土	色　　調	外面調整	内面調整	残存率	備　考
162		V-1区 低地帯第5層	須恵器皿	18			精緻.石英粒大(1.1mm以上)中(0.6mm～1.0mm)少量	内外面：灰2.5Y7/1	回転ナデ	回転ナデ	口縁部：小破片	
163		V-1区 低地帯第5層	須恵器皿	19	2.6	16	精緻.赤色粒子小(0.5mm以下)微量　石英粒小(0.5mm以下)少量	内外面：灰N6/	ヨコナデ，板ナデ？，ハケ目？	ヨコナデ	口縁部：小破片	
164		V-1区 低地帯第5層	須恵器皿	20	1.9	11	やや精緻.赤色粒子小(0.5mm以下)少量　石英粒中(0.6mm～1.0mm)小(0.5mm以下)少量	内外面：灰N6/0	ヨコナデ	ヨコナデ	口縁部：小破片	
165		V-1区 低地帯第5層	須恵器杯身	11			精緻.石英粒小(0.5mm以下)少量	内外面：灰白N7/1	回転ナデ	回転ナデ	口縁部：1/8	
166		V-1区 低地帯第5層	須恵器杯身	13			精緻.雲母小(0.5mm以下)微量　石英粒小(0.5mm以下)微量	内外面：灰白N8/	ヨコナデ	ヨコナデ	口縁部：1/6	
167		V-1区 低地帯第5層	須恵器杯身			7.8	やや精緻.赤色粒子中(0.6mm～1.0mm)少量　石英粒小(0.5mm以下)少量	内外面：灰N6/0	回転ナデ	回転ナデ，ナデ	底部：1/8	
168		V-1区 低地帯第5層	須恵器杯身			5.6	精緻.赤色粒子小(0.5mm以下)少量　石英粒小(0.5mm以下)微量	内外面：灰N6/	回転ナデ，底部：ヘラケズリ	回転ナデ，ナデ	底部：1/2	
169		V-1区 低地帯第5層	須恵器大甕				精緻.石英粒小(0.5mm以下)少量	内外面：青灰5PB6/	波状文2帯(3本)	板ナデ	体部：小破片	
170		V-1区 低地帯第5層	須恵器高杯			8.9	精緻.赤色粒子小(0.5mm以下)微量　石英粒中(0.6mm～1.0mm)小(0.5mm以下)少量　長石粒小(0.5mm以下)少量	内外面：灰白N8/	ヨコナデ	しぼり，ヨコナデ	脚部：3/8	
171		V-1区 低地帯第5層	土師器杯			19	精緻.雲母小(0.5mm以下)少量　赤色粒子小(0.5mm以下)少量　石英粒小(0.5mm以下)少量	内外面：にぶい黄橙10YR7/4	ケズリ，ヨコミガキ	ヨコミガキ，暗文	底部：2/8	
172		V-1区 低地帯第5層	土師器杯	13			やや粗.赤色粒子中(0.6mm～1.0mm)少量　石英粒中(0.6mm～1.0mm)小(0.5mm以下)少量	外面：橙7.5Y7/6 内面：橙5YR7/8	ヨコミガキ？	タテミガキ？	口縁部：1/8	
173		V-1区 低地帯第5層	土師器甕	27			粗.雲母小(0.5mm以下)少量　赤色粒子小(0.5mm以下)少量　石英粒大(1.1mm以上)中(0.6mm～1.0mm)多量	外面：にぶい黄橙10YR7/4，にぶい橙7.5YR6/4	指押さえ，ヨコナデ，板ナデ，タテハケ，沈線1条	指押さえ，ヨコナデ，マメツ	口縁部：1/8	
174		V-1区 低地帯第5層	土師器甕とって				粗.赤色粒子中(0.6mm～1.0mm)大(1.1mm以上)多量　石英粒大(1.1mm以上)中(0.6mm～1.0mm)多量	外面：浅黄橙10YR8/3 内面：浅黄橙7.5YR8/4	指押さえ，ナデ，板ナデ	指押さえ，板ナデ	把手部：破片	
175		V-1区 低地帯第5層	土師器甕とって				やや粗.雲母小(0.5mm以下)少量　赤色粒子中(0.6mm～1.0mm)少量　石英粒小(0.5mm以下)多量　長石粒小(0.5mm以下)少量	外面：橙5YR6/6 内面：にぶい黄橙10YR7/3	ハケ目，指圧痕	ナデ	把手部：破片	
176		V-1区 低地帯第5層	土師質竈				やや粗.雲母小(0.5mm以下)多量　石英粒小(0.5mm以下)多量　長石粒小(0.5mm以下)少量	外面：褐7.5YR4/3 内面：褐灰10YR4/1	ハケ目，指押さえ	板ナデ	体部：小破片	
177		V-1区 低地帯第5層	弥生土器高杯				やや粗.石英粒中(0.6mm～1.0mm)小(0.5mm以下)少量	内外面：橙5YR7/6	マメツ，不明	マメツ，不明	脚部：小破片	
178		V-1区 第2層	須恵器杯身				やや粗.赤色粒子小(0.5mm以下)中(0.6mm～1.0mm)少量　石英粒中(0.6mm～1.0mm)少量	内外面：灰N6/0	回転ナデ	回転ナデ	口縁部：小破片	
179		V-1区 SX02	粘土塊				やや粗.石英粒大(1.1mm以上)中(0.6mm～1.0mm)多量	内外面：黄橙10YR8/6	部分的に凹面をとどめる			
180		V-1区 SX02	粘土塊				粗.石英粒大(1.1mm以上)中(0.6mm～1.0mm)多量	内外面：橙7.5YR7.6，浅黄橙10YR8/4	一部に凹面をもつ			
181		V-1区 SX02	粘土塊				粗.石英粒大(1.1mm以上)中(0.6mm～1.0mm)多量	内外面：浅黄橙7.5YR8/6	全体的にマメツが著しい			

挿図	図版	遺構名	器　種	口径	器高	底径	胎　　土	色　　調	外面調整	内面調整	残存率	備　考
182		V-1区 SX02	粘土塊				やや粗.石英粒大（1.1mm以上）中（0.6mm～1.0mm）多量	内外面：灰10YR7/1，褐灰10YR4/1，にぶい黄橙10YR7/3	全体的にマメツが著しい			
183	27	V-1区 SX02	粘土塊				粗.石英粒大（1.1mm以上）中（0.6mm～1.0mm）多量	内外面：黄橙10YR8/6	全体的に摩滅している			
184		V-1区 SX02	粘土塊				粗.石英粒大（1.1mm以上）中（0.6mm～1.0mm）多量	内外面：淡黄2.5Y8/4	一部に凹面をもつ			
185		V-1区 SX02	粘土塊				やや粗.石英粒大（1.1mm以上）中（0.6mm～1.0mm）多量　赤色粒子大（1.1mm以上）小（0.5mm以下）少量	内外面：橙7.5YR7/6，灰黄褐10YR5/2	一部に凹面をとどめる			
186		V-1区 SD12	須恵器杯蓋	15			やや粗.石英粒大（1.1mm以上）中（0.6mm～1.0mm）少量	内外面：黄灰2.5Y6/1	回転ナデ	回転ナデ	口縁部：小破片	
187		V-1区 SD12	須恵器杯身				精緻.雲母小（0.5mm以下）微量　石英粒中（0.6mm～1.0mm）小（0.5mm以下）少量	外面：灰N6/0 内面：灰白5Y7/1	回転ナデ，ナデ	ナデ	体部：2/8	
188		V-1区 SD12	弥生土器壺	17			やや粗.雲母小（0.5mm以下）多量　赤色粒子中（0.6mm～1.0mm）少量　石英粒中（0.6mm～1.0mm）小（0.5mm以下）少量	内外面：にぶい橙7.5YR6.4	3条凹線	マメツ	口縁部：1/8	
189		V区 SR01 上層	須恵器蓋	13			やや粗.石英粒大（1.1mm以上）中（0.6mm～1.0mm）多量　長石粒小（0.5mm以下）少量	外面：灰10Y6/1 内面：灰N6/0	回転ナデ	回転ナデ	口縁部：1/8	
190		V区 SR01 上層	須恵器蓋	16			やや粗.石英粒小（0.5mm以下）少量　長石粒小（0.5mm以下）微量	外面：灰N5/ 内面：灰N6/	ヘラケズリ，ヨコナデ	ヨコナデ，ナデ	口縁部：小破片	
191		V区 SR01 上層	須恵器杯			13	やや粗.赤色粒子小（0.5mm以下）中（0.6mm～1.0mm）少量　石英粒中（0.6mm～1.0mm）小（0.5mm以下）少量	内外面：灰白N8/	回転ヘラケズリ，回転ナデ	回転ナデ	底部：1/8	
192		V区 SR01 上層	須恵器杯			11	精緻.石英粒小（0.5mm以下）少量	外面：灰白N7/ 内面：灰N6/	ヘラケズリ，ナデ	ナデ	底部：1/8	
193		V区 SR01 上層	須恵器杯			12	精緻.石英粒小（0.5mm以下）微量	内外面：灰白N7/1	回転ナデ	回転ナデ	高台部：小破片	
194		V区 SR01 上層	須恵器蓋				精緻.赤色粒子小（0.5mm以下）微量　石英粒小（0.5mm以下）少量　長石粒小（0.5mm以下）微量	内外面：灰白N7/	ヨコナデ	ヨコナデ	口縁部：小破片	
195		V区 SR01 上層	須恵器杯	15			精緻.雲母小（0.5mm以下）微量　赤色粒子小（0.5mm以下）微量　石英粒小（0.5mm以下）少量	外面：灰N5/ 内面：灰白7.5Y7/1	回転ナデ	回転ナデ	口縁部：小破片	
196		V区 SR01 上層	須恵器杯	14	3.6	9.8	精緻.石英粒小（0.5mm以下）少量	内外面：灰白N7/1	回転ナデ，ヘラケズリ	回転ナデ	口縁部：1/8	
197		V区 SR01 上層	土師器高杯			13	精緻.赤色粒子小（0.5mm以下）少量　石英粒小（0.5mm以下）微量	外面：橙7.5YR7/6 内面：橙5YR7/6	ヨコナデ	ヨコナデ	脚部：1/8	
198		V区 SR01 上層	須恵器甕				やや粗.赤色粒子中（0.6mm～1.0mm）少量　石英粒小（0.5mm以下）少量	内外面：灰N7/	ヨコナデ，波状文	ヨコナデ	口縁部：小破片	
199		V区 SR01 上層	須恵器高杯				やや粗.雲母小（0.5mm以下）少量　石英粒大（1.1mm以上）中（0.6mm～1.0mm）多量	外面：灰N6/ 内面：灰白N7/	ヨコナデ，ナデ	ヨコナデ	脚部上半：完存	
200		V区 SR01 上層	須恵器壺				精緻.石英粒中（0.6mm～1.0mm）小（0.5mm以下）少量	内外面：灰白N7/0	回転ナデ	回転ナデ	体部：小破片	
201		V区 SR01 上層	須恵器壺				精緻.赤色粒子小（0.5mm以下）微量　石英粒小（0.5mm以下）中（0.6mm～1.0mm）少量	内外面：灰白N7/	回転ナデ，ヘラケズリ	回転ナデ，指ナデ	体部：小破片	
202		V区 SR01 上層	土師器杯	21	2.6		精緻.赤色粒子中（0.6mm～1.0mm）少量　石英粒小（0.5mm以下）微量	内外面：浅黄橙10YR8/3	回転ナデ，ヘラケズリ後ヘラミガキ	回転ナデ，ヘラミガキ	口縁部：小破片	

挿図	図版	遺構名	器　種	口径	器高	底径	胎　　土	色　　調	外面調整	内面調整	残存率	備　考
203		V区 SR01 上層	土師器甕				粗.雲母小（0.5mm以下）中（0.6mm～1.0mm）多量　赤色粒子大（1.1mm以上）少量	内外面：にぶい黄橙10YR7/2	指押さえ，ナデ，ハケ目，ヨコナデ	指押さえ，ナデ，ハケ目，ヨコナデ	口縁部：小破片	
204		V区 SR01 上層	土師器甕				粗.赤色粒子中（0.6mm～1.0mm）少量　石英粒小（0.5mm以下）中（0.6mm～1.0mm）多量	外面：にぶい橙7.5YR7/4 内面：明赤褐2.5YR5/6	タテハケ，ヨコナデ	ヨコハケ，ヨコナデ	口縁部：小破片	
205		V区 SR01 上層	土師器甕				粗.雲母小（0.5mm以下）少量　赤色粒子中（0.6mm～1.0mm）少量　石英粒中（0.6mm～1.0mm）大（1.1mm以上）多量　長石粒中（0.6mm～1.0mm）少量	外面：にぶい橙7.5YR7/4 内面：灰褐7.5YR5/2	ヨコナデ	ヨコハケ，ヨコナデ	口縁部：小破片	
206		V区 SR01 上層	須恵器大甕				やや粗.石英粒大（1.1mm以上）中（0.6mm～1.0mm）少量	内外面：黄灰2.5Y4/1	タタキ，カキ目	あて具痕	体部：小破片	
207		V区 SR01 上層	須恵器大甕	20			やや粗.雲母小（0.5mm以下）少量　石英粒小（0.5mm以下）中（0.6mm～1.0mm）少量	内外面：灰白7/0	回転ナデ，タタキ，カキ目，ナデ	ナデ，あて具痕	口縁部，体部：小破片	
208		V区 SR01 下層	弥生土器甕	15			粗.雲母小（0.5mm以下）少量　赤色粒子中（0.6mm～1.0mm）大（1.1mm以上）少量　石英粒中（0.6mm～1.0mm）大（1.1mm以上）多量	内外面：橙7.5YR6/6	ヨコナデ	ヨコナデ，ナデ	口縁部：1/8	
209		V区 SR01 下層	弥生土器甕				やや粗.赤色粒子小（0.5mm以下）微量　石英粒小（0.5mm以下）中（0.6mm～1.0mm）少量　長石粒小（0.5mm以下）少量	外面：にぶい黄橙10YR7/4 内面：にぶい橙7.5YR7/4	ヨコナデ	ヨコナデ	口縁部：小破片	
210	28	V区 SR01 下層	弥生土器甕	15			粗.雲母小（0.5mm以下）少量　赤色粒子中（0.6mm～1.0mm）少量　石英粒中（0.6mm～1.0mm）大（1.1mm以上）多量	外面：にぶい橙7.5YR7/4 内面：灰白7.5YR8/2	タタキ，ヨコナデ	ナデ	口縁部：1/4	
211	28	V区 SR01 下層	弥生土器支脚			7	粗.雲母中（0.6mm～1.0mm）多量　赤色粒子中（0.6mm～1.0mm）大（1.1mm以上）少量　石英粒中（0.6mm～1.0mm）大（1.1mm以上）多量	外面：にぶい橙7.5YR6/4 内面：橙2.5YR6/6	ナデ，指押さえ，タテハケ	しぼり，ナデ	底部：2/8	
212		V区 SR01 下層	弥生土器甕			4.1	粗.赤色粒子中（0.6mm～1.0mm）少量　石英粒小（0.5mm以下）中（0.6mm～1.0mm）多量　長石粒中（0.6mm～1.0mm）多量	外面：浅黄橙10YR8/3 内面：灰白2.5Y7/1	ナデ	マメツ	底部：4/8	
213		V区 SR01 下層	弥生土器甕			2.9	粗.雲母小（0.5mm以下）多量，赤色粒子中（0.6mm～1.0mm）少量　石英粒中（0.6mm～1.0mm）大（1.1mm以上）多量　長石粒小（0.5mm以下）少量	内外面：にぶい黄橙10YR6/4	マメツ，指押さえ	ヨコハケ	底部：完存	
214		V区 SR01 下層	弥生土器甕			10	粗.雲母小（0.5mm以下）多量　赤色粒子中（0.6mm～1.0mm）少量　石英粒中（0.6mm～1.0mm）大（1.1mm以上）多量	外面：浅黄2.5YR7/3 内面：にぶい橙7.5YR6/4	ミガキ？	ヘラケズリ	底部：5/8	
226	29	V区 第4層	縄文土器浅鉢	32			粗.赤色粒子小（0.5mm以下）中（0.6mm～1.0mm）少量　石英粒大（1.1mm以上）中（0.6mm～1.0mm）小（0.5mm以下）多量　長石粒中（0.6mm～1.0mm）小（0.5mm以下）少量	外面：灰黄褐10YR5/2 内面：暗灰黄2.5Y5/2	植物質センイによる条痕，ヨコミガキ	指ナデ？，ナデ	口縁部，体部：小破片	
227		V-2区 SH01	須恵器壺				精緻.石英粒中（0.6mm～1.0mm）小（0.5mm以下）少量	内外面：灰N6/	ヨコナデ，自然釉	ナデ	肩部：小破片	
228	29	V-2区 SH01	飯蛸壺				やや粗.赤色粒子中（0.6mm～1.0mm）少量　石英粒中（0.6mm～1.0mm）小（0.5mm以下）少量　長石粒小（0.5mm以下）少量	内外面：浅黄橙10YR8/3	指押さえ，ナデ，穿孔		吊り手部：完存	
229	29	V-2区 SH01	飯蛸壺	3.8	8.7		粗.赤色粒子中（0.6mm～1.0mm）少量　石英粒中（0.6mm～1.0mm）小（0.5mm以下）多量	外面：橙5YR6/6 内面：橙5YR6/8	ナデ，ヘラ記号	指押さえ	完存	
231		VI-1区 第2層	須恵器擂鉢	26			やや粗.雲母小（0.5mm以下）少量　赤色粒子小（0.5mm以下）少量　石英粒中（0.5mm以下）少量　長石粒小（0.5mm以下）微量	内外面：灰N6/	指押さえ，ナデ，ヨコナデ	指押さえ，ナデ，ヨコナデ，擂目	口縁部：1/8	

挿図	図版	遺構名	器　種	口径	器高	底径	胎　　土	色　　調	外面調整	内面調整	残存率	備　考
232		VI-1区 第2層	土師質土器小皿	9	1.8	4.5	やや粗.雲母小（0.5mm以下）少量　赤色粒子小（0.5mm以下）中（0.6mm～1.0mm）少量　石英粒小（0.5mm以下）少量	内外面：橙5YR7/6	回転ナデ，底部：回転ヘラ切り？	回転ナデ	口縁部：1/8	
233	30	VI-1区 攪乱土	土師質土器竈	35	34	39	粗.石英粒大（1.1mm以上）中（0.6mm～1.0mm）多量	外面：にぶい黄橙10YR6/4 内面：黒褐10YR3/1	ヨコハケ，ナデ	ヨコハケ，ナデ	ほぼ完存	
234	30	VI-1区 攪乱土	土師質土器竈	31	33	37	粗.赤色粒子中（0.6mm～1.0mm）多量　石英粒大（1.1mm以上）中（0.6mm～1.0mm）多量	外面：橙5YR6/6 内面：にぶい赤褐5YR4/3	ヨコハケ，ナデ	ヨコハケ，ナデ	全体：7/8	
235		VI-1区 SK21	須恵器杯			7.2	精緻.赤色粒子小（0.5mm以下）微量　石英粒小（0.5mm以下）微量	外面：灰白2.5Y8/1 内面：灰N6/	ナデ，回転ヘラ切り	ナデ	底部：1/8	
236		VI-1区 SK21	須恵器杯			8.4	精緻.赤色粒子小（0.5mm以下）少量　石英粒小（0.5mm以下）少量	内外面：灰白N8/	回転ナデ，回転ヘラ切り	回転ナデ	底部：小破片	
237		VI-1区 SK21	須恵器皿			8.4	精緻.雲母小（0.5mm以下）少量　赤色粒子小（0.5mm以下）微量　石英粒小（0.5mm以下）少量	内外面：灰白2.5Y7/1	回転ナデ，底部：回転ヘラ切り	回転ナデ	底部：1/8	
238		VI-1区 SK21	須恵器皿	13	1.6	8.7	精緻.赤色粒子小（0.5mm以下）微量　石英粒小（0.5mm以下）微量	内外面：灰白5Y7/1	回転ナデ，底部：回転ヘラ切り右廻り	回転ナデ，火だすき	口縁部：1/8	
239		VI-1区 SK21	須恵器椀	14			精緻.赤色粒子小（0.5mm以下）少量　石英粒中（0.6mm～1.0mm）小（0.5mm以下）少量	内外面：灰N5/	回転ナデ，火だすき	回転ナデ	口縁部：小破片	
240		VI-1区 SK21	須恵器杯			7.6	やや粗.赤色粒子中（0.6mm～1.0mm）少量　石英粒大（1.1mm以上）中（0.6mm～1.0mm）多量	内外面：灰N7/	回転ナデ，底部：回転ヘラ切り右廻り	回転ナデ	底部：2/8	
241	30	VI-1区 SK21	須恵器杯	14			精緻.赤色粒子小（0.5mm以下）微量　石英粒小（0.5mm以下）少量	外面：灰黄2.5Y7/2 内面：灰白2.5Y7/1	回転ナデ，火だすき	回転ナデ，火だすき	口縁部：1/8	
242		VI-1区 SK21	須恵器杯	11			精緻.赤色粒子小（0.5mm以下）微量　石英粒小（0.5mm以下）微量	外面：灰白5Y8/1 内面：灰白2.5Y7/1	回転ナデ	回転ナデ	口縁部：小破片	
243		VI-1区 SK21	須恵器杯				精緻.雲母小（0.5mm以下）微量　赤色粒子小（0.5mm以下）微量　石英粒小（0.5mm以下）微量	内外面：灰N4/	回転ナデ	回転ナデ	底部：小破片	
244		VI-1区 SK21	須恵器壺				精緻.石英粒小（0.5mm以下）中（0.6mm～1.0mm）少量	外面：暗灰N3/ 内面：灰N4/	回転ナデ	回転ナデ	肩部：小破片	
245		VI-1区 SK21	須恵器椀				精緻.雲母小（0.5mm以下）微量　赤色粒子中（0.6mm～1.0mm）少量　石英粒小（0.5mm以下）少量　長石粒小（0.5mm以下）微量	内外面：浅黄橙10YR8/3	回転ナデ	回転ナデ	体部：1/8	
246		VI-1区 SK21	土師器杯			7.2	精緻.雲母小（0.5mm以下）少量　赤色粒子小（0.5mm以下）少量　石英粒小（0.5mm以下）少量	外面：浅黄橙7.5YR8/4 内面：浅黄橙7.5YR8/3	回転ナデ，ヘラ切り	回転ナデ	体部：1/8	
247		VI-1区 SK21	土師器杯				精緻.赤色粒子小（0.5mm以下）少量　石英粒小（0.5mm以下）少量	内外面：浅黄橙10YR8/6	回転ナデ	回転ナデ	口縁部：小破片	
248		VI-1区 SK21	土師器杯			7.3	精緻.雲母小（0.5mm以下）微量　石英粒小（0.5mm以下）微量	外面：にぶい黄橙10YR6/4 内面：橙5YR6/6	回転ナデ，回転ヘラケズリ	回転ナデ，ヨコミガキ	底部：3/8	
249	30	VI-1区 SK21	土師器甕	23	23 一部復元を含む		粗.雲母小（0.5mm以下）中（0.6mm～1.0mm）多量　赤色粒子中（0.6mm～1.0mm）大（1.1mm以上）少量　石英粒中（0.6mm～1.0mm）小（0.5mm以下）多量　長石粒中（0.6mm～1.0mm）小（0.5mm以下）少量	外面：明黄褐10YR6/6 内面：にぶい黄橙10YR6/3	タテハケ，ヨコナデ	口縁内面：ヨコハケ，ヨコナデ，以下ハケ，ナデ	ほぼ完存	
250	30	VI-1区 SK21	土師器甕	29			粗.雲母小（0.5mm以下）中（0.6mm～1.0mm）多量　赤色粒子中（0.6mm～1.0mm）少量　石英粒大（1.1mm以上）中（0.6mm～1.0mm）多量　長石粒小（0.5mm以下）少量	外面：にぶい黄橙10YR7/3 内面：褐灰10YR4/1	タテハケ，ヨコナデ	ヨコハケ，ヨコナデ，ナデ	胴部以上：6/8	

挿図	図版	遺構名	器　種	口径	器高	底径	胎　　土	色　　調	外面調整	内面調整	残存率	備　考
251		VI-1区 SK21	土師器甕				粗.雲母小（0.5mm以下）少量　赤色粒子中（0.6mm～1.0mm）大（1.1mm以上）少量　石英粒大（1.1mm以上）中（0.6mm～1.0mm）多量	外面：橙7.5YR7/6 内面：にぶい橙7.5YR6/4	指押さえ，ヨコナデ	指押さえ，ナデ，ヨコハケ目	口縁部：小破片	
252		VI-1区 SK21	土師器甕				粗.雲母小（0.5mm以下）多量　赤色粒子中（0.6mm～1.0mm）少量　石英粒大（1.1mm以上）　中（0.6mm～1.0mm）多量　長石粒小（0.5mm以下）多量	外面：灰黄褐10YR4/2 内面：にぶい褐7.5YR5/4	ナデ	ナデ，ヨコハケ目	口縁部：小破片	
253		VI-1区 SK21	土師器甕				粗.雲母小（0.5mm以下）中（0.6mm～1.0mm）多量　赤色粒子小（0.5mm以下）中（0.6mm～1.0mm）少量　石英粒大（1.1mm以上）中（0.6mm～1.0mm）多量	内外面：にぶい褐7.5YR5/3	ヨコナデ	ヨコハケ，ヨコナデ	口縁部：小破片	
254		VI-1区 SK21	土師器甕				粗.雲母小（0.5mm以下）多量　赤色粒子中（0.6mm～1.0mm）微量　石英粒大（1.1mm以上）中（0.6mm～1.0mm）多量　長石粒小（0.5mm以下）少量	外面：橙5YR6/6 内面：にぶい褐7.5YR5/4	タテハケ，ヨコナデ	ヨコハケ，ヨコナデ	口縁部：小破片	
255		VI-1区 SK21	土師器甕				粗.雲母小（0.5mm以下）多量　赤色粒子中（0.6mm～1.0mm）微量　石英粒大（1.1mm以上）中（0.6mm～1.0mm）多量　長石粒小（0.5mm以下）少量	内外面：にぶい黄橙10YR7/3	タテハケ，ヨコナデ	ヨコハケ，ヨコナデ	口縁部：小破片	
256		VI-1区 SK21	土師器甕				粗.雲母小（0.5mm以下）多量　石英粒中（0.6mm～1.0mm）小（0.5mm以下）多量	外面：オリーブ黒5Y3/1 内面：にぶい黄褐10YR5/3	ヨコナデ	ヨコハケ，ヨコナデ	鍔部：小破片	
257		VI-1区 SK21	土師器甕				粗.雲母小（0.5mm以下）多量　石英粒中（0.6mm～1.0mm）小（0.5mm以下）多量	外面：灰黄褐10YR6/2	タテハケのちヨコナデ		鍔部：小破片	
258		VI-1区 SK21	土師器甕				粗.雲母小（0.5mm以下）多量　赤色粒子小（0.5mm以下）微量　石英粒大（1.1mm以上）中（0.6mm～1.0mm）多量	外面：褐灰10YR5/1 内面：灰黄褐10YR6/2	ヨコナデ	ヨコハケ	鍔部：小破片	
259		VI-1区 SK21	土師器甕				粗.雲母小（0.5mm以下）中（0.6mm～1.0mm）多量　赤色粒子中（0.6mm～1.0mm）大（1.1mm以上）少量　石英粒大（1.1mm以上）中（0.6mm～1.0mm）多量	外面：にぶい褐7.5YR5/3 内面：黒褐5YR2/1	タテハケ，ナデ	ヨコハケ，ナデ	底部：ほぼ完存	
260		VI-1区 SK21	土師質土器竈				粗.雲母小（0.5mm以下）多量　赤色粒子中（0.6mm～1.0mm）少量　石英粒大（1.1mm以上）中（0.6mm～1.0mm）多量　長石粒小（0.5mm以下）少量	外面：橙5YR6/6 内面：明赤褐5YR5/6	ハケ目，指押さえ，ナデ	ハケ目，ナデ	小破片	
261		VI-1区 SK21	土師質土器竈				やや粗.雲母小（0.5mm以下）多量　赤色粒子中（0.6mm～1.0mm）少量　石英粒中（0.6mm～1.0mm）小（0.5mm以下）多量　長石粒小（0.5mm以下）少量	内外面：灰黄褐10YR4/2	タテハケ，ナデ	ナデ	小破片	
262		VI-1区 SK01	土師器椀	11			精緻.雲母小（0.5mm以下）多量　赤色粒子小（0.5mm以下）少量　石英粒小（0.5mm以下）微量	外面：橙2.5YR6/8 内面：橙5YR6/8	ヨコナデ	ヨコナデ	口縁部：1/8	
263		VI-1区 SK01	土師器椀				精緻.雲母小（0.5mm以下）少量　赤色粒子中（0.6mm～1.0mm）大（1.1mm以上）少量　石英粒小（0.5mm以下）微量	内外面：橙5YR7/8	ヨコナデ	ヨコナデ，ミガキ？	口縁部：1/8	
264		VI-1区 SK01	土師器甕				粗.雲母中（0.6mm～1.0mm）多量　赤色粒子中（0.6mm～1.0mm）少量　石英粒大（1.1mm以上）中（0.6mm～1.0mm）多量	外面：にぶい黄橙10YR6/4 内面：黄灰2.5Y5/1	ナデ	ヨコハケ	口縁部：1/8	
265		VI-1区 SK03	黒色土器A類椀	14			精緻.雲母小（0.5mm以下）中（0.6mm～1.0mm）多量　赤色粒子小（0.5mm以下）少量　石英粒小（0.5mm以下）少量	外面：橙5YR6/6 内面：黒5Y2/1	ヨコミガキ	ヨコミガキ	口縁部：1/8	
266		VI-1区 SK03	土師器甕				粗.雲母小（0.5mm以下）少量　石英粒大（1.1mm以上）中（0.6mm～1.0mm）多量　長石粒小（0.5mm以下）少量	外面：橙5YR6/6 内面：にぶい橙7.5YR7/4	ヨコナデ	ヨコハケ	口縁部：1/8	

挿図	図版	遺構名	器　種	口径	器高	底径	胎　　土	色　　調	外面調整	内面調整	残存率	備　考
267		VI-1区 SK03	土師器甕				粗.雲母中（0.6mm～1.0mm）多量　赤色粒子中（0.6mm～1.0mm）少量　石英粒大（1.1mm以上）中（0.6mm～1.0mm）多量　長石粒中（0.6mm～1.0mm）少量	内外面：灰褐7.5YR5/2	タテハケ，ヨコナデ	ヨコハケ，ヨコナデ	口縁部：小破片	
268		VI-1区 SK03	土師器甕				粗.赤色粒子中（0.6mm～1.0mm）大（1.1mm以上）少量　石英粒大（1.1mm以上）中（0.6mm～1.0mm）多量　長石粒中（0.6mm～1.0mm）少量	外面：橙5YR7/6 内面：橙5YR6/6	タテハケ，ナデ	マメツ	体部：小破片	
269		VI-1区 SK05	土師器椀	13			精緻.赤色粒子小（0.5mm以下）少量　石英粒小（0.5mm以下）少量	内外面：灰2.5Y8/2	回転ナデ	タテハケ，回転ナデ	口縁部：1/8	
270		VI-1区 SK05	土師器椀				やや粗.石英粒小（0.5mm以下）少量　長石粒小（0.5mm以下）少量	外面：灰白5Y7/1 内面：灰白5Y8/1	回転ナデ	回転ナデ	口縁部：小破片	
271		VI-1区 SK05	土師器椀				精緻.赤色粒子小（0.5mm以下）微量　石英粒小（0.5mm以下）微量	外面：橙5YR6/8 内面：橙2.5YR6/8	ヨコミガキ	ヨコミガキ	口縁部：小破片	
272		VI-1区 SK05	土師器甕				粗.雲母小（0.5mm以下）少量　赤色粒子中（0.6mm～1.0mm）少量　石英粒大（1.1mm以上）中（0.6mm～1.0mm）多量　長石粒中（0.6mm～1.0mm）小（0.5mm以下）少量	内外面：にぶい黄橙10YR7/4	ヨコナデ	ヨコナデ，ヨコハケ	口縁部：小破片	
273		VI-1区 SK05	須恵器大甕				粗.赤色粒子小（0.5mm以下）中（0.6mm～1.0mm）少量　石英粒大（1.1mm以上）中（0.6mm～1.0mm）少量	外面：灰5Y5/1 内面：灰N6/	タタキ，ナデ	あて具痕	体部：1/8	
274		VI-1区 SK06	須恵器杯			7.6	精緻.赤色粒子小（0.5mm以下）少量　石英粒中（0.6mm～1.0mm）小（0.5mm以下）少量	内外面：灰白N8/	回転ナデ，ヘラ切り	回転ナデ	底部：1/8	
275		VI-1区 SK06	土師器杯				精緻.雲母小（0.5mm以下）少量　赤色粒子小（0.5mm以下）微量　石英粒小（0.5mm以下）微量	外面：橙5YR6/6 内面：明赤褐5YR5/6	回転ナデ，ヨコミガキ	回転ナデ，ヨコミガキ，暗文	口縁部：小破片	
276		VI-1区 SK06	須恵器杯				精緻.石英粒中（0.6mm～1.0mm）小（0.5mm以下）少量	内外面：灰白10Y8/1	回転ナデ	回転ナデ	口縁部：小破片	
277		VI-1区 SK06	土師器椀			7	やや精緻.雲母小（0.5mm以下）微量　赤色粒子中（0.6mm～1.0mm）少量　石英粒中（0.6mm～1.0mm）小（0.5mm以下）少量　長石粒小（0.5mm以下）少量	外面：橙5YR7/6 内面：黒10YR2/1	回転ナデ，ヨコミガキ	回転ナデ，ヨコミガキ	底部：2/8	
278		VI-1区 SK06	土師器甕				やや粗.雲母小（0.5mm以下）多量　赤色粒子中（0.6mm～1.0mm）少量　石英粒大（1.1mm以上）小（0.5mm以下）多量	外面：にぶい黄橙10YR7/2 内面：にぶい褐7.5YR6/2	ヨコナデ	ヨコハケ，ヨコナデ	鍔部：小破片	
279		VI-1区 SK06	土師器甕				粗.石英粒大（1.1mm以上）中（0.6mm～1.0mm）多量　長石粒中（0.6mm～1.0mm）小（0.5mm以下）少量	外面：にぶい橙7.5YR7/4 内面：にぶい黄橙10YR7/3	ナデ	ヨコハケ	鍔部：小破片	
280		VI-1区 SK06	須恵器壺				精緻.雲母小（0.5mm以下）少量　石英粒小（0.5mm以下）微量	外面：灰N4/ 内面：灰N5/	回転ナデ	回転ナデ，板ナデ	体部：1/8	
281		VI-1区 SK08	土師器杯			7.6	やや粗.赤色粒子小（0.5mm以下）微量　石英粒中（0.6mm～1.0mm）小（0.5mm以下）多量	内外面：灰N5/	回転ナデ，回転ヘラ切り	回転ナデ	底部：1/8	
282		VI-1区 SK12	瓦質焙烙				やや粗.石英粒小（0.5mm以下）微量	外面：黒5Y2/1 内面：灰5Y6/1	回転ナデ	回転ナデ	口縁部：小破片	
283		VI-1区 SP01	土師器杯	12	3.6	6.6	精緻.石英粒小（0.5mm以下）微量	外面：明赤褐2.5YR5/8 内面：浅黄橙10YR8/4	回転ナデ，ヨコミガキ，底部：回転ヘラ切り，右廻り	回転ナデ，ヨコミガキ	口縁部：3/8，底部：4/8	
284	30	VI-1区 SP03	瓦質鍋	30	12		やや粗.雲母中（0.6mm～1.0mm）多量　石英粒小（0.5mm以下）少量	外面：黒N2/ 内面：褐灰10YR4/1	ヨコハケ，ヨコナデ，ナデ	ヨコハケ，ヨコナデ，ナデ	口縁部：3/8	

挿図	図版	遺構名	器　種	口径	器高	底径	胎　　土	色　　調	外面調整	内面調整	残存率	備　考
285		VI-1区 SP02	瓦質焙烙				やや粗.雲母中（0.6mm～1.0mm）大（1.1mm以上）多量　石英粒小（0.5mm以下）少量	外面：黒5Y2/1 内面：灰5Y4/1	回転ナデ	回転ナデ	口縁部：小破片	
290		VI-2区 耕作溝	土師質土器杯	11	2.5	7	精緻.赤色粒子小（0.5mm以下）少量　石英粒小（0.5mm以下）少量	外面：浅黄2.5Y8/3 内面：淡黄2.5Y8/3	回転ナデ，回転ヘラ切り	回転ナデ	口縁部：1/8	
291		VI-2区 耕作溝	須恵器壺				精緻.雲母小（0.5mm以下）微量　赤色粒子小（0.5mm以下）少量　石英粒小（0.5mm以下）少量	外面：赤灰5R6/1 内面：明オリーブ2.5GY7/1	格子タタキ，回転ナデ	回転ナデ	頸胴部：1/8	
292		VI-2区 SR01	土師器椀			8.4	精緻.雲母小（0.5mm以下）多量　赤色粒子小（0.5mm以下）中（0.6mm～1.0mm）少量　石英粒小（0.5mm以下）微量	内外面：橙5YR6/6	マメツ，ヨコミガキ，底部：回転ヘラ切り	マメツ，ヨコミガキ	底部：3/8	
293		VI-2区 SR01	土師器椀			7.3	精緻.雲母小（0.5mm以下）多量　赤色粒子小（0.5mm以下）中（0.6mm～1.0mm）多量　石英粒中（0.6mm～1.0mm）小（0.5mm以下）少量	外面：明褐灰7.5YR7/2 内面：にぶい橙5YR6/3	マメツ	ヨコミガキ	底部：2/8	
294		VI-2区 SR01	土師器椀			7.2	やや粗.赤色粒子小（0.5mm以下）多量　石英粒小（0.5mm以下）多量　長石粒小（0.5mm以下）少量	内外面：明赤褐5YR5/6	ヨコミガキ(底)回転ヘラ切り，右廻り	ヨコミガキ	底部：2/8	
295		VI-2区 SR01	黒色土器A類椀			6.7	精緻.雲母小（0.5mm以下）多量　赤色粒子小（0.5mm以下）中（0.6mm～1.0mm）少量　石英粒小（0.5mm以下）少量	外面：にぶい黄橙10YR7/2 内面：黒褐10YR3/1	指押さえ，ナデ，ヘラミガキ，ヘラケズリ後ヨコナデ	指押さえ，ナデ，ヘラミガキ	底部：2/8	
296		VI-2区 SR01	土師器杯			6.7	精緻.雲母小（0.5mm以下）少量　赤色粒子中（0.6mm～1.0mm）少量　石英粒大（1.1mm以上）小（0.5mm以下）少量	内外面：にぶい黄橙10YR7/3	マメツ，回転ナデ，(底)回転ヘラ切り	マメツ，回転ナデ	底部：3/8	
297		VI-2区 SR01	須恵器杯			7.7	やや粗.石英粒大（1.1mm以上）中（0.6mm～1.0mm）少量	内外面：灰白5Y7/1	マメツ，(底)回転ヘラ切り	回転ナデ	底部：2/8	
298	32	VI-2区 SR01	土師器皿				精緻.赤色粒子中（0.6mm～1.0mm）大（1.1mm以上）多量　石英粒小（0.5mm以下）少量	外面：橙7.5YR7/6 内面：浅黄橙10YR8/4	回転ナデ，回転ヘラ切り	回転ナデ	底部：6/8	
299	32	VI-2区 SR01	須恵器杯	13	3.4	8.2	精緻.雲母小（0.5mm以下）多量　赤色粒子中（0.6mm～1.0mm）少量　石英粒小（0.5mm以下）少量	内外面：灰N6/	回転ナデ，火だすき，(底)回転ヘラ切り右廻り	回転ナデ，火だすき	底部：1/8	
300	32	VI-2区 SR01	須恵器杯			6.5	やや粗.石英粒中（0.6mm～1.0mm）小（0.5mm以下）多量　長石粒小（0.5mm以下）少量	外面：灰白5Y8/1 内面：灰白N8/	回転ヘラ切り，火だすき	回転ナデ，火だすき	底部：完存	
301	32	VI-2区 SR01	須恵器壺	14			精緻.雲母小（0.5mm以下）微量　石英粒小（0.5mm以下）少量	外面：灰N6/ 内面：灰白N7/	回転ナデ	回転ナデ	頸部：2/8	
302		VI-2区 SR01	須恵器壺	14			精緻.石英粒小（0.5mm以下）少量	内外面：暗青灰5B4/1	回転ナデ	回転ナデ	口頸部：2/8	
303		VI-2区 SR01	須恵器壺				精緻.赤色粒子中（0.6mm～1.0mm）少量　石英粒小（0.5mm以下）少量	外面：灰N5/ 内面：灰N6/	回転ナデ	回転ナデ	頸胴部：1/4	
304		VI-2区 SR01	須恵器壺				精緻.赤色粒子小（0.5mm以下）少量　石英粒大（1.1mm以上）中（0.6mm～1.0mm）少量	内外面：灰N5/	板ナデ，ナデ	回転ナデ	体部：1/8	
305		VI-2区 SR01	須恵器壺				精緻.石英粒小（0.5mm以下）少量	外面：灰褐5YR4/2 内面：青灰5PB5/1	指押さえ，格子目タタキ，ナデ	あて具痕，ナデ消し	体部：1/8	
306		VI-2区 SR01	須恵器壺			14	精緻.赤色粒子小（0.5mm以下）微量　石英粒小（0.5mm以下）中（0.6mm～1.0mm）少量	外面：暗灰N3/ 内面：青灰PB5/1	回転ナデ，板ナデ，(底)回転ヘラ切り	指ナデ	底部：1/8	

挿図	図版	遺構名	器　種	口径	器高	底径	胎　　土	色　　調	外面調整	内面調整	残存率	備　考
307		VI-2区 SR01	須恵器壺			13	やや粗.赤色粒子小（0.5mm以下）少量　石英粒小（0.5mm以下）多量	内外面：灰白N8/	回転ナデ，板ナデ，(底)回転ヘラ切り	回転ナデ，板ナデ	体部：2/8	
308	32	VI-2区 SR01	須恵器壺			11	やや粗.雲母小（0.5mm以下）多量　赤色粒子小（0.5mm以下）少量　石英粒中（0.6mm～1.0mm）小（0.5mm以下）少量	外面：灰N4/ 内面：灰N7/	板ナデ，回転ナデ，(底)ヘラ記号	板ナデ，ナデ	底部：1/8	
309		VI-2区 SR01	土師器甕	25			粗.雲母小（0.5mm以下）多量　赤色粒子中（0.6mm～1.0mm）少量　石英粒中（0.6mm～1.0mm）多量	外面：にぶい黄橙10YR7/4 内面：にぶい黄橙10YR7/3	ヨコナデ？マメツ著しい	ヨコナデ？マメツ著しい	口縁部：小破片	
310		VI-2区 SR01	土師器甕				粗.雲母小（0.5mm以下）少量　赤色粒子中（0.6mm～1.0mm）少量　石英粒大（1.1mm以上）中（0.6mm～1.0mm）多量	内外面：浅黄橙7.5YR8/3	ナデ	ナデ	鍔部：小破片	
311		VI-2区 SR01	土師器甕				やや粗.雲母小（0.5mm以下）多量　赤色粒子中（0.6mm～1.0mm）少量　石英粒小（0.5mm以下）多量	外面：橙5YR6/6 内面：灰黄褐10YR5/2	ヨコナデ	ハケ，ナデ	鍔部：2/8	
312	33	VI-2区 SR01	土師器甕	27			粗.雲母小（0.5mm以下）多量　赤色粒子中（0.6mm～1.0mm）少量　石英粒小（0.5mm以下）中（0.6mm～1.0mm）多量	外面：橙7.5Y7/6 内面：にぶい橙7.5YR6/4	タテハケ，ヨコナデ	ヨコハケ，タテハケ，ヨコナデ	口縁胴部：3/8	
313		VI-2区 SR01	土錘		4.8		粗.石英粒中（0.6mm～1.0mm）大（1.1mm以上）少量　長石粒中（0.6mm～1.0mm）少量	内外面：灰黄褐10YR6/2	ナデ	ナデ	完存	
314	33	VI-2区 SR01	土師質土器竈				粗.雲母小(0.5mm以下)多量　石英粒小(0.5mm以下)中(0.6mm～1.0mm)大(1.1mm以上)多量　長石粒小(0.5mm以下)中(0.6mm～1.0mm)少量	内外面：灰黄褐10YR4/2	ハケ目，指ナデ	指ナデ，ハケ目，板ナデ		

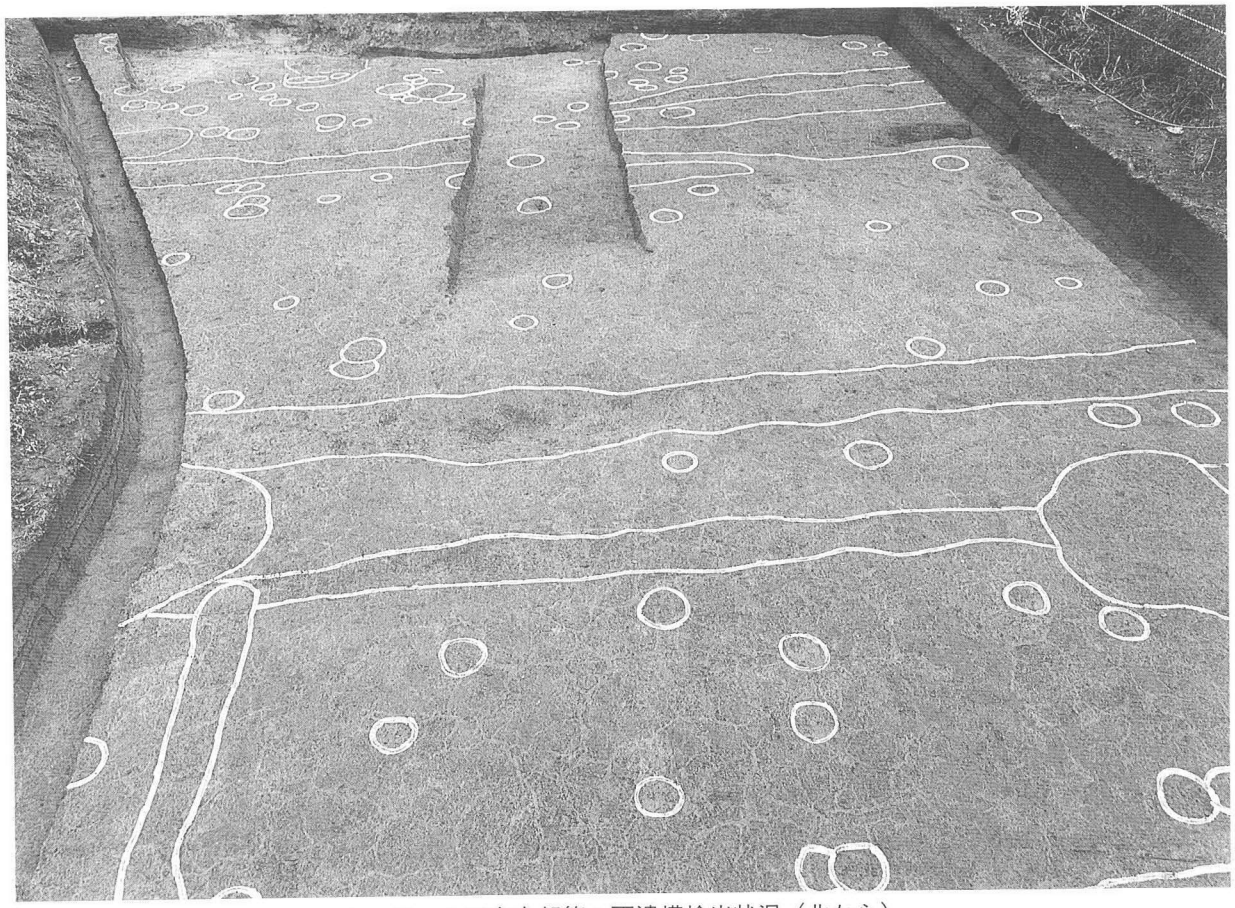
表４　石器観察表

挿図	図版	遺構名	器　種	現在長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石　材	形態・手法の特徴	残存率
82		Ⅳ-1区　SP07	素材剥片	7.8	7.2	2.2	128.01	サヌカイト		
135		Ⅳ-1区　低地帯第７層	素材剥片	6.5	6.5	1.5	86.21	サヌカイト		
136		Ⅳ-1区　低地帯第７層	楔形石器	4.3	3.8	1.4	24.1	サヌカイト		
137	25	Ⅳ-1区　低地帯第７層	盤状剥片	20	13.2	3.9	1,161.8	サヌカイト		
138		Ⅳ-1区　低地帯第７層	素材剥片	6.1	8	1.9	83.24	サヌカイト		
139		Ⅳ-1区　低地帯第７層	サヌカイト原礫	10.7	6.1	2.1	125.46	サヌカイト		
140		Ⅳ-1区　低地帯第７層	2次加工のある剥片	6.3	5.6	0.6	28.97	サヌカイト		
141		Ⅳ-1区　低地帯第７層	石鏃	3.6	2.2	0.4	2.04	サヌカイト	凹基式	
142		Ⅳ-1区　低地帯第７層	スクレイパー	7.4	6.3	1.3	85.73	サヌカイト	背面に潰れ痕	
215		Ⅴ区SR01下層	石鏃	2.7	2.1	0.6	2.17	サヌカイト	凹基式　先端部欠損	
216		Ⅴ区SR01下層	石鏃	5.7	2.2	0.7	5.93	サヌカイト	凸基式有茎	
217	28	Ⅴ区SR01下層	打製石包丁	10.9	4.3	1.1	55.66	サヌカイト	刃部に弱い摩滅痕	完存
218		Ⅴ区SR01下層	スクレイパー	8.6	7.4	1.4	112.13	サヌカイト	刃部に弱い摩滅痕	完存
219	28	Ⅴ区SR01下層	打製石包丁	5.4	5.3	1.2	34.52	サヌカイト	背面に潰れ痕　刃部に弱い摩滅痕	
220		Ⅴ区SR01下層	スクレイパー	6.5	5.5	1.2	41.42	サヌカイト	刃部に弱い摩滅痕	
221		Ⅴ区SR01下層	スクレイパー	11.1	7.1	1.8	153.17	サヌカイト		
222	28	Ⅴ区SR01下層	スクレイパー	5.8	6.6	1.1	47.88	サヌカイト	刃部に弱い摩滅痕	
223		Ⅴ区SR01下層	楔形石器	5	4.2	1	30.5	サヌカイト		
224	28	Ⅴ区SR01下層	素材剥片	12.7	7.3	6	638.7	サヌカイト		
225	28	Ⅴ区SR01下層	素材剥片	7.9	6.3	3.3	183.94	サヌカイト		
230		Ⅴ-2区SH01	スクレイパー	6.1	6.1	1.3	60.15	サヌカイト	背面に潰れ痕	
286	31	Ⅵ-1区　第４層	素材剥片	7.7	8.7	1.2	118.99	サヌカイト	287と接合	
287	31	Ⅵ-1区　第４層	素材剥片	5.4	4.1	1.3	25.32	サヌカイト	286と接合	
288	31	Ⅵ-1区　第４層	素材剥片				144.31	サヌカイト	286と287の接合状態	
289		Ⅵ-1区　第４層	素材剥片	13.1	9.4	1.6	221.53	サヌカイト		

表５　金属器観察表

挿図	図版番号	器　種	遺構名	残存量	備　考
62	24	洪武通寶	Ⅳ-1区　SX01	現存長2.4cm	完存
63	24	永楽通寶	Ⅳ-1区　SX01	現存長2.5cm	完存
64	24	祥符通寶	Ⅳ-1区　SX01	現存長2.5cm	完存
65	24	元豊通寶	Ⅳ-1区　SX01	現存長2.4cm	完存
66	24	鉄製刀子	Ⅳ-1区　SX01	最大幅1.9cm	両端欠損

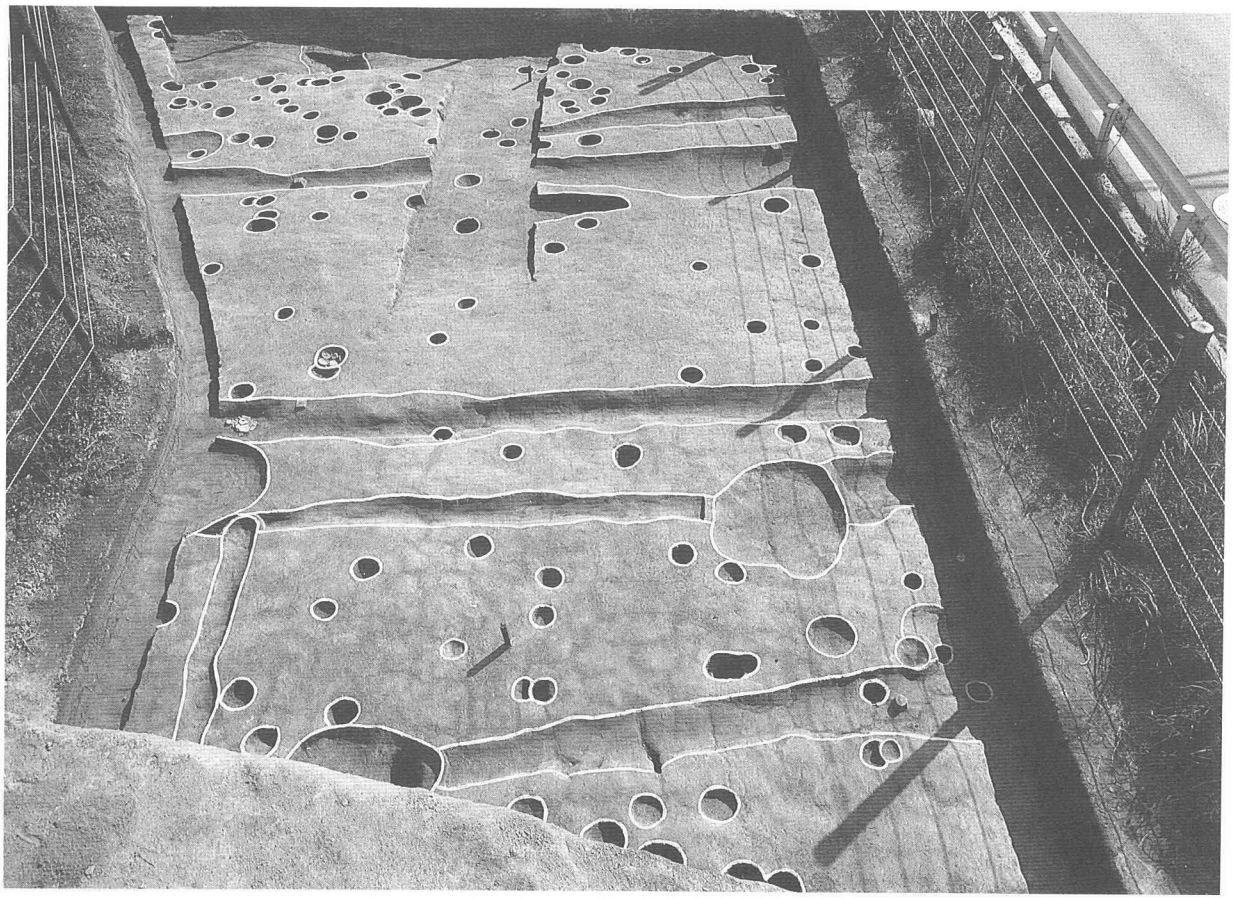
図　　版



１．Ⅳ－Ｉ区南半部第Ｉ面遺構検出状況（北から）

２．Ⅳ－Ｉ区西壁土層断面（東から）

図版２．Ⅳ－Ⅰ区第Ⅰ面



３．Ⅳ－Ⅰ区南半部第Ⅰ面完掘状況（北から）

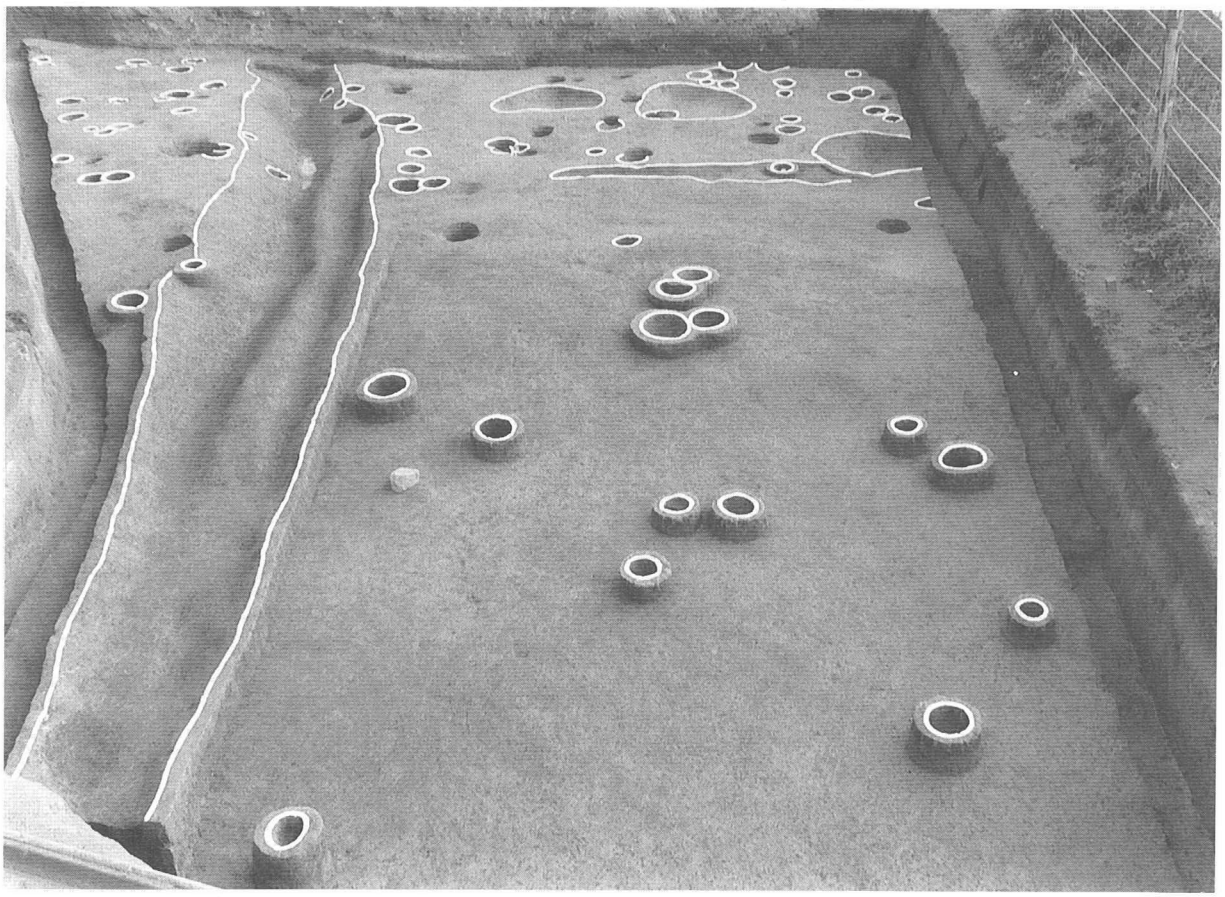
４．Ⅳ－Ⅰ区南半部第Ⅰ面SX01検出状況（西から）

５．Ⅳ－Ⅰ区南半部第Ⅰ面SX01完掘状況（西から）

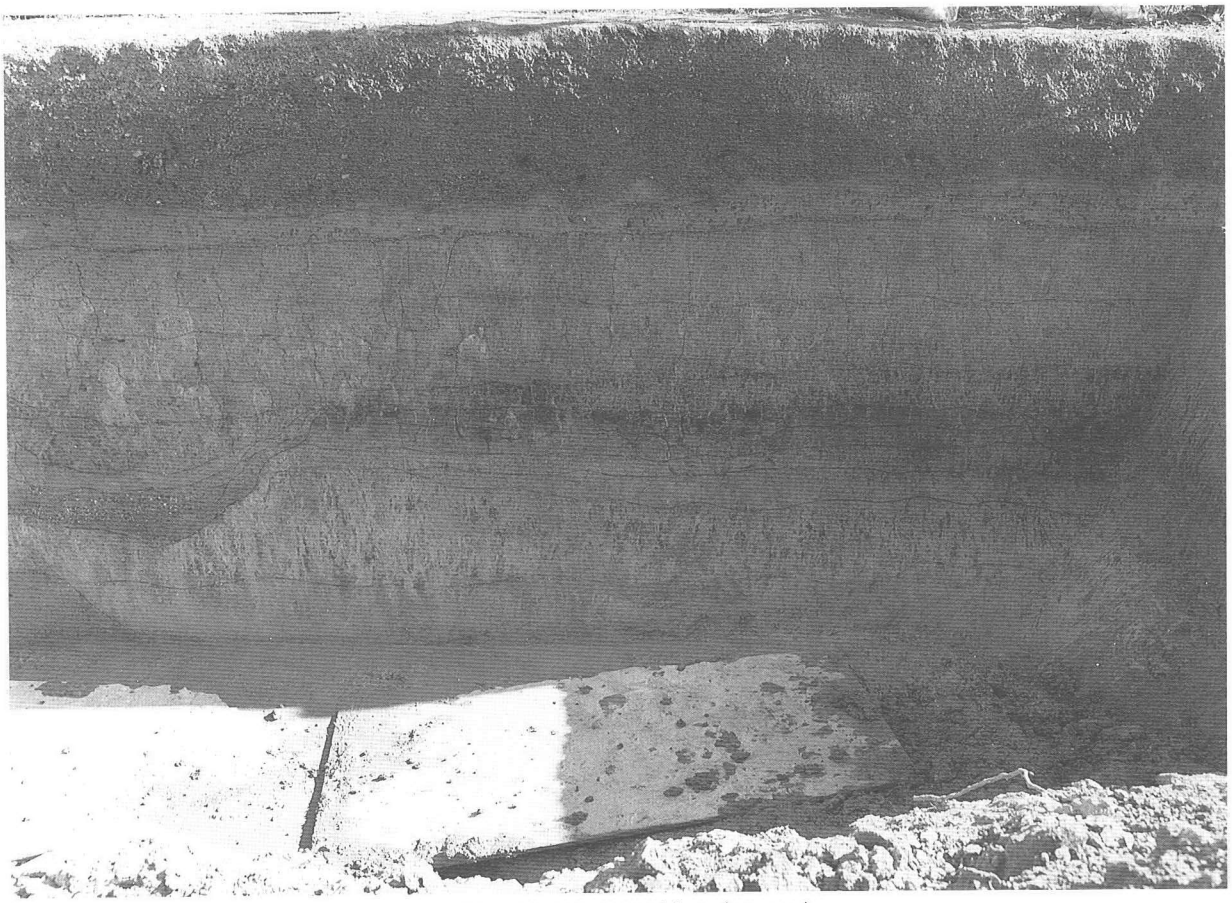
６．Ⅳ－Ⅰ区北半部第Ⅰ面完掘状況Ⅰ（南から）

図版４．Ⅳ－Ⅰ区第Ⅰ面　第２ａ面

７．Ⅳ－Ⅰ区北半部第Ⅰ面完掘状況２（北から）



８．Ⅳ－Ⅰ区南半部第２ａ面完掘状況（北から）

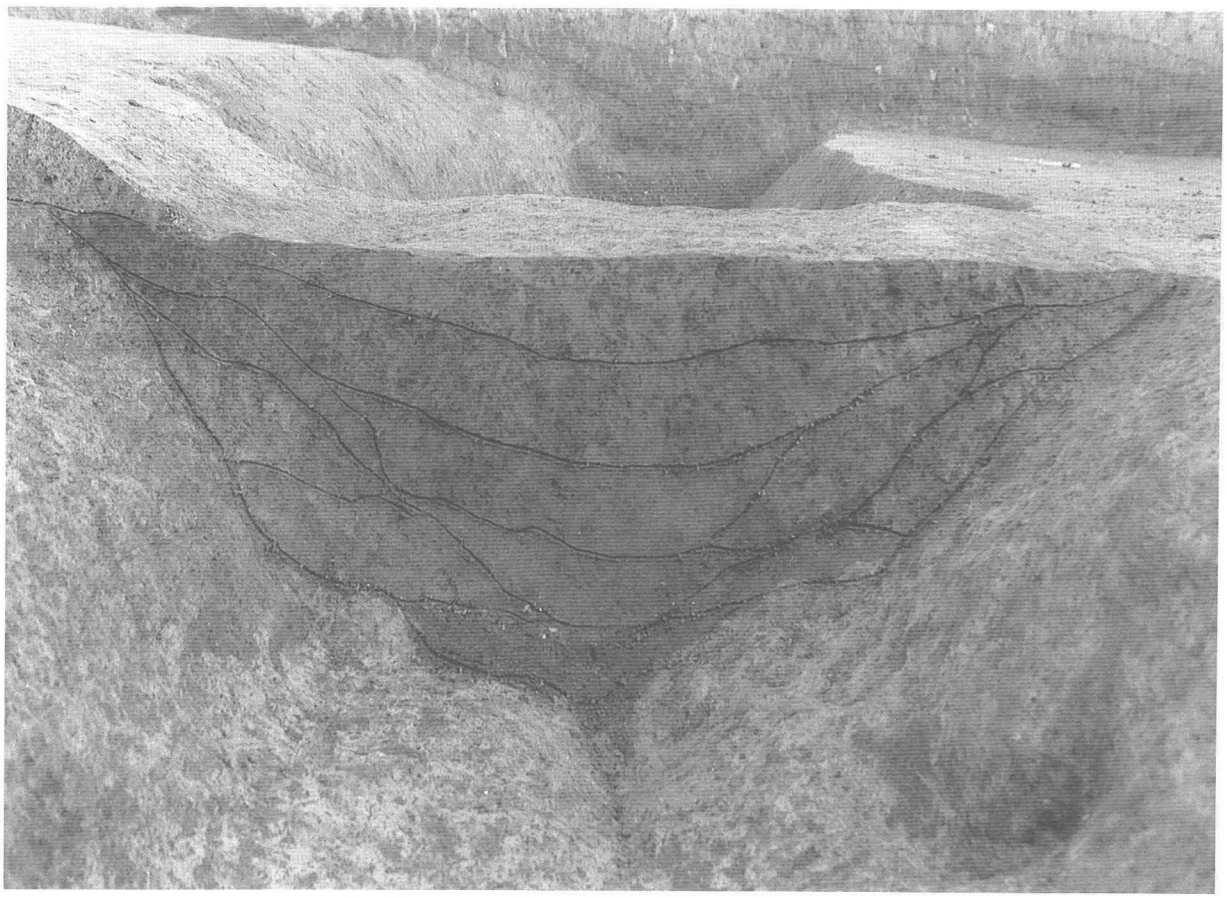


９．Ⅳ－Ⅰ区東壁土層断面（西から）

10．Ⅳ－Ⅰ区北半部第２ａ・ｂ面完掘状況（南から）

図版６．Ⅳ－Ⅰ区第２ｂ面

11．Ⅳ－Ⅰ区北半部第２ｂ面SD09・10完掘状況（東から）

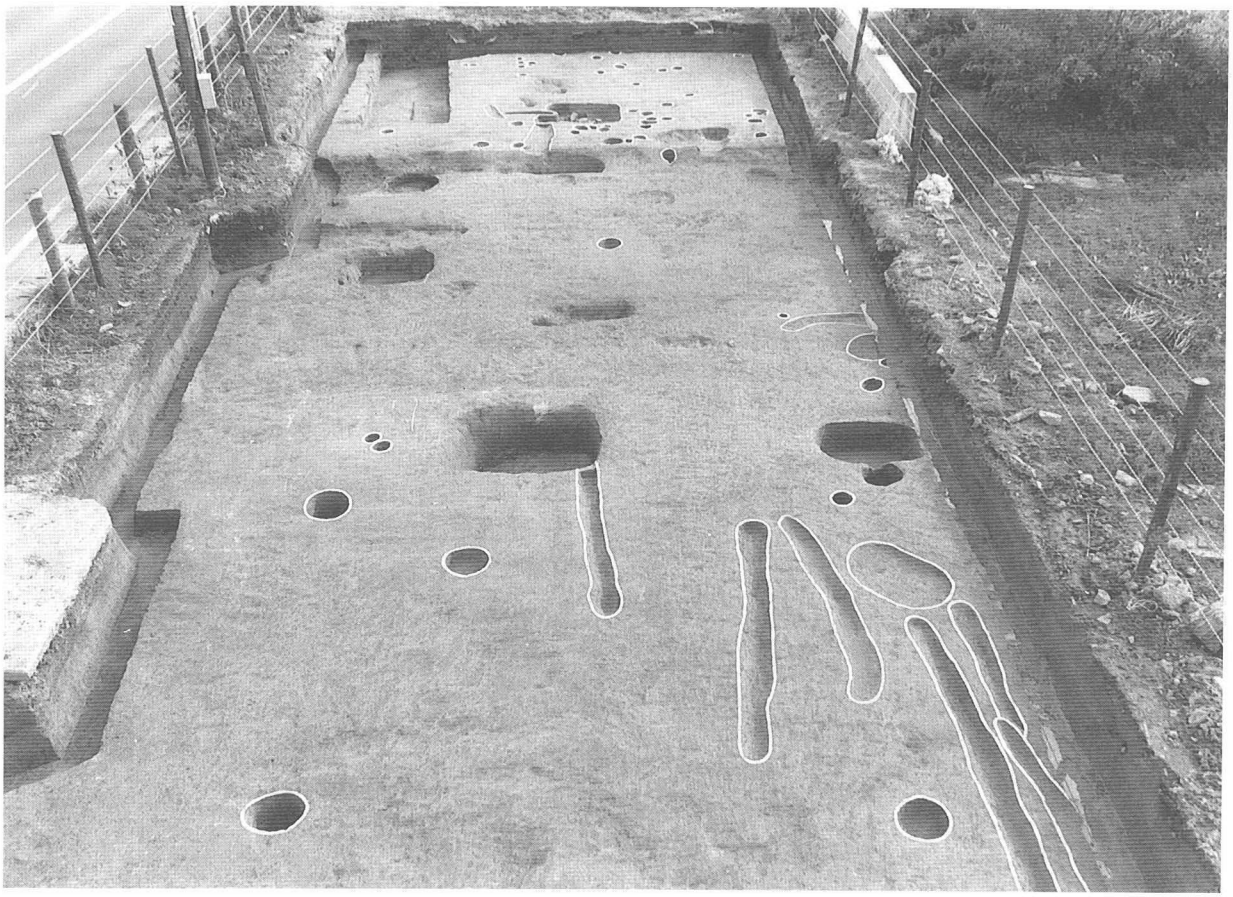


12．Ⅳ－Ⅰ区北半部第２ｂ面SD09断面（西から）

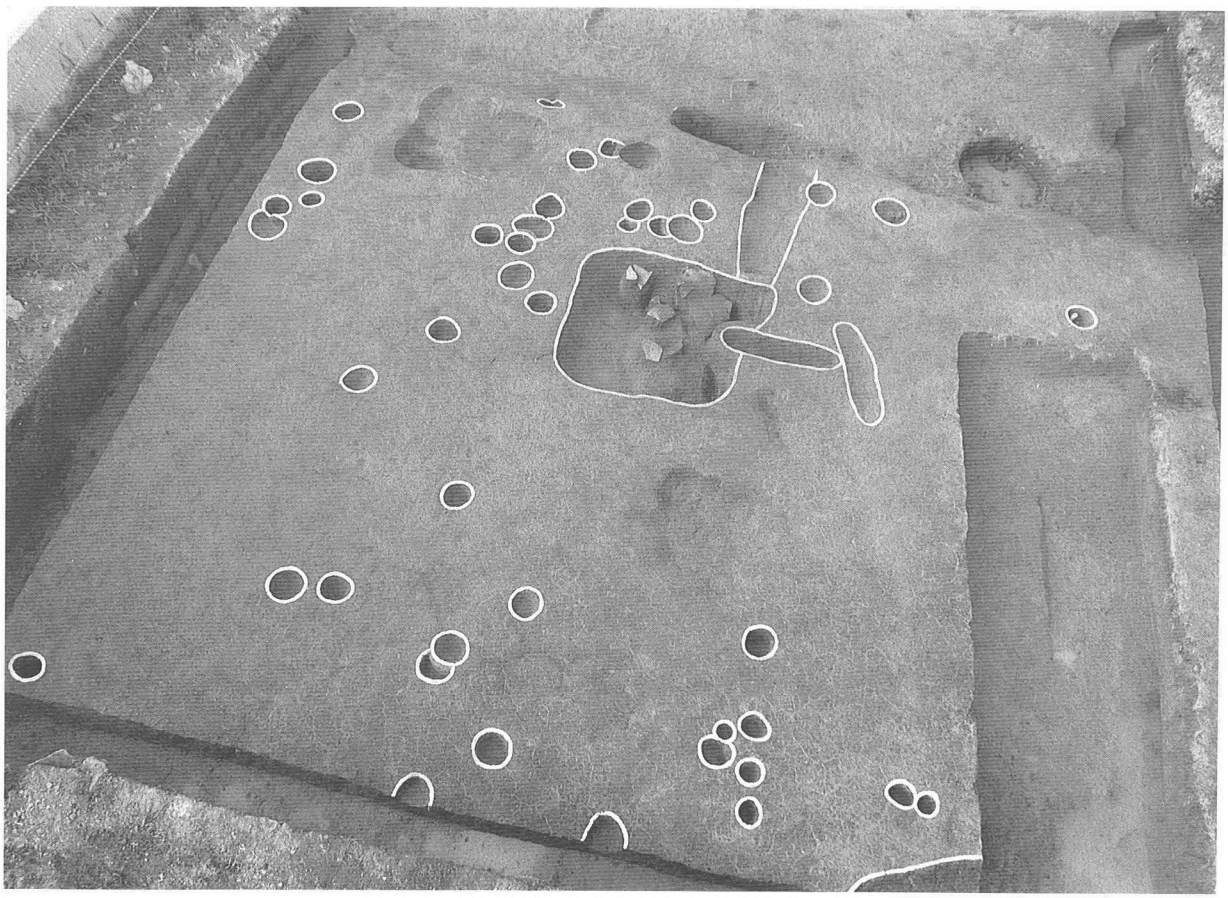
13．Ⅳ－１区北半部第２ｂ面SD10断面（西から）

14．Ⅳ－２区第１面完掘状況（東から）

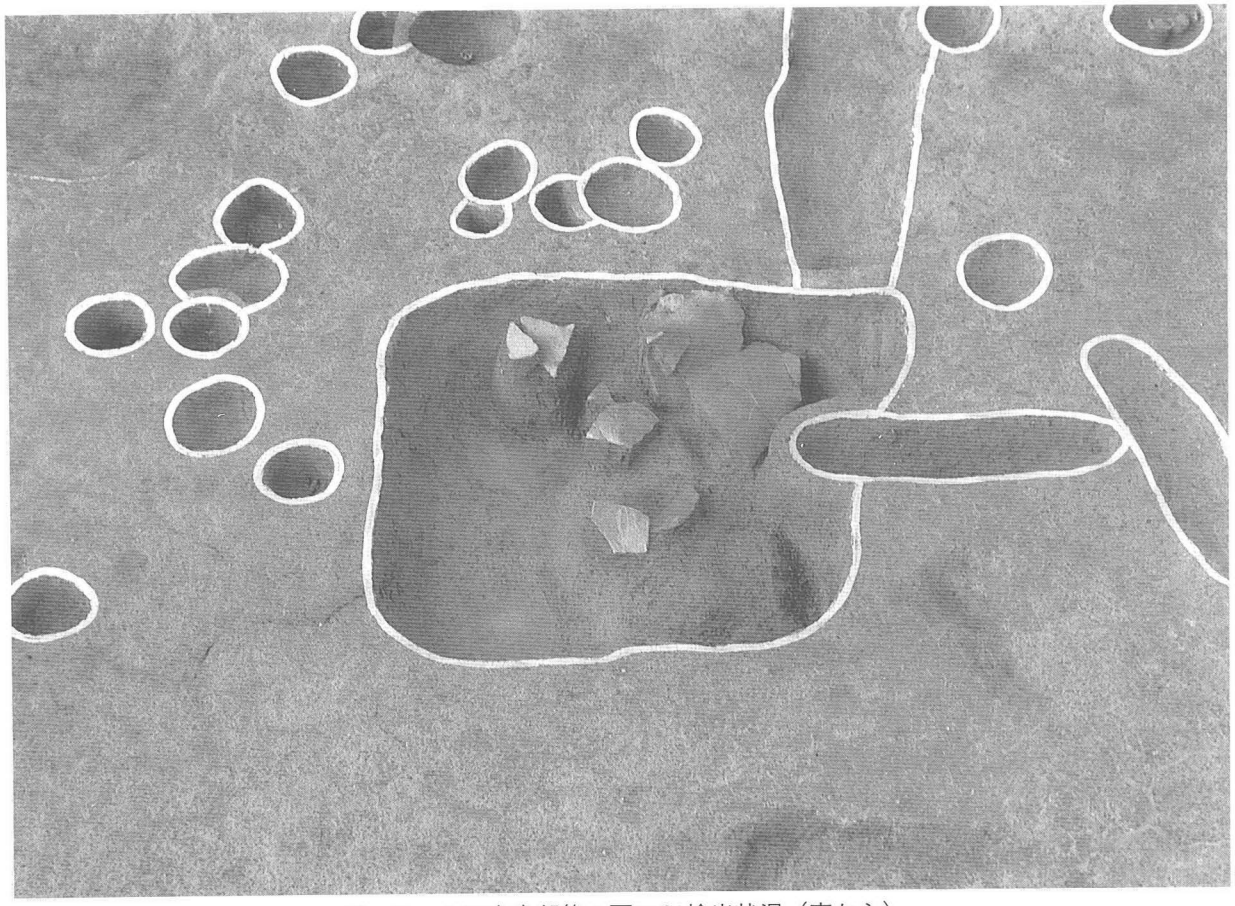
図版８．Ｖ－Ｉ区第Ｉ面



15．Ｖ－Ｉ区第Ｉ面完掘状況（北から）



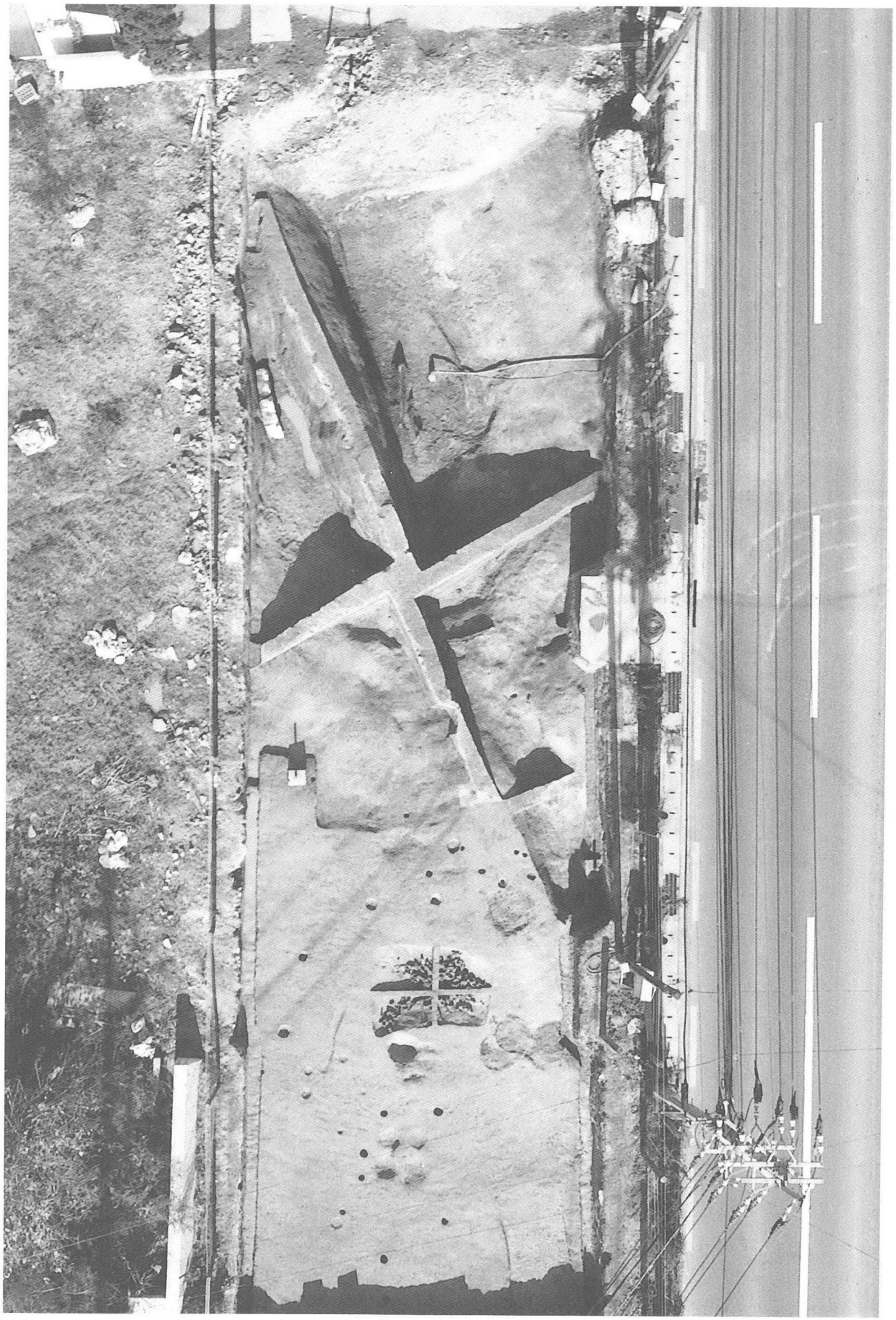
16．Ｖ－Ｉ区南半部第Ｉ面完掘状況（南から）



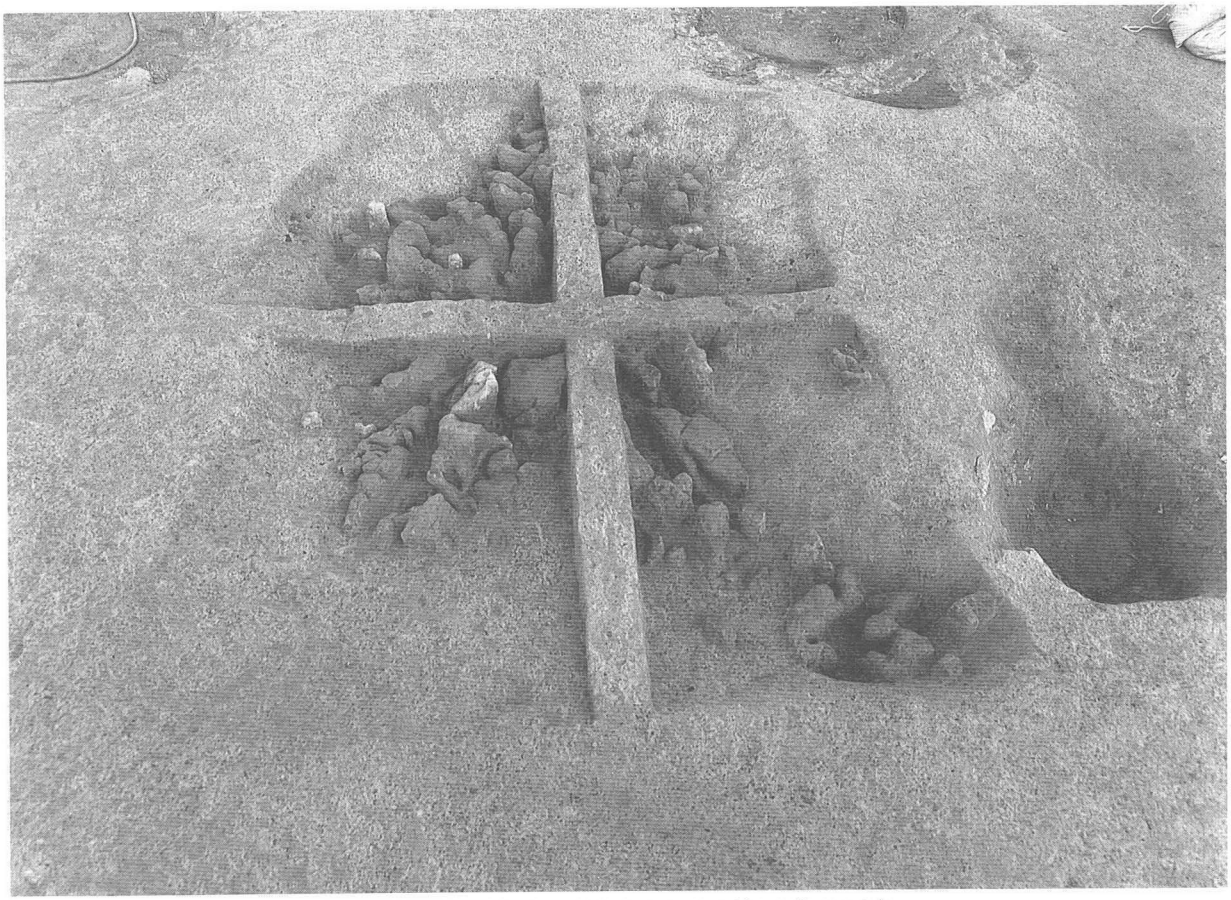
17．Ｖ－Ｉ区南半部第Ｉ面SK01検出状況（南から）

18．Ｖ－Ｉ区南半部第Ｉ面SP40遺物出土状況（南から）

図版10. Ⅴ—Ⅰ区第２面



19. Ⅴ—Ⅰ区第２面全景（上が北）



20．Ⅴ－Ⅰ区南半部第２面SX02検出状況（西から）

21．Ⅴ－Ⅰ区南半部第２面SX02断面（南から）

図版12. Ⅴ－Ⅰ区第２面

22. Ⅴ－Ⅰ区南半部第２面SX02完掘状況（西から）

23. Ⅴ－Ⅰ区南半部第２面SD12断面（北から）

24. Ⅴ－Ⅰ区北半部第２面SR01検出状況（北から）

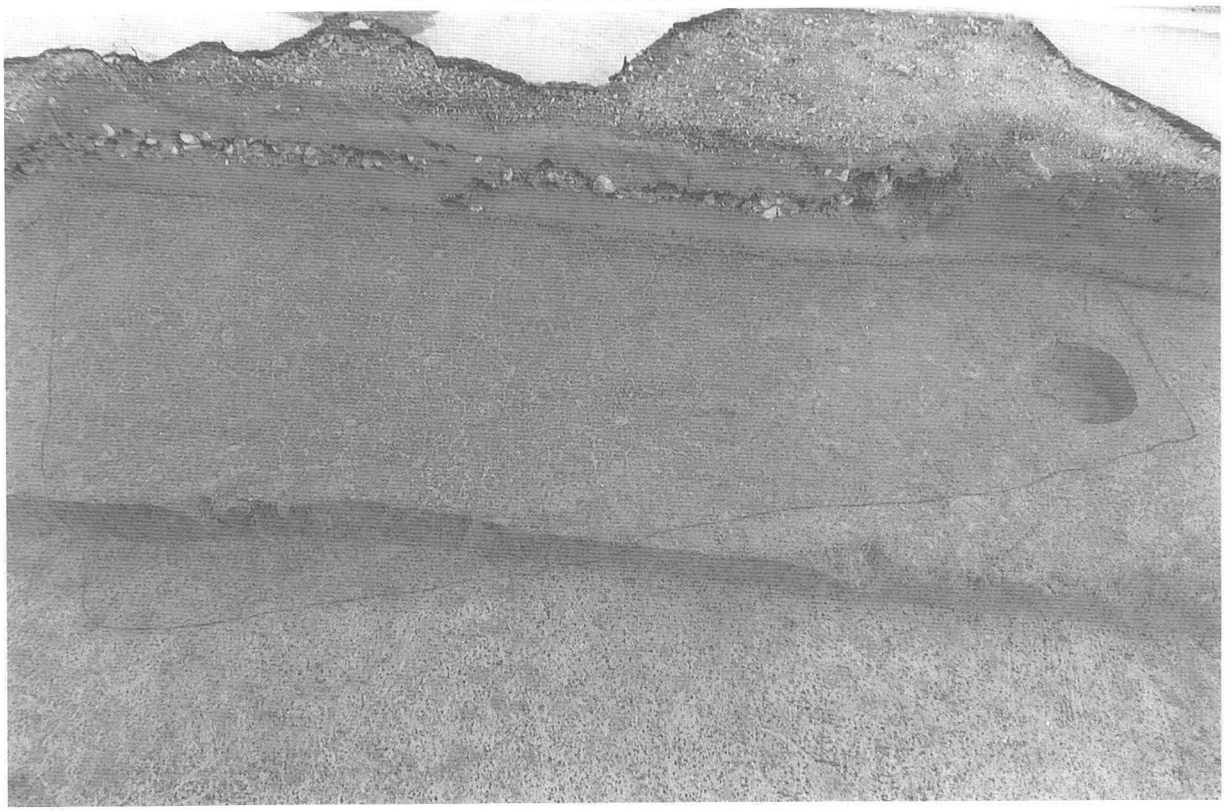
25. Ⅴ－Ⅰ区北半部第２面SR01東西断面（北から）

図版14. Ⅴ－Ⅰ区第２面

26. Ⅴ－Ⅰ区北半部第２面SR01南北断面（東から）

27. Ⅴ－Ⅰ区第２面完掘状況（南から）

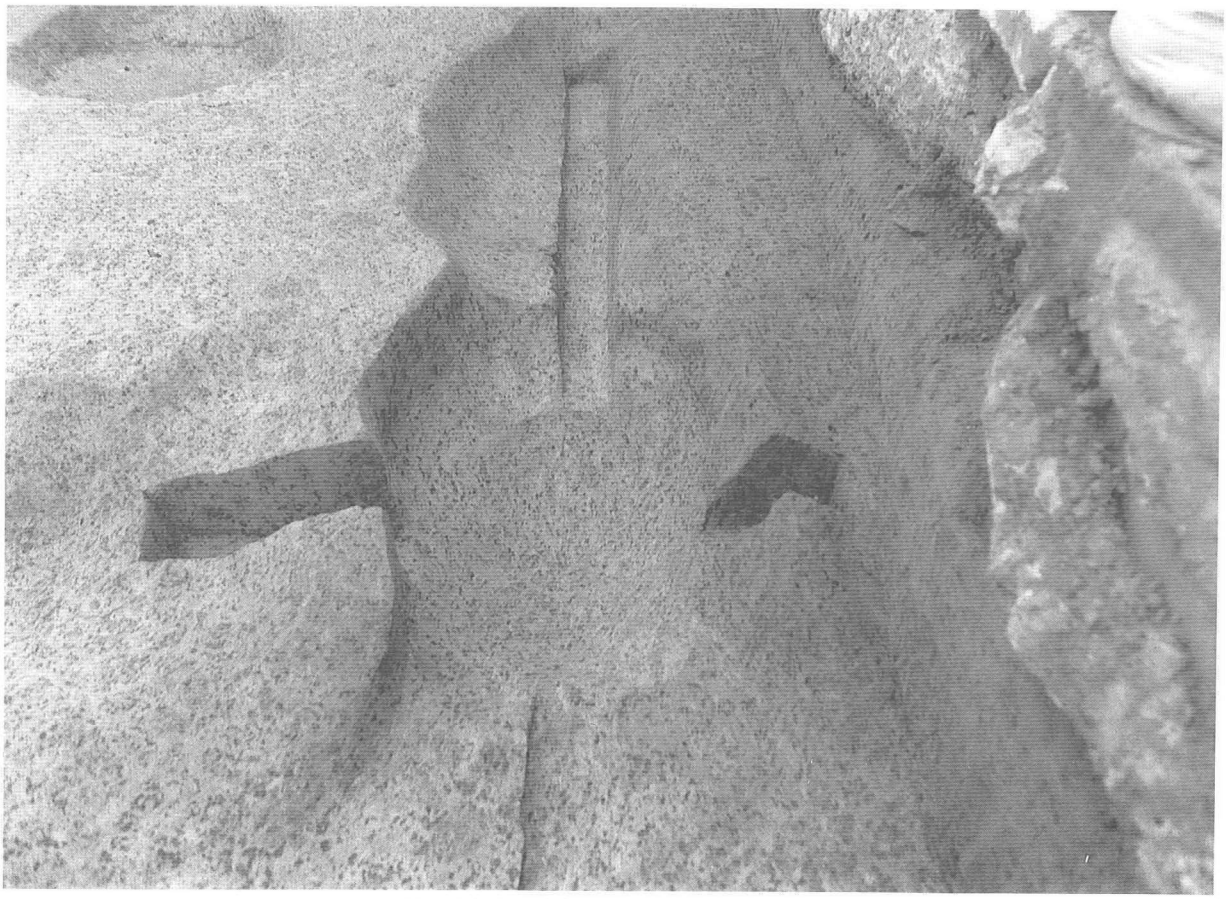
28. Ⅴ－2区第Ⅰ面完掘状況（北から）



29. Ⅴ－2区第Ⅰ面SH01検出状況（西から）

図版16. Ⅴ－2区第Ⅰ面

30. Ⅴ－2区第Ⅰ面SH01検出状況（南から）



31. Ⅴ－2区第Ⅰ面SH01竈検出状況（南から）